OKI

MICROLINE Pro930PS　ユーザーズマニュアル

Fiery編

このマニュアルは、以下の製品に対応しています。

MICROLINE Pro930PS-X
MICROLINE Pro930PS-S
MICROLINE Pro930PS-E

◯このマニュアルには、製品を安全に使用していただくための注意事項が書かれています。
ご使用になる前に、必ず本マニュアルをお読みになり、正しく安全にご使用ください。
◯本マニュアルは、いつでも見られるように大切にお手元に保管してください。

はじめに

マニュアルの構成

本製品のユーザーズマニュアルは、次のような 4 部構成になっています。目的に応じてお読みください。

プリンタ機能編

プリンタの使い方や持っている機能、消耗品の交換方法、紙づまり等のトラブルの対処方法、オプション類の取り付け方が載っています。

セットアップ編

Windows、Macintosh、UNIX、Linux のコンピュータから印刷できるようにするまでの手順が載っています。
プリンタの設置が終わったら、お読みください。

応用編

色々な用紙に印刷したい時、便利な機能を使って印刷したい時、添付のユーティリティを使って快適な印刷環境にしたい時、カラーを調整したい時などにお読みください。

（本書）

Fiery 編（本書）

MLPro930PS の高度な設定や管理方法、および、付属のユーティリティの様々な使用方法を説明しています。高度な使い方をしたいときお読みください。

本書の表記

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることを示しています。

プリンタを正しく動作させるための注意や制限です。
誤った操作をしないため、必ずお読みください。

プリンタを使用するときに知っておくと便利なことや参考になることです。
お読みになることをお勧めします。

本書では、次のように表記している場合があります。

- MICROLINE Pro 930PS-X → MLPro930PS-X
- MICROLINE Pro 930PS-S → MLPro930PS-S
- MICROLINE Pro 930PS-E → MLPro930PS-E
- MLPro930PS-X、MLPro930PS-S, ML Pro930PS-E の総称 → MLPro930PS
- Microsoft® Windows® 7 64-bit Edition operating system 日本語版 → Windows 7(64bit版) ※
- Microsoft® Windows Server® 2008R2 64-bit Edition operating system 日本語版 → Windows Server 2008R2
- Microsoft® Windows Vista® 64-bit Edition operating system 日本語版 → Windows Vista(64bit版) ※
- Microsoft® Windows Server® 2008 64-bit Edition operating system 日本語版 → Windows Server 2008(64bit版) ※
- Microsoft® Windows® XP x64 Edition operating system 日本語版 → Windows XP(x64版) ※
- Microsoft® Windows Server® 2003 x64 Edition operating system 日本語版 → Windows Server 2003(x64版) ※
- Microsoft® Windows® 7 operating system 日本語版 → Windows 7 ※
- Microsoft® Windows Vista® operating system 日本語版 → Windows Vista ※
- Microsoft® Windows Server® 2008 operating system 日本語版 → Windows Server 2008 ※
- Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版 → Windows XP ※
- Microsoft® Windows Server® 2003 operating system 日本語版 → Windows Server 2003 ※
- Microsoft® Windows® 2000 operating system 日本語版 → Windows 2000
- Windows 7、Windows Vista、Windows Server 2008、Windows XP、Windows Server 2003、Windows 2000 の総称→ Windows
- MacOS 9.2/9.2.1/9.2.2 → MacOS
- Mac OS X 10.3.9 以降 → Mac OS X

※特に記載がない場合は、Windows 7 と Windows Vista と Windows Server 2008 と Windows XP と Windows Server 2003 には 64bit 版も含みます。また、Windows Server 2008 には 64bit 版および Windows Server 2008R2 も含みます。

本書の各章の概要

1章　Windows からの印刷
　　セットアップ編の Windows に関する内容を補足します。

2章　Mac OS からの印刷
　　セットアップ編の Macintosh に関する内容を補足します。

3章　ユーティリティ
　　Fiery ユーティリティのインストール、設定、使用方法について説明します。

4章　設定管理
　　MLPro930PS の設定について説明します。

5章　カラー印刷
　　Color Wise プリントオプションやキャリブレーションについて説明します。

6章　バリアブルデータ印刷
　　バリアブルデータ印刷の機能について説明します。

7章　プリントオプション
　　MLPro930PS のプリントオプションについて説明します。また、各プリントオプションの制限および必要条件なども説明します。

8章　印刷事例
　　複雑な印刷方式を用いた参考例を示し、そこで使用される MLPro930PS の機能の概要を説明します。

目次

1 Windows からの印刷

プリンタドライバのインストール

ポイントアンドプリントでのプリンタドライバ設定

SMB 印刷（Windows 印刷、WINS 印刷）によりネットワークコンピュータから MLPro930PS の印刷キュー、待機キューまたは直接接続に印刷します。SMB 印刷の印刷設定では、ポイントアンドプリント機能を使用してプリンタドライバのインストールと MLPro930PS への接続設定を同時に行います。SMB 印刷は、TCP/IP 上で動作するため、インストール前に TCP/IP プロトコルと Microsoft ネットワーククライアントをクライアント PC にあらかじめインストールしておく必要があります。
MLPro930PS の複数のキューを設定する場合、各キュー用にプリンタドライバをインストールする必要があります。その場合、プリンタドライバインストール時に、各プリンタに「Aero-Print」や「Aero-Hold」などキュー名が区別しやすい名前を付けてください。
ポイントアンドプリントを使用しプリンタドライバをインストールした場合、手動で装着済みオプションを設定することはできません。MLPro930PS のシステム管理者によってオプションは設定されます。双方向通信機能を使用すると、装着されたオプションはプリンタドライバ上に表示されます。装着が可能なオプションについての詳細は、プリンタ機能編の「オプションについて」を参照してください。

SMB 印刷準備 :

MLPro930PS のネットワーク管理者は次の設定を行う必要があります。

- MLPro930PS の IP アドレスまたはネットワーク名を取得します。

次の手順に必要なので、ネットワーク管理者より取得します。

- MLPro930PS で SMB 印刷が使用可能に設定されていることを確認します。

MLPro930PS「設定」および設定情報ページでは SMB 印刷を「Windows 印刷」と称しています。

詳細は、「4 章 設定管理」または、WebTools「Configure」ヘルプを参照してください。

Windows コンピュータで SMB 印刷を設定するには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：コントロールパネル：ネットワークの状態とタスクの表示」を選択し、「ネットワーク」をクリックします。

   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：ネットワークとインターネット：ネットワークのコンピュータとデバイスの表示」を選択します。

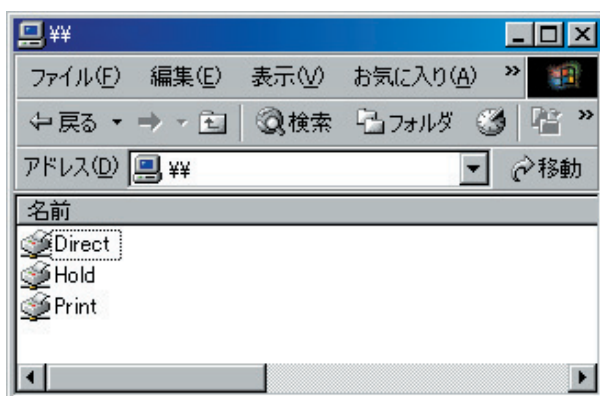
   Windows XP/Server 2003/2000: デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」または「マイネットワーク」アイコンを右クリックして「MLPro930PS」プリンタアイコンを検索します。

2. Windows 7/Vista/Server 2008R2/Server 2008:「アドレス」入力フィールドに MLPro930PS の SMB 名または IP アドレスを入力して検索します。IP アドレスは「¥¥IP アドレス」の形式で入力します。

   Windows XP/Server 2003/2000: または、「スタート：検索：コンピュータまたは人：ネットワーク上のコンピュータ：コンピュータ名」に MLPro930PS の SMB 名または IP アドレスを入力して検索します。

   MLPro930PS もしくはキュー名が見つからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

3. MLPro930PS もしくはキュー名のプリンタアイコンをダブルクリックします。

注 各印刷キューに関する詳細は、「4 章 設定管理」を参照してください。

ここでプリンタポートを作成し、CD1 ソフトウェア CD からプリンタドライバをイン ストールします。

注 MLPro930PS もしくはキュー名をダブルクリックすると、ドライバがインストールされていない旨メッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

4. 製造元とプリンタの一覧を表示するダイアログボックスで、「ディスク使用」をクリックします。

   ここで、CD1 ソフトウェア CD からプリンタドライバをインストールします。

5. CD-ROM ドライブに CD1 ソフトウェア CD を挿入します。ドライブ名を入力してから、「参照」をクリックします。(CD-ROM のドライブを D: として説明しています。)「D:¥Drivers¥JPN¥WinXP2k¥PS」または「D:¥Drivers¥JPN¥WinXP64¥PS」フォルダを表示させます。

6. 「okj3s03h.inf」または「okjas03h.inf」を選択して、「開く」をクリックします。

7. 「フロッピーディスクからのインストール」ダイアログボックスでパスが正しいことを確認し、「OK」をクリックします。

8. 画面の指示に従ってプリンタドライバをインストールします。

仮想プリンタのインストールと接続方法

仮想プリンタでは、所定のジョブ設定を使って MLPro930PS で印刷することができます。手動でプリントオプションを設定する必要はありません。仮想プリンタを使用するには、システム管理者が Command Workstation を使用して仮想プリンタを作成し、設定する必要があります。仮想プリンタが設定されると、ポイントアンドプリント機能を使用してプリンタドライバとプリンタ記述ファイルをユーザのワークステーションにインストールすることができます。
ポイントアンドプリント機能を使ってプリンタドライバをインストールした場合は、手動で装着済みオプションを設定することはできません。MLPro930PS のシステム管理者によってオプションは設定されます。双方向通信機能を使用すると、装着されたオプションはプリンタドライバ上に表示されます。装着済みオプションの設定についての詳細はプリンタ機能編の「オプションについて」を参照してください。

仮想プリンタは MLPro930PS-X モデルでのみ利用できます。

Windows 対応コンピュータに仮想プリンタを設定するには：

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：コントロールパネル：ネットワークの状態とタスクの表示」を選択し、「ネットワーク」をクリックします。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：ネットワーク」を選択します。
   Windows XP/Server 2003/2000: デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」または「マイネットワーク」アイコンを右クリックして「コンピュータの検索 ...」から「MLPro930PS」プリンタを検索します。
2. Windows 7/Vista/Server 2008R2/Server 2008:「アドレス」入力フィールドに MLPro930PS の SMB 名または IP アドレスを入力して検索します。IP アドレスは「¥¥ IP アドレス」の形式で入力します。
   Windows XP/Server 2003/2000: または、「スタート：検索：コンピュータまたは人：ネットワーク上のコンピュータ：コンピュータ名」に MLPro930PS のサーバ名か IP アドレスを入力して検索します。

   MLPro930PS もしくはキュー名が見つからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
3. MLPro930PS もしくはキュー名のプリンタアイコンをダブルクリックします。

   仮想プリンタは「印刷キュー」、「待機キュー」、「直接接続」に続いて表示されます（3 つのプリント接続が使用可能の場合）。仮想プリンタにはジョブの目的に応じた名前が付けられています。

   CD1 ソフトウェア CD からプリンタドライバをインストールする必要があります。
4. 製造元とプリンタの一覧を表示するダイアログボックスで、「ディスク使用」をクリックします。

   ここで、CD1 ソフトウェア CD からプリンタドライバをインストールします。
5. CD-ROM ドライブに CD1 ソフトウェア CD を挿入します。ドライブ名を入力してから、「参照」をクリックします。「D:¥Drivers¥JPN¥WinXP2k¥PS」フォルダまたは「D:¥Drivers¥JPN¥WinXP64¥PS」フォルダを表示させます。
6. 「okj3s03h.inf」または「okjas03h.inf」を選択して、「開く」をクリックします。

7. 「フロッピーディスクからのインストール」ダイアログボックスでパスが正しいことを確認し、「OK」をクリックします。

8. 画面の指示に従ってプリンタドライバをインストールします。

   仮想プリンタが「プリンタと FAX」ウィンドウに表示されます。

   MLPro930PS からの印刷と同じように仮想プリンタから印刷できます (25 ページの「印刷」参照)。仮想プリンタの設定によって使用できるオプションは限られます。

印刷接続の設定

Windows 対応コンピュータから印刷するには、ユーザもしくはシステム管理者が次の設定を行う必要があります。

- ユーザのコンピュータからのジョブを受信できるように MLPro930PS を設定
- Windows 対応コンピュータのポートをネットワークのタイプに合わせて設定

印刷接続

MLPro930PS は、次の接続をサポートしています。

- SMB
- 標準 TCP/IP（RAW または LPR）
- IPP または IPP over SSL

SMB 印刷接続の設定

Microsoft ネットワークを利用して、Windows 対応コンピュータから、共有プリンタとして公開された MLPro930PS へ印刷を行うことができます。この方法は、SMB 印刷（Windows 印刷または WINS 印刷）と呼ばれています。ジョブが送られると、Windows 対応コンピュータはピアツーピア環境で直接 MLPro930PS と交信します。

SMB 印刷を設定することにより、Windows 対応コンピュータから MLPro930PS の各印刷接続（印刷キュー、待機キューまたは直接接続）で印刷できるようになります。SMB 印刷の前に、TCP/IP プロトコルと Microsoft ネットワーククライアントをあらかじめインストールしておく必要があります。

SMB 印刷を MLPro930PS に設定後、Windows または SMB 接続を設定しプリンタドライバをインストールします。詳細は、「ポイントアンドプリントでのプリンタドライバ設定」（8 ページ）を参照してください。

標準 TCP/IP(RAW または LPR) 印刷接続の設定

PostScript プリンタドライバの設定後、TCP/IP ポート接続で印刷を行うためには、次の設定作業が必要です。

- 標準 TCP/IP 印刷用に MLPro930PS を設定。

  詳細は、「Configure」のヘルプを 参照してください。

- LPD または Port9100 が使用できるように、MLPro930PS を設定。

  詳細は、「Configure」のヘルプを 参照してください。

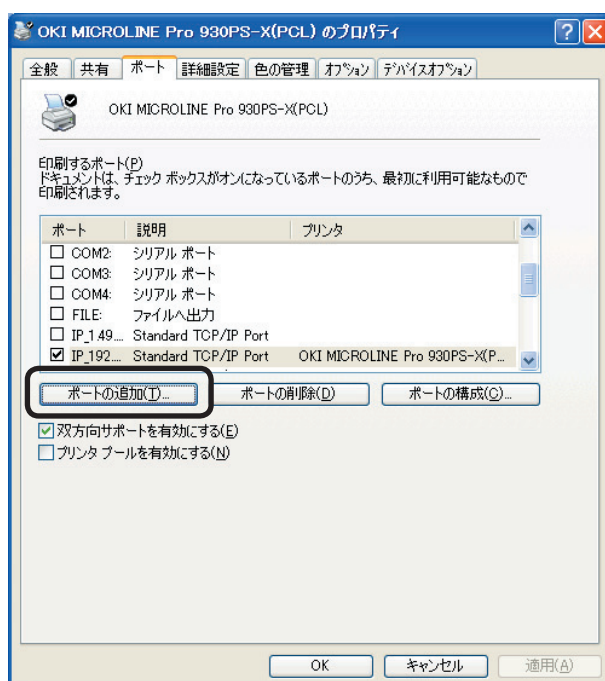
- ワークステーション側で TCP/IP プリンタポートを設定

以下の作業を始める前に、ネットワーク管理者に MLPro930PS 用の IP アドレスを確認しておいてください。

Windows 対応コンピュータ上では、TCP/IP プロトコルはインストールされています。
Port9100 では、プリンタドライバのインストールと接続の設定が一度にできます。

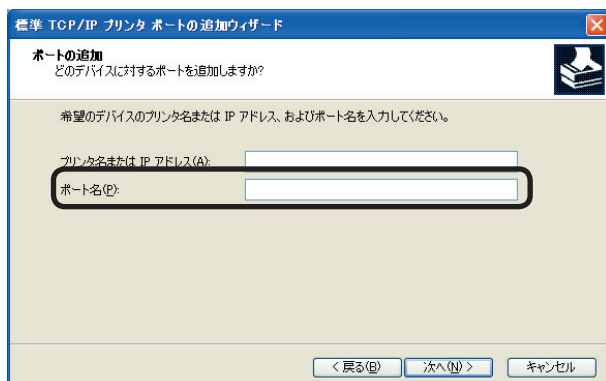
標準 TCP/IP ポートの印刷 を設定するには：

ここでは、Windows XP で表示される画面を例に説明します。

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. Windows 7/Vista/Server 2008R2/Server 2008:「プリンタの追加」をクリックします。
   Windows XP/Server 2003:「プリンタのインストール」をクリックして「次へ」をクリックします。
   Windows 2000:「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックして、「次へ」をクリックします。
3. ローカルプリンタを使用するオプションを選択して、「次へ」をクリックします。

4. 「新しいポートの作成」をクリックし、プルダウンメニューから「Standard TCP/IP」を選択します。

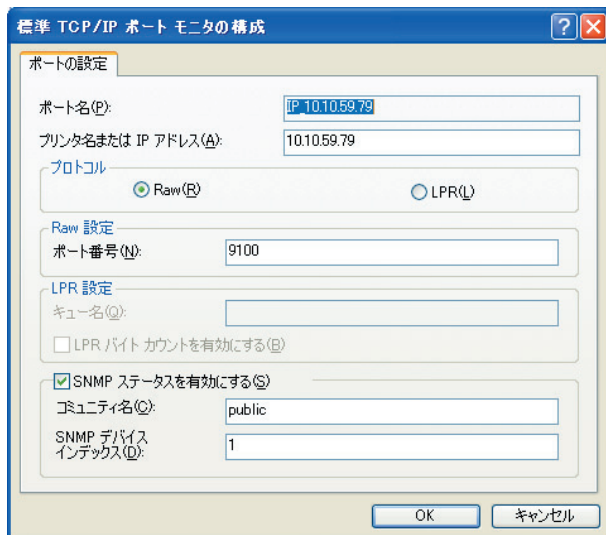
「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

5. 「次へ」をクリックします。

6. 「プリンタ名または IP アドレス」フィールドに、MLPro930PS の IP アドレスを入力します。

7. 「次へ」をクリックします。
8. 「デバイスの種類」で「標準」の「Generic Network Card」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
9. 「完了」をクリックして「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」ダイアログボックスを閉じ、「閉じる」をクリックして「プリンタポート」ダイアログボックスを閉じます。

   ポートの設定を変更したい場合は手順 11 へ進みます。ポートの設定に変更がない場合はこれで終了です。

10. MLPro930PS のプロパティダイアログボックスで「ポート」タブをクリックし、「ポートの構成」をクリックします。

   「標準 TCP/IP ポートモニタの構成」ダイアログボックスが表示されます。

11. LPR 印刷 を使用する場合、「プロトコル」で「LPR」を選択します。「LPR バイトカウントを有効にする」を選択します。

メモ 「LPR バイトカウントを有効にする」を選択しないで進むこともできます。

12. Port9100 を使用する場合は、「プロトコル」で「Raw」を選択します。

「Raw 設定」の「ポート番号」に「9100」が自動的に割り当てられます。MLPro930PS「設定」で指定した Port 9100 のキューに印刷されます。

特定のポート番号を指定するには、下記の手順に従ってください。通常、9102 を使用します。

13. キュー名を入力します。

LPR の場合は、「LPR 設定」の「キュー名」に print 、または hold を入力します。「キュー名」として、MLPro930PS 内に登録されている仮想プリンタの名称を使うと、その仮想プリンタに印刷されます。

キュー名では大文字 / 小文字が区別されるので、正確に入力してください。PRINT や HOLD では認識されません。正しくないキュー名が設定された場合は、デフォルトキューで実行されます。

Port9100 (システムデフォルト) の場合は、使用する接続タイプに応じて「Raw」設定で次のポート番号を入力する必要があります。
MLPro930PS デフォルト：9100
直接接続（direct）の場合 : 9101
印刷キュー（print）の場合 : 9102
待機キュー（hold）の場合 : 9103

14. 「OK」をクリックして、「標準 TCP/IP ポートモニタの構成」ダイアログボックスを閉じます。

メモ IPv6 ネットワークでの LPR 印刷は、Windows XP/Server 2003 クライアントからできる可能性があります。その際は、コマンドプロンプトを使用して MLPro930PS に印刷します。

15. 「適用」をクリックし、「OK」をクリックします。

IPP 印刷設定

Internet Printing Protocol（IPP）を利用して、インターネット経由でジョブを MLPro930PS に送信することができます。
印刷設定の前に、下記の準備を行います。

MLPro930PS を以下のいずれかの方法で IPP 使用に設定する必要があります。

- 操作パネル : 管理者メニュー : ネットワーク設定 : サービス設定 : IPP 使用 : はい、に変更します。
- Web Tools(Configure) : ネットワーク : サービス Web : IPP を使用する、をチェックします。
- ワークステーションで印刷先を指定

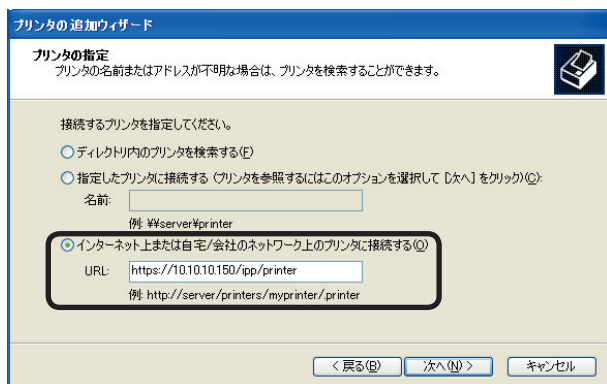
メモ IPP over SSL 接続がサポートされています。

IPP 印刷を設定するには：

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート」ボタンをクリックし、「プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート」ボタンをクリックし、「設定：プリンタ」を選択します。
2. Windows 7/Vista/Server 2008R2/Server 2008:「プリンタの追加」をクリックします。
   Windows XP/Server 2003:「プリンタのインストール」をクリックして「次へ」をクリックします。
   Windows 2000:「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックして、「次へ」をクリックします。
3. Windows 7/Vista/Server 2008R2/Server 2008:「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタを追加します」をクリックします。
   Windows XP:「ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ」を選択して、「次へ」をクリックします。
   Windows Server2003/2000:「ネットワークプリンタ」を選択して、「次へ」をクリックします。
4. Windows 7/Vista/Server 2008R2/Server 2008:「探しているプリンタはこの一覧にはありません」をクリックし、「TCP/IP アドレスまたはホスト名を使ってプリンタを追加する」を選択します。
   Windows XP/Server 2003/2000:「インターネット上または自宅／会社のネットワーク上のプリンタに接続する」を選択します。
5. 「URL」（あるいは「ホスト名または IP アドレス」）フィールドに MLPro930PS の IP アドレスまたはコンピュータ名に続けて「ipp/print」と入力します。

   たとえば、「http://10.10.10.150/ipp/print」のように入力します。

   MLPro930PS では IPP over SSL 通信がサポートされます。この場合、IPP 印刷で送信されるプリントジョブは暗号化されます。「URL」フィールドには「https://10.10.10.150/ipp/print」のように「https://」と入力します。

「URL」フィールドでは大文字と小文字は区別しません。

6. 「次へ」をクリックします。

   「プリンタの接続」ウィンドウが表示されます。

7. 「OK」をクリックします。

   「プリンタの追加」ダイアログボックスが表示されます。

8. 以降の手順は、セットアップ編を参照してください。
9. MLPro930PS を通常使うプリンタに設定するかどうかを指定して、「次へ」をクリックします。
10. 「完了」をクリックします。

オプションの設定

プリンタに装着されているオプションの自動設定 / 更新

TCP/IP ネットワークに接続している場合に「双方向通信」を有効にすると、プリンタにオプションを追加したときに、自動的にオプションが検出され、設定が変更されます。プリンタドライバを最初にインストールすると、MLPro930PS の「設定」の内容がデフォルトとして適用されます。プリンタドライバが双方向通信機能を利用するように設定すると、MLPro930PS から実際の設定内容を受け取ることができます。

双方向通信機能を利用すると、MLPro930PS の現在のカラー設定が自動的に「エキスパートカラー設定」へ、また Free Form 設定がマスター設定へ反映されます。詳細については、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

双方向通信を設定するには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート」ボタンをクリックし、「デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル:プリンタ」を選択します。
   Windows XP :「スタート」ボタンをクリックし、「プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003 :「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル : プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000 :「スタート」ボタンをクリックし、「設定 : プリンタ」を選択します。
2. 「プリンタ」もしくは「プリンタと FAX」ウインドウで MLPro930PS を選択して右クリックします。
3. 「プロパティ」(Windows 7/Server 2008R2 では「プリンターのプロパティ」)を選択します。
4. 「インストール可能オプション」タブを選択します。
5. 「双方向通信」を選択します。
6. 「プリンタの IP アドレスまたは DNS 名」フィールドに、MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。
7. 「Fiery ドライバ起動時に自動更新」を選択すると、「プロパティ」ウィンドウを表示するたびにプリンタにインストールされているオプションが自動的に検出されます。
8. 「適用」をクリックします。

注 「ソフトウェア情報」タブをクリックすると、「双方向通信」機能が正しく設定されているかを確認することができます。

9. ジョブの印刷終了後、E メールで印刷完了通知を受け取るには、「E メール通知を使用」を選択し、「E メールアドレス」フィールドに通知の送信先となる E メールアドレスを入力します。

   印刷中にエラーが発生した場合、エラー通知が送信されます。

「E メール通知を使用」を使用するには、以下のいずれかの方法で E メールサービスの設定を使用するに変更する必要があります。
操作パネル : 管理者メニュー : ネットワーク設定 : サービス設定 : メールサービス使用 : はいに変更します。
WebTools (Configure) : 設定 : ネットワーク : サービス : E メール : E メールを使用するをチェックします。

10. 「詳細設定」タブをクリックし、「詳細な印刷機能を有効にする」を非選択にしてください。
11. 「OK」をクリックします。

Windowsプリンタドライバ関連ユーティリティ

ここでは、Windows からの印刷やジョブの監視に使用する以下のユーティリティについて解説します。

- Job Monitor

  MLPro930PS へ送信されたプリントジョブの状況を見ることができます。

- Windows 対応コンピュータにプリンタドライバをインストールする際、「JM」の表示のあるプリンタドライバを選択すると、Job Monitor が同時にインストールされます。Job Monitor を使用するには、プリンタドライバで使用可能にあらかじめ設定しておく必要があります。詳しくは次項「Job Monitor の接続設定」を参照してください。
- 64-bit OS では使用できません。

- E メールサービス

  ファイルを E メールの添付資料として MLPro930PS へ送信することができます。

  他に次の方法で MLPro930PS に印刷することができます。

- FTP 印刷

Job Monitor の接続設定

Job Monitor を使用して MLPro930PS の状況を監視したり、MLPro930PS へ送信されたプリントジョブの状況を見ることができます。

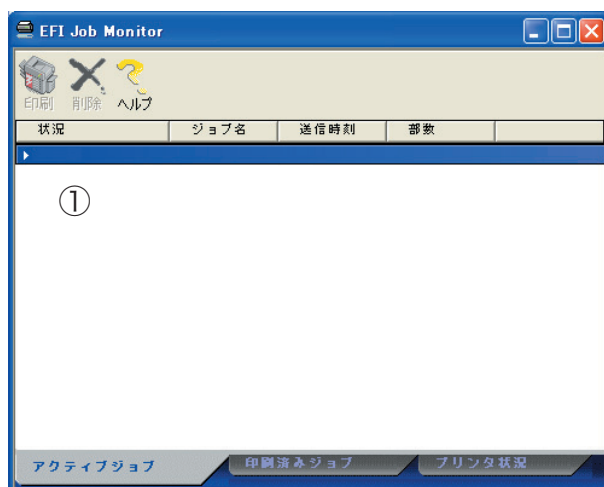
Job Monitor の使用方法についての詳細は、Job Monitor ヘルプを参照してください

MLPro930PS との接続を設定するには：

64-bit OS では使用できません

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. 「プリンタ」もしくは「プリンタと FAX」ウィンドウで MLPro930PS アイコンを選択します。
3. MLPro930PS アイコンを右クリックし、「印刷設定」を選択します。
4. 「プリンタ」タブをクリックします。

5. Job Monitor フィールドの「印刷ジョブを監視する」を選択します。

   最初の印刷ジョブを MLPro930PS へ送信すると、Job Monitor ウィンドウが開き、MLPro930PS と接続されます。複数のプリンタにプリンタドライバが設定されている場合、すべての MLPro930PS へ接続します。

①接続している ML Pro 930PS のサーバ名

6. 「プリンタ」タブ内の「更新」をクリックします。

7. 「OK」をクリックして「印刷設定」ウィンドウを閉じます。

   Job Monitor アイコン ( ) が Windows タスクバーに表示されます。

E メール サービスの使用

E メールサービスを使用すると、既存の E メールシステムで MLPro930PS への印刷ジョブの送信および MLPro930PS の操作が可能になります。また、ファイアウォールの外側から印刷ジョブを送信し MLPro930PS で印刷することができます。Fiery E メールサービスは、アプリケーションには依存せず、どの E メールからでも使用できます。

MLPro930PS には、独自の E メールアドレス帳があります。システム管理者は、MLPro930PS に E メールを送信することでアドレス帳から E メールアドレスの読み込み、追加、および削除ができます。詳細は、「4 章 設定管理」を参照してください。

E メールサービスの設定は、「Configure」のヘルプを 参照してください。

- E メールサービスには、以下の用途があります。

  E メールアプリケーションを使用して印刷

  E メールクライアントを使用して印刷するには、ファイルを E メールに添付して MLPro930PS へ送信します。MLPro930PS の E メールサービスは添付ファイルを抽出しプリンタへ印刷ジョブを送信します。添付ファイルは MLPro930PS がサポートするファイル形式（PostScript、PDF および TIFF）である必要があります。

E メールサービスでは、.vbs、.exe、または .bat 拡張子ファイルの処理はしません。

• E メールアプリケーションを使用してジョブを管理

E メールの「件名」フィールドにコマンドを入力して MLPro930PS へ送信すると、E メールクライアントを使用して印刷ジョブを管理できます。

E メールクライアントを使用して印刷

E メールアプリケーションを使って、印刷ジョブを添付ファイルとして MLPro930PS に送信し印刷します。MLPro930PS は添付ファイル付きの E メールを受信すると、E メールサービス機能で添付ファイルを抽出し印刷キューに送信します。添付ファイル形式は、MLPro930PS でサポートされているファイル形式である必要があります。

システム管理者は、E メールアドレス帳を使用して印刷を行うユーザを制限することができます。この設定を行わないと、E メールクライアントを使用して誰でも MLPro930PS に印刷できます。E メールアドレス帳を使用して印刷ユーザを制限する方法は、「4 章 設定管理」を参照してください。MLPro930PS でユーザ認証が有効になっている場合は、E メールに添付するファイルには正しいユーザ名とパスワードを設定してから印刷してください。MLPro930PS プリンタドライバを使って E メールに添付するファイルを作成するときに、「ジョブ情報」タブから「ユーザ認証」の「ユーザ名」と「パスワード」を正しく入力してください。この「ユーザ名」と「パスワード」は、MLPro930PS「設定：ユーザとグループ」で、システム管理者により指定されたユーザ名とパスワードに一致している必要があります。「ユーザとグループ」の詳細は、「Configure」のヘルプを参照してください。

注 E メールクライアントからは直接接続への印刷はできません。

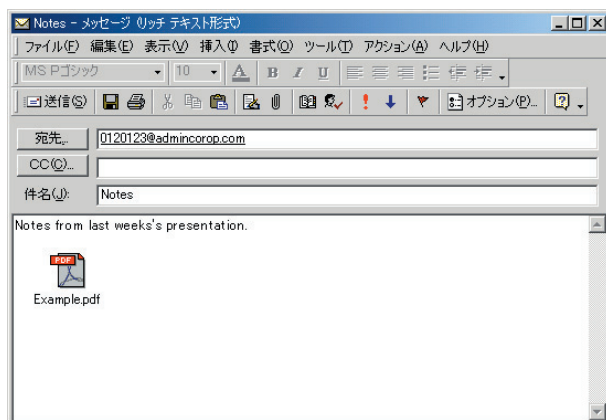
メモ ここでは、E メールアプリケーションとして Microsoft Outlook を例にとって説明しています。

E メールクライアントを使用して印刷するには：

1. E メールアプリケーションを起動します。
2. 「宛先」または「To:」フィールドに MLPro930PS の E メールアドレスを入力します。
3. 「件名 :」フィールドにテキストを入力するか、または空欄にします。

4. 印刷するファイルを挿入します。

添付ファイルは、MLPro930PS がサポートするファイル形式（PostScript、PDF および TIFF）である必要があります。

注 添付ファイルのサイズが、E メールシステム管理者が設定した送受信可能最大サイズより大きい場合は、E メールは送信されません。

5. 必要であれば、E メールにメッセージを入力してください。このメッセージは、印刷ジョブと共に印刷されます。

注 HTML 形式の E メールはサポートされません。テキスト形式でのみ、E メールを送信してください。

6. E メールを送信します。

添付ファイルは MLPro930PS に送信され印刷されます。MLPro930PS はジョブを受信すると、印刷ジョブ受信を通知する E メールを送信します。この E メールには、ジョブコントロールで使用するジョブ ID 番号が記されています。このジョブ ID は、ジョブを管理（以下を参照してください。）する際使用します。MLPro930PS でエラーが発生した場合は、このジョブ ID 番号が MLPro930PS からの送信 E メールに記載されます。

ジョブの印刷が完了すると、MLPro930PS は印刷完了を通知する E メールを送信します。

印刷ジョブの管理

E メールの「件名」フィールドにコマンドを入力して MLPro930PS へ送信すると、E メールクライアントを使用して印刷したジョブの状況確認、中止、およびヘルプ情報をリクエストすることができます。MLPro930PS からの返答は、E メールで送信されます。

コマンド入力で印刷ジョブを管理するには

1. 新しいメッセージの「宛先」または「To:」フィールドに MLPro930PS の E メールアドレスを入力します。
2. 「件名」フィールドに以下のジョブコントロールコマンドを入力します。

   ジョブの状況を確認する場合 ー #JobStatus< ジョブ ID>

   MLPro930PS からジョブの状況が返信されます。印刷ジョブを送信したユーザまたはシステム管理者のみにより、ジョブ状況を確認できます。

   ジョブを中止する場合 ー #CancelJob< ジョブ ID>

   MLPro930PS からジョブの印刷中止を通知する E メールが送信されます。印刷ジョブを送信したユーザまたはシステム管理者のみにより、ジョブの印刷を中止できます。

   ヘルプ情報を要求する場合 ー #Help

   MLPro930PS からさまざまなコマンドの使用方法およびリンクが記述されている E メールが返信されます。リンクをクリックしてコマンドを送信できます。
3. MLPro930PS に E メールを送信します。

FTP 印刷

MLPro930PS で FTP サービスが設定されている場合は、MLPro930PS は FTP サーバとしても機能するため、FTP 印刷用のジョブを MLPro930PS から印刷することができます。
FTP サービス設定についての詳細は、「Configure」のヘルプを参照してください。
FTP クライアントソフトウェアはどれでも使用できます。FTP クライアントソフトウェアには次の情報が必要です（システム管理者に確認してください）。

- MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名
- ジョブの送信先ディレクトリまたはパス名（印刷キュー、待機キューなど、または仮想プリンタ）

注 FTP 印刷では直接キューに印刷することはできません。

- 必要であればユーザ名とパスワード

出荷時のデフォルトは以下の通りです。
ユーザ名：admin、または operator、または guest
パスワード：なし

次のファイル形式が FTP 印刷でサポートされます。

- PS
- TIFF
- PDF

EPS 形式はサポートされていません。

FTP プロトコルを使用してファイルを印刷するには：

1. FTP クライアントソフトウェアを使用して MLPro930PS に接続します。

   「Print(印刷キュー)」、「Hold(待機キュー)」、または仮想プリンタのフォルダが表示されます。

   注 FTP 印刷では直接キューに印刷することはできません。

2. 使用するキューに対応するフォルダをダブルクリックします。
3. 使用するフォルダにジョブをドラッグアンドドロップします。

   ジョブが印刷されると、ジョブは MLPro930PS から削除されます。

印刷

ここでは、MLPro930PS を使用して印刷する方法について説明します。ネットワークに接続されている Windows コンピュータまたは、Windows（WINS）印刷を使用しているコンピュータからの印刷が可能になります。ファイルとして保存し、外部で印刷することも可能です。詳細は、「外部で印刷する時のファイルの保存」（40 ページ）。Windows コンピュータから印刷する方法として、さらに「書類」Webtool または Command Workstation（詳細は「3 章 ユーティリティ」を参照）を使用してファイルをダウンロードして印刷する方法、および Hot Folders（詳細は「3 章 ユーティリティ」参照）、E-mail サービス（20 ページ）を使用して印刷する方法もあります。

アプリケーションからの印刷

MLPro930PS の PostScript プリンタドライバをインストールし適切なポートを設定すると、ほとんどの Windows アプリケーションから「プリント（印刷）」を選択することにより、ML-Pro930PS に印刷できるようになります。
各アプリケーションから最良のカラー印刷結果を得る方法に関しては、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

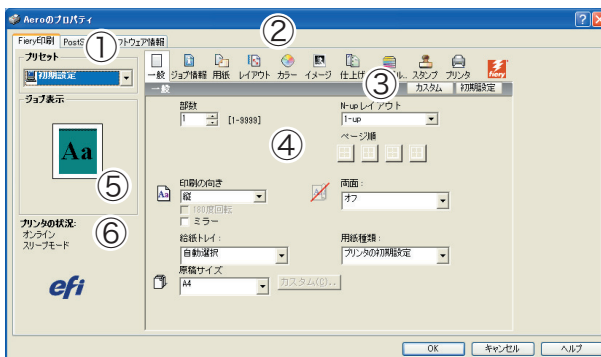
Windows でのプリントオプション の設定および印刷

Windows から印刷するには、Windows 用 PostScript プリンタドライバを使用します。プリンタドライバのインストール後、「詳細設定」タブでオプションを選択する必要があります。
仮想プリンタを使用する場合、設定できないプリントオプションもあります。これは仮想プリンタの設定によります。

アプリケーションからプリントオプションを設定して MLPro930PS から印刷するには、次の手順に従ってください。プリンタドライバでデフォルトの印刷設定を指定することもできます。プリントオプションについての詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

ここでは、Windows XP の画面を例にとって説明します。

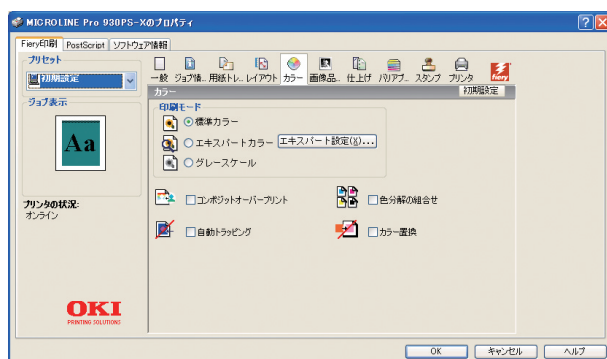
プリントオプション を設定 / 変更するには

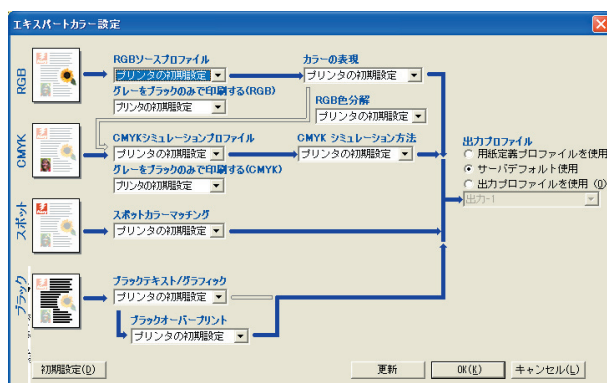
1. アプリケーションから「プリント（印刷）」を選択します。
2. 「プリント（印刷）」ダイアログボックスで MLPro930PS が選択されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。

①プリセット（ジョブテンプレート）
②プリントオプションタブ
③カスタムボタン-一般画面表示のカスタマイズ
④設定エリア-各オプションタブより設定できるプリントオプションが表示されます。
⑤ジョブ表示
⑥プリンタの状況

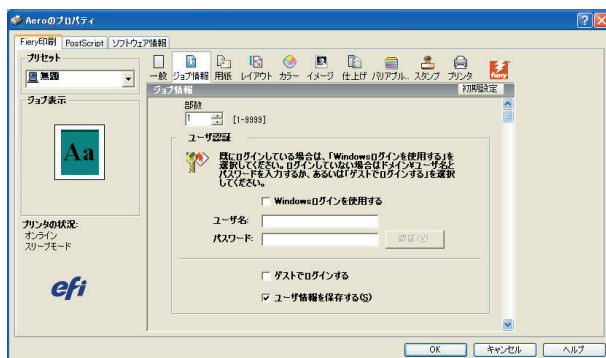
「Fiery 印刷」タブでは通常使用する印刷機能を設定します。

プリントオプションについての詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

4. 「カラー」タブをクリックします。

「印刷モード」エリアで、印刷ジョブに適用する印刷モードを選択します。RGB 色分解など詳細なカラー設定を行う場合は、「エキスパート設定」ボタンをクリックして、手順 5 に進みます。その他の場合は、手順 7 に進みます。

5. 「エキスパートカラー設定」での各項目を設定して、「更新」をクリックします。

「更新」ボタンが表示されない場合は、双方向通信が有効になっていることを確認します。

6. 「エキスパートカラー設定」での各項目の設定が終了したら「OK」をクリックして、その他のオプションを設定してください。

7. 「ジョブ情報」タブをクリックします。

8. 「ジョブ注釈メモ」フィールドに情報を入力します。

   管理目的のためにユーザおよびジョブに関する情報を入力します。

   この情報は、Command WorkStation の「プロパティ」、またジョブログにも表示されます。システム管理者またはオペレータは、これらの情報を編集したり削除することはできません。

   Command WorkStation についての詳細は、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

9. 「指示」フィールドにジョブに関する指示を入力します。

   ジョブに関するオペレータへの指示を入力します。この指示は、Command WorkStation の「プロパティ」に表示されます。ジョブログには表示されません。システム管理者またはオペレータはこの情報を編集することができます。

10. 「ユーザ認証」にユーザ名とパスワードを入力します。

    「ユーザ認証」内で入力するユーザ名は、ネットワークドメインのユーザ名またはクライアントで使用しているユーザ名でかまいません。詳細は、システム管理者に問い合わせてください。

    ユーザ名とパスワードを使用していない場合は、「ゲストでログインする」を選択します。プリントサーバにはゲストからの印刷ができるように設定が必要です。

    ネットワーク上のユーザ名とパスワードを使用していない場合は、「ユーザ名」と「パスワード」フィールドにドメイン名 / ユーザ名を入力します。「認証」をクリックすると、入力したユーザ名 / パスワードが有効かどうかが MLPro930PS に問い合わせられ、その結果が表示されます。

    「Windows ログインを使用する」が選択されている場合は、LDAP ドメインのユーザ名とパスワードが、認証用情報として転用されます。これは、ユーザが Windows コンピュータにドメインユーザとしてログインしている場合に有効です。

    ログイン情報を保存する場合は「ユーザ情報を保存する」を選択します。

11. 「認証印刷」フィールドには、認証印刷を行う場合に、パスワードを入力します。

    「ジョブパスワード」については「応用編」を参照してください。

12. その他のタブをクリックし、印刷ジョブ用に必要な設定を行い、「OK」をクリックします。

   これらのオプションは、MLPro930PS およびプリンタに固有なものです。ここでのオプション設定は、MLPro930PS「設定」より優先されます。また、ここで指定したオプションを Command WorkStaion から変更することもできます。オプションに関する情報は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。Command WorkStation に関する詳細は、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

   装着オプションをあらかじめ設定しないと使用できないプリントオプションもあります。使用可能な装着オプションに関する詳細は、プリンタ機能編の「オプションについて」を参照してください。

   「プリセット」の項目から「初期設定」を選択すると、印刷ジョブは工場出荷値、MLPro930PS「設定」値に基づいて印刷されます。詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

   注 競合するオプションを選択した場合、警告ダイアログボックスが表示されることがあります。競合を解消するには、表示された指示に従ってください。

13. 「プリント（印刷）」ダイアログボックスで「OK」をクリックし、ジョブを送信します。

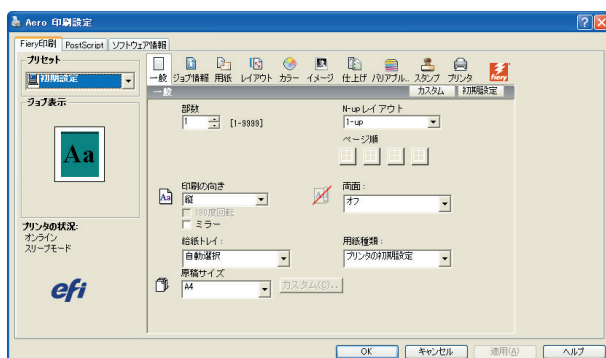
   現在のプリンタに MLPro930PS が選択されていることを確認します。

   アプリケーションの印刷機能から指定可能なプリントオプションには、MLPro930PS およびプリンタに固有のオプションと同様なものがあります。このような場合、MLPro930PS およびプリンタに固有のオプションを指定してください。オプションは「Fiery 印刷」タブに表示されます。アプリケーションのプリンタドライバからオプションを指定した場合、MLPro930PS に正しく印刷されないことがあります。

   「双方向通信を設定するには」(18 ページ) で説明されている E メール通知を使用の機能を選択するとジョブが印刷された場合、またはエラーが発生した場合に E メールでの通知を受けることができます。

プリントオプションのデフォルト値の設定方法

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS 用アイコンを選んで右クリックし、「印刷設定」を選択します。

3. 「Fiery 印刷」タブが表示されていない場合は、クリックします。

4. プリントオプションを設定します。

5. 「OK」をクリックします。

ウォーターマークの編集

Windows 対応プリンタドライバでは、印刷時に透かし (ウォーターマーク) を入れることができます。リストから使用したいウォーターマークを選択できます。新しくウォーターマークを作成、編集、フォントの変更 (サイズとスタイル)、カラー、位置、ウォーターマークの説明、選択されているウォーターマークの削除など設定ができます。

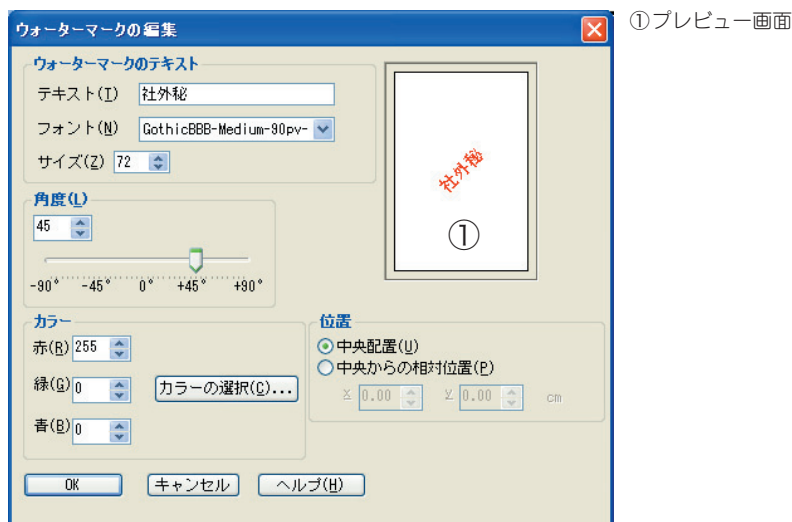
ここでは、ウォーターマークの編集手順について説明しています。詳細は、ドライバのヘルプを参照してください。

WINDOWS 対応プリンタドライバで、ウォーターマークを編集するには：

1. 「Fiery 印刷」タブで、「スタンプ」タブをクリックします。

①プルダウンメニューよりウォーターマークを選択

2. 使用するウォーターマークを選択し「編集」または「新規」をクリックします。

   「ウォーターマークの編集」または「ウォーターマークの追加」ダイアログボックスが表示されます。

①プレビュー画面

3. フォント、フォントサイズ、スタイルを選択します。
4. 必要に応じて、ウォーターマークの印刷角度を設定します。

   右側のプレビュー画面のウォーターマークをクリックすると、カーソルが手の形状になり、プレビュー画面上でウォーターマークの印刷角度を自由に設定することができます。

5. 「カラー」より色の設定をします。
6. 「位置」より印刷位置を設定します。

   右側のプレビュー画面のウォーターマークをクリックすると、カーソルが手の形状になり、プレビュー画面上でウォーターマークの印刷位置を自由に設定することができます。

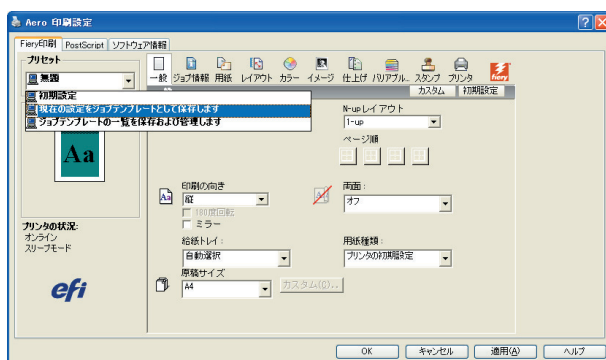
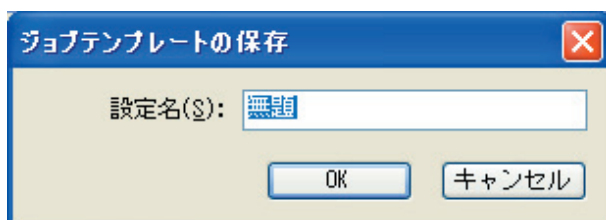
7. 編集内容を確認し、「OK」をクリックします。
8. 「ウォーターマークの印刷」で、印刷方法を設定します。

ジョブテンプレートの使用

プリントオプション用の各設定をハードディスクに保存することができます。この機能によって、特定ジョブ用に設定値をあらかじめ保存し、必要なときに使用することができます。またこの設定は、「エクスポート」、「インポート」機能を使用して他のユーザと共有することもできます。

ジョブテンプレートを作成するには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS のプリンタアイコンを右クリックします。「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。
4. 「プリセット」が「初期設定」に指定されていることを確認し、オプションバーで設定を行います。

   設定を変更すると「プリセット」メニューが「初期設定」から「無題」に変更されます。
5. 「プリセット」のメニューから、「現在の設定をジョブテンプレートとして保存します」を選択します。

6. ジョブテンプレート名（32 バイトまで）を入力し、「OK」をクリックします。

設定名が「ジョブテンプレート」フィールドに表示されます。

ここで設定されたジョブテンプレートは、削除されるまでローカルディスクに保存され、「Fiery 印刷」タブから利用できます。

ジョブテンプレートをロードするには

「Fiery 印刷」タブに表示される「プリセット」一覧は、すべてのプリントジョブに使用できます。

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート:デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート:コントロールパネル:プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート:コントロールパネル:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート:設定:プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS のプリンタアイコンを右クリックします。「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。
4. 「プリセット」からロード対象の設定名を選択します。

   選択されたジョブテンプレートにもとづいて、各プリントオプションが自動的に選択されます。

   使用中のアプリケーションの印刷設定から Fiery 印刷タブにアクセスし、プリセットを選択した場合は、その時に起動中のアプリケーション印刷に対してのみ有効になります。

   指定するプリセットが表示されない場合、ハードディスクにエクスポートしてバックアップしてあれば、再度インポートして利用することができます。

ジョブテンプレートを削除するには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート:デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート:コントロールパネル:プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート:コントロールパネル:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート:設定:プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS のプリンタアイコンを右クリックします。「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。
4. 「プリセット」メニューから、「ジョブテンプレートの一覧を保存および管理します」を選択します。

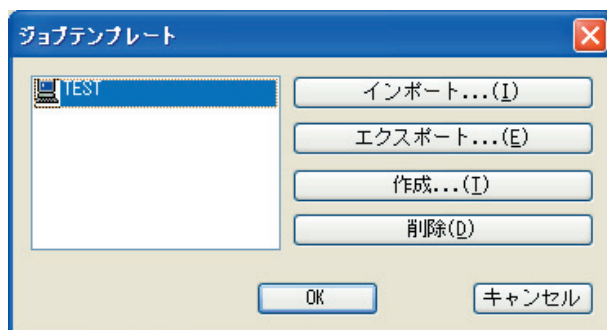
   「ジョブテンプレート」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「ジョブテンプレート」から削除するテンプレートを選択し、「削除」をクリックします。
6. 削除確認の際「はい」を選択し、「OK」をクリックします。

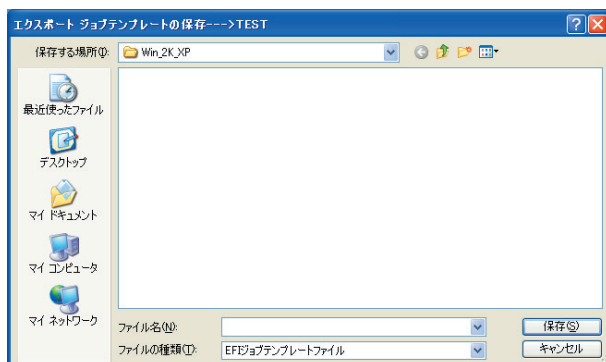
ジョブテンプレートを初期設定に戻すには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS のプリンタアイコンを右クリックします。「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。
4. 「プリセット」メニューから「初期設定」を選択します。

ジョブテンプレートをエクスポートするには

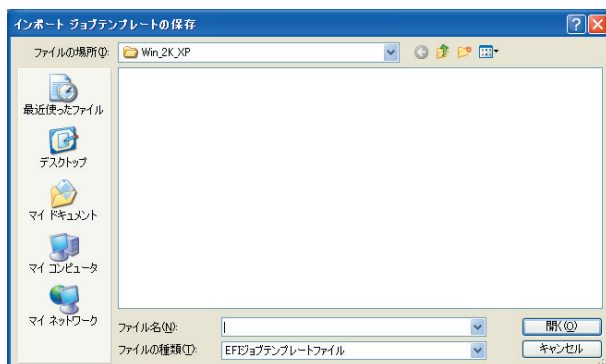
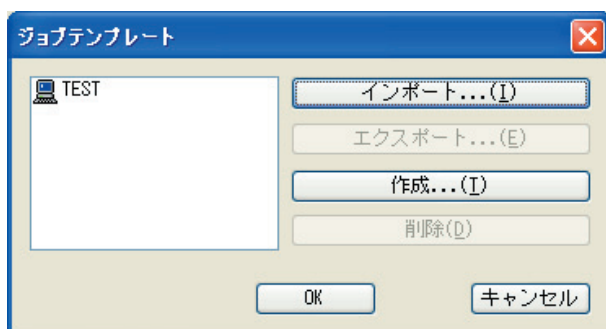
1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS のプリンタアイコンを右クリックします。「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。
4. 「プリセット」メニューから「ジョブテンプレートの一覧を保存および管理します」を選択します。

   「ジョブテンプレート」ダイアログボックスが表示されます。

5. エクスポート対象の設定名を選択します。
6. 「エクスポート」をクリックします。
7. 「エクスポートジョブテンプレートの保存」ダイアログボックスで、ファイルの保存場所を選択します。

8. ファイル名を入力して「保存」をクリックします。

注 ここで保存するファイル名は半角 8 文字以内で、名前のあとに「.sav」の拡張子を付ける必要があります。ファイル名は、ジョブテンプレート名と一致する必要はありません。

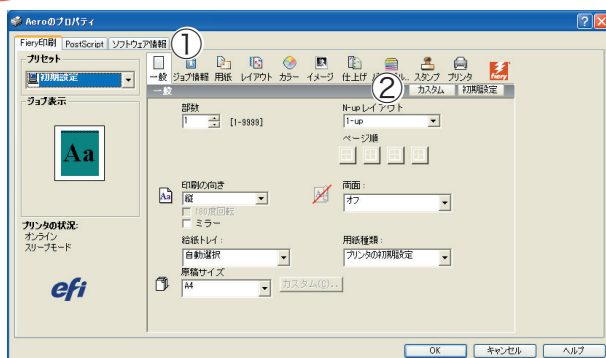
ジョブテンプレートをインポートするには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート:デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート:コントロールパネル:プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート:コントロールパネル:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート:設定:プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS のプリンタアイコンを右クリックします。「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。
4. 「プリセット」メニューから「ジョブテンプレートの一覧を保存および管理します」を選択します。

   「ジョブテンプレート」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「インポート」をクリックします。
6. インポートするファイルの保存場所を参照します。
7. ファイル名を選択して「開く」をクリックします。

8. 「ジョブテンプレート」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

注 インポートしたあと、ジョブテンプレートは「ジョブテンプレート」ダイアログボックス内にファイル名ではなく、設定名で表示されます。

ショートカット

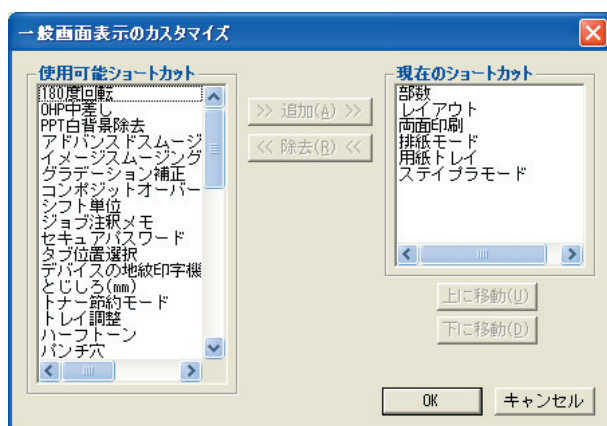
「一般」タブをクリックすると、最も頻繁に使用するプリントオプションの現在の設定値が表示されます。「ショートカット」として、オプションを登録すると、他のタブをクリックすることなく、オプションの値を簡単に変更することが可能です。

注 「一般」タブで各オプションの値を設定すると、他の該当するプリントオプションタブの値も変更されます。

①「一般」タブ
②カスタムボタン -「一般画面表示のカスタマイズ」が表示されます。

「一般」オプションの表示を変更するには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート:デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート:コントロールパネル:プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート:コントロールパネル:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート:設定:プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS のプリンタアイコンを右クリックします。「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery 印刷」タブをクリックします。

4. オプションバーの右上の「カスタム」ボタンをクリックします。

「一般画面表示のカスタマイズ」ダイアログボックスが表示されます。プリントオプションのショートカット一覧が入っています。「一般」タブに表示されているプリントオプションが「現在のショートカット」のリストに表示されます。

5. ショートカットを追加するには、「使用可能ショートカット」フィールドでプリントオプションを選択して「追加」をクリックするか、プリントオプションをダブルクリックします。

6. ショートカットを除去するには、「現在のショートカット」フィールドでプリントオプションを選択して「除去」をクリックするか、プリントオプションをダブルクリックします。

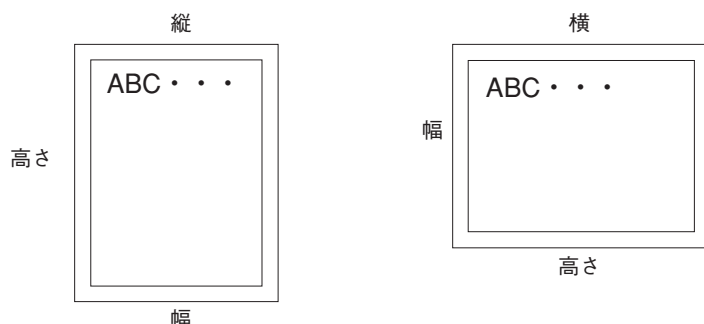
7. ショートカットの表示の順番を変更するには、「現在のショートカット」フィールドでプリントオプションを選択して「上に移動」または「下に移動」をクリックします。

8. 「OK」をクリックして、「一般画面表示のカスタマイズ」ダイアログボックスを閉じます。

注

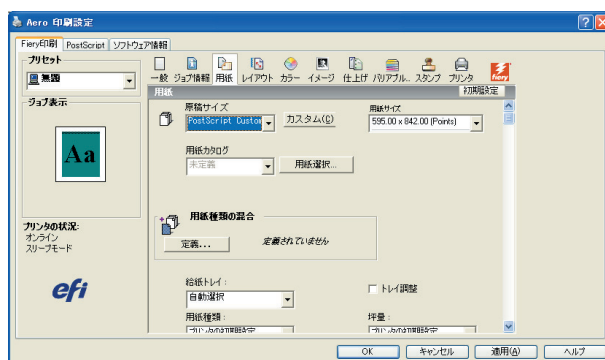
「一般」タブのプリントオプションをすべて除去することはできません。「現在のショートカット」をすべて除去した場合、初期設定の状態に戻ります。

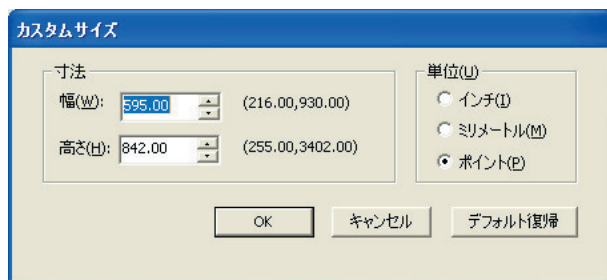
カスタム用紙サイズの設定および印刷方法

印刷ページのサイズを定義することにより、用紙サイズをカスタマイズします。指定したカスタム用紙は、印刷時にアプリケーションから簡単に選択でき、印刷のたびに定義する必要がありません。 カスタム用紙サイズを定義する場合、アプリケーションでの印刷の向きにかかわらず、用紙の短辺が「幅」、長辺が「高さ」になります。

カスタムページサイズは、Impose（面付け）後のシートのページサイズとして指定することはできません。

以下の手順に従ってカスタムページサイズを定義します。

カスタム用紙サイズを定義するには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS 用アイコンを右クリックし、「印刷設定」をクリックします。
3. 「Fiery 印刷」タブ内の「用紙トレイ」アイコンをクリックします。

4. 「用紙サイズ」メニューから「PostScript カスタムページサイズ」を選択し、「カスタム」ボタンをクリックします。

   「カスタムサイズ」ダイアログボックスが表示されます。

5. カスタム用紙サイズのオプションを設定します。

   寸法 : 印刷するジョブの幅と高さを入力します。

   単位 : 印刷するジョブの寸法単位を選択します。

6. 「OK」をクリックします。

7. 「印刷設定」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

   アプリケーションからカスタムページサイズの指定ができるようになります。

カスタム用紙サイズを変更するには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート:デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート:コントロールパネル:プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート:コントロールパネル:プリンタと FAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート:設定:プリンタ」を選択します。

2. MLPro930PS 用アイコンを右クリックし「印刷設定」を選択します。

3. 「用紙トレイ」アイコンをクリックします。

4. 「用紙サイズ」メニューから「PostScript カスタムページサイズ」を選択します。「カスタム」ボタンをクリックします。

   「カスタムサイズ」ダイアログボックスが表示されます。

5. ページサイズを設定し、「OK」をクリックします。

カスタム用紙サイズで印刷するには

1. アプリケーションから「プリント（印刷）」を選択します。
2. MLPro930PSを選択し「プロパティ」をクリックします。
3. 「Fiery印刷」タブをクリックし、「用紙トレイ」アイコンをクリックします。
4. 「用紙トレイ」ポップアップメニューからカスタムページサイズのトレイを選択します。

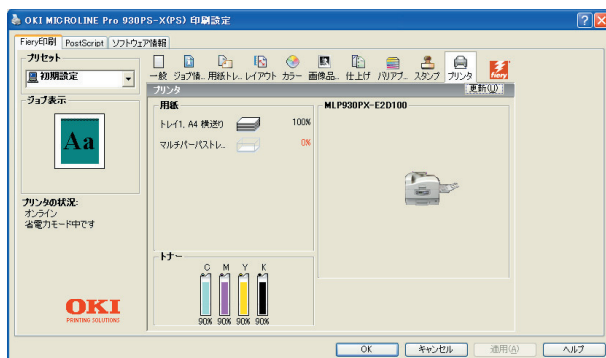
   ここでの設定は実行中のジョブに対してのみ有効です。
5. 「用紙サイズ」メニューで「PostScriptカスタムページサイズ」を選択します。
6. 「レイアウト」アイコンをクリックします。
7. 「印刷の向き」を設定します。
8. 「プロパティ」ダイアログボックスで「OK」をクリック後、「印刷（プリント）」ダイアログボックスで「OK（印刷）」をクリックして印刷を開始します。

プリンタの状況の表示

「双方向通信」を有効にすると、プリンタにセットされている用紙、トナー、およびプリンタの使用状況を確認することができます。詳細はドライバのヘルプを参照してください。

プリンタの用紙とトナーの状況、およびプリンタ情報を見るには

1. Windows 7/Server 2008R2:「スタート：デバイスとプリンター」を選択します。
   Windows Vista/Server 2008:「スタート：コントロールパネル：プリンタ」を選択します。
   Windows XP:「スタート：プリンタとFAX」を選択します。
   Windows Server 2003:「スタート：コントロールパネル：プリンタとFAX」を選択します。
   Windows 2000:「スタート：設定：プリンタ」を選択します。
2. MLPro930PS用のアイコンを右クリックし、「印刷設定」を選択します。
3. 「Fiery印刷」タブを表示します。

4. 「プリンタ」タブをクリックし、「更新」をクリックします。

- プリンタの状況：印刷できない場合のエラー状況を表示します。
- 用紙：各トレイ内の用紙の種類、量を表示します。
- トナー：使用しているトナーの色と残量を表示します。

  同時にオプションが装着されている MLPro930PS イメージアイコンも表示します。

注 表示されている残量は大まかなもので、実際のトナー残量とは必ずしも一致しません。

画面表示を更新するには「更新」ボタンをクリックします。

外部で印刷する時のファイルの保存

印刷データ作成環境に MLPro930PS が設置されていない場合には、印刷サービス店（サービスビューロ）や外部で印刷を行うためにファイルを外に持ち出す必要があります。この場合、最終ファイルを「FILE」ポートに印刷します。「FILE」ポートへの印刷方法は、使用している Windows の取扱説明書を参照してください。

2 Mac OS からの印刷

概要

ここでは、次の内容を扱います。

- Mac OS 対応コンピュータで印刷接続を設定
- Mac OS 対応コンピュータからの印刷

ソフトウエア

次の表は本章で扱っているユーザソフトウェアの一覧です。MLPro930PS へ印刷するために必要なソフトウェアです。実際に行なう業務によって、他に使用するユーザソフトウェアがある場合は、「3 章　ユーティリティ」などをご覧ください。

PostScript プリンタ記述(PPD/Plugin) ファイル	PostScript プリンタドライバと併用することで、アプリケーションの「プリント」および「ページ設定」ダイアログボックスに MLPro930PS を表示し選択できるようにします。MLPro930PS の PPD ファイルはプリンタの情報をアプリケーションとプリンタドライバに供給します。
PageMaker PPD ファイル	Adobe PageMaker から MLPro930PS への印刷を可能にします。適切な PPD ファイルを PageMaker にインストールする必要があります。詳細は PageMaker 付属の取扱説明書を参照してください。
PostScript フォント	MLPro930PS にインストールされている PostScript フォントに対応するスクリーンフォントおよびプリンタフォントです。MLPro930PS にインストールされている PostScript フォントを確認するには、フォントリストを印刷してください。詳細は、Command WorkStation のヘルプを参照してください。

Mac OS X での印刷設定

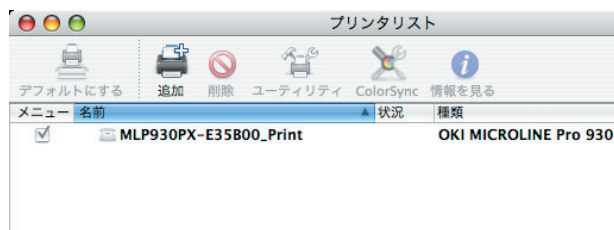
MLPro930PS を Mac OS X 対応コンピュータで PostScript プリンタとして設定するためには、プリンタに対応する PostScript プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバファイルは、CD1 ソフトウェア CD に入っています。プリンタドライバにより、印刷ジョブに関する情報をアプリケーションから MLPro930PS に渡します。MLPro930PS の PPD はプリンタの情報をアプリケーションとプリンタドライバに供給します。

Mac OS X での MLPro930PS 印刷設定

Mac OS X にプリンタドライバファイルをインストールした後、Mac OS X 付属ユーティリティを使用して MLPro930PS の印刷設定を行い、MLPro930PS の全機能を利用できるようにします。Mac OS X 付属ユーティリティは、Mac OS X v10.3.9 ～ v10.4.11 では「プリンタ設定ユーティリティ」と呼ばれます。ここでは、MLPro930PS のプリンタ記述ファイルを設定する方法を説明します。また、MLPro930PS に装着されたオプションの情報を設定する方法についても説明しています。

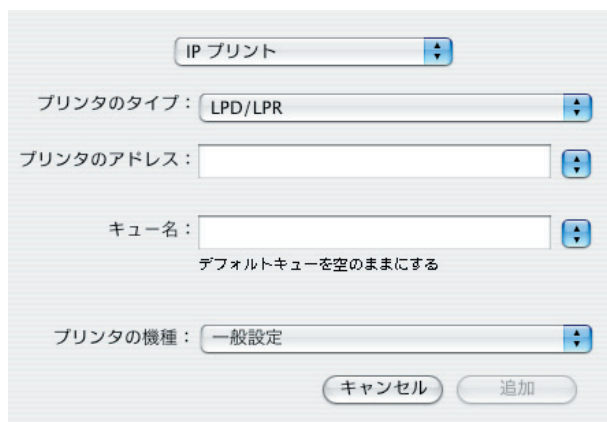
Mac OS X 付属ユーティリティでプリンタドライバの設定を行うには (Mac OS X v10.3.9)：

1. 「プリンタ設定ユーティリティ」（Mac OS X 10.3.9）を起動します。

   「プリンタリスト」ダイアログボックスが表示されます。

2. 「追加」をクリックします。
3. 表示されるメニューから「AppleTalk」または「IP プリント」を選択します。

4. 「AppleTalk」を選択した場合は、MLPro930PS の AppleTalk ゾーンを選択し、MLPro930PS の名前を選択してから「追加」をクリックします。

   ゾーンが「デフォルトゾーン」または「最近使用したゾーン」の一覧に表示されない場合は、「AppleTalk ネットワーク」を選択し、ゾーンを選択してから、「選択」をクリックします。その後、ステップ 5 に進んでください。

   「IP プリント」を選択した場合は、MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を「プリンタのアドレス」フィールドに入力します。「キュー名」フィールドに「print」、「hold」または「direct」を入力します。

5. 「プリンタの機種」欄で適切なメーカー名を選択し、MLPro930PS のプリンタ記述ファイルを選択します。

   メーカー名または機種名が表示されない場合は、「その他」を選択して MLPro930PS のプリンタ記述ファイルが置かれているフォルダを検索し、PPD ファイルを選択してください。

6. 「追加」をクリックします。

   MLPro930PS がプリンタのリストに表示されます。

7. （オプション）MLPro930PS を選択したまま、「プリンター：デスクトッププリンタを作成」を選択し、アイコンの場所を指定し、「保存」をクリックします。

作成したアイコンにファイルをドラッグ & ドロップするだけで印刷が可能になります。

これで、MLPro930PS のインストール可能な　オプションを設定できます。詳細は、「インストール可能なオプションの設定」（52 ページ）を参照してください。

Mac OS X 付属ユーティリティでプリンタドライバの設定を行うには (Mac OS X 10.4)：

1. 「移動」メニューから「ユーティリティ」を選択し、「プリンタ設定ユーティリティ」を起動します。

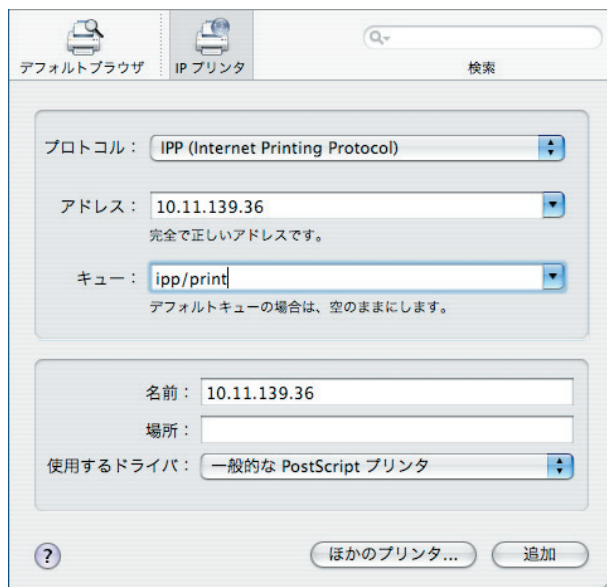
「プリンタリスト」ダイアログボックスが表示されます。

2. 「追加」をクリックします。
3. 「デフォルトブラウザ」タブまたは「IP プリンタ」タブをクリックします。
4. 「デフォルトブラウザ」を選択した場合、AppleTalk 接続の MLPro930PS を「プリンタ名」から選択します。

「プリンタ名」一覧に表示されていない場合は、「ほかのプリンタ」をクリックします。

「デフォルトゾーン」、あるいは「最近使ったゾーン」に使用するゾーンが表示されない場合は、AppleTalk ネットワークを選択してゾーンを選びます。「選択」をクリックして手順 6 に進みます。

5. 「IP プリンタ」を選択した場合、「IPP（Internet Printing Protocol)」を選択し、MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を「アドレス」フィールドに入力します。

   「キュー」フィールドには「ipp/」に続けてプリント接続名（print、hold、direct のいずれか）をすべて小文字で入力します。手順 6 に進みます。

6. 「使用するドライバ」で、プリンタの製造元とモデルを選択して MLPro930PS の PPD ファイルを選びます。

   製造元とモデルが一覧に表示されない場合は、「その他」を選択して PPD ファイルの場所を検索します。

7. 「追加」をクリックします。

   プリンタの一覧に MLPro930PS が追加されます。

8. （オプション）MLPro930PS を選択したまま、「プリンター：デスクトッププリンタを作成」を選択し、アイコンの場所を指定し、「保存」をクリックします。

   作成したアイコンにファイルをドラッグ & ドロップするだけで印刷が可能になります。

   これで、MLPro930PS のインストール可能なオプションを設定できます。詳細は、「インストール可能なオプションの設定」(52 ページ) を参照してください。

Bonjour を利用して MLPro930PS への接続設定を行なうには：

Bonjour を使って接続設定を行なうには、MLPro930PS で Bonjour が使用可能に設定されている必要があります（デフォルトでは使用可能）。また、MLPro930PS と Mac OS X 10.4 クライアントが同じサブネット内にある必要があります。別のサブネットにある場合、Mac OS X クライアントは Bonjour を使って MLPro930PS サーバを検索することはできません。

1. 「移動」メニューから「ユーティリティ」を選択し、「プリンタ設定ユーティリティ」を起動します。

   「プリンタリスト」ダイアログボックスが表示されます。

2. 「追加」をクリックします。
3. デフォルトブラウザをクリックします。

4. 「接続」に Bonjour が表示されている MLPro930PS を選択します。
5. 「使用するドライバ」で、プリンタの製造元とモデルを選択して MLPro930PS の PPD ファイルを選びます。

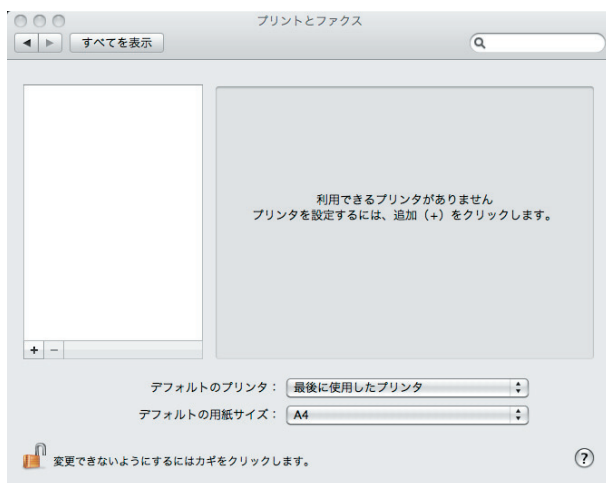
   製造元とモデルが一覧に表示されない場合は、「その他」を選択して PPD ファイルの場所を検索します。
6. 「追加」をクリックします。
7. 「インストール可能なオプション」を選択し、「続ける」をクリックします。

   MLPro930PS がプリンタのリストに表示されます。
8. （オプション）MLPro930PS を選択した状態で「プリンタ」メニューから「デスクトッププリンタを作成」を選択します。プリンタ名と保存場所を指定して「保存」をクリックします。

   デスクトップ上の MLPro930PS プリンタアイコンに印刷したいファイルをドラッグするだけで簡単に印刷できます。

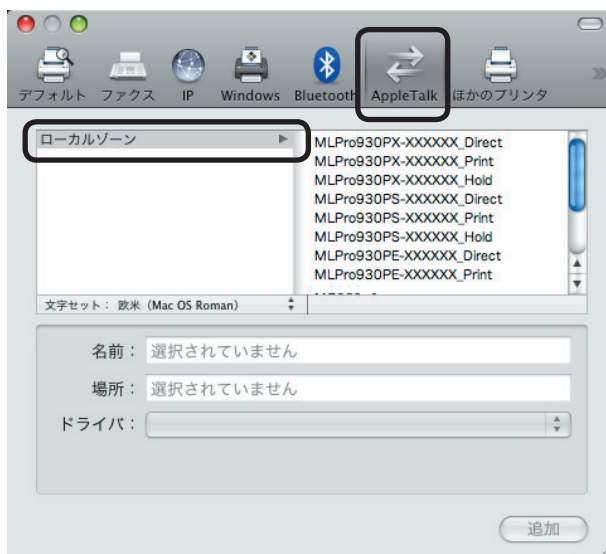
Mac OS X でプリンタドライバの設定を行うには (Mac OS X 10.5 以降)：

1. 「アップル」メニューから「システム環境設定」を選択し、「プリントとファクス」を起動します。

   「プリントとファクス」ダイアログボックスが表示されます。

2. 「+」をクリックします。
3. 「デフォルト」タブまたは「IP」タブをクリックします。

4. 「デフォルト」を選択した場合、AppleTalk 接続の MLPro930PS を「プリンタ名」から選択します。

Mac OS X 10.6 以降では AppleTalk 接続は使用できません。

使用するゾーンが表示されない場合は、AppleTalk を選択してゾーンを選びます。手順 6 に進みます。

5. 「IP プリンタ」を選択した場合、「LPD（LINE Printer Deamon）」もしくは「IPP（Internet Printing Protocol）」を選択し、MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を「アドレス」フィールドに入力します。

「キュー」フィールドには LPD の場合、プリント接続名（print、hold、direct のいずれか）をすべて小文字で入力します。IPP の場合、「ipp/」に続けてプリント接続名（print、hold、direct のいずれか）をすべて小文字で入力します。手順 6 に進みます。

IPP を使って接続設定をするには、ML Pro930 側で IPP を使用可能に設定する必要があります。（デフォルトでは使用できません）

LPD の場合

IPP の場合

6. 「使用するドライバ」で、プリンタの製造元とモデルを選択して MLPro930PS の PPD ファイルを選びます。

製造元とモデルが一覧に表示されない場合は、「その他」を選択して PPD ファイルの場所を検索します。

7. 「追加」をクリックします。

プリンタの一覧に MLPro930PS が追加されます。

これで、MLPro930PS のインストール可能なオプションを設定できます。詳細は、「インストール可能なオプションの設定」(52 ページ) を参照してください。

Bonjour を利用して MLPro930PS への接続設定を行なうには：

Bonjour を使って接続設定を行なうには、MLPro930PS で Bonjour が使用可能に設定されている必要があります（デフォルトでは使用可能）。また、MLPro930PS と Mac OS X クライアントが同じサブネット内にある必要があります。別のサブネットにある場合、Mac OS X クライアントは Bonjour を使って MLPro930PS サーバを検索することはできません。

1. 「移動」メニューから「ユーティリティ」を選択し、「プリンタ設定ユーティリティ」を起動します。

「プリンタリスト」ダイアログボックスが表示されます。

2. 「追加」をクリックします。
3. デフォルトをクリックします。

4. 「接続」に Bonjour が表示されている MLPro930PS を選択します。

2

Mac OS からの印刷

5. 「使用するドライバ」で、プリンタの製造元とモデルを選択して MLPro930PS の PPD ファイルを選びます。

   製造元とモデルが一覧に表示されない場合は、「その他」を選択して PPD ファイルの場所を検索します。

6. 「追加」をクリックします。
7. 「インストール可能なオプション」を選択し、「続ける」をクリックします。

   MLPro930PS がプリンタのリストに表示されます。

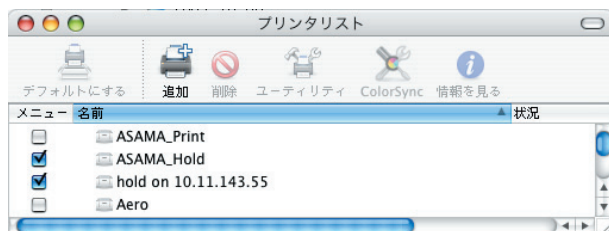
   デスクトップ上の MLPro930PS プリンタアイコンに印刷したいファイルをドラッグするだけで簡単に印刷できます。

インストール可能なオプションの設定

印刷する際にオプションの機能を活用できるように、MLPro930PS に装着されたオプションの情報を設定する必要があります。これらのオプションは、手作業で設定することも、双方向通信を利用して自動設定することも可能です（TCP/IP ネットワーク利用時）。

上記オプションを使用した印刷設定についての詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

インストール可能なオプションを設定するには：

1. 「移動」メニューから「ユーティリティ」を選択し、「プリンタ設定ユーティリティ」を起動します。
2. 「プリンタリスト」から MLPro930PS に対応するプリンタを選択します。

3. 「プリンタ」メニューから「情報を見る」を選択します。
4. ポップアップメニューから「インストール可能なオプション」を選択します。
5. 適切な設定を選択します。
6. 「変更を適用」をクリックします。
7. 「プリンタ情報」ダイアログボックスを閉じます。

プリンタドライバ関連ユーティリティ

次の方法で MLPro930PS に印刷することができます。

- FTP 印刷

CD1 ソフトウェア CD からスクリーンフォントをインストールすることができます。詳細については、セットアップ編を参照してください。

FTP 印刷

MLPro930PS で FTP サービスが設定されている場合は、MLPro930PS は FTP サーバとしても機能するため、FTP 印刷用のジョブを MLPro930PS から印刷することができます。
FTP サービスの設定についての詳細は、Configure ヘルプを参照してください。
FTP クライアントソフトウェアはどれでも使用できます。FTP クライアントソフトウェアには次の情報が必要です（システム管理者に確認してください）。

- MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名
- ジョブの送信先ディレクトリまたはパス名（印刷キュー、待機キューなど、または仮想プリンタ）

FTP 印刷では直接キューに印刷することはできません。

- 必要であればユーザ名とパスワード

注 出荷時のデフォルトは以下の通りです。
ユーザ名：admin、または operator、または guest
パスワード：なし

次のファイル形式が FTP 印刷でサポートされます。

- PS
- TIFF
- PDF

EPS 形式はサポートされていません。

FTP プロトコルを使用してファイルを印刷するには：

1. FTP クライアントソフトウェアを使用して MLPro930PS に接続します。

   「Print(印刷キュー)」、「Hold(待機キュー)」フォルダが表示されます。
2. 使用するキューに対応するフォルダをダブルクリックします。
3. 使用するフォルダにジョブをドラッグアンドドロップします。

   ジョブが印刷されると、ジョブは MLPro930PS から削除されます。

フォントのインストール

MLPro930PS の CD1 ソフトウェア CD には、欧文 136 書体と MLPro930PS-X/-S モデル用の和文 5 書体と MLPro930PS-E モデル用の和文 2 書体のスクリーンフォントを提供しています。アプリケーションでこれらのフォントを利用するには、スクリーンフォントを Mac OS X にインストールする必要があります。

注 MLPro930PS では、CD1 ソフトウェア CD からプリンタフォントをインストールできません。

Mac OS X 10.3.9 以降でスクリーンフォントをインストールするには：

1. Mac OS X 対応コンピュータの DVD ドライブに CD1 ソフトウェア CD を挿入します。
2. 「アプリケーション」フォルダの「Font Book」をダブルクリックします。
3. 「ファイル」メニューから「フォントを追加」を選択します。
4. CD1 ソフトウェア CD 内の「Font：OSX」フォルダからフォントを選択します。
5. 「編集」メニューから「すべてを選択」を選択します。
6. 「フォントをインストール」欄から次のいずれかを選択します。
   - ユーザ個人用に使用する場合は、「自分専用」
   - 共有する場合は、「このコンピュータのすべてのユーザ用」
   - Mac OS X Classic 環境にインストールする場合は、「Classic Mac OS 用」

Mac OS X 10.4 ではあらかじめ Font Book アプリケーションの環境設定の「デフォルトのインストール場所」にて、「ユーザ」、「コンピュータ」、「Classic Mac OS」のいずれかを選んでおいてください（デフォルトは「ユーザ」）。

7. 「開く」をクリックします。
8. 「Font Book」アプリケーションを終了します。

Mac OS X からの印刷

MLPro930PS への印刷は、一般的な Mac OS X アプリケーションからプリンタを使用するのと同様に行うことができます。別の方法として、Hot Folders, Command WorkStation や WebTool の「書類」を使用する方法があります（「3 章 ユーティリティ」を参照）。

Mac OS X アプリケーションからの印刷

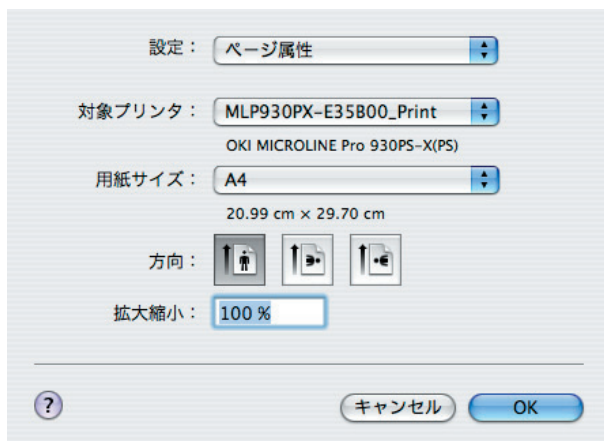
OSX インストーラを使用して MLPro930PS のプリンタ記述ファイルをインストールすると、Mac OS X アプリケーションから直接印刷できます。プリンタ記述ファイルのインストールに関しては、43 ページを参照してください。
アプリケーションから最良の印刷結果を得る方法に関しては、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

Mac OS X からのプリントオプションの設定

Mac OS X アプリケーションでは、「ページ設定」ダイアログボックスまたは「印刷」の両方から設定できます。印刷オプションに関する詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

一部のプリントオプションのデフォルト値は、管理者が MLPro930PS「設定」作業中に設定します。使用するサーバのデフォルト値に関する詳細は、システム管理者に確認してください。

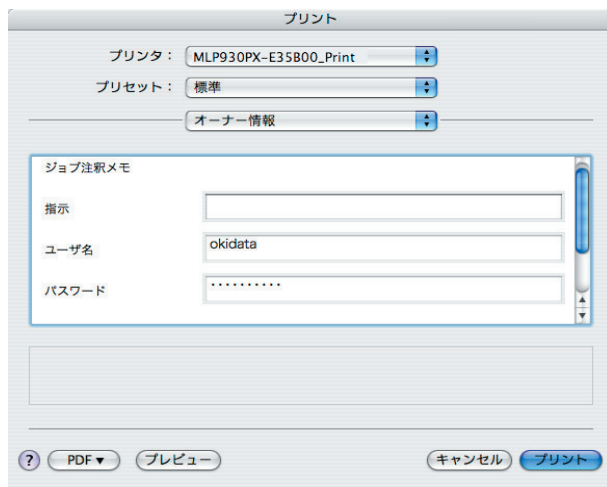
Mac OS X でプリントオプションの設定、印刷を行うには：

1. アプリケーションで印刷するファイルを開き、「ファイル：ページ設定」を選択します。
2. 「ページ設定」ダイアログボックスで、「ページ属性」を選択します。「対象プリンタ」に MLPro930PS を選択してください。

3. 「用紙サイズ」を印刷ジョブ用に選択します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。
6. 「プリンタ」は MLPro930PS を選びます。

7. 「オーナー情報」パネルを選択し、「ジョブ注釈メモ」内の各フィールドに必要な情報を入力します。

8. 「ジョブ注釈メモ」フィールドに情報を入力します。

   管理目的のためユーザー情報とジョブ情報、または必要な情報を入力してください。

   「ジョブ注釈メモ」フィールドに入力した情報は、Command WorkStation の「プロパティ」、ジョブログに表示されます。また、Command WorkStation では「ジョブ注釈メモ」を変更できますが、このとき入力できる文字数はここで扱う文字数と異なります。詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

9. 「指示」フィールドにジョブに関する指示を入力します。

   この指示は Command WorkStation の「プロパティ」に表示されますが、「ジョブログ」には表示されません。Command WorkStation では「指示」フィールドの情報を変更できますが、このとき入力できる文字数はここで扱う文字数と異なります。詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

10. MLPro930PS でユーザ認証が設定されている場合には、MLPro930PS で使用しているユーザ名を「ユーザ名」フィールドに入力します。

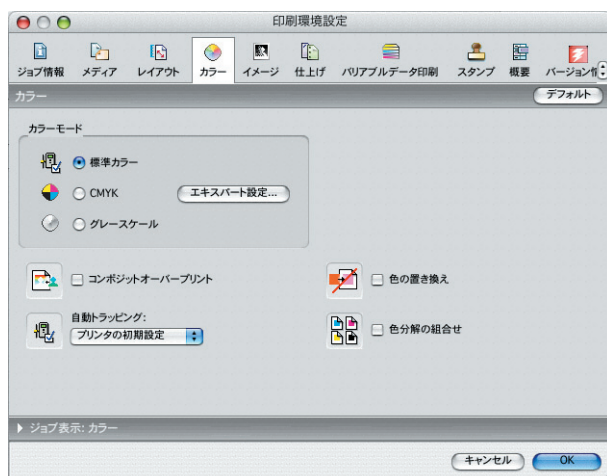
11. MLPro930PS でユーザ認証が設定されている場合には、MLPro930PS で使用しているローカルパスワードあるいはドメインパスワードを「パスワード」フィールドに入力します。

12. 認証印刷ジョブを送信する場合は、「ジョブ名」フィールドにジョブ名を、「ジョブパスワード」フィールドにパスワードを入力します。

13. 必要に応じて、その他のフィールドに情報を入力します。

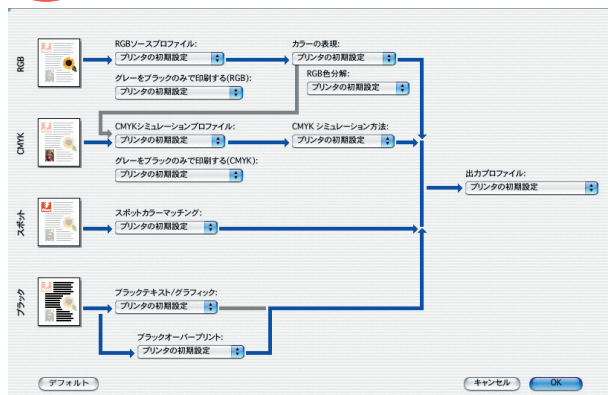
    詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

14. カラー設定を行う場合は、「カラー」アイコンをクリックします。

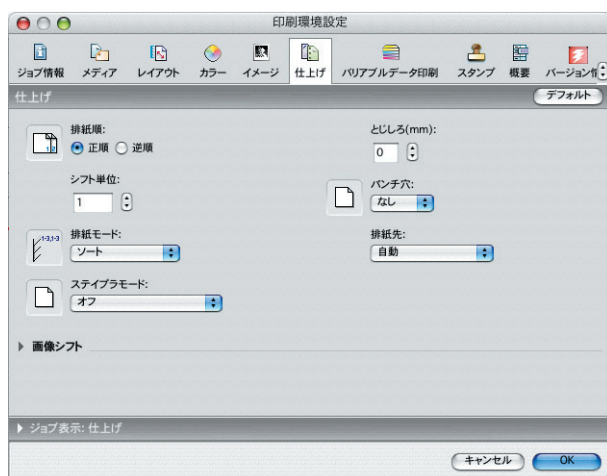
15. カラープリントオプションを指定します。

注 双方向通信が有効に設定されている場合は、「標準カラー」は表示されません。

16. カラーの表現方法等の詳細カラー設定を使用するには、「エキスパート設定」をクリックします。

「エキスパートカラー設定」ダイアログボックスが表示されます。

注 MLPro930PS からの ColorWise 設定内容をこのダイアログボックスに表示させるには、双方向通信が有効に設定されている必要があります。

「出力プロファイル」オプションで、「出力 -1」～「出力 -10」を選択する場合は「双方向通信を使用」オプションを無効にします。特定のダウンロードした出力プロファイルを選択する場合は、「双方向通信を使用」オプションを有効にします。

17. カラー設定を行い、「OK」をクリックします。

18. 各アイコンを選択してプリンタに固有のオプションを指定します。

これらの印刷オプションは、MLPro930PS および装着オプションの機能に依存した固有の情報です。全オプションを表示するには、スクロールが必要な場合があります。ここで指定するオプションは、MLPro930PS の「プリンタ設定」より優先されますが、Command WorkStation からオプションを書き換えることが可能です。

「プリンタの初期設定」を選択した場合は、MLPro930PS「設定」での設定内容に従って印刷されます。

詳細は「7 章 プリントオプション」を参照してください。

アプリケーションまたは Mac OS X の印刷機能から指定可能なプリントオプションには、プリンタドライバのオプションと同様なものがあります。このような場合、プリンタドライバでオプションを指定してください。アプリケーションからオプションを指定した場合、MLPro930PS で正しく印刷されないことがあります。

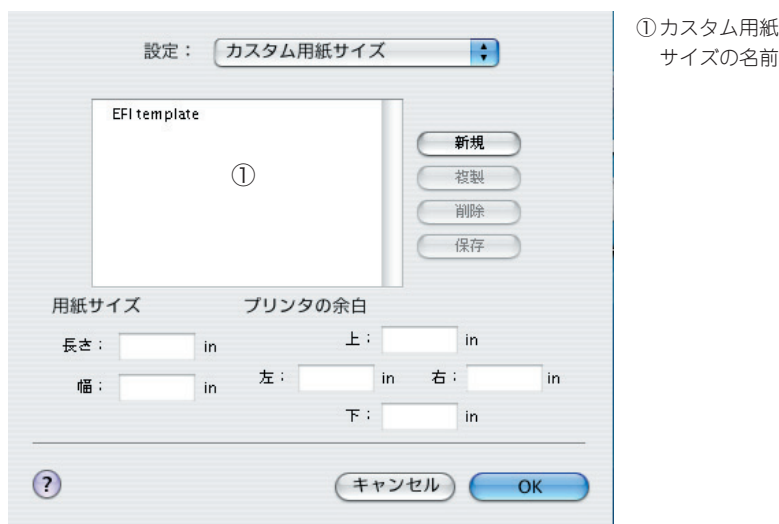
印刷中に無効な設定や設定の組合せを選択した場合、エラーは出ません。例えば、プリンタドライバで OHP 用紙の両面印刷を選択することはできますが、これは無効な設定なので MLPro930PS では無効となります。

19.「OK」をクリックし、「プリント」をクリックします。

Mac OS X でのカスタム用紙サイズの定義

印刷ページのサイズおよび余白を定義することにより、用紙サイズをカスタマイズできます。指定したカスタムページは、印刷時にアプリケーションから容易に選択でき、印刷の度に定義する必要はありません。

プリンタドライバでカスタム用紙サイズを定義するには（Mac OS X 10.3.9）：

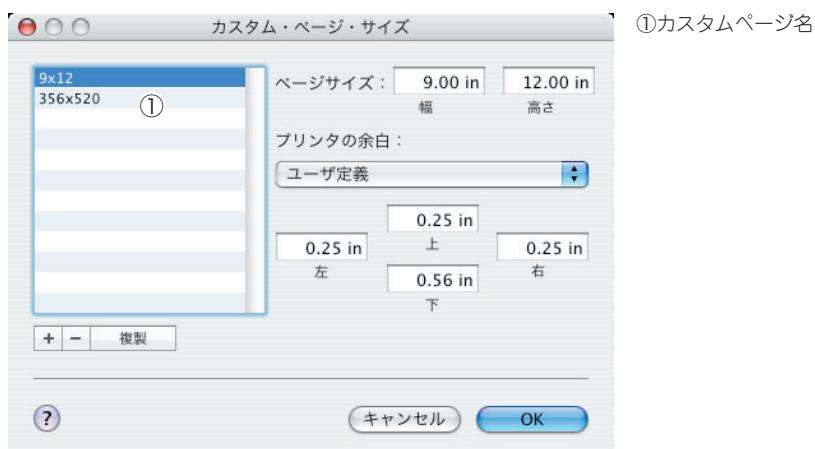
1. アプリケーションの「ファイル」メニューから「ページ設定」を選択します。
2. 「設定：カスタム用紙サイズ」を選択します。

①カスタム用紙
サイズの名前

3. 「新規」をクリックして、カスタム用紙サイズ用に名前を入力します。
4. 用紙サイズおよびプリンタの余白を入力します。
5. 「保存」をクリックします。
6. 「OK」をクリックして終了します。

   新たに指定した用紙サイズの設定が、カスタム用紙サイズの一覧に追加されます。

プリンタドライバでカスタムページサイズを定義するには（Mac OS X 10.4 以降）：

1. アプリケーションのメニューから「ファイル：ページ設定」を選択します。

2. 「用紙サイズ：カスタムサイズを管理」を選択します。

①カスタムページ名

3. 「+」をクリックして、新しいカスタムページサイズを追加します。
4. 「名称未設定」をダブルクリックして、カスタムページサイズ用に名前を入力します。
5. 「ページサイズ」と「プリンタの余白」を入力します。
6. 「OK」をクリックして終了します。

   新たに指定した用紙サイズの設定が、カスタムページサイズの一覧に追加されます。

保存されたカスタム用紙サイズを変更するには：

1. アプリケーションのメニューから「ファイル：ページ設定」を選択します。
2. 「設定：カスタム用紙サイズ」を選択します。

   Mac OS X 10.4：「用紙サイズ：カスタムサイズを管理」を選択します。
3. 変更するカスタム用紙（ページ）サイズの名前を選択します。
4. 用紙サイズとプリンタの余白を変更します。
5. 「カスタム用紙サイズ」の名前をクリックして置換します。

   Mac OS X 10.4 以降：手順 7 に進みます。
6. 「保存」をクリックします。
7. 「OK」をクリックして終了します。

カスタム用紙サイズを削除するには：

1. アプリケーションのメニューから「ファイル：ページ設定」を選択します。
2. 「設定：カスタム用紙サイズ」を選択します。

   Mac OS X 10.4 以降：「用紙サイズ：カスタムサイズを管理」を選択します。
3. カスタム用紙（ページ）サイズの名前を選択します。
4. 「削除」をクリックします。

   Mac OS X 10.4 以降：「ー」をクリックして削除します。
5. 「OK」をクリックして終了します。

保存されたカスタム用紙サイズをコピーするには：

1. アプリケーションのメニューから「ファイル：ページ設定」を選択します。
2. 「設定：カスタム用紙サイズ」を選択します。

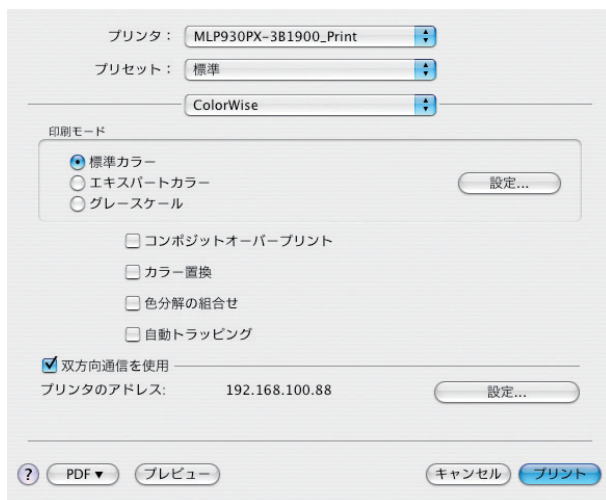
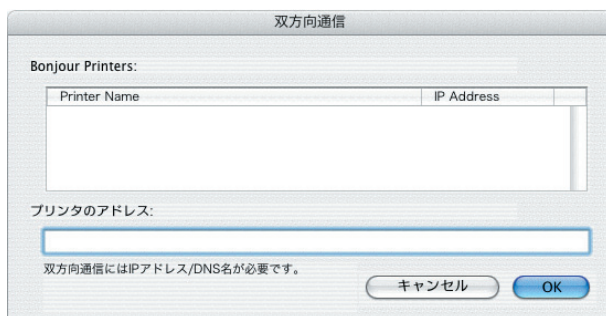
   Mac OS X 10.4 以降：「用紙サイズ：カスタムサイズを管理」を選択します。
3. カスタム用紙（ページ）サイズの名前を選択します。
4. 「複製」をクリックします。
5. 「OK」をクリックして終了します。

双方向通信の使用

TCP/IP ネットワークを利用している場合、双方向通信機能を利用して、プリンタの状況や ColorWise 設定を MLPro930PS から収集し、プリンタドライバ上に表示させることができます。プリンタの状況により、用紙やインクの残量を確認できます。ColorWise 設定は、Command WorkStation を使用して MLPro930PS に設定できます。ColorWise 印刷オプションについての詳細は、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

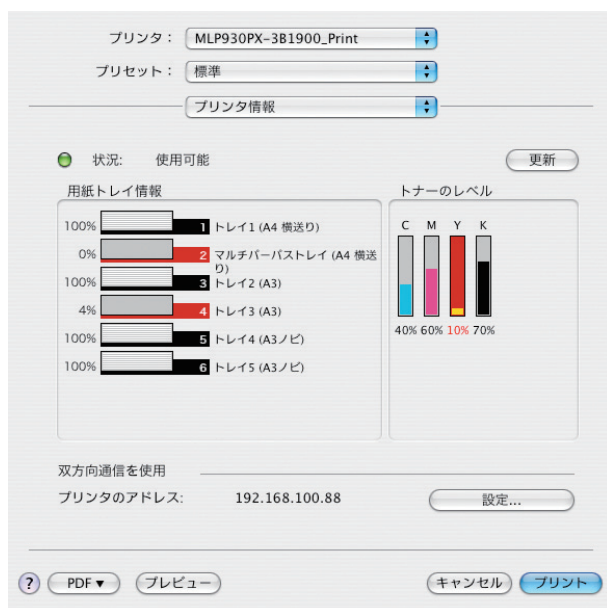
双方向通信を有効にするには：

1. アプリケーションの「ファイル」メニューから「プリント」を選択します。
2. 「プリンタ」に MLPro930PS を選択します。
3. 「Color Wise」もしくは「プリンタ情報」をドロップダウンリストから選択します。

4. 「双方向通信を使用」チェックボックスを有効にします。

MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を入力するには「設定」をクリックします。

5. MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

   Bonjour で検出された MLPro930PS を選択する際には、「Bonjour Printers」に表示されるリストから選択することができます。

6. 「OK」をクリックします。

7. プリンタの使用状況を確認するには、「プリンタ情報」アイコンをクリックします。

- 用紙：トレイ内の用紙の種類、残量をパーセントで表示します。
- トナー：使用しているトナーの色と残量を表示します。

注 表示されている残量は大まかなもので、実際のトナー残量とは必ずしも一致しません。

8. 画面表示を更新するには、「アップデート」ボタンをクリックします。

3 ユーティリティ

概要

ここでは、次の Fiery ユーティリティのインストール、設定、使用方法について説明します。
Command WorkStation Windows Edition は、MLPro930PS に送られたジョブのフローを管理 / 監視するためのソフトウェアです。

Hot Folders は、よく使用するプリントオプションを保存しておいて、PostScript ファイルと PDF ファイルを MLPro930PS に印刷するときに再利用できるようにします。

WebTools は、イントラネットまたはインターネットを通して MLPro930PS をリモートから管理します。WebTools は MLPro930PS ハードディスクにあり、Web ブラウザを利用してクライアントコンピュータからアクセスします。

ヘルプについて

Fieryユーティリティの詳しい使用方法は、ヘルプで提供されています。本章では、ヘルプへのアクセス方法について記載しています。ソフトウェアの追加情報については、ヘルプを参照してください。

Windows 対応コンピュータへのインストール準備

Fiery ユーティリティを Windows 対応コンピュータにインストールする前に、以下の事項を確認してください。

- Command WorkStation、WebTools を Windows 対応コンピュータで使用するには、Sun Java ファイル(Sun Java Runtime Environment(JRE))をインストールする必要があります。このファイルは、CD2 ユーティリティ CD（Windows）の「Common Utilities」フォルダに格納されています。Sun Java ファイルがインストールされていない場合、各インストーラはユーティリティをインストールする前に、自動的に Sun Java ファイルをインストールします。

  メモ JRE, SE v1.6（推奨バージョン）が CD2 ユーティリティ CD（Windows）に含まれています。

- Fieryユーティリティをインストールするには、Windows XP ではサービスパック 2、Windows Server 2003 ではサービスパック 1 がインストールされている必要があります。これらがインストールされていない場合、ユーティリティのインストール時にサービスパックをインストールするよう求められます。

  メモ ご使用のコンピュータに異なるバージョンの Sun Java JRE がインストールされていてもかまいません。Fieryユーティリティは正しいバージョンを検出します。そのため、他のアプリケーションで必要な別バージョンの Sun Java JRE をアンインストールする必要はありません。

  注 CD-ROM に添付の Fiery ユーティリティは、Windows 2000 ではご使用になれません。
  Windows 2000 でご利用の場合、弊社ホームページより対応版ユーティリティを入手してください。

Mac OS 対応コンピュータへのインストール準備

Fiery ユーティリティを Mac OS コンピュータにインストールする前に、スクリーンフォントをインストールすることができます。

フォント

Mac OS X 10.3.9 以降でフォントをインストールするには：

1 Mac OS X 対応コンピュータの CD-ROM ドライブに CD1 ソフトウェア CD を挿入します。

2 「アプリケーション」フォルダの「Font Book」をダブルクリックします。

3 「ファイル」メニューから「フォントを追加」を選択します。

4 CD1 ソフトウェア CD 内の「Font：OSX」フォルダからフォントを選択します。

「編集」メニューから「すべてを選択」を選んで全フォントを選択することもできます。

5 「フォントをインストール」欄から次のいずれかを選択します。

- ユーザ個人用に使用する場合は、「自分専用」
- 共有する場合は、「このコンピュータのすべてのユーザ用」

注 Mac OS X 10.4 以降ではあらかじめ Font Book アプリケーションの環境設定の「デフォルトのインストール場所」にて、「ユーザ」、「コンピュータ」、「Classic Mac OS」のいずれかを選んでおいてください（デフォルトは「ユーザ」）。

6 「開く」をクリックします。

7 「Font Book」アプリケーションを終了します。

Fieryユーティリティのインストール

Fiery ユーティリティは、ユーティリティ CD を使用してインストールします。
ご使用のコンピュータにインストールされている Fiery ユーティリティを再度インストールすると、以前にインストールされていたものはアンインストールされます。

ユーティリティ CD から Windows対応コンピュータにインストールするには：

1　ご使用のコンピュータの CD-ROM ドライブに CD2 ユーティリティ CD (Windows) を挿入します。

2　画面に表示される指示に従ってください。

ユーティリティ CD を使用して Windows 対応コンピュータのユーティリティを変更するには：

1　ご使用のコンピュータの CD-ROM ドライブに CD2 ユーティリティ CD (Windows) を挿入します。

2　画面に表示される指示に従ってください。

Command WorkStation 4 が既にインストールされている場合、Command WorkStation 4 を残すか、Command WorkStation 5 に入れ替えるかを選択できます。

Mac OS 対応コンピュータへのユーザソフトウェアのインストール

Mac OS 対応コンピュータへのインストールは、個々のアプリケーションごとに行います。

CD3 ユーティリティ CD（Macintosh）から Mac OS 対応コンピュータにユーザソフトウェアをインストールするには：

1 ご使用のコンピュータの CD-ROM ドライブに CD3 ユーティリティ CD（Macintosh）を挿入します。

2 「OSX」フォルダを表示させます。

3 インストールするアプリケーションのインストーラアイコンをダブルクリックします。

4 画面に表示される指示に従ってください。

Command WorkStation Windows Edition

Command WorkStation Windows Edition は、MLPro930PS オペレータまたはシステム管理者が MLPro930PS 上のジョブの印刷ワークフローの監視 / 管理を行うためのソフトウェアです。以下の機能が提供されています。

- MLPro930PS 上のジョブの状況を表示
- ジョブの待機 / 処理 / 印刷を実行
- ユーザが指定したプリントオプション設定の書き換え
- ジョブのページ内容のプレビュー表示
- ジョブのページの並べ替え、他ジョブとのマージ
- バリアブルデータ印刷用 FreeForm マスターファイルの作成 / 使用
- ジョブのアーカイブ
- ジョブログの表示 / エクスポート

Command WorkStation Windows Edition のインストール

Command WorkStation Windows Edition は、MLPro930PS にネットワーク接続する Microsoft Windows 対応コンピュータにインストールします。システムに必要な条件については、「セットアップ編」を参照してください。

Command WorkStation のインストーラは、CD2 ユーティリティ CD（Windows）で提供されています。

インストーラを起動すると、Command WorkStation から「設定」を実行するために必要な Java ファイルもインストールされます。「設定」についての詳細は、「4 章 設定管理」を参照してください。

ユーティリティをインストールする前に、「Windows 対応コンピュータへのインストール準備」(66 ページ) をお読みください。

Command WorkStation のインストールは Startup.exe を使用して行います。インストール手順については、「Windows 対応コンピュータへの Fiery ユーティリティのインストール」（68 ページ）を参照してください。

MLPro930PS への接続設定

初めて Command WorkStation を起動すると、MLPro930PS へ接続を設定するよう促されます。

サーバ名や IP アドレスが変更される等の、MLPro930PS のネットワーク設定が変更された場合は、接続情報を変更する必要があります。MLPro930PS「設定」情報を変更する場合は、その後で Command WorkStation の接続を再設定します。詳細は、「Command WorkStation の接続設定を変更するには：」（71 ページ）を参照してください。

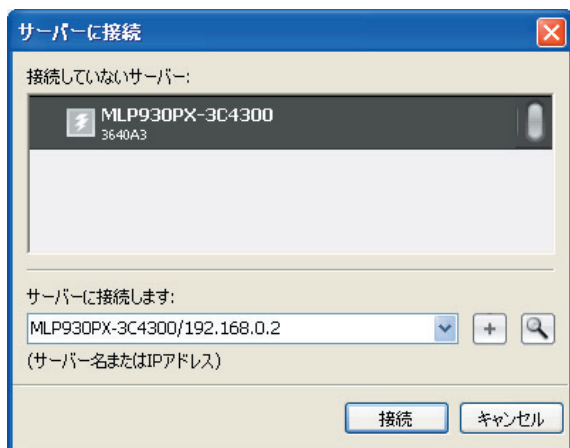
接続の設定準備：

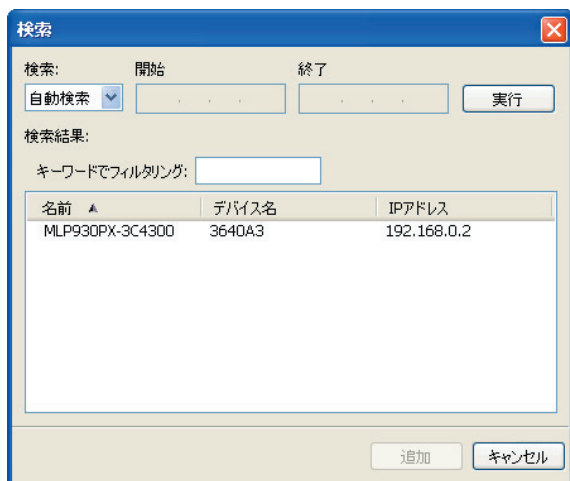
- MLPro930PS の「設定情報」ページを印刷します。

「設定情報」ページを印刷する手順については、「4 章 設定管理」を参照してください。
このページには、接続の設定に必要な IP アドレスなどの情報が記載されています。TCP/IP ネットワークの設定によっては、IP アドレスの代わりに DNS 名を使用する場合があります。ネットワーク上で MLPro930PS がドメインネームサーバ（DNS）に登録されていることを確認してください。
詳細については、ネットワークシステム管理者に問い合わせてください。

Command WorkStation の接続を設定するには：

1 Windows の「スタート」メニューから、「プログラム : Fiery : Command WorkStation 5」の順に選択して、Command WorkStation を起動します。

「サーバーに接続」ダイアログボックスが表示されます。

2 MLPro930PS が表示されない場合、 ボタンをクリックして自動検索やサブネットあるいは IP アドレス範囲を指定して検索します。「追加」をクリックして MLPro930PS を「接続していないサーバ」一覧に追加します。

「キーワードでフィルタリング」で DNS 名等でフィルタリングすることもできます。

3　使用する MLPro930PS を選択して、「接続」をクリックします。

「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

4　「システム管理者」、「オペレータ」、または「ゲスト」を選択し、必要に応じてパスワードを入力して「ログイン」をクリックします。

MLPro930PS システム管理者のパスワードについての詳細は、「4 章 設定管理」を参照してください。

これで MLPro930PS との接続が確立されました。

Command WorkStation の接続設定の変更

MLPro930PS の設定やネットワークに変更がある場合は接続設定を変更します。

Command WorkStation の接続設定を変更するには：

1　Command WorkStation を起動します。

「ログインサーバ」ウィンドウが表示されます。

2　接続設定を変更する MLPro930PS を選択して、「除去」をクリックします。

3　71 ページの「Command WorkStation の接続を設定するには：」の手順を繰り返します。

3

ユーティリティ

Command WorkStation の使用方法

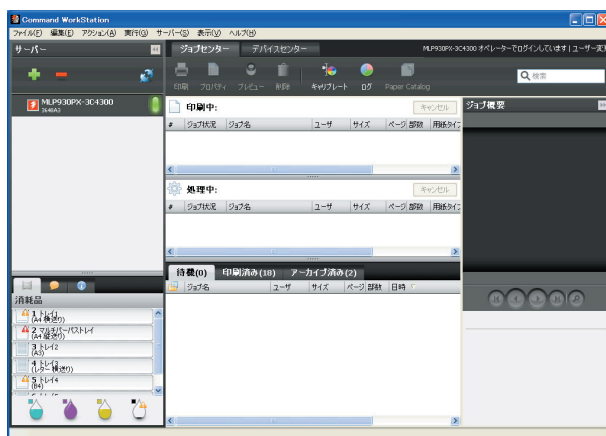
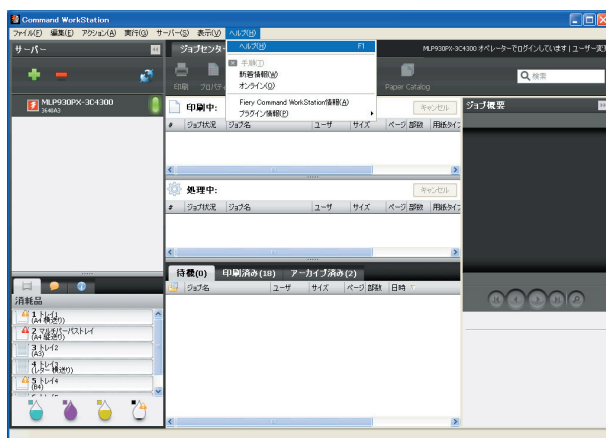
Command WorkStation のインストールと接続設定が完了すれば、MLPro930PS 上のジョブの監視 / 管理を開始できます。

Command WorkStation の詳しい使用方法については、Command WorkStation のヘルプを参照してください。ここでは、ヘルプへのアクセス方法と、ヘルプに記載されていない機能について説明します。

Command WorkStation ヘルプにアクセスするには：

1　Command WorkStation を起動します。

「ログインサーバ」ダイアログボックスから MLPro930 を選択し、サーバにログインします。

システム管理者のパスワードの初期設定値については、「4 章 設定管理」を参照してください。

2　「ヘルプ」メニューから「ヘルプ」を選択します。

追加機能

ここでは、ヘルプに記載していない Command WorkStation 追加機能の使用方法について説明します。

トレイ調整

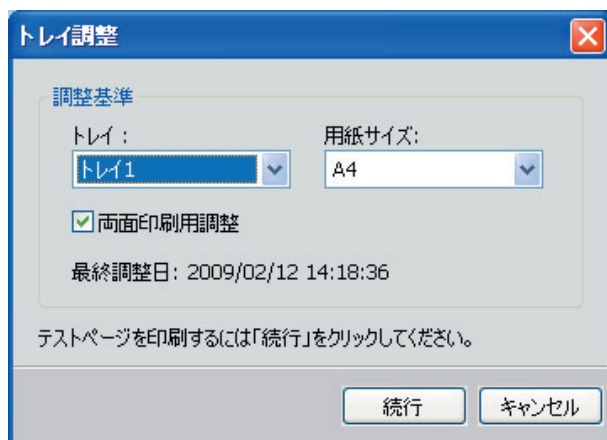
「トレイ調整」機能を使用すると、ページ上のテキスト / 画像の印刷位置を調整し、トレイ内の用紙のズレを修正できます。両面印刷を行う場合には、テキスト / 画像を両面とも同じ位置に印刷するよう調整できます。
「トレイ調整」機能は、MLPro930PS の操作パネル上の「トレイ調整」コマンドからも同じように使用可能です。
トレイ調整を行うには、以下を行う必要があります。

- システム管理者としてサーバにログインし、MLPro930PS「設定」でトレイ調整を有効にします。
- MLPro930PS プリンタドライバの「用紙」オプションバーで「トレイ調整」を「オン」に設定します。
- 印刷前に正しい用紙トレイを選択します。

- ジョブの印刷時にトレイ調整が機能するためには、印刷前に「用紙トレイ」タブの「用紙トレイ」オプションバーで調整するトレイを選択してください。「用紙トレイ」で「自動選択」を選択すると「トレイ調整」は有効になりません。
- アプリケーションによっては、「トレイ調整」の機能が有効にならないことがあります。

用紙トレイ調整を行うには：

1 「サーバ：トレイ調整」を選択します。

「用紙トレイ調整」ダイアログボックスが表示されます。

2 「トレイ」でトレイを選択します。

3 「用紙」で、手順 2 で選択したトレイに入っている用紙サイズを選択します。

注 用紙トレイ調整値は、トレイ / 用紙の組合せによって異なります。たとえば、「トレイ 1」/「A4」用の用紙トレイ調整値は、「トレイ 1」/「レター」の組み合わせには無効です。各トレイ / 用紙の組み合わせに対し、トレイ調整を行う必要があります。

4 両面印刷を行う場合は「両面印刷用調整」横のボックスにチェックマークを付け、片面印刷を行う場合は「両面印刷用調整」横のボックスのチェックを外して、「続行」ボタンを押します。

注 調整ページが印刷されます。

5　排紙された調整ページ上の手順に従います。

まず用紙を横に半分に折ってから用紙を広げ、次に縦に半分に折って用紙を広げます。用紙上の各目盛りと折り目が交差している部分の数値を用紙の A / B / C 横のボックスに書き入れます。

6 「トレイ調整」ダイアログで、「サイド 1」の A / B / C 欄に、用紙の各目盛り（A、B、C）と折り目の交差部分の値を入力します。

注 A と C に異なる値を入力すると、画像が回転するためジャギー（ギザギザ状態）が目立つことがあります。その場合には、A と C に同じ値を入力してください。

7　両面印刷用に用紙トレイ調整を行う場合は、「サイド 2」の A / B / C 欄に、調整用ページ裏面の各目盛り（A、B、C）の数値を入力します。

「サイド 1」と同様、A と C に異なる値を入力すると、画像が回転するためジャギー（ギザギザ状態）が目立つことがあります。その場合は、A と C に同じ値を入力してください。

8 「適用」ボタンを押します。

9　用紙トレイ調整値を取り消す場合は、「リセット」ボタンをクリックします。

10 「閉じる」ボタンをクリックし、「トレイ調整」ダイアログボックスを閉じます。

用紙種類の混合設定

用紙種類の混合設定を使用して、1 つのジョブに対して章分けを定義したり、ページの範囲を指定して異なる用紙に印刷したり、ページ間にブランク用紙を挿入したりすることができます。
用紙種類の混合では、次のガイドラインまたは制限が適用されます。

- 「用紙種類の混合」ダイアログボックスでは、「ジョブのプロパティ」ダイアログボックスやプリンタドライバによってジョブに設定されている用紙の種類、ページサイズ、仕上げ設定と競合する設定を指定することはできません。
- 矛盾する設定が存在する場合、設定名が赤く表示され、競合を解消するように要求されます。
- 「用紙種類の混合」設定を行った後にプリントオプションを指定した場合、特定のページで競合が発生する可能性があります。この場合、別のプリントオプションを指定するか、競合する「用紙種類の混合」設定を削除する必要があります。
- 「製本メーカー」で各種製本タイプを指定している場合には、「用紙種類の混合」を指定することができません。「製本メーカー」で各種製本タイプを指定いる場合に表紙指定を行うには「レイアウト」タブ内にある「表紙用給紙トレイ」、「おもて表紙」、「裏表紙」の設定を行って表紙印刷を指定することができます。

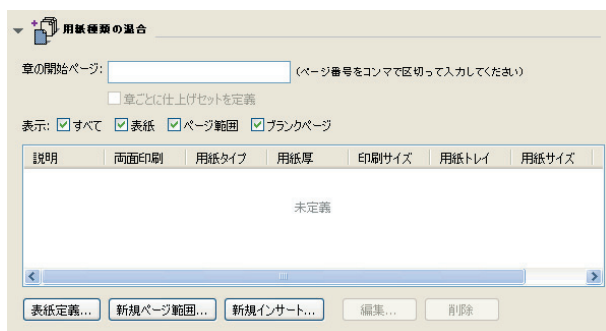
メモ 「用紙種類の混合」の基本操作については、Command WorkStation ヘルプを参照してください。

3 ユーティリティ

用紙種類の混合を設定するには：

1 ジョブセンターをクリックし、待機 /印刷済み /アーカイブ済みのジョブを選択し、「アクション」メニューから「プロパティ」を選択します。

2 「ジョブのプロパティ」ダイアログボックスで「用紙トレイ」タブをクリックします。

「用紙種類の混合」設定項目を表示するために下へスクロールします。

3 「章の開始ページ」欄に新しい章が始まるページ番号を入力します。

ページ番号はコンマで区切って入力してください（例：4,9,17）。この設定により、章の開始ページが強制的に右側ページになり、必要に応じて左ページにブランクが挿入されます。

ジョブの最初のページと、オリジナル書類のページ番号を入力する必要はありません。

4 おもて表紙とうら表紙の定義を行う場合は、「表紙定義」をクリックします。

詳細は、「表紙定義を設定するには：」(77 ページ) を参照してください。

5 個々のページまたはページの範囲のプロパティを設定する場合は、「新規ページ範囲」をクリックします。

詳細は、「特定ページの用紙種類を設定するには：」(77 ページ) を参照してください。

6 ブランクページを挿入する場合、「新規インサート」をクリックします。

詳細は、「ブランク挿入を設定するには：」(77 ページ) を参照してください。

7 現在の定義を変更 / 削除するには、リスト内の項目を選択して、「編集」または「除去」をクリックします。

「編集」をクリックした場合、設定を再入力して「変更」をクリックします。

8 「ジョブのプロパティ」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

用紙種類の混合設定がジョブに適用されました。「ジョブのプロパティ」ダイアログボックスが閉じます。

表紙定義を設定するには：

1 「用紙種類の混合」設定エリアで「表紙定義」をクリックします。

「表紙用用紙」ダイアログボックスが表示されます。

2 おもて表紙と裏表紙に同じ設定を使用する場合、「おもて / うら表紙両方に同じ設定を適用」を選択します。別々に設定する場合は、「おもて表紙」と「裏表紙」を選択します。

3 各種設定をそれぞれ選択します。

4 「印刷面」では、表紙にどのように印刷するかを指定します。「外側」、「内側」、または「両面」から選択できます。

次の制限が適用されます。

- 「外側」を指定した場合、「両面」を「オフ」にする必要があります。
- 「内側」または「両面」を選択した場合、「両面」を「長辺とじ」または「短辺とじ」のどちらかに設定する必要があります。

5 「OK」をクリックして「用紙種類の混合」ダイアログボックスに戻ります。

「表紙用用紙」での設定は、「ページ / ページ範囲用用紙」での設定より優先されます。

特定ページの用紙種類を設定するには：

1 「用紙種類の混合」設定エリアで「新規ページ範囲」をクリックします。

「ページ / ページ範囲用用紙」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ページ範囲」欄にページ番号、ページの範囲をコンマで区切って入力します。

たとえば、「3,9-14,18」と入力できます。

3 各種設定をそれぞれ選択します。

カスタム用紙サイズを設定する場合は、「カスタム」ボタンをクリックして、「カスタム用紙サイズ」ダイアログボックスで用紙の寸法を指定します。

4 用紙設定を行うごとに「定義追加」ボタンをクリックします。

5 「閉じる」をクリックして「用紙種類の混合」ダイアログボックスに戻ります。

ブランク挿入を設定するには：

1 「用紙種類の混合」設定エリアで「新規インサート」をクリックします。

「ブランク挿入」ダイアログボックスが表示されます。

2 対象ページの前後にブランクページを挿入するかどうかを指定します。

書類の最初または最後のページを指定することもできます。

3 各種設定をそれぞれ選択します。

カスタム用紙サイズを設定する場合は、「カスタム」ボタンをクリックして、「カスタム用紙サイズ」ダイアログボックスで用紙の寸法を指定します。

4 ブランク挿入を定義するごとに、「挿入」をクリックします。

5 「閉じる」をクリックして「用紙種類の混合」ダイアログボックスに戻ります。

トラブルシューティング

Command WorkStation の接続およびソフトウェア上の問題についてトラブルシューティングを行う場合、以下を参照してください。Command WorkStation のヘルプにも追加情報が記載されています。

Command WorkStation から MLPro930PS に接続できない

MLPro930PS に接続できない、またはご使用のコンピュータで MLPro930PS が表示されない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。サーバ設定やネットワーク接続を解決するには、システム管理者の作業が必要になることもあります。ネットワークの設定が変更された場合は、MLPro930PS の再設定が必要な場合もあります（「4 章 設定管理」参照）。

たとえば、プリントサーバや Novell サーバのプリントキューの名前が変更されたり削除された場合、またはユーザアカウントや使用条件が変更された場合、MLPro930PS のシステム管理者は、「IPX（Novell）設定」でも設定を変更しなければならない場合があります。

他のユーティリティを使用して MLPro930PS に接続できるにもかかわらず、Command WorkStation からは接続できない場合は、接続設定をし直す必要があります（72 ページ）。

「4 章 設定管理」に指示に従って MLPro930PS の設定を行い、クライアントとネットワークサーバのセットアップを行った場合は、テストページを印刷してください。テストページが印刷できるにもかかわらず、クライアントコンピュータから印刷ができない場合は、システム管理者にネットワーク接続の点検を行うよう依頼してください。

MLPro930PS への接続も、テストページの印刷もできない場合は、MLPro930PS の操作パネルの表示を確認してください。

Command WorkStation がハングアップする

Command WorkStation が応答しない場合、次の手順を実行してください。

Command WorkStation のウィンドウが更新されない場合

1 Command WorkStation からログオフし、終了します。

2 Command WorkStation を再起動するか、コンピュータを再起動します。

Command WorkStation の画面が更新されない、ジョブが表示されない、マウスが操作が効かない、（ジョブ、画面、メニューなどが選択できない、右クリックができない）という現象が発生した場合は、MLPro930PS がダウンしているか、またはネットワークが通信できない状況になっています。

Command WorkStation を強制終了するには

1 Ctrl+Alt+Delete キーを押し、「タスクマネージャ」をクリックして Command WorkStation を選択します。

2 「タスクの終了」をクリックします。

3 MLPro930PS でネットワークケーブルを取り外し、取り付け直して、テストページまたは設定情報ページを印刷します。

4 上記が失敗した場合は、MLPro930PS を再起動してください。

Command WorkStation Macintosh Edition

Command WorkStation Macintosh Edition は、MLPro930PS オペレータまたはシステム管理者が MLPro930PS 上のジョブの印刷ワークフローの監視 / 管理を行うためのソフトウェアです。

Command WorkStation Macintosh Edition では、以下の機能が提供されています。

- MLPro930PS 上のジョブの状況を表示
- ジョブの待機 / 処理 / 印刷を実行
- ユーザが指定したプリントオプション設定の書き換え
- ジョブのページ内容のプレビュー表示
- ジョブのページの並べ替え、他ジョブとのマージ
- バリアブルデータ印刷用 FreeForm マスターファイルの作成 / 使用
- ジョブのアーカイブ
- ジョブログの表示 / エクスポート

Command WorkStation Macintosh Edition のインストール

Command WorkStation Macintosh Edition は、MLPro930PS にネットワーク接続する Mac OS X 対応コンピュータにインストールします。

Command WorkStation 5 は Mac OS X 10.3.9 以前の Mac OS ではご使用になれません。Mac OS X 10.3.9 でご利用の場合、弊社ホームページより対応版ユーティリティを入手してください。

Command WorkStation Macintosh Edition をインストールするには：

1. CD3 ユーティリティ CD（Macintosh）を Mac OS X 対応コンピュータの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. CD3 ユーティリティ CD（Macintosh）内の「OS X」フォルダを開きます。
3. 「Command WorkStation 5」アイコンをダブルクリックします。
4. 画面に表示される指示に従って、インストールを完了します。

MLPro930PS への接続設定

初めて Command WorkStation を起動すると、MLPro930PS へ接続を設定するよう促されます。MLPro930PS のサーバ名や IP アドレスが変更された場合は、そのつど MLPro930PS との接続を再設定してください。

接続の設定準備：

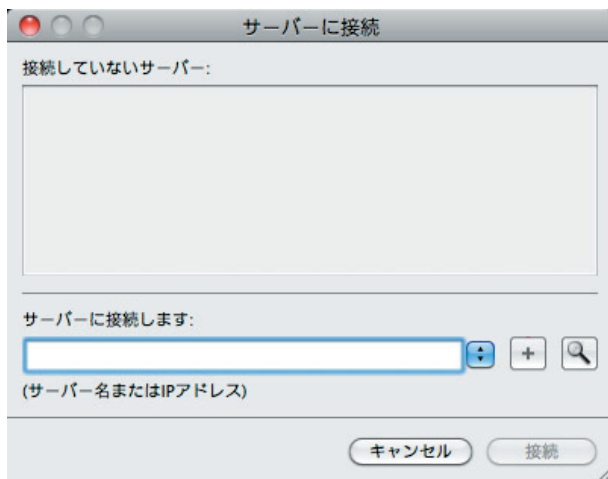
- MLPro930PS の「設定情報」ページを印刷します。

  「設定情報」ページを印刷する手順については、「4 章 設定管理」を参照してください。

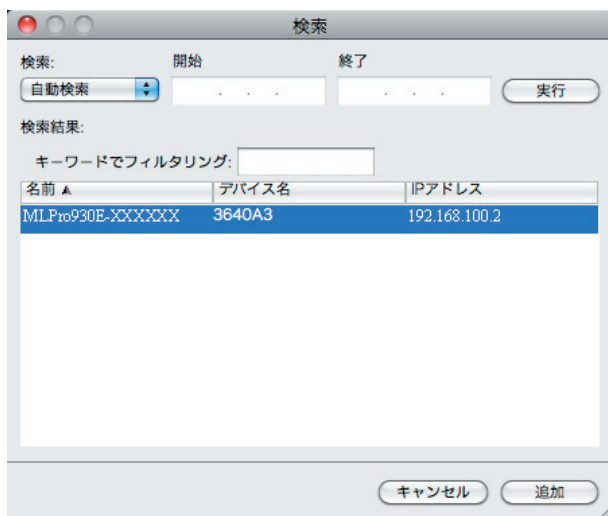
  このページには、接続の設定に必要な IP アドレスなどの情報が記載されています。TCP/IP ネットワークの設定によっては、IP アドレスの代わりに DNS 名を使用する場合があります。ネットワーク上で MLPro930PS がドメインネームサーバ（DNS）に登録されていることを確認してください。詳細については、ネットワークシステムの説明書を参照してください。

Command WorkStation の接続を設定するには：

1　Command WorkStaion のアイコンをダブルクリックして Command WorkStation を起動します。

「サーバーに接続」ダイアログボックスが表示されます。

2　MLPro930PS が表示されない場合は「 」ボタンをクリックして自動検索やサブネットあるいは IP アドレス範囲を指定して検索します。

「追加」をクリックして MLPro930 を「接続していないサーバ」一覧に追加します。

「キーワードでフィルタリング」で DNS 名等でフィルタリングすることができます。

3　使用する MLPro930PS を選択して、「接続」をクリックします。

「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

4　「システム管理者」、「オペレータ」または「ゲスト」のいずれかを選択してから、必要に応じてパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

これでサーバと接続されました。

すべての使用可能なサーバは「使用可能サーバリスト」に表示されます。

Command WorkStation の接続設定の変更

MLPro930PS の設定やネットワークに変更がある場合は接続設定を変更します。

接続設定を変更するには：

1　Command WorkStaion を起動します。

「ログインサーバ」ウィンドウが表示されます。

2　接続の設定を変更する MLPro930PS を選択し、「削除」をクリックします。

「使用可能サーバ」ダイアログボックスが表示されます。

3　変更された MLPro930PS を追加するには、「Command WorkStation の接続を設定するには：」のステップ 2 から 3 を行います。

別の MLPro930PS に接続するよう変更するには、「サーバ一覧」から MLPro930PS を削除してから別の MLPro930PS との接続を設定します。

Command WorkStation の使用方法

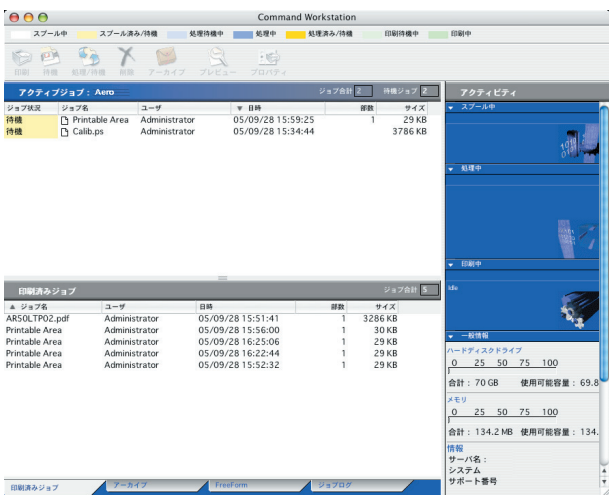
Command WorkStation のインストールと接続設定が完了すれば、MLPro930PS 上のジョブの監視および管理を行うことができます。

メモ　Command WorkStation の使用方法の詳細は、Command WorkStation のヘルプで提供されています。

Command WorkStation ヘルプにアクセスするには：

1　Command WorkStation を起動します。

サーバ一覧で MLPro930PS を選択し、ログインします。

システム管理者のパスワードについては、「4 章 設定管理」を参照してください。

2　「ヘルプ」メニューから「ヘルプ」を選択します。

追加機能

Command WorkStation Macintosh Edition では、「用紙種類の混合」設定を実行できます。詳しくは、「用紙種類の混合設定」(75 ページ) を参照してください。

トラブルシューティング

Command WorkStation の接続およびソフトウェア上の問題についてトラブルシューティングを行う場合、以下を参照してください。Command WorkStation ヘルプにも追加情報が記載されています。

Command WorkStation から MLPro930PS に接続できない

MLPro930PS に接続できない、またはご使用のコンピュータで MLPro930PS が表示されない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。サーバ設定やネットワーク接続を解決するには、システム管理者の作業が必要になることもあります。ネットワークの設定が変更された場合は、MLPro930PS の再設定が必要な場合もあります（「4 章 設定管理」参照）。

たとえば、プリントサーバや Novell サーバのプリントキューの名前が変更されたり削除された場合、またはユーザアカウントや使用条件が変更された場合、MLPro930PS のシステム管理者は、「IPX（Novell）設定」でも設定を変更しなければならない場合があります。

他のユーティリティを使用して MLPro930PS に接続できるにもかかわらず、Command WorkStation からは接続できない場合は、Command WorkStation の接続設定をやり直す必要があります（82 ページ参照）。

「4 章 設定管理」に指示に従って MLPro930PS の設定を行い、クライアントとネットワークサーバのセットアップを行った場合は、テストページを印刷してください。テストページが印刷できるにもかかわらず、クライアントコンピュータから印刷ができない場合は、システム管理者にネットワーク接続の点検を行うよう依頼してください。

MLPro930PS への接続も、テストページの印刷もできない場合は、プリンタのタッチパネル表示を確認してください。

Command WorkStation がハングアップする

Command WorkStation が応答しない場合、次の手順を実行してください。

Command WorkStation のウィンドウが更新されない場合

1 Command WorkStation からログオフし、終了します。

2 Command WorkStation を再起動するか、コンピュータを再起動します。

Command WorkStation の画面が更新されない、ジョブが表示されない、マウスが操作が効かない、（ジョブ、画面、メニューなどが選択できない、Control+ クリックができない）という現象が発生した場合は、MLPro930PS がダウンしているか、またはネットワークが通信できない状況になっています。

Command WorkStation を強制終了するには

1 Command-Option-Escape キーを押して Command WorkStation を選択し、アプリケーションを強制終了します。

2 MLPro930PS でネットワークケーブルを取り外し、取り付け直して、テストページまたは設定情報ページを印刷します。

3 上記が失敗した場合は、MLPro930PS を再起動してください。

Hot Folders

Hot Folders を使用すると、よく使用するプリントオプション設定を保存して、PostScript および PDF ファイルに適用して ML Pro 930PS-X に印刷することができます。 以下の機能を提供します。

- Hot Folders 用の特別なフォルダを作成し、プリントオプション設定とプリントキューを指定できます。
- ジョブをそのフォルダにドラッグ＆ドロップするだけで、ML Pro 930PS に印刷できます。
- Hot Folders に送信したジョブの状況を監視できます。

Hot Folders は MLPro930PS-X モデルでのみ利用できます。
Hot Folders は Windows 2000、Mac OS X 10.3.9 以前の Mac OS ではご使用になれません。これらの OS でご利用の場合、弊社ホームページより対応版ユーティリティを入手してください。

サポートされるファイル形式

Hot Folders では、次の標準ファイル形式がサポートされています。

- PostScript
- PDF
- TIFF
- EPS

Hot Folders のインストール

Hot Folders をインストールして使用するには、ネットワーク接続された Windows または Mac OS 対応コンピュータが必要です。

- Mac OS 対応コンピュータで Hot Folders を使用するには、Windows から Hot Folders を共有できるようネットワーク管理者に設定してもらう必要があります。
- Hot Folders のインストーラは、CD2 ユーティリティ CD（Windows）もしくは CD3 ユーティリティ CD（Macintosh）にあります。
- ユーティリティをインストールする前に、「Windows 対応コンピュータへのインストール準備」（66 ページ）をお読みください。
- インストール手順については、「Fiery ユーティリティのインストール」（68 ページ）を参照してください。

Hot Folders の使用方法

Hot Folders の使用方法の詳細は、Hot Folders ヘルプに記載してあります。

Hot Folders のヘルプにアクセスするには：

1. Hot Folders を起動します。
2. 「ヘルプ：EFI Hot Folders ヘルプ」を選択します。

Hot Folders の入力形式

「入力形式」インターフェイスからファイルフィルタにアクセスできます。プリンタにファイルを送信する前に、フィルタを使用して特定のファイルを PostScript（PS）または PDF 形式に変換できます。また、「入力形式」インターフェイスからアプリケーション特有のオプションにもアクセスでき、ファイルを作成したアプリケーションを起動することなく、印刷の向きなどプリント設定オプションを変更できます。
フィルタを一度設定すると、Hot Folders は自動的にファイル形式を検出し、ファイルをプリンタに送信する前に PS または PDF 形式に変換します。

各入力形式の設定の詳細は Hot Folders ヘルプをご覧ください。

Hot Folders での入力形式

クライアントコンピュータで稼動している Hot Folders で入力形式を設定し、オプションを指定することによって、サポートする形式のファイルを Hot Folders にドラッグ & ドロップして、ファイル変換を開始できます。

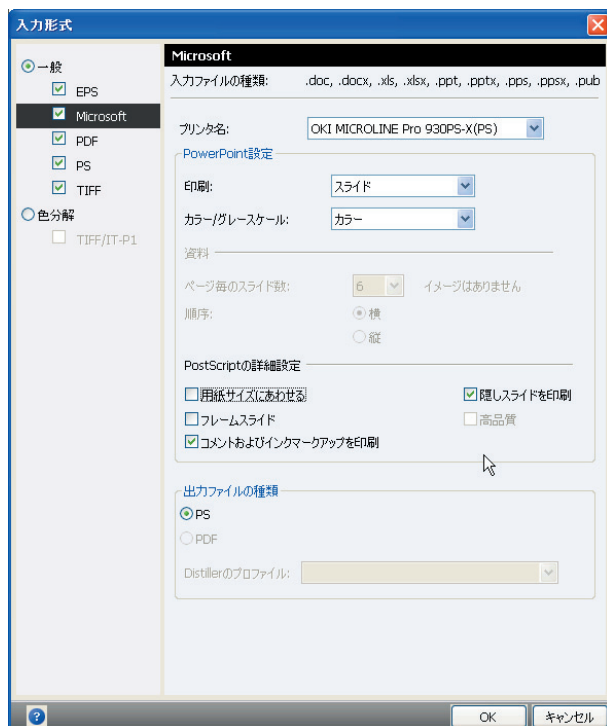
フィルタ設定を行うには、Hot Folders の「入力形式」ダイアログボックスを開きます。

入力形式の設定を行うには：

「入力形式」は、「ホットフォルダー設定」ウィンドウからアクセスできます。

1　Hot Folder コンソールで Hot Folder をダブルクリックし、「ホットフォルダー設定」を開きます。もしくは Hot Folder コンソールで Hot Folder を選択し、ツールバー上の「編集」ボタンをクリックします。

2　「編集」をクリックして「入力形式」ウィンドウを開きます。

「入力形式」ダイアログボックスが表示されます。ここで設定を変更する入力形式を選択します。

注 Mac OS X では「Microsoft」形式は対応していません。

3　必要に応じて各入力形式の設定を変更します。

4　「OK」をクリックします。

3

ユーティリティ

WebTools

WebTools を使用すると、リモートクライアントからインターネットまたは社内イントラネット経由で MLPro930PS を管理できます。MLPro930PS のホームページから、以下の WebTools 機能を利用できます。

- ホームー MLPro930PS の WebTools のホームページを表示します。
- 書類ー MLPro930PS 上のジョブにリモートからアクセスできます。ジョブの印刷やインポート、およびジョブの管理を行えます。
- 設定ー MLPro930PS の現在の設定が一覧表示されます。システム管理者は、サーバ設定内容を変更できます。管理者パスワードが設定されている場合は、パスワードの入力が必要です。
- 製品アップデート情報確認ー MLPro930PS の最新アップデートモジュールが利用かどうかを調べます。利用できる場合は、ダウンロードすることができます。

WebTools のセットアップ

WebTools は MLPro930PS のハードディスクにあり、クライアントコンピュータにインストールする必要はありません。ただし、MLPro930PS のシステム管理者が WebTools を使用できるように設定する必要があります。

ネットワークユーザが WebTools にアクセスできるようにするには、システム管理者が「ネットワーク設定」および「プリンタ設定」を調整する必要があります。MLPro930PS「設定」の詳細については、「4 章 設定管理」を参照してください。

システム管理者は、インターネットまたはイントラネット経由で MLPro930PS と通信するクライアントコンピュータのセットアップも行う必要があります。

WebTools を使用するためにクライアントコンピュータをセットアップするには：

1. TCP/IP を有効にします。
2. ワークステーションに固有の IP アドレスが割り振られていることを確認します。
3. ワークステーションにサポートされているインターネットブラウザをインストールします。
4. ブラウザで Java が有効になっていることを確認します。

また、「Windows 対応コンピュータへのインストール準備」（66 ページ）および「Mac OS 対応コンピュータへのインストール準備」（67 ページ）で説明する準備手順も完了しておいてください。
WebTools を実行するコンピュータが Windows XP Service Pack 2 を実行している場合は、ポップアップブロック機能がデフォルトで有効に設定されています。この設定では、WebTools にアクセスしたときに警告メッセージが表示され、WebTools の機能を実行できません。WebTools が機能するようにするには、以下を行ってください。

- 表示された警告メッセージをクリックして、表示される選択肢の 1 つを選んで、「ポップアップブロック」機能を変更します。
- インターネットエクスプローラの「ツール」メニューから「ポップアップブロック」を選択するか、「インターネットオプション:プライバシー」を選択して、ポップアップブロックを無効にします。

詳細は、インターネットエクスプローラのヘルプまたは Windows の説明書を参照してください。

WebTools ホームページへのアクセス

インターネットブラウザを使用して WebTools へアクセスします。

1　インターネットブラウザを起動します。

2　MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

　MLPro930PS ホームページが表示されます。

3　使用する WebTools 機能へのリンクをクリックします。

WebTools の使用方法

WebTools の詳細な使用方法については、各 WebTools ヘルプを参照してください。

WebTools ヘルプを表示するには

1　ブラウザを起動して、MLPro930PS の IP アドレスを入力し、WebTools にアクセスします。

2　WebTools ウィンドウ右上の「ヘルプ」アイコンをクリックします。

　以下に WebTools の各機能について説明します。

ホーム

「ホーム」では、現在 MLPro930PS で処理中 / 印刷中のジョブが表示されます。処理 / 印刷状況のリフレッシュ頻度を設定することができます。
「ホーム」は WebTools 起動時に表示されますが、別のタブを選択すると自動的に閉じられます。フロートオプションを使用して、常に「ホーム」を開いておくことも可能です。この場合、30 秒ごとに最新の情報に更新されます。

書類

「書類」WebTools を使用すると、インターネット / イントラネット経由で MLPro930PS 上のジョブにアクセスできます。以下の操作が可能です。

- 自分のメールボックス内のジョブの管理と配布

  メールボックスは WebTools「Configure」を使用してセットアップできます。

- ジョブの制御と変更
- MLPro930PS へのジョブ送信

設定

「設定」WebTools は、MLPro930PS システム管理者向けのツールです。システム管理者はこのツールを使用して、MLPro930PS のリモート管理を実行できます。「設定」WebTools については、「4 章 設定管理」を参照してください。
「設定」WebTools を使用する前に、「Windows 対応コンピュータへのインストール準備」(66 ページ) の指示に従って、ご使用のコンピュータをセットアップしておく必要があります。

製品アップデート情報確認

この機能を使用すると、MLPro930PS システムソフトウェアの更新プログラムが利用可能かどうか確認することができます。可能な場合、更新プログラムのダウンロードを実行できます。

4 設定管理

使用開始前に

印刷準備には、ご使用のネットワーク環境や印刷方法に合わせた MLPro930PS の初期設定が必要です。設定実行前に、MLPro930PS でサポートされるアクセス方法やコントロール方法を理解し、ご使用の環境に最も適した設定を決定してください。これにはパスワード設定やセキュリティレベルの決定が含まれます。セキュリティ関連オプションは相互に関連があるため、本章の記載を参照の上、効果的なセキュリティシステムを計画し、設定を実行してください。

コントロールおよびアクセスレベル

MLPro930PS システムを構築する際には、システム管理者はユーザがアクセスできるネットワークやソフトウェアの使用レベルやコントロールレベルを決めておく必要があります。これらは以下の方法で操作できます：

- ユーザおよびグループ設定
- プリント接続の開放
- WebTools へのアクセス

ユーザおよびグループ

WebTools の Configure を使用すると、ユーザを作成しパスワードを割り当てることができます。また特定の権利を持ったグループを作成してユーザをそのグループに入れることもできます。デフォルトでいくつかのグループがありますが、新たなグループを作成できます。あるグループ内のユーザはすべて同じ権利を持ちます。

MLPro930PS で LDAP サービスが使用可能な場合、ユーザをグローバルアドレスリストから追加することもできます。詳細は、WebTools Configure のヘルプファイルを参照してください。

パスワード

新しいユーザを作成した場合、ユーザにパスワードを割り当てます。さらに、次のパスワードを設定できます。

- システム管理者グループ内のデフォルトの admin ユーザ
- オペレータグループ内のデフォルトの operator ユーザ

デフォルトでは、MLPro930PS のデフォルトパスワードがこれらのユーザに設定されます。パスワードは定期的に変更することをお勧めします。一般ユーザがこのパスワードを入手した場合、故意にあるいは誤って MLPro930PS の設定を変更してしまうことがあります。パスワードの設定方法については、「パスワードの設定」（136 ページ）を参照してください。

システム管理者グループおよびオペレータグループのユーザには、作成時に設定した権利だけでなく、それぞれのグループにデフォルトで与えられている権利があります。以下にその例をあげます。

システム管理者

システム管理者グループ内のユーザには、印刷やジョブ管理環境をコントロールできる最も高い権利が与えられます。
システム管理者には以下の権限があります。

- MLPro930PS「設定」
- グループの追加 / 削除
- ユーザの追加 / 削除
- ユーザパスワードの設定 / 変更
- ジョブログの削除、印刷、エクスポートおよび参照
- ジョブの削除、表示、およびプリントオプションの変更
- MLPro930PS 内のすべてのジョブデータを削除
- カラー印刷 / 白黒印刷の切り替え
- プリント接続開放
- フォントの削除
- ジョブ管理ツールを使用するジョブコントロール
- ジョブ設定の上書き
- プリントオプションのデフォルト設定
- MLPro930PS のキャリブレート

オペレータ

オペレータグループ内のユーザには、ジョブ管理ツールを使用した印刷ジョブ管理（ジョブ設定の書き換えを含む）を行う権利があります。

- ジョブログ参照
- ジョブの削除、表示、およびプリントオプションの変更
- カラー印刷 / 白黒印刷の切り替え

ゲスト（パスワード不要）

ジョブ管理ツールにゲストとしてログインする場合、パスワードは必要ありません。ゲストは現行ジョブの状況を確認できますが、ジョブや MLPro930PS の状況に変更を加えることはできません。

プリント接続

MLPro930PS は 3 種類のプリント接続（待機キュー、印刷キュー、直接接続）をサポートしています。これらのプリント接続は、「プリント接続」設定で使用の可否を選択します。印刷キューや直接接続を使用可能にすると、待機キューのみが使用可能な場合よりもリモートユーザが自由に印刷できるようになります。システムの使用を厳しく制限したい場合は、これらの接続を使用しないよう設定します。

MLPro930PS では、印刷済みキューも使用できます。印刷済みキューには印刷が完了したジョブが保存されておりそれらを再印刷できます。MLPro930PS 設定で、印刷済みキューに保存するジョブの数を指定できます（99 ページ）。印刷済みキュー内のジョブを再印刷するには、ジョブ管理ツール（Command WorkStation）を使用します。

- Fiery ユーティリティや WebTools を使用するには、プリント接続のうちひとつを開放する必要があります。
- いくつかのユーティリティは「直接接続」を開放しておかないと使用できなくなります。詳細は応用編をご覧下さい。

待機キュー（Hold）

待機キューに送られたジョブは MLPro930PS のハードディスクにスプールされます。待機キューはジョブを保存する領域です。これらのジョブの印刷処理には、ジョブ管理ツールを使用します。

印刷キュー（Print）

印刷キューは、MLPro930PS で使用される標準のキューです。印刷キューに送られたジョブは、受信した順に処理、印刷されます。ただしオペレータによって優先されたジョブや、直接接続を経由して送信されたジョブは印刷キュー内のジョブより先行して処理されます。

直接接続（Direct）

直接接続では、印刷ジョブは MLPro930PS が「使用可能」状態のときにジョブが MLPro930PS の直接接続へ送られます。MLPro930PS が設定実行中、RIP 中、印刷中など使用中の場合には、「使用可能」になるまでジョブは送信元のクライアント PC 側に留まります。前のジョブの処理が終わり次第、印刷キュー内に他の印刷ジョブがある場合でも、優先的に MLPro930PS で処理されます。

直接接続に送られたジョブは、MLPro930PS のハードディスクには保存されません。ジョブ管理ツール（Command WorkStation）には現行ジョブとして表示されますが、ジョブを選択して再印刷、移動、削除などの操作を行うことはできません。このため機密性の高いファイルを保護するのに適しています。

MLPro930PS にフォントをインストールする場合は、直接接続を使用可能にしてください。

WebTools

MLPro930PS では、インターネットやイントラネットを経由して Windows および Mac OS 対応コンピュータから Fiery WebTools が使用できます。Fiery WebTools を使用する方法について詳細は、WebTools 設定を参照してください。

ホーム

「ホーム」には、現在の MLPro930PS で処理中または印刷中のジョブの情報が表示されます。「ホーム」でジョブ情報を表示するには、パスワードは不要です。詳細については「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

書類

「書類」ページからは、インターネットまたは社内イントラネット経由で MLPro930PS 上のジョブにアクセスできます。ジョブの管理と配布、ジョブの制御と変更、MLPro930PS へのジョブ送信などを行うことができます。詳細は、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

設定

「設定」ページには、現在の MLPro930PS の設定値が表示されます。また、「Configure 起動」をクリックし「設定（Configure)」を使用するとリモートコンピュータから MLPro930PS の設定を変更できます。 この機能を使用するには、システム管理者パスワードの入力が必要です。詳細については、リモートクライアントからの MLPro930PS 設定を参照してください。パスワードについて詳細は、「パスワードの設定」(136 ページ) を参照してください。

追加セキュリティ機能

従来のパスワードによるセキュリティ保護に加え､以下の機能を使用して MLPro930PS のセキュリティを保護することができます。

- E メールアクセス
- IP アドレス、ポートのフィルタリング
- 認証印刷
- LDAP 認証

E メールウィルス

MLPro930PS では、E メールに添付されているファイルを印刷する E メール印刷をサポートしています。MLPro930PS では、PS ファイルや PDF ファイルなどの印刷可能な添付ファイルのみを受け付けます。通常､E メールの添付ファイルとして送信されるウィルスは､受信側でそのファイルを実行することで感染が広がりますが、MLPro930PS では、ウィルスの感染を防ぐため、E メールを受け取った場合でも次の拡張子のついたファイルは破棄します：

.Bat、.VBS、.EXE

また、MLPro930PS は、RTF 形式および HTML 形式のメールや Java スクリプトを含むメールも破棄します。

また、E メール印刷を実行できるアドレスを指定して管理できます。この場合、MLPro930PS で指定された E メールアドレス以外のユーザからメールを受信しても､MLPro930PS はそのメールを処理しません。

IP アドレス、ポートのフィルタリング

MLPro930PS へのアクセス制限をするために、IP アドレス、Mac アドレスおよびポート範囲を制限して､アクセスできるユーザを限定します。認可されていない IP アドレスや IP 範囲､IP ポートから送られたコマンドやジョブは、MLPro930PS によって制限されます。

認証印刷

認証印刷は､機密書類などを印刷する際に有効な機能です。ユーザはプリンタドライバでパスワードを設定し、ジョブを送信します。プリンタでそのパスワードを入力して印刷を実行します。詳細は､「7 章 プリントオプション」を参照してください。

LDAP 認証

ネットワークで LDAP が稼動しており、ネットワーク利用者の名前や情報が LDAP 通信で取得できる場合には、LDAP 認証方式を設定できます。詳細は、MLPro930PS のヘルプを参照してください。

設定について

MLPro930PS「設定」では、他のデバイスとの通信制御やプリントジョブの管理方法を設定できます。MLPro930PS「設定」は、最初に MLPro930PS を導入するときとシステムソフトウェアを更新したときに必要です。また、使用しているネットワーク環境が変更になった場合やユーザの印刷環境が変更になった場合には、必要に応じて MLPro930PS「設定」を変更してください。

操作パネルからの設定

最初に MLPro930PS の設定を実行するときには、操作パネルから行なってください。少なくとも「サーバ設定」、「ネットワーク設定」、「プリンタ設定」の 3 つの設定項目を、この順番で実行する必要があります。この初回の設定の後は、設定は操作パネル（95 ページ）から、または Windows コンピュータから WebTools の「設定（Configure）」や Command WorkStation（70 ページ）を使用して変更できます。ほとんどの設定項目は上記のいずれからでも設定 / 変更できます。

「サーバ設定」、「ネットワーク設定」、「プリンタ設定」以外の設定項目については、設定しない場合にはデフォルト設定が適用されます。この場合でもほとんどの印刷環境で MLPro930PS を支障なく使えますが、御使用の環境に合わせて設定を変更すると、さらに MLPro930PS ユーザは効率よく印刷ジョブを取り扱えます。

リモートクライアントコンピュータからの設定

リモート設定

リモートコンピュータから、Command WorkStation や WebTools の「設定（Configure）」を使用してネットワークを経由して MLPro930PS を設定することを、リモート設定と呼びます。

操作パネルからの設定

MLPro930PS は、MLPro930PS を導入して最初にシステムを起動したときや、システムソフトウェアの再インストールを行った後に設定を行う必要があります。

操作パネルでの設定作業

MLPro930PS が他のデバイスと交信したり、受取った印刷ジョブを管理したりするには、プリンタ操作部の画面から設定を行う必要があります。
MLPro930PS には下記の設定オプションが用意されています。

- 「サーバ設定」ー MLPro930PS システムオプション指定
- 「ネットワーク設定」ー MLPro930PS に印刷ジョブを転送するすべて
- 「USB 設定」ー USB 印刷の初期値を指定
- 「プリンタ設定」ー MLPro930PS 上の印刷ジョブやキューの管理方法を指定
- 「PS 設定」ー PostScript オプションを設定
- 「カラー設定」ー カラー出力オプションを設定
- 「ジョブログ設定」ー 印刷済みジョブの記録を取り扱う方法を指定

この他、MLPro930PS のシステム管理者機能があります（91 ページ参照）。

操作パネル

操作パネルでは、設定オプションを変更したり、処理中のジョブの情報を表示できます。

「機能」メニュー

「機能」メニューでは MLPro930PS の管理機能を使用できます。ここで利用できる機能の多くは、Command WorkStation からも利用できます。

以下のオプションが選択できます。

ページの印刷ー特殊ページを印刷します。サブメニューで以下のページの印刷を指定します。

- PS テストページーカラーやグレースケールの出力状態をこのページで検討できます。プリンタ名、カラー設定、印刷日時などが印字されます。
- 設定情報ーこのページは、MLPro930PS のハードウェアとソフトウェアについての一般情報、現在の「設定」内容、および イーサネットアドレスが印字されます。
- ジョブログー印刷されたジョブのうち、最新の 55 件のジョブログを印刷します。
- カラー表ー MLPro930PS で使用可能な RGB、CMY、PANTONE カラー見本を印刷します。
- PS フォントリストー MLPro930PS ハードディスク内蔵の PS プリンタフォント名の一覧が印字されます。
- PCL フォントリストー MLPro930PS ハードディスク内蔵の PCL プリンタフォント名の一覧が印字されます。
- デモページ
- エラーログ

- メールログー E メールサービス (印刷) 使用状況、アドレス帳の登録通知、サービスの通信状況を印刷します。最新の 55 件のログが印刷されます。ネットワーク管理者向けの情報として有用です。

メールログを印刷するには、MLPro930PS「設定」の「ネットワーク設定:サービス設定:E メール設定」で、「メールサービス使用」を「はい」に設定する必要があります（113 ページ参照）。

印刷の一時停止 ー MLPro930PS をオンラインにします。このためジョブの印刷が中断されます。現在のジョブに割り込みさせる場合は、必ずこのオプションを使用してください。
このオプションが選択されても MLPro930PS はジョブの処理を続行します。「印刷の再開」が選択されるとジョブの印刷が再開します。

印刷の再開ー MLPro930PS をオフラインにし、「印刷の一時停止」を使用して中断していた印刷を再開します。

認証印刷ー認証印刷機能を使用して送信されたジョブの印刷方法を指定できます。認証印刷ジョブとは、ユーザがプリンタドライバでパスワードを設定して MLPro930PS に送信したジョブで、「認証印刷」メニューからジョブにアクセスするにはそのパスワードが必要になります。認証印刷オプションは、Windows XP/Serrver 2003/2000 および Mac OS X のプリンタでのみ指定できます。詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

パスワードの入力後、次のサブメニューが使用できます。

- 印刷後削除ー認証印刷ジョブを印刷し、印刷後すぐにジョブを削除します。
- 印刷後待機ー認証印刷ジョブを印刷し、ジョブを保存します。保存された認証印刷ジョブを印刷／削除するにはパスワードが必要です。
- 削除ー認証印刷ジョブを削除します。

・認証印刷ジョブはプリンタ操作部からのみアクセス可能です Command WorkStation などのジョブ管理ツールからは操作できません。
・認証印刷オプションは、Windows XP/Serrver 2003/2000 および Mac OS X からの印刷でのみ指定できます。

終了ーこのオプションを選択した場合、以下のいずれかが選択できます。

- サーバの再起動ー MLPro930PS サーバソフトウェアをリセットしますが、システム全体は再起動しません。リセット中は MLPro930PS へアクセスできません。処理中のジョブは中断され、消去される可能性があります。
- システム終了ー MLPro930PS のすべてのシステムを終了します。電源を切る場合にはかならずこのオプションを使用してください。
- システムのリブートー MLPro930PS のシステム全体を終了し、再起動します。

管理者用メニューーネットワークおよび印刷環境を設定することができます。一般に、ネットワークとユーザ環境の設定を実行するのは、ネットワーク管理者です。MLPro930PS を最初に起動したときと、システムソフトウェアをインストールしたときに設定作業が必要となります。

トレイ調整ーページ上でテキストと画像の位置を調節します。たとえば両面印刷した際のページの印刷位置のずれを調整できます。詳細は、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

キャリブレーションー VisualCal を使用したキャリブレーションを実行します。操作方法については、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

設定の実行

設定を実行するときには、プリンタ操作部の画面に「印刷できます」と表示されていることを確認してください。MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

MLPro930PS 使用可能時に操作パネルの画面で設定作業を開始するには：

1 「印刷できます」(印刷 / 処理されているジョブが無いことを示す) と表示されていることを確認します。

MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

2 操作パネルの「Enter」ボタンを押します。

機能メニューが表示されます。

3 矢印ボタンを使用して画面をスクロールし、「管理者用メニュー」を選択して「Enter」を押します。

管理者パスワードが設定されていると、「パスワード入力」画面が表示され、パスワードの入力が求められます。パスワードを入力してください。
デフォルトでは、MLPro930PS の管理者パスワードは、設定されていません。一般ユーザが、故意にまたは誤って MLPro930PS の設定を変更してしまわないよう、必ずパスワードを設定してください。詳細は、「パスワードの設定」(136 ページ) を参照してください。

4 「 設定を実行しますか？」画面で［はい］が選択されていることを確認して「Enter」を押します。

「 設定」画面が表示されるまで、しばらくお待ちください

5 「 設定」画面が表示されたら、矢印ボタンで画面をスクロールしてください。

6 「 サーバ設定」、「ネットワーク設定」、「プリンタ設定」を順番に選択し、各設定作業を行います。

注

初回設定時には、まずこれらの 3 項目を必ずこの順番で設定してください。他の設定項目は、随時設定・変更可能です。
2 回目以降は、変更したい設定項目に直接進んでください。

7 「 パスワードの変更」でシステム管理者用パスワードを変更します。

設定画面の入力方法

設定画面の入力方法には 2 種類あります。

選択方式	操作パネルに選択可能なオプションが表示されます。オプションが 画面上に表示しきれない場合は、矢印ボタンを使用して項目を選びます。
情報入力式	プリンタ名や IP アドレスなど使用環境に即した情報を入力します。 「Back」ボタンを押すとカーソルが左に移動し文字が消去されます。

サーバ設定

「サーバ設定」メニューでは MLPro930PS や全ユーザに関するシステム情報を設定します。操作パネルで設定を開始する方法については、97 ページを参照してください。
「サーバ設定」を選択すると以下の順でオプションが表示されます。[ ] 内はデフォルト値です。

サーバ名

[デフォルトサーバ名]

ネットワーク上で MLPro930PS に名前を付けるときにこのオプションを使用します（最長 15 バイト）。この名前が AppleTalk ネットワークの「セレクタ」画面 に現れます。

サーバ名にデバイス名（3640A3）を使用しないでください。

システムの日付

MLPro930PS のシステムの日付と時間を変更するときにこのオプションを使用します。日付は年 / 月 / 日の順に 08/12/14 の形式で入力します。

システムの時間

システムの時間を変更するときにこのオプションを使用します。24 時間表示に従って、時：分の順に 09.10 の形式で入力します。

スタートページの印刷

いいえ / はい ［いいえ］

MLPro930PS 立ち上げおよび再起動のつどスタートページを印刷するかどうかを指定します。スタートページにはサーバ名、現在の日付と時刻、カラーモード、メモリ量、キャリブレーション実施日、使用可能なネットワークプロトコル、プリント接続などの MLPro930PS 情報が表示されます。

キャラクタセット

Macintosh / DOS / Windows［Macintosh］

プリンタ操作部および Command WorkStation で、ファイル名の表示に使用するキャラクタセットを「Macintosh」、「DOS」あるいは「Windows」の中から指定します。この指定はファイル名にアクセント記号（é, ü）が付いていたり、合成文字（?）が含まれている場合に重要です。
複数プラットフォームが混在するネットワークでは、多数を占めるクライアント対応のキャラクタセットを指定するか、特種文字の表示に最適なセットを指定してください。

印刷許可

全ユーザ / 認可済みユーザ［全ユーザ］

ユーザがジョブを MLPro930PS に送信する前に認証を要求されるかどうか？を指定します。

印刷済みキュー

はい / いいえ［はい］

印刷済みキューを使用する場合は、「はい」を選択します。「はい」を選択すると、印刷キューから印刷されたジョブを、一定数保存するための領域がハードディスク上に確保されます。システム管理者またはオペレータ特権を持っている場合は、Command WorkStation を使用することにより、MLPro930PS にジョブを再送信せずに印刷済みキューから再印刷することができます。「いいえ」を選択すると、印刷済みジョブは印刷後、ハードディスクから削除されます。

保存ジョブ数

1-99［10］

このオプションは「印刷済みキュー」が「はい」に設定されている場合に限り表示されます。印刷済みキューに保存するジョブ数を指定します。保存するジョブ数を多く指定すると、それだけハードディスクの空き容量が少なくなります。空き容量が少ない場合は、保存ジョブ数に低い値を設定してください。

RIP 中にプレビュー

はい / いいえ［いいえ］

ジョブ処理中に、Command WorkStation の「アクティビティ」モニタの処理状況欄にプレビューを表示するかどうかを指定します。

変更の保存

はい / いいえ［はい］

「サーバ設定」での変更を有効にする場合は「はい」を選択します。「いいえ」を選択すると、無変更のままメイン「設定」メニューに戻ります。

ネットワーク設定

「ネットワーク設定」で、ネットワークを経由して MLPro930PS に印刷ジョブを転送できるように MLPro930PS を構築します。

「設定」メニューで「ネットワーク設定」を選択します。「ネットワーク設定」メニューで、ポートタイプ、プロトコル、ネットワークサービス設定用のサブメニューが選択できます。

ある項目を選択または使用可能にすると、その項目に関連した設定を入力するように促されます。「ネットワーク設定」では、クライアント PC、サーバ、および MLPro930PS が通信中に使用するネットワークのアドレスや名前などを指定します。

現在使用中のネットワークシステム用のオプションのみを表示し選択してください。ネットワーク環境の変更が生じた場合、随時「ネットワーク設定」を変更できます。

2 種類以上のプロトコルが使用できるよう MLPro930PS が設定されている場合は、MLPro930PS は印刷ジョブ受取り時点で該当するプロトコルを自動的に識別します。ネットワークポートが使用可能になっている場合、どのポートも他のポートに影響されることなく印刷ジョブを受信できます。

ネットワーク設定オプションにアクセスするには：

1 「印刷できます」（印刷 / 処理されているジョブが無いことを示す）と表示されていることを確認します。

MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

2 プリンタ操作部横の「Enter」ボタンを押します。

機能メニューが表示されます。

3 矢印ボタンを使用してスクロールし、「管理者用メニュー」を選択して「Enter」を押します。

注 「パスワード入力」画面が表示され、パスワードの入力が求められます。

4 「設定を実行しますか？」画面で「はい」を選択し、「Enter」を押します。

5 メイン「設定」メニューから「ネットワーク設定」を選び、「Enter」を押します。

6 「ネットワーク設定」メニューから「ポート設定」を選び、「Enter」を押します。

7 「ポート設定」メニューから「Ethernet 設定」または「802.1x 設定」を選択し、適切な設定情報を入力します。

8 ポート設定入力後、「プロトコル設定」を選び、「Enter」を押します。

9 プロトコル用に適切な設定情報を入力します。

10 プロトコル設定入力後、「サービス設定」を選び、「Enter」を押します。

11 「サービス設定」で、必要な設定作業を行います。

ネットワーク設定を終了するには：

1 「サービス設定」を終了すると「ネットワーク設定」画面が表示されます。この画面で「ネット設定終了」を選びます。

2 「変更の保存」が表示されますので、「はい」を選びます。

3 メイン「設定」メニューで他の設定項目を選ぶか、「設定終了」を選びます。

初回設定時、あるいは接続を追加、変更した場合は、「ネットワーク設定」後、「プリンタ設定」を選んでください。

以下は、ネットワーク設定メニューの説明です。オプション選択項目行の
［ ］内はデフォルト値です。

ポート設定

MLPro930PS をネットワークで使用するには、「ポート設定」でイーサネットを使用可能にする必要があります。

「ネットワーク設定」では複数レベルでメニュー画面が存在しますので、下位レベルのメニューを表示するときは、上位レベルのメニュー名も▶印と共に表示します。

イーサネット設定

ネットワーク設定 ▶
　ポート設定 ▶
　　イーサネット設定 ▶

イーサネット速度

自動検知（10/100/1000）/ 100 Mbps 全二重 /100 Mbps 半二重 / 10 Mbps 全二重 /10 Mbps 半二重［自動検知］

ネットワーク上のコンピュータと MLPro930PS 間のイーサネット通信速度を指定します。ネットワークに 1Gbps、100 Mbps と 10 Mbps が混在している場合またはネットワーク速度がわからない場合は「自動検知」を指定します。

USB ポート設定

USB ポート印刷を行うには、「USB ポートを使用する」で「はい」を選択てください。

ネットワーク設定 ▶
　ポート設定 ▶
　　USB ポート設定 ▶

USB ポートを使用

いいえ / はい ［いいえ］

USB ポートを介して印刷する場合は、「はい」を選択します。コンピュータを MLPro930PS の USB ポートに接続し、直接ジョブを印刷できます。

ポートのタイムアウト(秒)

5-300［5］

このオプションは「USBポートを使用する」が「はい」に設定されている場合にのみ表示されます。USBポートを使用する場合、ジョブのデータが一定時間以内にMLPro930PSに送られてこなければ、そのジョブのMLPro930PSへの送付が終了したとみなすことがあります。ジョブの送付終了を判断するこの時間間隔（タイムアウト）をこのオプションで指定します。タイムアウトまでは、MLPro930PSはUSBポートからの新規のジョブは受け付けられませんが、ネットワーク経由の印刷ジョブは引き続き受け付けます。

EOFキャラクタの無視

はい/いいえ［いいえ］

このオプションは「USBポートを使用する」が「はい」の設定になっている場合にのみ表示されます。このオプションで、ファイルのend-of-file（EOF）を無効にするかどうか指定します。PostScriptファイルがバイナリ（ASCIIではない）のときは必ず「はい」を選択する必要がありますが、通常の使用では、「いいえ」を選択してください。このオプションが「はい」になっていると、MLPro930PSはEOFを判断するのにポートのタイムアウト値を使用します。

MACアドレスフィルタ

ネットワーク設定 ▶
ポート設定 ▶
イーサネット設定 ▶
MACアドレスフィルタ ▶

デフォルトでは、MLPro930PSはすべてのパケットの受信を許可しています。アクセスをコントロールするには、最大100までのMACアドレスを指定し、それらのアドレスからのパケットを制御するように設定できます。

フィルタ使用

はい/いいえ［いいえ］

「はい」を選択すると、続くメニューで承認する、または承認しないMACアドレスの指定を行うことができます。

AppleTalkの印刷を行う場合、クライアントPCとAppleTalkゾーンを管理しているSeed Routerの MACアドレスを「許可」に設定する必要があります。

フィルタポリシー

許可/拒否[許可]

「許可」を選択すると、フィルタに登録されたMACアドレスからのパケットが許可されます。フィルタに登録されていないMACアドレスからのパケットは拒否されます。

「許可」を選択すると、フィルタに登録されたMACアドレスからのパケットが拒否されます。フィルタに登録されていないMACアドレスからのパケットは許可されます。

MACアドレスフィルタ

フィルタの追加/フィルタの削除/フィルタの編集

オペレーションを選択します。

フィルタ追加

［00000000001 - FFFFFFFFFFFE］

通信を承認するフィルタを設定したいMACアドレスを入力します。最大で100までのMACアドレスが指定できます。

無効なMACアドレスを入力した場合は、入力は拒否されます。同じMACアドレスを複数回入力した場合も同様に、2回目の入力は無効になります。

フィルタ削除

フィルタリスト

フィルタリストからMACアドレスを選択し、ひとつひとつ削除できます。

フィルタ編集

フィルタリスト

フィルタリストからMACアドレスを選択し、MACアドレスを変更/編集できます。

802.1x設定

ネットワーク設定 ▶
　ポート設定 ▶
　　802.1x設定 ▶

MLPro930PSは、802.1xを使用してRADIUSサーバなどから認証を取得できます。この認証は、MLPro930PSの起動時や、ネットワークケーブルが切断されたあと再接続されたときに実行されます。認証取得後、MLPro930PSはネットワークにアクセスできるようになります。

IEEE802.1x認証を使用

はい/いいえ[いいえ]

ネットワーク接続時にMLPro930PSが802.1x認証サーバからの認証を受けるかどうかを指定します。

EAPタイプ

MD5-Challenge 保護されたEAP(PEAP) [MD5-Challenge]

EAP（PPP Extensible Authentication Protocol: PPP拡張認証プロトコル）タイプを選択します。

ユーザ名 および パスワード

MLPro930PSが802.1x認証サーバに認証を要求する際に使用するユーザ名およびパスワードを入力します。

プロトコル設定

MLPro930PS「設定」では、プロトコルを選択し、各プロトコルごとの設定を行う必要があります。AppleTalk、TCP/IP通信は同時に使用可能です。

AppleTalk 設定

ネットワーク設定 ▶
プロトコル設定 ▶
AppleTalk 設定 ▶

AppleTalk 使用

はい / いいえ ［はい］

MLPro930PS を AppleTalk ネットワークに接続する場合に、「はい」を選択します。この設定により AppleTalk ネットワーク上で MLPro930PS が使用可能になります。

AppleTalk ゾーン

［ゾーンの一覧］

MLPro930PS はネットワークをサーチして AppleTalk ゾーン情報を得ます。ゾーンの一覧をスクロールして MLPro930PS が所属する AppleTalk ゾーンを選択してください。ゾーンが 1 つしかない場合は、MLPro930PS はその ゾーンに割り当てられます。

「AppleTalk ゾーンが見つかりません」という警告は、ネットワークにゾーンがないか、ネットワークケーブルが接続されていない場合に表示されます。この警告が表示されたら「OK」を選択してください。

IPv4 設定

MLPro930PS を TCP/IP で設定する場合、IPv4 設定を選択します。IPv6 を使用するかどうかも設定できます。

IPv6 を使用する際には、まず、最初に必ず IPv4 設定を実行してください。

IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスは、MLPro930PS が自動的に DHCP または BOOTP サーバから取得するよう設定することもできます。この場合、MLPro930PS のスイッチを入れるか再起動し、「印刷できます」状態になるのを待ってください。ご使用のネットワークで DHCP または BOOTP サーバが動作しているのを確認し、「ネットワーク設定」を実行します。

イーサネット設定

ネットワーク設定 ▶
プロトコル設定 ▶
IPv4 設定 ▶
イーサネット設定 ▶

IP アドレス自動割当

はい / いいえ ［はい］

このオプションは、「イーサネット用に TCP/IP を使用する」で「はい」を選択した場合に表示されます。イーサネット用 IP アドレスを、MLPro930PS に自動的に割り当てる場合は、「はい」を選択します。MLPro930PS に固定 IP アドレスを割り当てたい場合は、「いいえ」を選択してください。

MLPro930PS の IP アドレスを確認するには、「設定情報」ページを印刷してください。
自動取得した IP アドレスは、後で自動的に変更される場合があります。 IP アドレスを一定に保持したい場合は、このオプションで「いいえ」を選択し、「 IP アドレス」でアドレスを入力してください。

プロトコル選択

DHCP/BOOTP[DHCP]

このオプションは「IP アドレス自動割当」オプションで「はい」を選んだ場合にだけ表示されます。MLPro930PS が IP アドレスを取得する際に使用するプロトコルを指定します。MLPro930PS は IP アドレスと同時にサブネットマスク、およびゲートウェイアドレスも取得できます。

ネットワーク設定によっては、MLPro930PS が再起動するごとに異なる IP アドレスがアサインされることがあります。また、DHCP を使用している場合、サーバを再起動しなくても IP アドレスが変更される場合があります。お使いのネットワーク環境にあわせて、MLPro930PS とネットワークを設定してください。

MLPro930PS では、DHCP オプション 81 がサポートされています。

自動ゲートウェイアドレス

はい / いいえ ［はい］

このオプションは、「IP アドレス自動割当」で「はい」が選択されている場合に表示されます。「はい」を選択すると、ゲートウェイ に IP アドレスが自動的に割り当てられます。「いいえ」を選択すると、「ゲートウェイアドレス」入力画面が表示されます。

IP アドレス

［192.168.100.100］

MLPro930PS のイーサネット用 IP アドレスを入力します。TCP/IP で印刷を行う場合は、MLPro930PS 独自の認可済み IP アドレスを付与する必要があります。

サブネットマスク

［255.255.255.0］

イーサネットを経由して TCP/IP で印刷するためのサブネットマスクを変更するときにこのオプションを使用します。IP アドレスを設定変更した場合は、適切なサブネットマスク値を設定してください。

サブネットマスクの設定に関しては、ネットワーク管理者に前もって確認してください。

ゲートウェイアドレス

［192.168.100.254］

TCP/IP で印刷するためにゲートウェイアドレスを設定する必要があるときにこのオプションを使用します。

- 使用しているネットワークにゲートウェイが存在している場合には、適切なゲートウェイアドレスを入力してください。
- 使用しているネットワークにゲートウェイが存在しない場合には、「127.0.0.1」を入力してください。
- ゲートウェイアドレスの設定に関しては、ネットワーク管理者に前もって確認してください。

DNS 設定

MLPro930PS を適切な DNS サーバにアクセスするよう設定できます。DNS サーバを使用することで、ユーティリティや WebTools を使用してリモートから MLPro930PS に接続する際に IP アドレスでなく MLPro930PS のサーバ名を使用して接続できるようになります。

DNS 設定

ネットワーク設定 ▶
　プロトコル設定 ▶
　　IPv4 設定 ▶
　　　DNS 設定 ▶

DNS 使用

はい / いいえ ［はい］

このオプションで「はい」を選択すると、MLPro930PS の DNS 機能が使用可能になり、DNS 名を IP アドレスに変換できるようになります。

DNS アドレス自動取得

はい / いいえ ［はい］

このオプションは、MLPro930PS の IP アドレス自動割当に「はい」が選択されている場合に表示されます。DNS サーバ情報を自動的に取得する場合は「はい」を選択し、「ホスト名」に進みます。「いいえ」を選択すると、「プライマリ DNS サーバアドレス」に進みます。

プライマリ DNS サーバアドレス

[127.0.0.1]

このオプションは、「DNS アドレスを自動取得」で「いいえ」を選択した場合にのみ表示されます。プライマリ DNS サーバのアドレスを入力します。

セカンダリ DNS サーバアドレス

[127.0.0.1]

このオプションは、「DNS アドレスを自動取得」で「いいえ」を選択した場合にのみ表示されます。セカンダリ DNS サーバのアドレスを入力します。

ドメイン名

DNS ドメイン名を入力します。

ホスト名

MLPro930PS の DNS ホスト名を入力します。

プリンタ操作部から DNS ホスト名を変更した場合、「サーバ設定」で設定したサーバ名および「Windows 設定」で設定したサーバ名も変更されます。

セキュリティ 設定

IP フィルタリングオプションを使用すると、特定の IP アドレスからの通信を承認または拒否し、これによりセキュリティを高めることができます。

また IP ポート設定では、ジョブの印刷やコントロールに不要なポートを使用不可に設定することで、MLPro930PS の負荷を減らしたり、セキュリティを高めることができます。

セキュリティ設定

ネットワーク設定 ▶
　プロトコル設定 ▶
　　TCP/IP 設定 ▶
　　　セキュリティ設定 ▶

IP フィルタリング

MLPro930PS と IP アドレス間の通信を制御することにより、MLPro930PS のセキュリティを高める機能です。各オプションを設定して、特定の IP アドレスからの通信を承認または拒否します。IP アドレスは、個々の IP アドレスを指定することもできますし、範囲を指定することもできます。初期設定では、すべての IP アドレスからの通信を承認します。

注 IP アドレスとして、0.0.0.0 または 255.255.255.255 は指定できません。

以下は、IP フィルタリングのオプションです。

IP フィルタ使用
はい / いいえ［いいえ］

「はい」を選択すると、続くメニューで承認または拒否する IP アドレスの指定を行うことができます。

デフォルトポリシー
許可 / 拒否［許可］

「許可」を選択すると、この設定で指定した以外の IP アドレスからの通信を承認します。指定以外の IP アドレスからの通信を拒否する場合には「拒否」を選択します。

フィルタ追加

IP アドレスまたは IP 範囲は、合計で 16 まで指定できます。

0.0.0.0 または 255.255.255.255 は指定できません。

フィルタ削除

通信を承認または拒否する IP アドレス、または IP 範囲を削除します。

フィルタ編集

通信を承認または拒否する IP アドレス、または IP 範囲を変更します。

IP フィルタタイプ

IP アドレス /IP 範囲 [IP アドレス]

「IP アドレス」を選択すると、通信を承認または拒否する IP アドレスを指定できます。「IP 範囲」を指定した場合には、IP アドレスを範囲で指定できます。

「IP アドレス」を選択した場合：

IP アドレス
0.0.0.0-255.255.255.255[0.0.0.0]
承認または拒否する相手先を、IP アドレスで指定します。

「IP 範囲」を選択した場合：

開始 IP アドレス
0.0.0.0-255.255.255.255[0.0.0.0]

終了 IP アドレス
0.0.0.0-255.255.255.255[0.0.0.0]
承認または拒否する相手先を、IP アドレスの範囲で指定します。

IP ポート設定

MLPro930PS のポートを使用可能にしたり、使用不可に設定します。ジョブの印刷または制御に不要なポートを使用不可に設定することで、MLPro930PS の負荷を減らしたり、セキュリティを高めることができます。

以下は、IP ポート設定のオプションです。ポート番号の右横に括弧付きで示されているのは、そのポートのサポートしているプロトコルです。 Y : 使用する / N : 使用しない

IP ポート設定

Y/N［N］

「はい」を選択すると、続くメニューで MLPro930PS のポートを使用可能にしたり、使用不可に設定することができます。各ポートの設定の右にある矢印ボタンを押して、それぞれ使用する、使用しないを設定します。画面に表示される設定内容を確認してください。

20-21（FTP）

Y /N［Y］

MLPro930PS の FTP ポートを使用する、使用しないを設定します。FTP 印刷を使用する場合には、「使用する」を指定してください。

80（HTTP）

Y /N［Y］

MLPro930PS の HTTP ポートを使用する、使用しないを設定します。Fiery WebTools および IPP 印刷を使用する場合、このポートは、使用可能に設定してください。

137-139（NetBIOS）

Y /N［Y］

MLPro930PS の NetBIOS ポートを使用する、使用しないを設定します。SMB 印刷を使用する場合、このポートを、使用可能に設定してください。

161-162（SNMP）

Y /N ［Y］

MLPro930PS の SNMP ポートを使用する、使用しないを設定します。Command WorkStation を使用する場合、このポートを、使用可能に設定してください。

443（SSL）

Y /N ［Y］

MLPro930PS の SSL ポートを使用する、使用しないを設定します。

このポートを使用不可に設定すると、TCP/IP での SNMP 通信は使用できなくなります。

445（SMB/IP）

Y /N ［Y］

MLPro930PS の SMB/IP ポートを使用する、使用しないを設定します。Windows 2000/XP/ Server 2003 で SMB 印刷を使用する場合は、このポートを使用可能にしてください。

515（LPD ）

Y /N ［Y］

MLPro930PS の LPD ポートを使用する、使用しないを設定します。UNIX からの印刷、Windows から LPD 印刷を使用する場合、および MLPro930PS ユーティリティ、WebTools を使用する場合は、このポートは使用可能に設定してください。

631（IPP）

Y /N ［N］

MLPro930PS の IPP ポートを使用する、使用しないを設定します。IPP 印刷を使用する場合、このポートは、使用可能に設定してください。

9100-03（ポート 9100）

Y /N ［Y］

MLPro930PS の 9100 ポートを使用する、使用しないを設定します。Windows 2000/XP および Windows Server 2003 からポート 9100 を使用して印刷する場合、このポートは、使用可能に設定してください。

EFI ポート

Y /N ［Y］

MLPro930PS の EFI ポート（8021-8022,9906 18021, 18081, 18090, 21030 および 22000）Command WorkStation を使用する場合、および Windows 対応プリンタドライバから双方向通信を使用する場合、このポートは、使用可能に設定してください。

ローカルポート

Y / N ［Y］

MLPro930PS のローカルポート（19541）を使用する、使用しないを設定します。

IPSec 設定

ネットワーク設定 ▶
　プロトコル設定 ▶
　　IPSec 設定 ▶

IPSec 使用
はい / いいえ［いいえ］

ユーザのコンピュータが IPSec をサポートしている場合、MLPro930PS で IPSec を有効に設定し、暗号化通信を実行できます。

事前共有鍵

事前共有鍵を設定してある場合、このオプションで入力できます。MLPro930PS へ送信される IPSec ジョブは、ここで入力された事前共有鍵が必要となります。

IPv6 設定

ネットワーク設定 ▶
　プロトコル設定 ▶
　　IPv6 設定 ▶

Ethernet に IPv6 を使用
はい / いいえ［はい］

イーサネットケーブルを経由して MLPro930PS を TCP/IP（IPv6）ネットワークに接続する場合は、「はい」を選択します。「はい」を選択すると、MLPro930PS はネットワークから IPv6 アドレスを取得します。

注 IPv6 を使用するには、IPv4 を先に使用可能に設定する必要があります。

サービス設定

「サービス設定」では TCP/IP ネットワーク用にオプションが用意されています。

LPD 設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　LPD 設定 ▶

LPD 使用
はい / いいえ［はい］

lpd 経由で印刷を行う場合は、「はい」を選択します。

デフォルト LPD キュー
印刷キュー / 待機キュー［印刷キュー］

lpd 印刷でのデフォルトキューを指定します。ユーザがプリンタドライバ設定でキューを指定しなかった場合、ここで設定したキューが使用されます。

Windows 設定

Windows 印刷設定では、以下に示す種類の文字が入力できます。
英大文字、数字、スペースおよび次の文字列
-_.˜@#$%^&( ) { } ¥ '

ネットワーク設定 ▶
サービス設定 ▶
LPD 設定 ▶

Windows 印刷使用

はい / いいえ ［はい］

このオプションで「はい」を選択すると、SMB が使用可能になります。SMB は、Windows 対応コンピュータ上でファイルやプリンタを共有可能にする Windows 内蔵プロトコルです。SMB を使用すると、Windows 対応コンピュータ上で MLPro930PS をジョブの送信先として表示することが可能となり、他のソフトウェアを使用することなしに Windows 対応コンピュータから MLPro930PS のプリント接続（印刷キュー、待機キュー、直接接続）に印刷ジョブを送信できます。

SMB 印刷用に Windows 対応コンピュータを設定する方法に関しては、「1 章 Windows からの印刷」を参照してください。SMB 印刷は TCP/IP を経由して行われますので、SMB 印刷に使用するすべてのクライアント PC と MLPro930PS 上で TCP/IP を構築してください。

自動設定使用

はい / いいえ ［いいえ］

このオプションは、MLPro930PS の IP アドレス自動割当にて「はい」が選択されている場合に表示されます。ネームサーバの IP アドレスを自動取得する場合は「はい」を選択し、「サーバ名」に進みます。「いいえ」を選択すると「WINS ネームサーバ使用」に進みます。「WINS ネームサーバ使用」で「はい」を選択後、IP アドレスを入力します。

WINS ネームサーバ使用

はい / いいえ ［はい］

SMB ネットワーク上でルーターを越えてブロードキャストを行うには、WINS ネームサーバが必要です。本書には、WINS ネームサーバ設定に関する説明は含まれていません。ネットワーク上でのネームサーバ構築状況に関しては、ネットワーク管理者に連絡してください。

WINS サーバ IP アドレス

［127.0.0.1］

このオプションは、「WINS ネームサーバ使用」で「はい」を選択した場合にのみ表示されます。WINS ネームサーバの正しい IP アドレスを入力してください。IP アドレスはネットワーク管理者から取得してください。

サーバ名

［デフォルトサーバ名］

［デフォルトサーバ名］には、「サーバ設定」で指定した名前が表示されます。SMB ネットワーク上で MLPro930PS をアクセスするには、このサーバ名を指定します（98 ページ参照）。

注 プリンタ操作部から WINS サーバ名を変更すると、「サーバ設定」で設定したサーバ名および DNS ホスト名も変更されます。

サーバコメント

サーバコメントには、プリンタに関する情報などを最大 15 文字まで入力できます。

ドメイン名設定

一覧から選択 / ドメイン名を入力 [一覧から選択]

ドメインまたはワークグループの指定方法を選択します。「一覧から選択」を選択すると、MLPro930PS は使用可能なドメインまたはワークグループ名を検索します。「ドメイン名を入力」を選択した場合は、使用するドメインまたはワークグループ名を入力します。

ドメイン名選択

このオプションは、「ドメイン名設定」で「一覧から選択」を選択した場合に表示されます。検索結果の中から、ドメインまたはワークグループ名を指定します。

ワークグループ / ドメイン

このオプションは、「ドメイン設定」で「ドメイン名を入力」を選択した場合に表示されます。MLPro930PS のワークグループまたはドメイン名を入力します。

Web サービス設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　Web サービス設定 ▶

Web サービス使用

はい / いいえ [はい]

TCP/IP が MLPro930PS およびクライアント PC で使用可能で、ユーザに WebTools を開放したい場合は、「はい」を選びます。WebTools を使用するには、クライアント PC 側では Java 対応 Web ブラウザと IP アドレスが必要です。

IPP 設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　IPP 設定 ▶

IPP 使用

はい / いいえ [いいえ]

IPP（Internet Printing Protocol）印刷を使用する場合は、「はい」を選択します。このオプションを設定するには、「Web サービス設定」の「Web サービスを使用する」で「はい」を選択する必要があります。IPP 印刷用にクライアントコンピュータを設定する手順については、「Windows からの印刷」を参照してください。

ポート 9100 設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　ポート 9100 設定 ▶

ポート 9100 使用

はい / いいえ ［はい］

Windows 2000/XP から標準 TCP/IP を使用して MLPro930PS に印刷する場合、このオプションで「はい」を選択します。

ポート 9100 キュー

直接接続 / 印刷キュー / 待機キュー ［印刷キュー］

ポート 9100 を使用する場合の MLPro930PS 接続を指定します。プリンタ設定で有効にしたキューのみが使用できます。

E メール設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　E メール設定 ▶

メールサービス使用

はい / いいえ ［いいえ］

「はい」を選択すると、MLPro930PS が提供する E メールサービスが使用可能になります。PS、PDF、TIFF ファイルを E メールで送信できます。同時に、「ページの印刷」機能メニューから「E メールログ」を印刷して、サービスの使用状況が確認できるようになります。「設定の復帰」を指定すると、以前の設定に復帰します。

以下のメニューは、「メールサービス使用」で、「はい」を選択した場合にだけ表示されます。「いいえ」を選択した場合、「サービス設定」画面に戻ります。

メール印刷使用

はい / いいえ ［いいえ］

メール印刷を使用する場合、「はい」を選択します。

デフォルト E メールキュー

印刷キュー / 待機キュー ［印刷キュー］

E メール印刷をする際のデフォルトキューを設定します。ユーザが E メール印刷時にキューを指定しなかった場合、ここで指定したキューに印刷されます。

送信サーバ

［　　　　］

ネットワーク内のインターネットメール送信サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。送信サーバの DNS 名として使用可能な最大文字数は 78 文字です。

受信サーバ

[ ]

ネットワーク内のインターネットメール受信サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。
受信サーバの DNS 名として使用可能な最大文字数は 78 文字です。

サーバタイプ

POP3/IMAP[POP3]

受信メールサーバのサーバタイプを入力します。

Use POP before SMTP

はい / いいえ［いいえ］

SMTP で情報を送る前に POP サーバにログを残す場合「はい」を選択します。

Fiery E メール

[ ]

MLPro930PS の E メールアドレスを入力します。

アカウント名

メールサーバで指定されているメールボックス名を入力します。この名前により、クライアントメールサービスは、メール中どれが MLPro930PS の E メールサービス宛ての E メールであるかを判断します。これは、ネットワークで使用される内部名であり、ユーザ名と同じである必要はありません。

アカウント名として使用可能な最大文字数は 78 文字、使用可能な文字は、0-9、A-Z、!、#、$、%、&、'、*、+、-、/、=、?、^、_、`、{、¦、} です。アカウント名として、79 文字以上の文字列、または記載以外の文字を使用することは避けてください。

パスワード

E メールアカウントのパスワードを入力します。最大で 16 文字までの長さのパスワードを入力できます。

管理者 E メールアドレス

[ ]

管理者の E メールアドレスを入力します。

タイムアウト（秒）

30-300[30]

MLPro930PS が E メールサーバと接続する際のタイムアウトまでの時間を秒単位で入力します。

ポーリング間隔（秒）

5-3600[300]

MLPro930PS が自動的に E メールサーバに新規 E メールサービスメッセージを取得に行く間隔を秒単位で指定できます。

FTP 設定

FTP 設定メニューには、FTP 印刷の設定項目があります。

FTP 印刷は、FTP プロトコルをサポートする OS、たとえば Windows、MacOS、UNIX、Linux などでサポートされます。MLPro930PS は RFC959 に既定されている条件をすべて満たしているわけではありませんが、FTP 印刷実行時には RFC959 準拠の FTP サーバと同等に機能します。

FTP 受信

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　FTP 設定 ▶
　　　FTP 受信 ▶

FTP 受信可能

はい / いいえ [いいえ]

MLPro930PS で FTP 印刷を行う場合には「はい」を選択します。

タイムアウト

30-300[30]

MLPro930PS がプロキシサーバに接続するとき、一定時間以内にサーバに接続できない場合には処理を中止します。接続を中止するまでの時間間隔（タイムアウト）をこのオプションで指定します。

デフォルト FTP キュー

印刷キュー / 待機キュー [印刷キュー]

FTP 印刷をする際のデフォルトキューを設定します。ユーザが FTP 印刷時にキューを指定しなかった場合、ここで指定したキューに印刷されます。

SNMP 設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　SNMP 設定 ▶

SNMP 設定ではネットワークに接続されているデバイスの管理を行うかどうかを設定します。MLPro930PS ではユーティリティを使用するユーザの種類とセキュリティレベルを設定することで、各ユーザの権限を限定し、デバイス管理において必要なセキュリティを向上させることができます。

ユーザには以下の種類があります。

- SNMP バージョン 1 でアクセスするユーザ
- SNMP バージョン 3 でアクセスする非セキュアユーザ
- SNMP バージョン 3 でアクセスするセキュアユーザ

各ユーザは使用するユーティリティに合うセキュリティレベルを設定します。

SNMP 使用

はい / いいえ［はい］

「はい」を選択すると、IP 接続で SNMP サービスが使用可能になります。

SNMP をデフォルトに復帰

はい / いいえ［いいえ］

SNMP 設定を出荷時の初期設定に復帰させるときに、「はい」を選択します。

SNMP 設定変更

はい / いいえ［いいえ］

SNMP 情報を変更するときに、「はい」を選択します。

セキュリティレベル

最小 / 中 / 最高［中］

MLPro930PS で提供されるセキュリティレベルを選択します。
次の表は、ここで設定するアクセスレベルによるアクセス可能ユーザを表しています。使用するユーティリティによっては、ここで指定するセキュリティレベルを「最小」（SNMP バージョン 1 相当）にする必要があります。

各セキュリティレベルでのアクセス権は表の通りです。

ユーザのセキュリティレベル	アクセス	最小	中	最高
SNMP バージョン 1 ユーザ	読み込み	可能	可能	不可
	書き込み	可能	不可	不可
SNMP バージョン v.3 非セキュアユーザ	読み込み	可能	可能	不可
	書き込み	不可	不可	不可
SNMP バージョン v.3 セキュアユーザ	読み込み	可能	可能	可能
	書き込み	可能	可能	可能

SNMP バージョン 1 で書き込みを行うユーティリティを使用する場合は、セキュリティレベルを「最小」にする必要があります。

読み込みコミュニティ名

[public]

このオプションは、セキュリティレベルが「中」または「最小」の場合に限り表示されます。このオプションでは、SNMP 読み取りコミュニティ名「public」を変更することで、MLPro930PS のセキュリティを高めることができます。32 バイトまでの英数字とスペースをコミュニティ名として入力します。

書き込みコミュニティ名

[public]

このオプションは､｢SNMP 使用｣で「はい」を選択した場合に限り表示されます。このオプションでは、SNMP の書き込み（Write）コミュニティ名を変更することで、MLPro930PS のセキュリティを高めることができます。32 バイトまでの英数字とスペースをコミュニティ名として入力します。

上記のオプションでは、コミュニティ名として名前の最初と最後にスペースを入力すると、そのスペースは自動的に削除されます。SNMP コミュニティ名として使用できない文字が入力された場合、または何も入力されなかった場合、デフォルト値である「public」が SNMP コミュニティ名として使用されます。スペースのみで構成されるコミュニティ名は無効となります。

非セキュアユーザ名

[initial]

SNMP バージョン 3 ユーザのうち、認証および暗号化を使用しないユーザ名を指定します。ただし、セキュリティレベルに関わらず書き込み権限はありません。

セキュアユーザ名

[admin]

認証および暗号化を用いるユーザのユーザ名を指定します。

認証タイプ

MD5 / SHA [MD5]

認証方式を指定します。

認証パスワード

セキュアユーザ名を使用して MIB 値を読み込むときの認証用パスワードを入力します。

プライバシータイプ

なし /DES [DES]

暗号化アルゴリズムのタイプを指定します。

プライバシーパスワード

パスワードを入力します。

LDAP 設定

ネットワーク設定 ▶
サービス設定 ▶
LDAP 設定 ▶

MLPro930PS は、次の LDAP サーバをサポートします：

- Lotus Domino 5.0.6a 以降
- NetWare 5.x 以降
- Microsoft Active Directory がロードされた Windows 2000/Server 2003

LDAP 使用

はい / いいえ [いいえ]

MLPro930PS において、LDAP サーバを使用する場合には、「はい」を選択します。

サーバ名 /IP アドレス

LDAP サーバのサーバ名または IP アドレスを設定します。

セキュア通信

なし / SSL/TLS[なし]

認証方式を選択します。認定済み認証方式を使用したい場合には、TLS か SSL を選択してください。

ポート

1-65535 [389(なしを選択した場合)]、[636(SSL/ を選択した場合)]

LDAP で使用するポート番号を設定します。デフォルト値は、「セキュア通信」オプションで「なし」を選択した場合は「389」、「SSL/TLS」を選択した場合は「636」になります。

認証が必要ですか ?

はい / いいえ [いいえ]

LDAP サーバにアクセスするごとに、ユーザ認証を行うかどうかを選択します。「はい」を選択した場合、ユーザ名、パスワード、ドメインの入力を求められます。

MLPro930PS は次の認証形式をサポートしています：

- Simple（Simple:Lotus Domino および NetWare）
- GSSAPI（Windows 2000/2003）

GSSAPI を使用する場合には、次に注意してください：

- Reverse DNS Lookup をサポートした DNS サーバがネットワーク内に必要です。
- DNS サーバに LDAP サーバの IP アドレスが登録されている必要があります。
- LDAP サーバと MLPro930PS のシステムタイムのずれは、5 分以内でなければなりません。
- LDAP サーバの IP アドレスとホスト名は、DNS サーバに登録されている必要があります。

次の情報については、ネットワーク管理者に尋ねてください。

認証選択
自動 /Simple/GSSAPI[自動]
認証形式を選択します。

ユーザ名

このオプションは、認証形式が Simple か GSSAPI の場合に必要となります。LDAP サーバ認証時に使用されるユーザ名を設定します。

パスワード

このオプションは、認証形式が Simple か GSSAPI の場合に必要となります。LDAP サーバ認証時に使用されるパスワードを設定します。GSSAPI 認証の場合、パスワードは暗号化されてネットワークに送信されます。

ドメイン

このオプションは、認証形式が GSSAPI の場合に必要となります。LDAP サーバ認証時に使用されるドメイン名を設定します。

サーチベース

LDAP サーバを検索するためのスクリプトプロンプトを設定します。MLPro930PS は、ディレクトリ内でここで指定された範囲を検索します。

最大許容エントリ数

1-100000[10000]

MLPro930PS が LDAP サーバから受け入れるグループおよびユーザの最大数を入力します。

タイムアウト

1-9999[60]

MLPro930PS が LDAP サーバに接続するとき、一定時間内に接続できない場合には処理を中止します。サービスへの接続を中止するまでの時間間隔 (タイムアウト) をこのオプションで指定します。

SNTP 設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
　　SNTP 設定 ▶

使用する SNTP サーバを特定するために、STNTP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力するか、または一覧から選択できます。

SNTP 使用

はい / いいえ [いいえ]

NTP または SNTP サーバとの時刻同期を行う SNTP 設定機能を使用する場合は、「はい」を選択します。「いいえ」を選択した場合、手動で MLPro930PS システムの日時を設定します（98 ページ参照）。

タイムサーバ

IP アドレス入力 / 一覧から選択 /DNS 名入力 [一覧から選択]

SNTP サーバを選択します。

タイムサーバ一覧

全世界 / アジア / ヨーロッパ / オセアニア / 北米 [全世界]

MLPro930PS が時刻同期を行う NTP または SNTP サーバを指定します。

タイムサーバ IP アドレス

[127.0.0.1]

NTP または SNTP サーバの IP アドレスを入力します。

タイムサーバ DNS 名

[サーバ名]

NTP または SNTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を設定します。ホスト名は最長 255 文字まで入力できます。

ポーリング間隔

8 時間ごと / 毎日 / 毎週 [8 時間ごと]

MLPro930PS が自動的に NTP または SNTP サーバに時刻同期を行う間隔を指定します。

プロキシ設定

ネットワーク設定 ▶
　サービス設定 ▶
プロキシ設定 ▶

プロキシ使用

はい / いいえ [はい]

プロキシサーバを使用する場合、「はい」を選択します。

プロキシ IP アドレス

［127.0.0.1］

プロキシサーバの IP アドレスを入力します。

プロキシポート番号

1-65535［21］

プロキシサーバと MLPro930PS の間で使用するポート番号を入力します。

プロキシタイムアウト

1-999［30］

プロキシサーバとの通信タイムアウト値を設定します。

プロキシサーバユーザ名

[　　　]

プロキシサーバにアクセスする場合のユーザ名を入力します。

プロキシパスワード

[　　　　]

プロキシサーバにアクセスする場合のパスワードを入力します。

Bonjour 設定

ネットワーク設定 ▶
サービス設定 ▶
Bonjour 設定 ▶

Bonjour とは、ネットワーク上でのプリントサーバの設定、インストール、追加、または削除を行った場合、自動的にプリントサーバが認識されるようにする Apple 社の技術です。これにより、Bonjour 機能をサポートしたクライアント PC は Bonjour を有効にしたプリントサーバを自動的に検出し、印刷用に接続できるようになります。

Bonjour 使用

はい / いいえ [はい]

Bonjour を使用するかどうかを選択します。

Bonjour サービス名

[デフォルトサービス名]

Bonjour サービスで使用するサービス名を指定します。Bonjour プロトコル経由で検索する際に、このサービス名が表示されます。

使用する印刷プロトコル

LPD / ポート 9100 / IPP [LPD]

Bonjour サービスで使用するデフォルトの印刷用プロトコルを選択します。MLPro930PS で使用可能に設定したプロトコルだけが表示されます。

Bonjour を使用して印刷されたジョブは、プロトコルで指定されているデフォルト接続に送信されます。例えば、LPD を選択した場合、LPD ジョブのデフォルト接続として指定したキュー（56 頁参照）にジョブが送信されます。デフォルトのキューを設定できない場合（IPP の場合など）は、「印刷キュー」が使用されます。

変更の保存

はい / いいえ ［はい］

「ネットワーク設定」画面で「設定終了」を選択すると表示されます。変更を保存する場合は「はい」を選択します。保存しない場合は、「いいえ」を選択するとメイン「設定」メニューに戻ります。

プリント接続

MLPro930PS「プリンタ設定」では、ネットワーク上のユーザに開放するプリント接続方式を指定します。プリント接続方式を指定することにより、MLPro930PS が印刷ジョブを管理する方法を決めることができます。MLPro930PS は、開放されているプリント接続すべてを常にチェックし、印刷ジョブの有無を確認します。ユーザに使用させたくない接続方式は開放しないでください。

MLPro930PS は直接接続とキュー接続（印刷キューと待機キュー）の 2 種類の接続方式を提供しています。ユーザは開放されているプリント接続のみで印刷可能です。

直接接続

印刷ジョブは、MLPro930PS が「使用可能」状態の時のみ MLPro930PS の直接接続へ送られます。MLPro930PS が「使用可能」でない場合は、「使用可能」になるまでジョブは送信元のクライアント PC に留まり、先行ジョブの処理が終わり次第、キュー内のジョブより先に処理されます。

直接接続のジョブは MLPro930PS のハードディスクには保存されません。Command WorkStation には現行ジョブとして表示されますが、再印刷、移動、削除などの操作を行うために選択することはできません。このため重要なファイルを保護するのに適しています。MLPro930PS にフォントをダウンロードする場合は、直接接続が必要です。

キュー

キューは、MLPro930PS のハードディスク上で印刷ジョブを保存しておく場所です。MLPro930PS に多数のジョブが送信された時などの使用に適しています。キューに送られたジョブは、MLPro930PS のハードディスクに保存されるので、クライアント PC のハードディスク領域はすぐに解放されます。

システム管理者やオペレータは、Command WorkStation を使用して、キューに送信されたジョブの印刷順変更、削除、キュー間でのジョブの移動、コピーを行い、印刷ジョブを操作、管理します。

MLPro930PS のハードディスクは 3 種類のキュー（印刷、待機、印刷済み）をサポートします。ユーザはこのうち 2 種類（印刷、待機）を指定して印刷が可能です。

- 印刷キュー ー 標準の MLPro930PS キューです。MLPro930PS は印刷キュー内のジョブを到着順に印刷します。 Fiery ユーティリティを使用する場合は、印刷キューを開放しておく必要があります。

- 待機キュー ー 待機キューは、後で印刷するジョブや繰り返し印刷するジョブを保存しておくためのキューです。

  待機キュー内のジョブを管理、印刷するには、システム管理者やオペレータの介入が必要です。待機キューに送信されたジョブを印刷するためには、Command WorkStation を使用してジョブを待機キューから印刷キューに移動、コピーする必要があります。

  Fiery ユーティリティを使用するには、待機キューを開放する必要があります。

- 印刷済みキュー ー 印刷済みキューは MLPro930PS ディスク上に作成されます。このキューには印刷キューから印刷されたジョブが入ります。このキューがあると、印刷したジョブを再印刷する場合に便利です。「サーバ設定」オプションでこのキューを使用可能にしたり、このキューに保存可能なジョブの最大数を指定します（99 ページ参照）。このキュー内のジョブを再印刷するためには Command WorkStation が必要です。

プリンタ設定

「プリンタ設定」ではプリント接続方式や使用するプリントデバイスの特性を設定します。

メイン「設定」メニュー画面で「プリンタ設定」を選択します。

「プリンタ設定」では次の設定を行います。設定後、変更を保存します。

- 直接接続、印刷キュー（必要な場合）、および待機キューの開放

以下の説明で、[　]内はデフォルト値です。

直接接続

はい / いいえ［はい］

直接接続を開放すると、ユーザは MLPro930PSのキューを迂回して直接 、ジョブを印刷(またはダウンロード) できるようになります。直接接続で印刷されたジョブは印刷済みキューには保存されません。

MLPro930PS システムにフォントをダウンロードする場合は、「直接接続」で「はい」を選択しておく必要があります。直接接続による印刷をユーザに行わせたくない場合は「いいえ」を選択してください。

印刷キュー

はい / いいえ［はい］

印刷キューを開放すると、ユーザは MLPro930PS の印刷キューにジョブを送信（またはダウンロード）できるようになります。印刷キューに送られたジョブは MLPro930PS のハードディスク上に到着順にスプールされます。このオプションで「はい」を選択した場合にのみ、ユーザは印刷キューを使用することができます。

待機キュー

はい / いいえ［はい］

待機キューを開放すると、ユーザは MLPro930PS の待機キューにジョブを送信（またはダウンロード）できるようになります。待機キュー内のジョブを印刷するには、Command WorkStation で、ジョブを待機キューから印刷キューに移動、コピーする必要があります。

パーソナリティ

自動 / PCL / Post Script［自動］

PDL を切り替える方針について設定する。

PDF XObjects 使用

オン / オフ［オン］

PDF 1.6 でサポートされる XObject を使用した最適化を行うかどうかを選択します。「オン」を選択すると、PDF ファイル内の画像データがキャッシュされ、キャッシュされた画像は毎回 RIP 処理する必要がなくなります。

部数

1-999［1］

印刷部数を入力します。

両面印刷

オン / オフ [オン]

両面印刷機能を有効にする場合、「オン」を設定します。

出力ビン

フェイスアップ / フェイスダウン　[フェイスダウン]

ジョブオフセット

オン / オフ [オン]

解像度

600dpi /1200x600 dpi /1200x1200dpi [1200x600dpi]

印刷解像度を選択します。

用紙チェック

はい / いいえ [はい]

用紙チェック機能を有効にする場合、「はい」を設定します。

OHP 検出

自動 / いいえ [自動]

OHP の自動検出機能を有効にする場合、「自動」を設定します。

トナーセーブモード

オン / オフ [オフ]

トナーセーブ機能を有効にする場合、「オン」を設定します。

モノクロ印刷速度

自動 / カラー印刷速度 / 普通印刷速度 [自動]

モノクロ印刷時に印刷速度の切り替えを設定します。

ピーク電力制御

普通 / ロー [普通]

ピーク電力時の制御方法を指定します。

パワーセーブ

はい / いいえ [はい]

パワーセーブ機能を有効にする場合、「はい」を設定します。

ニアライフ時の LED

はい / いいえ [はい]

消耗品のニアライブ時に LED を点灯させる機能を有効にする場合、「はい」を設定します。

結露制御

オン / オフ　[オフ]

結露制御機能を有効にする場合、「オン」を設定します。

変更の保存

はい / いいえ ［はい］

「プリンタ設定」での変更を有効にするときは「はい」を選択します。変更を反映させずにメイン「設定」メニューに戻るときは「いいえ」を選択してください。

USB 設定

USB ポート使用

はい / いいえ ［はい］

USB ポートの有効にする場合、「はい」を設定します。

ポートのタイムアウト

5-300［5］

USB ポートのタイムアウト値を入力します。

EOF キャラクタの無限

はい / いいえ ［はい］

EOF キャラクターを印刷データとして処理する場合、「はい」を設定します。

USB 接続

直接キュー / 印刷キュー / 待機キュー ［印刷キュー］

USB ポート使用時のキューを設定します。

シリアル番号

はい / いいえ ［いいえ］

プリンタのシリアル番号を返す機能の有効 / 無効を設定します。

PS 設定

「PS 設定」では、MLPro930PS の PostScript プリントオプションのデフォルト値を設定します。アプリケーションでプリンタのオプションを指定、変更できないシステムを使用している場合は、ここでデフォルト値を指定できます（たとえば、UNIX、DOS コマンド行、PostScript レベル 1 プリンタドライバを使用するシステム、など）。詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

PS 設定を実行するには、「設定」メニューをスクロールして「PS 設定」を選びます。
下記のオプションを設定し、最後に変更を保存します。

マスター印刷

いいえ / はい ［いいえ］

FreeForm でのマスター作成時、マスターを自動印刷するかを指定します。

「はい」を選択すると、FreeForm でのマスター作成時にマスターは自動的に印刷処理され、待機キューに保持された後、参照用に印刷されます。マスターファイルは削除されない限り印刷後も MLPro930PS のハードディスク上に保存されます。「いいえ」を選択すると、マスターは待機キューに保持されますが、印刷はされません。

中ゴシック BBB に置換（MLPro930PS-E モデルでは「平成角ゴシックに置換」）

はい / いいえ ［はい］

指定フォントが利用可能でない場合に、印刷可能なフォントで代替するかを指定します。アプリケーションによっては「いいえ」が選択されると、MLPro930PS ハードディスクまたはジョブを送ったクライアント PC 上で使用可能ではないフォントを使用しているジョブは PostScript エラーとなり、印刷されません。

PDF ファイルを印刷する場合、フォントの置換は自動的に行われます。

PS エラー発生まで印刷

いいえ / はい ［いいえ］

印刷ジョブ RIP 中に PostScript エラーが発生した際、RIP 中のページとエラーの内容を印刷するかどうかを指定します。「はい」を選択すると、エラー発生以前に RIP 処理された分とエラーの内容が印刷されます。印刷時に問題が発生したときには、このオプションを「はい」に設定して印刷してください。「いいえ」を選択すると、RIP 中のページとエラーの内容は印刷されませんが、RIP 済みのページは印刷されます。

用紙サイズにあわせる

オン / オフ ［オフ］

印刷したいジョブのサイズが用紙サイズと異なる場合、このオプションを選択することで用紙サイズに合わせてジョブのサイズを自動的に変更して印刷できるようになります。

用紙変更

いいえ　8.5x11/ 11x17 -> A4/A3　A4/A3 -> 8.5x11/ 11x17［いいえ］

用紙サイズをデフォルト設定の用紙サイズに自動的に変更するかどうかを指定します。たとえば、「A4/A3 -> Letter/ 11x17」を選択した場合、A4 の書類はレターサイズの用紙に自動的に印刷されます。「いいえ」を選択すると、指定したサイズの用紙がセットされている場合にのみ印刷が行われます。

デフォルト用紙サイズ

アメリカ式 / 日本式［日本式］

デフォルト設定の用紙サイズを日本式（例：A4、B4、A3）にするか、アメリカ式（例：レター、リーガル、タブロイド）にするかを指定します。PostScript ファイルで用紙サイズが指定されていないと、「日本式」が選択されている場合には A4 サイズが、「アメリカ式」の場合にはレターサイズが適用されます。また、インターネットファクスで受信した E メールと画像が印刷される場合にも、このオプションで「日本式」が選択されていれば A4 サイズが、「アメリカ式」であればレターサイズが適用されます。

カバーページを印刷

いいえ / はい［いいえ］

ジョブの印刷終了ごとにカバーページ（ジョブ情報）を印刷するかどうかを指定します。

「はい」を選択すると、印刷ジョブに続いて 1 枚の追加ページが印刷されます。ジョブの送信者、書類名、プリンタ名、ジョブの印刷日時、ページ数、印刷結果、用紙サイズが印字されます。

PostScript エラーが発生した場合は、「PS エラー発生まで印刷」オプションが「はい」に設定されていれば「結果」欄にエラーメッセージが表示されます。

変更の保存

はい / いいえ［はい］

「PS 設定」での変更を有効にするときは「はい」を選択します。変更を反映させずにメイン「設定」メニューに戻るときは「いいえ」を選択してください。

PCL 設定

CR を LF に付加

オン / オフ［オフ］

ラインフィード記号にキャリッジリターン記号を付加する場合、「オン」を設定します。

LF を CR に付加

オン / オフ［オフ］

キャリッジリターン記号にラインフィード記号を付加する場合、「オン」を設定します。

デフォルト方向

ポートレイト / ライドスケープ［ポートレイト］

デフォルトの用紙方向を設定します。

フォントソース

内蔵 / ソフトフォント［内蔵］

内蔵フォントとソフトフォントのどちらを優先して使用するかを設定します。

用紙の長さ

5-128［64］

1 ページ毎に印刷する行数を入力します。

フォント番号

0-999［0］

PCL フォント番号を入力します。

フォントピッチ

0.44-99.99［10］

フォントピッチを入力します。

フォントサイズ

4-999.75［12］

フォントサイズを入力します。

記号セット

ASCII ～ PC 8 ～※［PC_8］

使用する記号セットを設定します。記号セットの種類はユーザーズマニュアル（プリンタ機能編）付録　操作パネルのメニュー一覧を参照ください。

ページサイズ

11 × 17/ リーガル / エグゼクティブ /A4/A3/B4/A5［A4］

デフォルトの用紙サイズを設定します。

システムページサイズ

アメリカ式 / 日本式［日本式］

システムページサイズを設定します。

A4 印字幅

78/79/80［78］

A4 用紙サイズに印刷可能な桁数を設定します。

PCL エラーの印刷

はい / いいえ［いいえ］

PCL のエラーエラーレオポートを印刷する場合、「はい」を設定します。

変更の保存

はい / いいえ［はい］

「PCL 設定」で変更を有効にするときは、「はい」を選択します。変更を反映させずにメイン「設定」メニューに戻るときは「いいえ」を選択してください。

カラー設定

「カラー設定」ではカラー管理用オプションのデフォルト値を設定します。Mac OS や Windows から CD1 ソフトウェア CD 提供のプリンタドライバを使用して印刷する場合にはジョブごとにオプションを変更することができます。アプリケーションでプリンタのオプションを指定、変更できないシステムを使用している場合は、ここでデフォルト値を指定します (たとえば、UNIX、DOS コマンド行、PostScript レベル 1 プリンタドライバを使用するシステム、など)。

「設定」メニューをスクロールして「カラー 設定」を選びます。
以下のオプションを設定し、最後に変更を保存します。

RGB ソースプロファイル

EFIRGB / sRGB（PC）/ Apple 標準 / ソース 1-10 / ECI-RGB / Adobe RGB（1998）/ Fiery RGB v5/ なし [Fiery RGB v5]

RGB ソースは、RGB データをプリントエンジンで出力可能な色の範囲に納まるよう変換する際に使用される色空間です。「EFIRGB」は MLPro930PS ので 印刷に最適な RGB ソース空間です。「sRGB（PC）」は一般の Windows 対応コンピュータモニタ用です。「Apple 標準」は、Apple の ColorSync 用の標準色空間です。デフォルトソース空間を指定しない場合は、「なし」を選択します。その他のRGB ソースプロファイルについて詳細は、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

カラーの表現

連続調 / ビジネスグラフィック / 絶対カラーメトリック / 相対カラーメトリック [ビジネスグラフィック]

デフォルト CRD（カラーの表現）を設定します。CRD は、RGB データをプリントエンジンで出力可能な色の範囲に納まるよう変換する際に使用します。「連続調」は 、カラー画像の全体的な調和感を維持するように相対的にカラー値を定めます。「ビジネスグラフィック」は、ビジネスプレゼンテーションなどで使用される明度および彩度の高いカラー出力用で、カラー画像を「連続調」と同様の方法で処理します。「絶対カラーメトリック」では、RGB データを最も近い CMYK カラーで出力します。その際、モニターと紙の色の差異を考慮します。彩度の低い画像を正確に表現したいときに有効です。「相対カラーメトリック」は同様に RGB カラーを最も近い CMYK カラーで出力しますが、モニターと紙の色の差異は考慮しません。

CMYK シミュレーションプロファイル

DIC（EFI）/ SWOP-Coated（EFI）/ Euroscale（EFI）/ISO Coated / ISO Uncoated / JMPA ver.2 (EFI) / Japan Color 2001 type 1(EFI)/ TOYO Offset Coated 2.0 / なし [DIC（EFI）]

MLPro930PS でオフセット印刷の校正を行う際のデフォルトシミュレーションターゲットを指定します。たとえば、「DIC（EFI）」を選択すると CMYK カラーが DIC 用に調整されます。デフォルトシミュレーションターゲットを指定しない場合は「なし」を選択します。「EuroScale（EFI）」はヨーロッパで、「SWOP-Coated（EFI）」は米国で印刷標準として使用されています。その他のプロファイルについて詳細は、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

Command WorkStation を使用して、MLPro930PS に読み込まれたカスタムシミュレーションがある場合は、この画面にオプションとして表示されます。カスタムシミュレーションは、デフォルトとして選択可能です。

CMYK シミュレーション方法

クイック / フル (ソース GCR)/ フル (出力 GCR) [フル (出力 GCR)]

CMYK シミュレーションの処理方法を指定します。

「クイック」シミュレーションでは 1 種類のトランスファー曲線を使用して、CMYK 各色の出力濃度のみを調整します。「フル(ソース)GCR」シミュレーションでは、色相調整用のカラーメトリック変換も行われるため、より正確なシミュレーションが適用されます。フル(ソース GCR)では、CMYK のうち K のみ完全に独立した色処理を行うため、K のみの文字やグラフィック等は K 単色で再現されます (墨版保持機能)。「フル(出力)GCR」シミュレーションでは、各カラーの出力濃度に加え、色相調整用のカラーメトリック変換が行われ、更に K 版情報がいったん CMY 版に組み込まれた後、出力プロファイルにより CMYK に分版されるので、一般的に「フル(ソース GCR)」より色再現精度が向上します。

RGB 色分解

出力 / シミュレーション [出力]

MLPro930PS での RGB データ取り扱いを指定します。プリンタ用 CMYK 色空間で色分解する場合は「出力」を、オフセット印刷用 CMYK 色空間で色分解する場合は「シミュレーション」を選択します。

用紙定義プロファイル

オン / オフ [オン]

デフォルトの出力プロファイル、または Command WorkStation を使用して、MLPro930PS に読み込まれた出力プロファイルから選択できます。出力プロファイルについての詳細は、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

出力プロファイル

デフォルトの出力プロファイル、または Command WorkStation を使用して、MLPro930PS に読み込まれた出力プロファイルから選択できます。出力プロファイルについての詳細は、「5 章 カラー印刷」を参照してください。

ブラックテキスト / グラフィック

純ブラック / リッチブラック / 普通 [純ブラック]

このオプションで「純ブラック」を選択すると、ブラックのテキストとグラフィックはブラックのトナーのみを使用して出力されます。「リッチブラック」を選択すると、ブラックトナーに加えてシアントナーを混ぜることで、よりつややかで深みのある黒色を表現します。

ブラックオーバープリント

オフ / テキスト / ﾃｷｽﾄ / ｸﾞﾗﾌｨｯｸ [テキスト / グラフィック]

このオプションを「テキスト」に設定すると、カラーの背景と黒のテキストの間に隙間や版ずれが生じないよう、テキストをオーバープリントします。「テキスト / グラフィック」に設定すると、カラーの背景と黒のテキストとグラフィックの間に隙間や版ずれが生じないよう、テキストとグラフィックをオーバープリントします。

スポットカラーマッチング

オン / オフ [オン]

「オン」を選択すると、印刷ジョブに指定したスポットカラーの色再現レベルが向上します。「オフ」に設定すると、MLPro930PS は、ファイル作成元のアプリケーションで設定された CMYK 値を使用して印刷を行います。

グレーをブラックのみで印刷する（RGB）
オフ /
テキスト / グラフィック /
テキスト / グラフィック / 画像［オフ］

このオプションでは、RGB ジョブ内のグレーを黒一色で印刷します。黒一色で印刷したい場合はオプションから選択します。

グレーをブラックのみで印刷する（CMYK）
オフ /
テキスト / グラフィック /
テキスト / グラフィック / 画像［テキスト / グラフィック / 画像］

このオプションでは、CMYK ジョブ内のグレーを黒一色で印刷します。黒一色で印刷したい場合はオプションから選択します。

CMY100% 濃度
オン / オフ［オフ］

CMY 色の印字濃度を 100%に設定する場合、「オン」を設定します。

変更の保存
はい / いいえ［はい］

「カラー設定」での変更を有効にするときは「はい」を選択します。変更を反映させずにメイン「設定」メニューに戻るときは「いいえ」を選択してください。

設定終了

設定変更を終了したときにメイン「設定」メニューから「設定終了」を選びます。MLPro930PS は再起動し、設定中に保存したすべての変更が有効となります。

「設定」メニュー内の管理機能

下記の管理機能は、印刷ジョブやカラー出力を管理するためのもので、印刷に不可欠というわけではありません。

- ジョブログ設定ー 印刷済みジョブのログを、自動的に印刷または消去するかどうかを指定します。詳細は、「ジョブログ設定」（137 ページ）を参照してください。
- パスワード変更ー MLPro930PS のシステム管理者用パスワードを設定できます。このパスワードにより一般ユーザによる MLPro930PS「設定」へのアクセスを制限できます。また、Command WorkStation の 一般ユーザ使用を制限できます。パスワードの設定方法については、「パスワードの設定」（136 ページ）を参照してください。
- サーバの初期化ー MLPro930PS の印刷キュー、待機キュー、および印刷済みキュー内の印刷ジョブをすべて消去します。また、ジョブログ、MLPro930PS のハードディスクにアーカイブされたすべてのジョブ、アーカイブジョブのインデックス、FreeForm マスター、FreeForm マスターのインデックスも同時に消去されます。詳細は、「サーバの初期化」（139 ページ）を参照してください。
- 出荷時のデフォルトー　MLPro930PS のキュー内の印刷ジョブをすべて消去します。また MLPro930PS の「設定」も出荷時の初期値に復帰します。詳細は、「出荷時のデフォルト」（139 ページ）を参照してください。

リモートクライアントからのMLPro930PS設定

プリンタの操作パネルで初期設定（サーバ設定、ネットワーク設定、プリンタ設定）を行った後は、リモートの Windows コンピュータから設定を参照 / 変更できます。設定を変更した後は、サーバの再起動を参照してください。

設定へのアクセス

Command WorkStation Windows Edition または WebTools の「設定（Configure）」を使用してリモートクライアントから実行します。

設定を実行するには、MLPro930PS のシステム管理者パスワードの入力が必要です。
リモート設定については、「設定（Configure）」のヘルプも参照してください。「設定（Configure）」のヘルプは、WebTools の「設定」タブから表示できます。

Command WorkStation から起動する「設定」と WebTools から起動する「設定（Configure）」は、同じものです。

設定オプションについて詳細は、「操作パネルからの MLPro930PS 設定」（95 ページ）を参照してください。

WebTools「設定（Configure）」へのアクセス

WebTools の「設定（Configure）」での MLPro930PS「設定」内容を有効にするには、設定終了後 MLPro930PS を再起動する必要があります。

WebTools「設定（Configure）」にアクセスするには：

1 インターネットブラウザを起動し、MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

WebPage 画面が表示されます。Web Page 画面で Web Tool ボタンを押下します。Web Tool 画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

現在の設定値が表示されます。

3 「Configure 起動」をクリックして、WebTools「設定」を起動します。

「警告 - セキュリティ画面」が表示されたら、「はい」をクリックします。

注 ログイン画面が表示されたら「システム管理者」としてログインし、パスワード入力後「OK」をクリックします。

4 変更が必要な設定項目を選択して、設定を実行します。

Command WorkStation での設定作業

Command WorkStation で「設定」内容を有効にするには、設定終了後 MLPro930PS を再起動する必要があります。

Command WorkStation で MLPro930PS「設定」作業を行うには：

1 Command WorkStation を起動します。

2 「システム管理者」としてログインします。

3 「サーバ」メニューで「Configure」を選択してください。

注 ログイン画面が表示されたら「システム管理者」としてログインし、パスワード入力後「OK」をクリックします。

メモ デバイスセンターから「一般」を、もしくは「ユーザー」から「Configure」を選択しても起動できます。

4 変更が必要な設定項目を選択して、設定を実行します。

各設定オプションに関しては、次項以降を参照してください。
各設定終了時には、「保存」をクリックしてください。

Configure での設定

Configure からの設定では、MLPro930PS オプションのうち設定できないものがあります。この場合、Configure でオプションが見つからない場合、プリンタ操作部からの設定を実行してください。

サーバの再起動

Command WorkStation または WebTools「設定（Configure)」で設定を変更した後は、変更を有効にするため MLPro930PS を再起動する必要があります。Command WorkStation のサーバーメニューで「サーバのリブート」をクリックすると、再起動確認のメッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。 WebTools「設定（Configure)」を使用している場合は、「リブート」をクリックしてください。

WebTools 設定

WebTools を使用すると、インターネットまたは社内イントラネットを経由して、MLPro930PS を管理できます。

WebTools の使用方法について詳細は、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

WebTools 設定

WebTools を使用すると、インターネットまたは社内イントラネットを経由して、MLPro930PS の各種機能へのアクセスやリモート管理ができます。WebTools を使用可能に設定すると、Windows および Mac OS コンピュータから WebTools にアクセスできるようになります。

WebTools 設定を行うには

1 MLPro930PS の「ネットワーク設定」で TCP/IP を使用できるようにします。

2 MLPro930PS で使用できる IP アドレスを入力し、サブネットマスクを入力します。必要に応じて、ゲートウェイアドレスを入力します。

3 Web サービスを使用できるようにします。

4 「ポート設定」で「515 (LPD515(LPD)」を使用可能にします。

5 「プリンタ設定」で「印刷キュー」が開放されていることを確認します。

上記手順のうち、手順 4、5 は WebTools の「印刷」タブ内の機能を使用する場合にのみ必要となります。

クライアント PC で WebTools を使用するには

1 TCP/IP ネットワークを使用できるようにします。

2 クライアント PC で使用できる IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス（必要に応じて）があることを確認してください。

3 Java 対応のインターネットブラウザがインストールされ、Java が有効になっていることを確認してください。

クライアント PC から WebTools にアクセスするには

1 インターネットブラウザを起動し、MLPro930PS の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

WebPage 画面が表示されます。Web Page 画面で Web Tool ボタンを押下します。Web Tool 画面が表示されます。

3 使用する WebTools のタブをクリックします。

MLPro930PS の管理

MLPro930PS 印刷の管理とトラブルシューティングに関して説明します。

管理機能

MLPro930PS の管理機能にはユーザソフトウェアパッケージに含まれているものと、MLPro930PS に組み込まれているものとがあります。これらの機能に関する記述箇所を以下に記載します。

作業内容	参照先
パスワード設定（システム管理者、オペレータパスワードの設定）	136 ページ
MLPro930PS の初期化	139 ページ
E メール印刷で使用するアドレス帳の管理	141 ページ
出荷時のデフォルト	139 ページ
設定情報ページの印刷	143 ページ
MLPro930PS の性能維持	144 ページ
フォントのバックアップと復帰方法	147 ページ
MLPro930PS の起動と終了	145 ページ
ネットワークサーバ上の印刷管理と印刷共有の設定	ご使用のネットワークサーバの取扱説明書をご覧ください
MLPro930PS をネットワークで使用するための設定	100 ページ
MLPro930PS をネットワークに接続	「セットアップ編」
MLPro930PS 設定	19 ページ、132 ページ
WebTools 設定	134 ページ
PS プリンタドライバおよび PPD ファイルのインストール、印刷設定、およびユーザソフトウェアのインストール	「1 章 Windows からの印刷」 「2 章 Mac OS からの印刷」
印刷時のデフォルト設定	「1 章 Windows からの印刷」 「2 章 Mac OS からの印刷」
直接接続、印刷キュー、待機キューの開放	123 ページ
MLPro930PS への印刷およびプリントオプションの設定	「1 章 Windows からの印刷」 「2 章 Mac OS からの印刷」 「7 章 プリントオプション」
キャリブレーションとカラー管理	「5 章 カラー印刷」
カラー表の印刷、およびカラープロファイルのインストール	154 ページ
トラブルシューティング	149 ページ

パスワードの設定

MLPro930PS のシステム管理者用パスワードを設定できます。システム管理者グループ内のユーザであれば誰でも MLPro930PS「設定」を変更したり、ジョブ処理を制御したり、ジョブ管理ツールを使用できます。

ユーザの作成、パスワードの割当、グループへのユーザの追加については、WebTools「設定」のヘルプファイルを参照してください。

システム管理者のパスワードは、WebTools の「設定」からも、プリンタ操作部からの「設定」からも変更できます。

設定したパスワードは忘れないようにしてください。

プリンタ操作部からのパスワード変更

プリンタ操作部からは、システム管理者パスワードのみ変更できます。オペレータパスワードを変更するには、Command WorkStation または WebTools「設定（Configure）」を使用してください。

システム管理者パスワードを変更するには：

1　設定メニューをスクロールして、「パスワード変更」を選択します。

2　新規パスワードを入力し、「新規パスワードの確認」画面で同じパスワードを確認入力してください。

新規パスワード

プリンタ操作部から入力します。パスワードは、半角英数文字の組み合わせ 19 文字まで入力できます。

新規パスワードの確認

新規パスワードを再度入力します。「新規パスワード」で入力したものと同じパスワードを入力してください。異なっていた場合、「不正パスワードです。再入力しますか？」画面が表示されますので、「はい」を選択して再度入力してください。

リモートクライアントコンピュータからのパスワード変更

WebTools「設定（Configure）」および Command WorkStation からパスワードを変更できます。手順について詳細は、Configure のヘルプを参照してください。

システムアップデート

MLPro930PS のシステムソフトウェアは、クライアントからのジョブを受信 / 処理し、プリンタに処理済みのジョブを送信します。システムソフトウェアは MLPro930PS 上でジョブのスプール、ラスタライズ、印刷を行い、またジョブのアカウント処理、保存およびリトリーブを実行できます。

システムソフトウェアは、インターネット経由でアップデートができます。
システムソフトウェアのアップデートについて詳細は、「設定（Configure）」のヘルプを参照してください。

ジョブログ設定

MLPro930PS のジョブログは、すべての処理済み、または印刷済みジョブの記録です。この記録には MLPro930PS で処理または印刷されたすべてのジョブが含まれます。ジョブログは必要な時にいつでもプリンタ操作部または Command WorkStation から印刷できます。デフォルトでは、ジョブログは自動的に印刷、消去はされません。「ジョブログ設定」でデフォルト値を変更してください。ジョブログの消去は Command WorkStation、または WebTools「Confiigure」から行うことができます。

ジョブログには各ジョブの利用者名、書類名、印刷日時、および印刷枚数などの課金情報が一覧表示されます。Windows および Mac OS 対応の Adobe PostScript プリンタドライバを使用して印刷すると、ジョブ注釈をジョブログに追加することもできます。

MLPro930PS のジョブログ保存件数は最大 2,500 件です。

[ ] 内はデフォルト値です。

プリンタ操作部からジョブログを設定するには：

1 設定メニューから、「ジョブログ設定」を選択します。

2 次に説明されているオプションを適宜設定します。

3 終了後、「変更の保存」で「はい」を選択し、「Enter」を押します。

ジョブログ自動印刷

はい / いいえ［いいえ］

55 ジョブごとに MLPro930PS でジョブログの自動印刷をするかどうかを指定します。印刷費用の経理処理を行ったり、印刷量の管理が必要な場合は「はい」を選択します。

ジョブログ自動消去

はい / いいえ［いいえ］

55 ジョブごとに MLPro930PS でジョブログの自動消去をするかどうかを指定します。このオプションを「いいえ」に設定し､Command WorkStation からもジョブログを消去しないでいると、ジョブログの保存数は増え続けます。「ジョブログ自動印刷」オプションで「はい」を選択している場合にのみこのオプションは有効です。

ジョブログを消去するには、操作パネルの「設定」メニューで「サーバの初期化」を選択することもできます（この場合は、MLPro930PS キュー内のジョブもすべて消去されます）。また、MLPro930PS システムソフトウェアをアップグレードしたりインストールし直したりする場合も、ジョブログは消去されます。

「ジョブログ自動印刷」で「いいえ」を選択した場合、「55 ジョブごとにジョブログ自動消去」で「はい」を選択してもジョブログは自動消去されません。

4 設定管理

ジョブログページサイズ

A3 / 11 x 17　A4 / 8 1/2 x 11［A3 / 11 x 17］

ジョブログ印刷時の用紙サイズを指定します。ページサイズに拘らず 55 ジョブが 1 ページに一覧表示されます。用紙サイズは「PS 設定」の「デフォルト用紙サイズ」での設定が適用されます。この設定で「日本式」が選択されている場合は、ジョブログは A3 または A4 サイズに印刷されます。デフォルトは A3 です。

セキュアジョブログ

はい / いいえ [いいえ]

システム管理者用パスワードを入力後にジョブログを削除する場合には「はい」を選択します。この場合、システム管理者用パスワードをあらかじめ設定しておく必要があります。システム管理者用パスワードなしでジョブログを削除する場合には「いいえ」を選択します。

変更の保存

はい / いいえ［はい］

「ジョブログ設定」での変更を有効にする場合は「はい」を選択します。変更せずにメイン「設定」メニューに戻る場合は「いいえ」を選択します。

Command WorkStation/WebTools「設定（Configure）」からジョブログを設定するには：

1　Command WorkStation の「サーバ」メニューから､「Configure」を選択して設定画面を開きます。または、WebTools「設定（Configure）」を起動します。

2　設定画面左の「サーバ」メニューボタンをクリックし､「ジョブログ」を選択します。

3　次に説明されているオプションを適宜設定します。

4　終了後､「適用」をクリックします。

55 ジョブごとにジョブログ自動印刷	55 ジョブごとに MLPro930PS でジョブログを自動印刷するかどうか指定します。ジョブログには、MLPro930PS から印刷されたジョブ 55 件の情報が一覧表示されます。これには、各ジョブの利用者名、書類名、印刷日時、頁数などの課金情報が含まれます。
55 ジョブごとにジョブログ自動消去	55 ジョブごとに MLPro930PS でジョブログを自動消去するかどうか指定します。このオプションを選択しないと、印刷ジョブの保存数が増え続けます。ジョブログを保存したファイルは MLPro930PS ハードディスクに保存されるので、ジョブログを削除するとディスク容量に空きができます。

「55 ジョブごとにジョブログ自動印刷」で「いいえ」を選択した場合に､「55 ジョブごとにジョブログ自動消去」で「はい」を選択しても効力はありません。

ジョブログの消去は、Command WorkStation では､「サーバ」メニューで「ジョブログ：エクスポートと消去」を選択するか､「サーバ」メニューから「初期化：ジョブログ」を選択しても可能です。Command WorkStation Macintosh Edition では「サーバ」メニューから「ジョブログの消去」を選択してください。 また、システムソフトウェアを再インストールすることによっても削除されます。

ジョブログを印刷または消去するには、システム管理者権限（パスワード）が必要です。

ページサイズ	ジョブログ印刷時の用紙サイズを選択します。
ジョブログ印刷用パスワードを要求する	ジョブログ印刷時にパスワードを要求するかどうかを指定します。

サーバの初期化

「サーバの初期化」を実行すると、MLPro930PS の印刷キュー、待機キュー、および印刷済みキュー内のすべての印刷ジョブが消去されます。ジョブは、Command WorkStation を使用して、個々にまたはまとめて消去することもできます。 また、MLPro930PS のハードディスク内にアーカイブされたジョブ、インデックス、FreeFrom マスターおよびそのインデックスも消去されます。

MLPro930PS を初期化するには：

1 Command WorkStation の「サーバ」メニューから「サーバの初期化」を選択します。

詳細は、Command WorkStation のヘルプファイルを参照してください。

出荷時のデフォルト

「設定」メニュー内の「出荷時のデフォルト」を実行すると、MLPro930PS「設定」はすべて出荷時のデフォルト値に復帰します。また、MLPro930PS の印刷キュー、待機キュー、および印刷済みキュー内のすべての印刷ジョブが消去されます。さらに、ジョブログも消去されます。

MLPro930PS を出荷時のデフォルトに復帰するには：

1 「印刷できます」（印刷 / 処理されているジョブが無いことを示す）と表示されていることを確認します。

MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

2 プリンタ操作部横の「Enter」ボタンを押します。
機能メニューが表示されます。

3 矢印ボタンを使用して、画面をスクロールし、「管理者用メニュー」を選択し「Enter」を押します。

注 「パスワード入力」画面が表示され、パスワードの入力が求められます。

4 「設定を実行しますか？」画面で「はい」を選択し、「Enter」ボタンを押します。

5 「出荷時のデフォルト」を選択し、「Enter」を押します。

保存すべきデータ

出荷時のデフォルトを実行する前に、以下についてはバックアップを取り、後で復帰することができます。

- サーバ名以外の設定内容
- アドレス帳
- 仮想プリンタ設定
- ユーザ、およびグループ情報
- カスタムスポットカラー

以上の情報の保存には、WebTools/Command WorkStation からの「設定（Configure）」を使用します。サーバ設定内にある、「バックアップ / 復帰」を使用します。詳細については、ヘルプを参照してください。

ハードディスク内のデータ

- 重要なジョブ（データ）は、MLPro930PS のハードディスク内だけでなく、他のメディアにバックアップを取っておいてください（クライアント PC 内のハードディスク、MO、DVD など）。MLPro930PS で初期化を実行した場合や、オペレータがジョブを削除した場合などに重要なデータが失われることがあります。また、MLPro930PS 内のハードディスクの取り扱いには注意をしてください。ジョブが MLPro930PS へ送信されている途中、あるいはジョブ管理ツールで MLPro930PS にアクセスしジョブを処理している場合など、MLPro930PS 内のハードディスクが動作しているときに電源を切ると、ハードディスクがダメージを受ける場合があります。MLPro930PS の電源の切り方については、プリンタ機能編をご覧ください。

  MLPro930PS のハードディスクまたはシステムソフトウェアに障害が発生した場合には、データが失われ、復元できないことがあります。これは、次のデータを含みます：

- サードパーティから購入し、MLPro930PS 内にインストールされたフォント
- MLPro930PS 内のハードディスクに保存されていたジョブ
- カラープロファイル（スポットカラーを使用してダウンロード / 編集されたプロファイルを含む）
- 「ジョブ注釈メモ」および「指示」
- バリアブルデータ
- E メールアドレス帳
- MLPro930PS の設定内容

E メールサービスアドレス帳の管理

E メールサービスでは、管理者が E メールアドレスリストを MLPro930PS のアドレス帳にインポートすることができます。インポート作業は、MLPro930PS に E メールメッセージを送信します。

E メールで送信されたリストは、アドレス帳に追加されます。管理者は、アドレス帳を使用して E メールサービスを管理します。

注. E メールメッセージは、管理者だけが送信します。

MLPro930PS には、次のアドレス帳機能があります：

- User（ユーザ）リストーこのリスト中のアドレスへ、MLPro930PS から E メールを送信できます。このリスト中のアドレスから MLPro930PS へメールを送信することはできません。
- Admin（システム管理者）リストー 管理者権限をもったユーザを含むリストです。管理者権限がある場合、アドレス帳を変更することができます。また、MLPro930PS から最新のアドレス帳を取り込んだり、E メールを使用してのプリントジョブのキャンセルやジョブの状況確認もできます。
- Print（印刷用ユーザ）リストー 印刷する権限のあるユーザを含むリストです。このアドレス帳に E メールアドレスが登録されたユーザは、E メールでジョブを MLPro930PS に送信し印刷できます。登録されていないユーザがジョブを E メールで送信した場合、MLPro930PS はそのユーザにエラーメッセージを E メールで返信します。
- Corporate（社内用）リストー LDAP アドレス帳です。

注. このアドレス帳を設定する前に、LDAP 設定を実行してください。詳細は、117 ページを参照してください。

管理者権限がある場合、アドレス帳の上書き / 新規作成 / 削除、新規アドレスの追加などを行うことができます。

ジョブが E メールで送信された場合、MLPro930PS は印刷用ユーザリストアドレス帳で受信したメールのアドレスを検索します。E メールアドレスが印刷用ユーザリストアドレス帳にない場合、ジョブは印刷されません。ユーザには、E メールでジョブが受け付けられなかったことを示すメッセージが送信されます。

デフォルトでは、印刷用ユーザリストアドレス帳には、「@」が入力されており、すべてのユーザからの E メールジョブを受け付け印刷します。

管理者がＥメールを使用してアドレス帳を管理する場合、メッセージタイトルとメッセージの本文には次の表に示す内容を記載する必要があります。これらのコマンドを受信した場合、MLPro930PS はＥメールで管理者に応答します。

	送信メールのタイトルに入力するコマンド	メール本文に入力するコマンド	MLPro930PS からの応答メッセージのタイトル	MLPro930PS からの応答メッセージの本文
MLPro930PS 内のアドレス帳を取得するには？	#GetAddressBook <アドレス帳名> 例：#GetAddressBook Admin		アドレス帳 <アドレス帳名> 例：アドレス帳　Admin	指定されたアドレス帳内のアドレスリスト
アドレス帳にＥメールアドレスを追加するには？	#AddAddressTo <アドレス帳名> 例：#AddAddressTo Print	追加したいアドレス名 例： Pat@test.com	アドレス帳に追加しました <アドレス帳名> 例：アドレス帳に追加しました Print 複数のアドレス名を追加することもできます。この場合、各アドレス間に改行を入力します。 例：Matt@test.com（改行） Boy@test.com（改行） sgirl@test.com（改行）	アドレス帳に追加されたアドレス名が記載されます。 また、なんらかの理由で追加できなかったアドレスがある場合、その理由も記載されます。
アドレス帳内のアドレスをすべて消去するには？	#ClearAddressBook <アドレス帳名> 例 #ClearAddressBook User		アドレス帳　<アドレス帳> が初期化されました または アドレス帳　<アドレス帳名> の初期化に失敗しました 例：アドレス帳 User が初期化されました	アドレス帳の消去に失敗した場合、その理由も記載されます。
アドレス帳内の特定のアドレスを削除するには？	#DeleteAddressFrom <アドレス帳名> 例：#DeleteAddressFrom User	削除したいアドレス名 例： Pat @test.com	アドレス帳　<アドレス帳名> から消去されました 例： アドレス帳 User から消去されました	アドレス帳から削除されたアドレス名が記載されます。 また、なんらかの理由で削除できなかったアドレスがあった場合、その理由も記載されます。
Ｅメールサービスの使用方法を知るには？	#Help		RE: Help	Ｅメールサービスのコマンドが記載いされます。

MLPro930PS 内のアドレス帳を取得するには：

1 お使いのEメールアプリケーションを起動します。

2 メッセージを新規作成します。

3 「宛先」にプリントサーバのメールアドレスを入力します。

4 「件名」に、Eメールアドレス帳のコマンドを入力します。
例えばユーザリストを入手するには、"GetAddressBook User" と入力します。

5 Eメールを送信します。
MLPro930PS からEメールが返信されます。そのメール本文にアドレス帳が含まれます。

6 メール本文内のアドレスをコピーし、テキストファイルとして保存してください。

MLPro930PS 内のアドレス帳を更新するには：

1 お使いのEメールアプリケーションを起動します。

2 メッセージを新規作成します。

3 「宛先」にプリントサーバのメールアドレスを入力します。

4 「件名」に、Eメールアドレス帳のコマンドを入力します。

例えばユーザリストに新規のメールアドレスを追加する入手するには、"AddAddress To User" と入力します。

5 Eメール本文に追加するアドレスを入力します。

6 Eメールを送信します。

7 MLPro930PS から返信されたEメールを開き、新規アドレスが追加されているのを確認します。

設定情報ページの印刷

現状の設定内容がすべて印刷されます。MLPro930PS の設定作業を行ったあとは、設定情報ページを印刷して、設定内容を確認してください。設定情報ページには、プリンタのデフォルト設定などユーザの参考となる情報が印刷されますので、ユーザの目につきやすい場所に貼るなどしておくと便利です。

設定情報ページを印刷するには：

1 「印刷できます」（印刷 / 処理されているジョブが無いことを示す）と表示されていることを確認します。

MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

2 操作パネルの 設定ボタンを押します。

機能メニューが表示されます。

3 ▽ ボタンを押して、「ページの印刷」を選択し、 設定ボタンを押します。

印刷可能なページ名が表示されます。

4 「設定情報」を選択し、 設定ボタンを押します。
設定情報ページは、Command WorkStation からも印刷ができます。

MLPro930PS の性能の維持

プリントシステムでは、通常はプリンタ用の定期点検や保守あるいは消耗品の再注文などを行う必要があります。これ以外に、システムの性能を維持するために次の事項を実行することをおすすめします。

- ネットワーク接続を最大限に活用していることを確認

必要なプリント接続のみをユーザに開放してください。MLPro930PS は開放されている接続を定期的にチェックしますので、接続が非アクティブな場合無駄が生じます。
設定情報ページを印刷して開放されているプリント接続を点検し、実際に使われていない接続を解除してください。プリント接続の再開放は簡単に行えます。

- 急ぎでない印刷ジョブを、ネットワークやプリンタ使用量が少ない時に処理

反復印刷ジョブや急ぎでないジョブには待機キューの使用をおすすめします。プリンタの使用量が少ないときに、システム管理者やオペレータが、Command WorkStation を使用して待機キュー内の全印刷ジョブを印刷キューに移して印刷するようにすると、プリンタの利便性が上がります。

- 不必要な双方向通信の削減

多数のリモートユーザが Fiery ユーティリティを使用している場合、特に頻繁に更新を行うと、MLPro930PS の処理速度が低下します。

- MLPro930PS ハードディスクの空き容量管理

待機キューや印刷済みキュー内のジョブ数を定期的に点検してください。
印刷済みキューや待機キュー内のジョブの印刷や削除が可能なので、不必要なジョブを印刷してしまうか、外すことを考慮してください。MLPro930PS の空きディスク容量が頻繁に少なくなる場合は、印刷済みキューを使用しないよう「サーバ設定」で、または待機キューを開放しないように「プリンタ設定」で設定できます。
キュー内のジョブを移動または削除するには Command WorkStation を使います。不要なジョブを削除してディスクの空き容量を増やすと、ジョブのスプールや印刷の速度が上がります。

省電力モードについて

MLPro930PS は、ある一定期間動作しない状態が続くと、消費電力を抑えるために省電力モードに入ります。ただし、次の場合には MLPro930PS は省電力モードに切り替わりません：

- Fiery Downloader を使用してクライアントから MLPro930PS に接続しているとき
- E メールサービスが使用可能に設定されているとき

上記設定がしてあっても、ユーザからの MLPro930PS への接続や印刷には問題はありませんが、省電力モードによる節電はできません。

MLPro930PS が省電力モードに入っているとき、ある種のネットワーク接続を経由して Fiery ユーティリティから MLPro930PS に接続しようとしても MLPro930PS がすぐには使用可能にならないことがあります。この場合、何回かの自動再接続が試行された後に MLPro930PS が起動しますので、ユーザから見ると MLPro930PS への接続が若干遅くなったように見えることがあります。

ネットワーク上で DHCP サーバが使用されているとき、DHCP サーバによる IP アドレスの再割り当てが MLPro930PS が省電力モードのときに実行された場合は IP アドレスの割り当てが失敗することがあります。MLPro930PS が省電力モードのときに IP アドレスの再割り当てが行なわれると、MLPro930PS が使用可能な IP アドレスを取得できないことがあります。この場合、MLPro930PS に送信されたジョブは、印刷されない可能性があります。

MLPro930PS の起動と終了

通常、MLPro930PS は常時電源を入れたままにしておくことができます。ここでは必要な時のために MLPro930PS の終了と再起動について説明します。

MLPro930PS の終了

サービスなどのために MLPro930PS を終了する場合は次の手順で行ってください。
MLPro930PS を終了してもハードディスクに格納されているフォントは削除されません。待機キューや印刷済みキュー内の印刷ジョブ、および RIP 済みで印刷待ちのジョブは削除されません。印刷待ちのジョブは MLPro930PS 再起動後に印刷されます。

MLPro930PS を終了する場合には、操作パネルに「印刷できます。」と表示されていることを確認してください。MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し操作パネルに「印刷できます。」と表示されるまで待ってください。

MLPro930PS を終了するには：

1 「印刷できます」(印刷/処理されているジョブが無いことを示す)と表示されていることを確認します。

MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

2 操作パネルの ▲ または ▼ ボタンを押します。

機能メニューが表示されます。

3 ▼ ボタンを数回押し、「終了」を選択し、 設定ボタンを押します。

4 「システム終了」を選択し、 設定ボタンを押します。

5 [シャットダウン完了] と表示されたら電源スイッチを切ります。

メモ　手順 2 で「シャットダウン / リスタート」ボタンを 4 秒以上押すと、手順 5 へすすみます。

MLPro930PS サーバの再起動

MLPro930PS は、システムソフトウェアとその上で動作している MLPro930PS「サーバ」ソフトウェアから構成されています。ここでは、システムソフトウェアは終了せず、サーバソフトウェアのみを一旦終了し再起動する手順を説明します。

MLPro930PS を再起動するには：

1 「印刷できます」(印刷/処理されているジョブが無いことを示す)と表示されていることを確認します。
MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

2 操作パネルの 設定ボタンを押します。

機能メニューが表示されます。

3 メニューボタンを押します。

4 上矢印ボタンでメニューをスクロールし、「終了」を選択します。

5 「サーバの再起動」を選択します。

MLPro930PS はすべての作動を適切に終了した後、再起動します。

MLPro930PS システムのリブート

MLPro930PS システムは、システムソフトウェアとその上で動作している MLPro930PS「サーバ」ソフトウェアから構成されています。ここでは、MLPro930PS サーバだけでなく、システムソフトウェアも終了させ再起動する手順を説明します。

MLPro930PS を再起動するには：

1 「印刷できます」（印刷 / 処理されているジョブが無いことを示す）と表示されていることを確認します。

MLPro930PS が印刷中または RIP 中の場合は、処理が終了し表示ウィンドウに「印刷できます」と表示されるまで待ってください。

2 操作パネルの ▵ または ▿ ボタンを押します。

機能メニューが表示されます。

3 ▿ ボタンを数回押し、「終了」を選択し、○ 設定ボタンを押します。

4 ▿ ボタンで「システムのリブート」を選択します。

MLPro930PS はすべての作動を適切に終了した後、再起動します。

メモ 手順 2 で「シャットダウン / リスタート」ボタンを 4 秒以上押し、［シャットダウン完了］が表示されたら、「シャットダウン / リスタート」ボタンを押して、再起動することもできます。

フォントのバックアップと復帰方法

MLPro930PS では Command WorkStation を使用してお使いのコンピュータにフォントをバックアップすることができます。この機能は、同一 MLPro930PS システムバージョンにおいてのみ有効です。システムのバージョンアップ後に MLPro930PS 内蔵ハードディスクにフォントを復帰させることはできません。

Command WorkStation を使用したフォントのバックアップおよび復帰は、Mac OS X では利用できません。Command WorkStation の使用方法については、Command WorkStation のヘルプも参照してください。

この機能の誤使用を避けるために、必ずシステム管理者用パスワードを設定しておいてください。システム管理者用パスワードを設定しておくと、この機能を選択したときに、パスワードの入力を促されます。

重要事項

フォントバックアップと復帰機能は、お客様が正規に入手したフォントを特定の 1 台の MLPro930PS 上でガードする為、1 台のコンピュータのハードディスクにフォントをバックアップすることを目的としています。弊社はこの目的の遵守を要件としてフォントバックアップ、復帰機能を提供します。

万が一上記目的を逸脱した用途ならびに複数のハードディスクへのバックアップは、お客様の法的な責任及び費用負担によって処理されるものとします。
また、弊社はお客様が本機能を使用することによって生じる商業的利益の逸失、商業の支障、その他のいかなる損害についても、また損害が生じる可能性がある旨通知を受けていた場合であっても、一切の責任を負わないものとします。

フォントのバックアップと復帰

MLPro930PS のフォントをバックアップおよび復帰するには次の手順で行ってください。
システム管理者用パスワードが設定されているものとして説明します。

Command WorkStation を使用してフォントのバックアップを行うには：

1 MLPro930PS が使用可能状態で、データの送受信もないことを確認します。

2 Command WorkStation を起動します。

3 「デバイスセンター」から「リソース」を選択し、「フォント」をクリックします。

4 「バックアップ」をクリックし、「フォント」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

5 保存先のフォルダを指定し、「OK」をクリックします。必要に応じて「ファイル名に日付を追加」にチェックします。

フォントのバックアップ処理が始まり、「進行状況ダイアログ」が表示されます。バックアップ処理が終了すると、メッセージが表示されます。

6 「OK」をクリックします。

Command WorkStation を使用してフォントの復帰を行うには：

1 MLPro930PS が「使用可能」状態で、データの送受信もないことを確認します。

2 Command WorkStation を起動します。

3 「デバイスセンター」から「リソース」を選択し、「フォント」をクリックします。

4 「復帰」をクリックします。

5 フォントのバックアップ先のフォルダを指定し、「OK」をクリックします。

フォントの復帰処理が始まり、「進行状況ダイアログ」が表示されます。復帰処理が終了すると、メッセージが表示されます。

6 「OK」をクリックします。

7 MLPro930PS を再起動します（再起動方法については、145 ページを参照してください）。

トラブルシューティング

ここでは、トラブルシューティング時の参考情報を紹介しています。

トラブルシューティング

MLPro930PS のスタートアップ時に問題がある場合、担当サービスに問い合わせてください。スタートアップメニューにエラーが表示される場合には、そのエラー内容を担当サービスにお知らせください。

実行時のエラーメッセージ

ジョブ実行時およびキャンセル時のエラーメッセージに関しては、Command WorkStation のヘルプファイルを参照してください

PostScript エラーに関しては、Mac OS アプリケーションのプリントオプションで、エラー内容を印刷するかどうか選択できます

Fiery ユーティリティから MLPro930PS に接続できない

MLPro930PS に接続できない場合は次の点を確認してください。

- MLPro930PS 設定：適切なネットワークプロトコルを使用可能にし、IP アドレスなどの正しいパラメータを入力する必要があります。また印刷キューか待機キューのどちらかひとつを開放しておく必要があります。

  設定情報ページを印刷するとこれらの情報が簡単に確認できます。

- クライアント PC：適切なネットワークプロトコルが使用可能な状態であることを確認してください。

Command WorkStation から MLPro930PS に接続できない

MLPro930PS に接続できない理由としては次が考えられます。

- MLPro930PS が設定されていない
- MLPro930PS が再起動中
- サーバの IP アドレスなどが変更された

この場合、次を実行してみてください。

- 他のクライアント PC から Fiery ユーティリティまたは WebTools で MLPro930PS に接続している場合、クライアント PC からの接続を切断する
- Command WorkStation を再起動する
- Command WorkStation の接続構成を確認し、必要であれば設定を変更する
- MLPro930PS を再起動する

5 カラー印刷

ColorWise（カラー管理システム）

ここでは Windows および Mac OS にて Command WorkStation を利用して ColorWise の各機能を設定して使用する方法を説明します。

プラットフォーム	作業	参照
Windows / Mac OS	ICC プロファイルのインストール	154 ページ
	プロファイルの編集方法	156 ページ
	プロファイルの管理方法	157 ページ
	カラー設定の使用	162 ページ

ColorWise の主機能

ColorWise は、MLPro930PS に内蔵されているカラー管理システムです。初心者からプロ志向までのあらゆるニーズに対応し、その多方面のジョブにおいて優れたカラー出力を得られる、柔軟なシステムです。デフォルト設定のままでも、Windows や Mac OS X 上のほとんどのアプリケーションから、適切にカラー出力を行います。MLPro930PS の操作に慣れていない方でも、良質のカラーを出力することができます。

MLPro930PS から常に一貫した出力を得られるようにするには、定期的にキャリブレーションを行う必要があります。Command WorkStation のキャリブレートと分光測色計、濃度計などのさまざまなカラー測定計器を使用して、簡単にキャリブレーションを行うことができます。

ColorWise はより良い出力結果を得るためのさまざまな機能を提供しています。

オフセット印刷標準カラー（DIC、TOYO、Japancolor、JMPA、Euroscale、SWOP、ISO Coated など）を CMYK カラーでシミュレートすることができます。

スポットカラー（PANTONE）を実際のオフセット印刷に近いカラーで出力することができます。

「カラーの表現」の設定で、ビジネスグラフィックに適した鮮やかなカラー出力、写真など連続調画像に適したグラデーションの滑らかな出力、絶対または相対カラーメトリックでの出力など、用途に応じて、RGB カラーの出力を変えることができます。

RGB カラーデータのソース情報を定義することによって、モニタでより正確にカラーを表示できます。またソース情報が定義されていない RGB データに対して CMYK へのスムーズな変換を実現します。

RGB データの色の範囲を、プリンタやオフセット印刷標準など他のプリントデバイスに合わせ変換します。実際に他のプリントデバイスに出力しなくても、さまざまなプリントデバイスからの出力結果をシミュレートすることができます。またさまざまな出力条件で、RGB データがどのように出力されるかを比較することもできます。

ColorWise カラー管理は、ユーザがニーズに合わせて柔軟に使用できるように設計されています。また、カラー印刷業界標準の ICC プロファイルに対応しています。ICC プロファイルを MLPro930PS にダウンロードすることにより、オフセット印刷や他のプリントデバイス、また特定モニタやスキャナをシミュレートし、そのカラーに合わせて出力することができます。また、プリンタ用にプロファイルをカスタマイズすることもできます。

各種カラー関連ファイルの使い方

このセクションでは、ICC プロファイルのインストール方法やカラーファイルの使用方法を説明します。

ICC プロファイルのインストール

必要に応じて、MLPro930PS 用に提供されている ICC プロファイルを、CD2 ユーティリティ CD（Windows）もしくは CD3 ユーティリティ CD（Macintosh）からコピーして使用してください。

これらのファイルを使用する場合、ほとんどの ICC 対応アプリケーションではシステムフォルダ内の「color」フォルダにインストールしておく必要があります。

Windows 2000 に ICC プロファイルをインストールするには：

- CD2 ユーティリティ CD（Windows）の「MISC¥ICC」フォルダを開き、フォルダ内のファイルを「¥WINNT¥system32¥spool¥drivers¥color」フォルダへコピーします。

「SYSTEM32」フォルダに「COLOR」フォルダが存在しない場合は、新規作成してください。

Windows 7/Server 2008R2/Server 2008/Vista/XP/Server 2003 に ICC プロファイルをインストールするには：

1. CD2 ユーティリティ CD（Windows）の「MISC¥ICC」フォルダを開きます。
2. 「Color」フォルダ内のプロファイルを右クリックし、メニューから「プロファイルのインストール」を選択します。

   プロファイルは「¥WINDOWS¥system32¥spool¥drivers¥color」フォルダへインストールされます。

Mac OS X に ICC プロファイルをインストールするには：

- CD1 ソフトウェア CD の「ColorSync」フォルダ内のプロファイルを以下のフォルダにコピーします。

  ユーザ：<ユーザ>：ライブラリ：ColorSync：Profiles

カラーファイル

カラーファイルはそれらを参照ことによって、MLPro930PS で出力可能なカラーを確認できるため、書類内でカラーを定義するときにこれらのカラー参照情報を使用すると、予想どおりの出力結果を得ることができます。

ユーティリティ CD には以下のカラーファイルが含まれています。必要に応じてコンピュータにコピーして使用してください。カラーファイルのほとんどは PostScript ファイルなので、Command WorkStation からインポートして印刷することができます。

フォルダ名	ファイル名	詳細
MISC/Color Files	CMYK REF.ps(Japanese) CMYK Color Reference.ps (English)	A4 サイズの PostScript ファイルです。アプリケーションで CMYK を定義するときに使用します。
	RGB_01.doc (Japanese) RGB page 01.doc (English) RGB_02.ppt (Japanese) RGB page 02.ppt (English)	Microsoft Word J（RGB_01.doc/RGB page 01.doc）と PowerPoint J（RGB_02.ppt/RGB page 02.ppt）から印刷できる RGB カラー参照ファイルです。これらのファイルを使用してオフィスアプリケーションの標準パレットで使用できるカラーが、MLPro930PS でどう出力されるかを確認することができます。
	PANTONE.ps (Japanese) PANTONE Book.ps (English)	A4 サイズの PostScript ファイルです。MLPro930PS とプリンタが印刷できる、PANTONE カラーに相当する CMYK カラーが参照することができます。このファイルの印刷結果は「スポットカラーマッチング」での設定によって異なります。「スポットカラーマッチング」設定の詳細については、209 ページを参照してください。
MISC/Color Files/ Calib/ (Japanese) MISC/Color Files/ Calibration Files/ PS Files (English)	Custom21.ps Custom34.ps Hyojyun21.ps（標準 21.ps） Hyojyun34.ps（標準 34.ps） (Japanese) Custom21.ps Custom34.ps Standard21.ps Standard34.ps (English)	キャリブレーション測定用 PostScript ファイルです。ファイル名の番号はページ内のパッチの数を表します。「Custom21.ps」、「Custom34.ps」は現在のキャリブレーションを反映した測定パッチを、「Hyojyun21.ps（標準 21.ps）/Standard21.ps」、「Hyojyun34.ps（標準 34.ps）/Standard34.ps」は現在のキャリブレーションを反映しない測定パッチをダウンロードします。 注 これらのファイル使用はキャリブレーションの専門知識があるユーザを対象としています。通常のキャリブレーションには使用しないでください。

Command WorkStation を利用した ColorWise（カラー管理機能）

Command WorkStation の使用

Command WorkStation を使用して、MLPro930PS のキャリブレーション、ICC プロファイルの変更と管理、スポットカラーの定義、ColorWise オプションの設定などを行います。
このセクションでは、Command WorkStation でこれらを使用する方法を説明します。キャリブレートの詳細についてはキャリブレーションを、スポットカラーの詳細についてはスポットカラーを参照してください。

プロファイルの編集方法

シミュレーションプロファイルおよび出力プロファイルをカスタマイズすることができます。

ソースプロファイルの編集はできません。

プロファイルを編集するには：

1　Command WorkStation を起動し MLPro930PS に接続します。

2　「デバイスセンター：リソース：プロファイル」をクリックします。

「シミュレーション」は MLPro930PS で提供される CMYK シミュレーションプロファイルのリスト、「出力」は MLPro930PS で提供される出力プロファイルのリストをそれぞれ表示します。

3　プロファイルを選択して右上の「編集」をクリックします。

プロファイルのその他の一般的な機能の詳細については、Command WorkStation Help を参照してください。

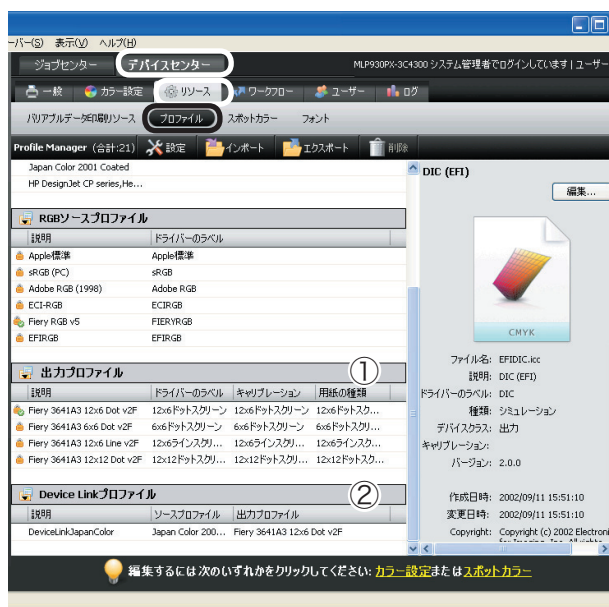
Profile Manager の使用

Profile Manager で ICC プロファイルの管理と編集を行います。Profile Manager を使用すると、シミュレーションプロファイルまたは出力プロファイルを必要に応じて変更して保存し、追加プロファイルとして使用することができます。また、ネットワーク上のコンピュータから MLPro930PS にプロファイルをダウンロードすることもできます。

MLPro930PS のデフォルトプロファイルを変更すると、全ユーザの印刷ジョブに影響します。このため、システム管理者用パスワードを設定して、許可された担当者だけがプロファイルの変更を行うようにすることをお勧めします。

Profile Manager を使用するには：

1 Command WorkStation を起動し MLPro930PS に接続します。

2 「デバイスセンター：リソース：プロファイル」をクリックします。

①出力プロファイル
②Device Link
プロファイル

プロファイルを選択すると、そのプロファイルのファイル名、作成日、バージョンなどの情報が画面の下側に表示されます。Profile Manager は、ICC プロファイル規定のバージョン 2 と同様、バージョン 4（v4.2）もサポートしています。

Profile Manager の「用紙定義プロファイル」機能と「Device Link プロファイル」機能については次のセクションを、その他の一般的な機能の詳細については、Command WorkStation Help を参照してください。

用紙定義プロファイルの使用

「用紙定義プロファイルを使用」機能を使用すると、印刷ジョブ用の用紙ごとに「Profile Manager」で出力プロファイルを指定する必要がなくなります。このオプションを選択しておくことで、印刷ジョブの用紙の種類、ハーフトーンスクリーンに応じた出力プロファイルを適用する事ができます。「用紙種類の混合」オプションで、印刷ジョブの各セクションに異なる用紙を定義している場合は、それぞれの用紙の種類に応じた出力プロファイルが適用されます。

「用紙定義プロファイルを使用」オプションは、デフォルトで「オン」に設定されています。プリンタドライバから上書きしない限り、この設定がすべての印刷ジョブに適用されます。

用紙定義プロファイルを使用するには：

1 Command WorkStation を起動し、「デバイスセンター：カラー設定：カラー管理」で「エキスパート設定」ボタンをクリックします。

2 「出力」タブをクリックし、「用紙定義プロファイルを使用（可能な場合）」を選択します。

Profile Manager の「用紙定義プロファイルを使用」での設定は、カラー設定にも自動的に反映されます。カラー設定の詳細については、162 ページを参照してください。

Device Link プロファイル

Device Link プロファイルは、推奨品「EFI ColorProfilerSuite V2」もしくは市販の Device Link プロファイル作成ソフトで作成します。

MLPro930PS では Device Link プロファイルを使用することができます。Device Link プロファイルは、特定のデバイスに依存しない色の空間と特定のデバイスの色の空間との間の色変換を既定しています。MLPro930PS は、2 種類の Device Link プロファイル（RGB ソースプロファイルから出力プロファイルと、CMYK シミュレーションプロファイルから出力プロファイルへの色変換を既定したプロファイル）をサポートしています。

Device Link プロファイルを使用する場合は、MLPro930PS のカラー管理システムのいくつかのオプションをバイパスして色変換を行います。これは、Device Link プロファイルに、ソースプロファイルから直接ターゲットプロファイル（出力プロファイル）へ変換するための情報がすでに含まれているからです。

Device Link プロファイルのダウンロード

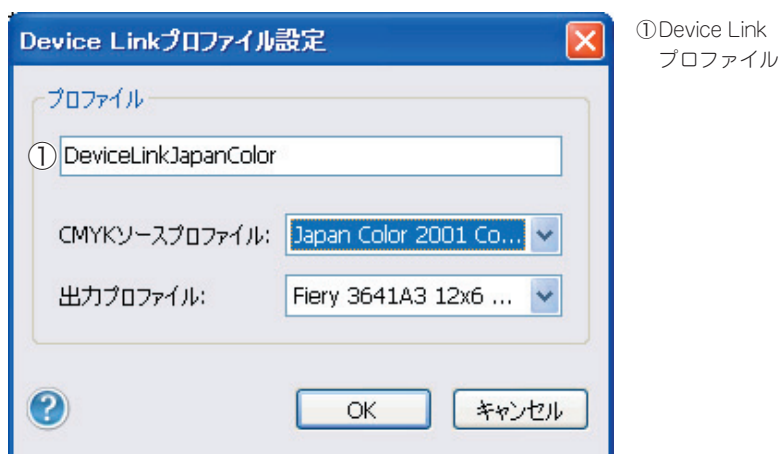
Device Link プロファイルをダウンロードするには、システム管理者の特権が必要です。システム管理者は、Profile Manager を使用してダウンロードし、Device Link プロファイルの「ソース」と「出力」を指定します。

Device Link プロファイルをダウンロードするには：

1 ツールバーで「インポート」をクリックし、ダウンロードする Device Link プロファイルを選択します。

注 Profile Manager 画面の左側に Device Link プロファイルが表示されていない場合は、「場所」でカスタム場所の管理を選択し、Device Link プロファイルが入っているフォルダを指定し、プロファイルを一覧に追加してください。

2 「インポート」をクリックします。

「Device Link プロファイル設定」ダイアログボックスが表示されます。

①Device Link プロファイル

Device Link プロファイルのリンクを指定するには、次の項の手順に従ってください。

5 カラー印刷

Device Link プロファイルのリンク指定

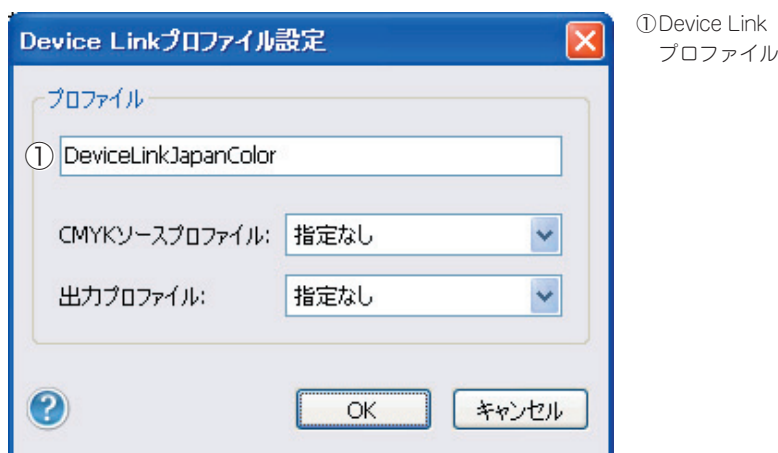
「Device Link プロファイル設定」ダイアログボックスでは、RGB ソースプロファイルと出力プロファイルのリンク、CMYK ソースプロファイルと出力プロファイルのリンクを指定することができます。次の手順では RGB ソースプロファイルと出力プロファイルのリンクを例に取っています。

Device Link プロファイルのリンクを指定するには：

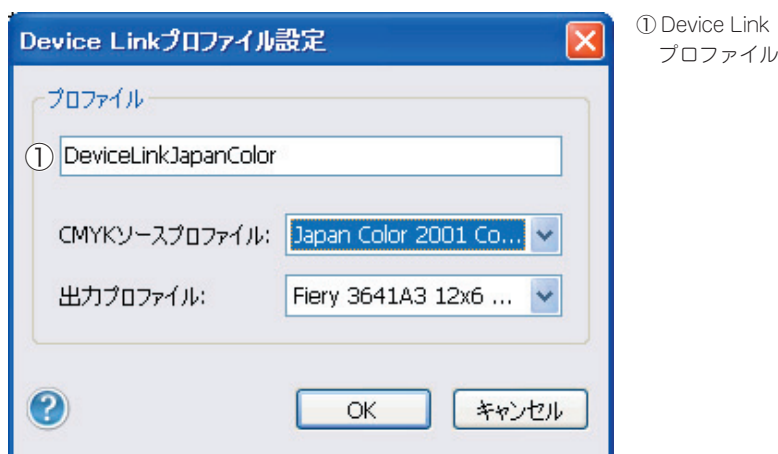
1　上記の手順にしたがって、Device Link プロファイルをダウンロードします。

「Device Link プロファイル設定」ダイアログボックスが表示され、Device Link プロファイルの指定やインストール状況によって、異なる画面が表示されます。

- Device Link プロファイル内でリンクプロファイルが既に指定されている場合は、「RGB ソースプロファイル」欄と「出力プロファイル」欄にプロファイル名が表示されます。
- Device Link プロファイル内で指定されているプロファイルが MLPro930PS に存在しない場合は、「RGB ソースプロファイル」欄と「出力プロファイル」欄に「指定なし」が表示されます。

①Device Link プロファイル

- Device Link プロファイル内でリンク指定されている RGB ソースプロファイルまたは出力プロファイルを MLPro930PS にインストールすると、各欄の「指定なし」表示は自動的に更新されます。

①Device Link プロファイル

5 カラー印刷

2　「RGB ソースプロファイル」欄と「出力プロファイル」欄で、メニューからリンクするプロファイルを選択します。

3　「OK」をクリックします。

Device Link プロファイルの変更

Device Link プロファイルのリンクプロファイルは、「Device Link プロファイル設定」ダイアログボックスで簡単に変更することができます。

Device Link プロファイルのリンク指定を変更するには：

1　プロファイルのメイン画面の下側の「Device Link」欄で、「　」アイコンをクリックし Device Link プロファイルをダブルクリックします。

「Device Link プロファイル設定」ダイアログボックスが表示されます。

2　新しくリンクするプロファイルを「RGB ソースプロファイル」欄と出力プロファイル」欄のメニューから選択します。

3　「OK」をクリックします。

注　MLPro930PS 内の Device Link プロファイルを編集することはできません。プロファイルを編集するには、Device Link プロファイルを作成したアプリケーションを使用する必要があります。

Device Link プロファイルの使用

Profile Manager でダウンロードしリンクプロファイルを指定したプロファイルは、次の 3 種類の方法でジョブの印刷に使用することができます。

- Command WorkStation の「デバイスセンター：リソース：カラー設定」で全ジョブのデフォルトとして指定する
- MLPro930PS のプリンタドライバからジョブごとに指定する
- Command WorkStation の「ジョブのプロパティ」でジョブごとに指定する

カラー設定で Device Link プロファイルのデフォルトを設定する方法については 163 ページを、MLPro930PS のプリンタドライバから Device Link プロファイルを指定する方法については、215 ページを参照してください。Command WorkStation の「ジョブのプロパティ」ダイアログボックスから指定する方法は、プリンタドライバからの方法と同様です。

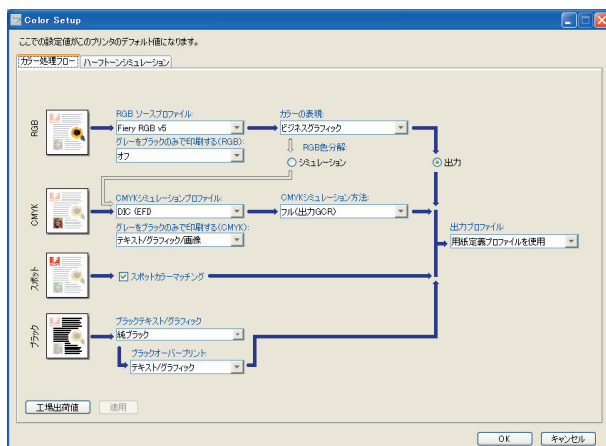
注　印刷ジョブのワークフローによっては、Device Link プロファイルは必要ありません。

カラー設定の使用

カラー設定を使用すると、ColorWise プリントオプションのデフォルト値を設定 / 変更することや、ハーフトーンスクリーンを指定することができます。

カラー設定を使用するには：

1 Command WorkStation を起動し MLPro930PS に接続します。

2 「デバイスセンター：リソース：カラー設定」をクリックします。

カラー設定の「カラー処理フロー」タブを使用すると、ColorWise プリントオプションのデフォルト値を設定 / 変更することができます。「カラー処理フロー」タブでは、MLPro930PS でジョブのカラー変換が分かりやすく図解されているので、簡単にデフォルト値を変更できます。

カラー設定の「ハーフトーンシミュレーション」タブを使用すると、ハーフトーンスクリーンを指定することができます。「ハーフトーンシミュレーション」タブでは、「ユーザ定義スクリーン 1」、「ユーザ定義スクリーン 2」、「ユーザ定義スクリーン 3」に対して、「角度」、「線数（LPI）」、「網点形状」を設定できます。

「ハーフトーンシミュレーション」は、MLPro930PS-X モデルのみで利用可能です。

Device Link プロファイルの使用設定

カラー設定を使用して Device Link プロファイル用のデフォルトプロファイルを指定することにより、Device Link プロファイルの使用を設定することができます。
Device Link プロファイルのダウンロードとリンクプロファイルの指定の方法については、159 ページを参照してください。

Device Link プロファイルの使用を設定するには：

1 Command WorkStation を起動し MLPro930PS に接続します。

2 「デバイスセンター：リソース：カラー設定」をクリックします。

3 「RGB ソースプロファイル」欄または「CMYK/ グレースケール」欄で、Device Link プロファイルをクリックし、Device Link プロファイルを選択します。

4 「出力プロファイル」欄でリンクプロファイルとして指定されている出力プロファイル（リンクアイコンのついた出力プロファイル）を選択します。

「カラー処理フロー」の図では、いくつかのプリントオプションをバイパスした色変換のワークフローが表示されます。「RGB ソースプロファイル」または「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションの下には、現在使用中の Device Link プロファイル名が表示されます。

5 「OK」をクリックします。

キャリブレーション

キャリブレーションを行うことによって、MLPro930PS から一貫した高品質のカラー出力を得ることができます。必要に応じてキャリブレーションを行います。

ここでは次の用語を使用しています。

用語	説明
ES-1000	EFI Spectrometer ES-1000 手動分光測色計
DTP32	X-Rite DTP32 自動走査濃度計
DTP32-II	X-Rite DTP32 Series II 自動走査濃度計
DTP41	X-Rite DTP41 自動走査分光測色計

注 各測定器の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

ここでは、Command WorkStation のキャリブレートと各カラー測定器を使用して、または VisualCal を使用してキャリブレーションを行う方法を説明しています。各キャリブレーション方法の記述箇所は以下のとおりです。

キャリブレーション方法	参照
キャリブレートと ES-1000	168 ページ
キャリブレートと DTP32 または DTP32-II	172 ページ
キャリブレートと DTP41	174 ページ
VisualCal（プリンタ操作部から）	176 ページ

注 Windows と Mac OS X コンピュータでのキャリブレーション方法は基本的には同じです。

ここではまた、基本概念やスケジュールの方法など、キャリブレーションを理解するために重要なトピックについても説明しています。各トピックの記述箇所は以下のとおりです。

項目	参照
キャリブレーションの適用	178 ページ
キャリブレーションの動作原理	179 ページ
キャリブレーションのスケジュール	180 ページ
キャリブレーション状況の確認	180 ページ

Command WorkStation を使用したキャリブレーション

Command WorkStation のキャリブレートを使用すると、さまざまなカラー測定器を使用して測定値に基づくキャリブレーションを簡単に行うことができます。キャリブレーションの変更はRIP 済みジョブにも適用されます。Command WorkStation で印刷ジョブを再 RIP する必要はありません。

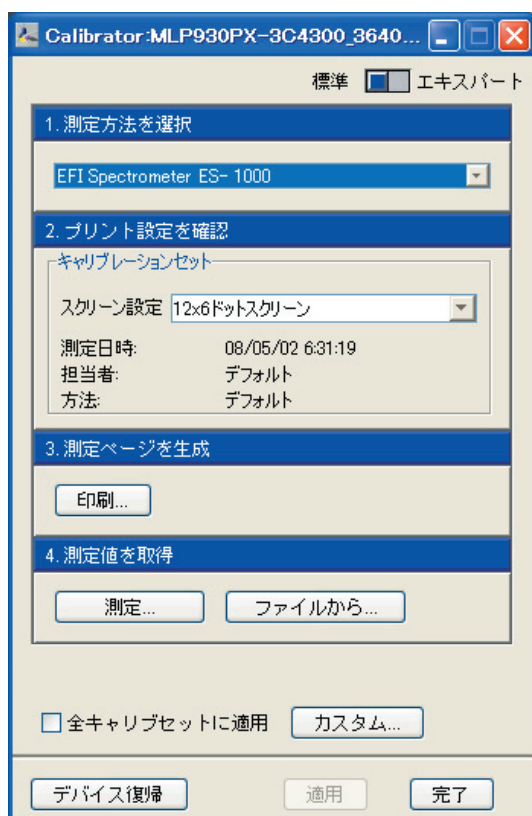
- 複数のユーザが同時に Command WorkStation を使用して MLPro930PS に接続することはできますが、一人のユーザだけがキャリブレートメニューからキャリブレーションを行うことができます。
- キャリブレーションを変更すると、全ユーザの印刷ジョブに影響します。このため、許可された担当者だけがキャリブレーションを行うようにすることをお勧めします。システム管理者用パスワードの設定の詳細については、「4 章 設定管理」を参照してください。

キャリブレートの起動

次の手順に従ってキャリブレーションを行ってください。

キャリブレートを使用するには：

1 Command WorkStation を起動し、MLPro930PS に接続します。

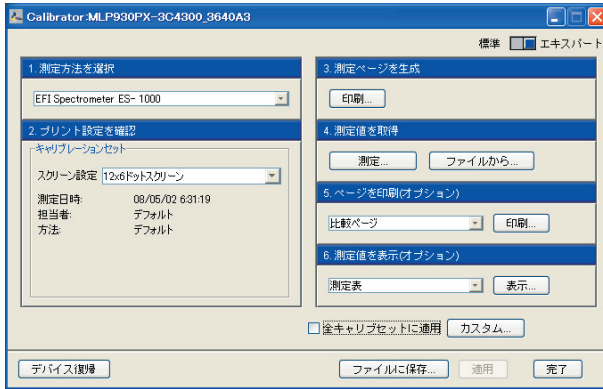
2 「サーバー」メニューから「キャリブレート」ボタンをクリックします。

「1. 測定方法を選択」欄に測定に使用する方法が表示されます。各測定方法を使ったキャリブレーションの方法については、次のセクションで説明します。

「2. プリント設定を確認：キャリブレーションセット」欄ではスクリーン設定を選択します。キャリブレーションセットの詳細については、「キャリブレーションとは」（178 ページ）を参照してください。

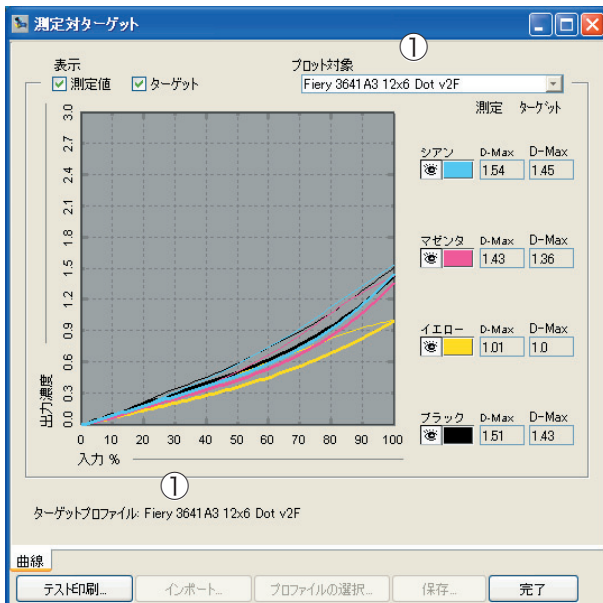
5

カラー印刷

エキスパートモード

キャリブレートでは「標準」と「エキスパート」の二つのモードを使用することができます。キャリブレーションの基本的な機能はすべて「標準」モードに含まれています。「エキスパート」モードには、「ページを印刷（オプション）」と「測定値を表示（オプション）」が追加されています。

「5. ページを印刷（オプション）」では、新測定値と既存のキャリブレーションセットを使用したキャリブレーション結果を検証するために比較ページを印刷することができます。

ユーザ専用のカスタム比較ページを別途作成することもできます。まずアプリケーションで PostScript または EPS ファイルを作成し、「CALIB.PS」と名付けます。それから、MLPro930PS に印刷します。すでに待機キューに入っている任意のジョブの名称も、Command WorkStation で「CALIB.PS」に変更して使用することもできます。

「6. 測定値を表示（オプション）」で「測定対ターゲット」を選択して「表示」をクリックすると、現在の測定値のグラフと測定値対ターゲット値のグラフを表示することができます。

①出力
プロファイル

複数の出力プロファイルがインストールされている場合は、画面の右上に「プロット対象」が表示されます。出力プロファイルを選択すると、出力プロファイルごとに設定されているターゲット値曲線が表示されます。

測定値の適用

「キャリブレート」を使用すると、現在の測定値をユーザの指定するキャリブレーションセットに適用することができます。

カラーの出力品質が重要な場合など、通常は、実際のジョブの印刷に使用するキャリブレーションセットを選択してキャリブレーションを行ってから、ジョブを印刷してください。

次の手順にしたがって、適用するキャリブレーションセットを選択してください。

測定値を適用するキャリブレーションセットを選択するには：

1 すべてのキャリブレーションセットへの測定値の適用を外す場合は、「全キャリブセットに適用」横のチェックマークを外します。

注 この場合、現在の測定値は「Calibrator」画面の「2. プリント設定を確認」で選択したキャリブレーションセットのみに適用されます。

2 すべてのキャリブレーションセットに測定値を適用する場合は、「全キャリブセットに適用」横にチェックマークを付けます。

3 キャリブレーションセットを指定する場合は、「カスタム」ボタンをクリックします。

「適用」ダイアログボックスが表示されます。

注 「全キャリブセットに適用」を選択してから「カスタム」ボタンをクリックすると、「適用」画面内のすべてのキャリブレーションセットが選択されて表示されます。「全キャリブセットに適用」のチェックマークを外してから「カスタム」ボタンをクリックすると、すべてのキャリブレーションセットが非選択で表示されます。

4 「適用」画面で、キャリブレーションセット用のチェックボックスをクリックして、適用するキャリブレーションセットを指定します。

5 「OK」をクリックします。

注 出力プロファイルに関連づけられていないキャリブレーションセットを選択して「OK」をクリックすると、警告メッセージが表示されますが、それらのキャリブレーションセットにも、現在の測定値を適用することができます。

現在の測定値は、すべてのキャリブレーション手順を終えて、「Calibrator」画面下の「適用」ボタンをクリックした時に、指定したキャリブレーションセットに適用されます。

注 12x6 ドットスクリーン／12x6 ラインスクリーン（多階調）と 12x12 ドットスクリーン／6x6 ドットスクリーン（2 階調）は、キャリブレーションのターゲットカーブが違うため、どちらかの測色結果を「全キャリブセットに適用」にチェックを入れて適用すると、色が変わる場合があります。

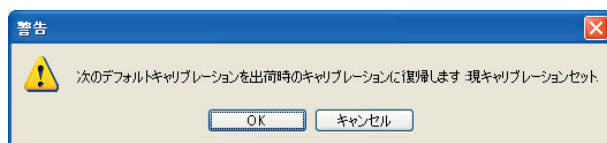
デフォルトキャリブレーション測定値への復帰

キャリブレーション測定値を工場出荷値に戻すときは、次の手順で行います。

出荷時のキャリブレーション測定値に復帰するには：

1　Command WorkStation を起動し、「サーバー」メニューから「キャリブレート」を選択するか、もしくは「ジョブセンター」で「キャリブレート」ボタンをクリックします。

2　「デバイス復帰」をクリックします。

デフォルトキャリブレーションを出荷時のキャリブレーションに復帰する、というメッセージが表示されます。

3　「OK」をクリックし、出荷時のキャリブレーション測定値に戻します。

「キャリブレート」画面で「全キャリブセットに適用」が選択されている場合は、すべてのキャリブレーションセットが出荷時のキャリブレーション測定値に戻ります。「適用」ダイアログボックスでキャリブレーションセットを選択した場合は、選択されたキャリブレーションセットのみが出荷時のキャリブレーション測定値に戻ります。

ES-1000 使用のキャリブレーション

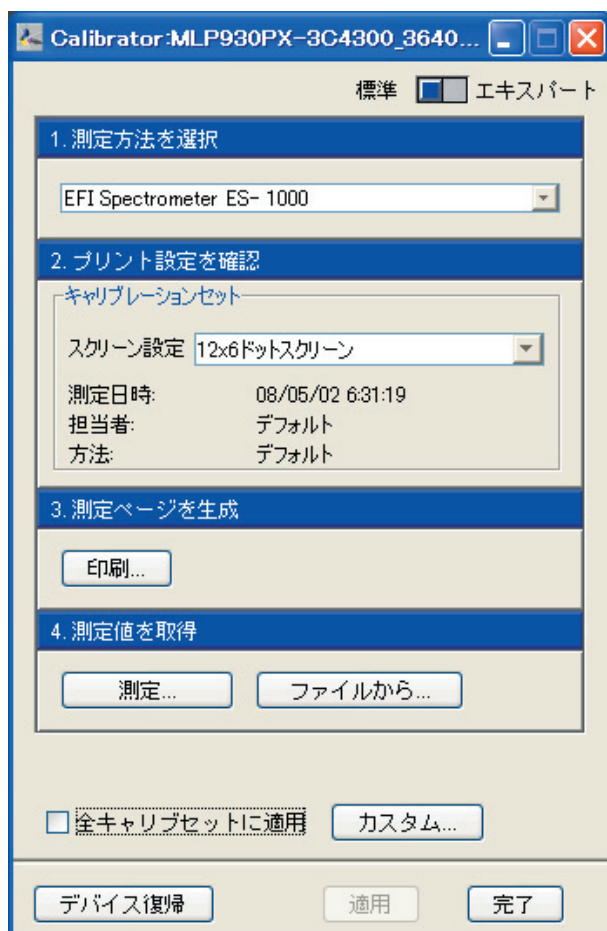
以下の手順に従って、ES-1000 を使用するキャリブレーションを行います。

ES-1000 を MLPro930PS のキャリブレーションに使用する前に、コンピュータに接続し調整しておく必要があります。ES-1000 の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

Command WorkStation と ES-1000 を使用してキャリブレートするには：

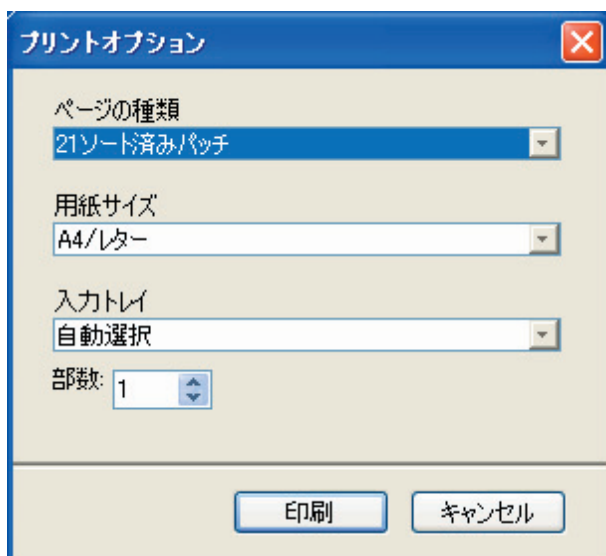
1　Command WorkStation を起動し、MLPro930PS に接続します。

2　「サーバー」メニューから「キャリブレート」を選択するか、もしくは「ジョブセンター」で「キャリブレート」ボタンをクリックします。

3 「1. 測定方法を選択」欄で「EFI Spectrometer ES-1000」を選択します。

4 「2. プリント設定を確認」欄でスクリーン設定を選択します。

注 このキャリブレーションを適用するためには、キャリブレーションセットを 1 つ以上の出力プロファイルに関連づける必要があります。ただし、デフォルトのキャリブレーションセットは、自動的にデフォルトの出力プロファイルに関連づけられているため、新たに関連づける必要はありません。

5 「3. 測定ページを生成」欄で、「印刷」をクリックします。

6 「プリントオプション」ダイアログボックスで項目を選択します。

- 「ページの種類」では、「34 ソート済みパッチ」、「21 ソート済みパッチ」、「34 ランダムパッチ」、または「21 ランダムパッチ」を選択します。
- 「用紙サイズ」には測定ページのサイズが表示されます。

  「用紙サイズ」は「ページの種類」と連動しています。たとえば、「ページの種類」で「34 ソート済みパッチ」を選択すると「A3 / タブロイド」が、「21 ソート済みパッチ」を選択すると「A4 / レター」が、自動的に表示されます。
- 「入力トレイ」では、測定ページを印刷する用紙をセットしているトレイを選択します。

 選択トレイに、適切なサイズと種類の用紙がセットされていることを確認してください。

7 「印刷」をクリックします。

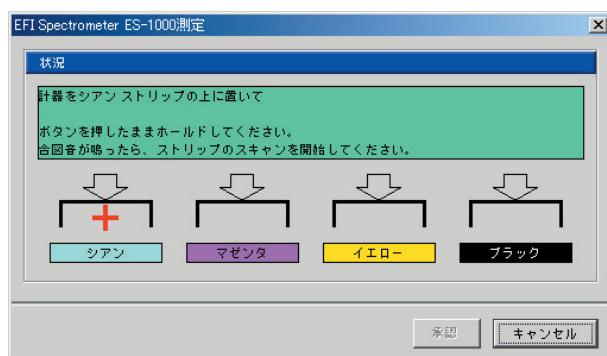
8 「4. 測定値を取得」欄で「測定」をクリックします。

「用紙サイズ」欄には、手順 6 で選択したサイズが表示されます。

9 「測定オプション」ダイアログボックスでページの種類と用紙サイズを確認し、「測定」をクリックします。

「情報」画面が表示されます。

10 ES-1000 をキャリブレーションドックに置いて、「OK」をクリックします。

「EFI Spectrometer ES-1000 測定」ダイアログボックスが表示され、「状況」欄に測定の指示が表示されます。

正確な測定結果を得るために、測定ページの下に白紙を数枚敷いて測定ページ以外の色が混入しないようにしてください。

11 ES-1000 のアパーチャ（計器露光部分）を、指定されたカラーストリップの開始部分の横の白い場所に配置します。

12 測定ボタンを押したままで、合図音が鳴るか、画面の背景色が緑色から白色に変わるのを待ちます。

注 Windows 対応コンピュータで合図音を聞くには、サウンドカードとスピーカがインストールされている必要があります。

13 合図音が鳴るか画面の背景色が変わったら、ES-1000 をゆっくりと同一速度でスライドさせて、ストリップを測定します。

14 ストリップ内の全パッチを測定し、ES-1000 のアパーチャがカラーストリップ最後の横の白い部分に来たら、指を測定ボタンから離します。

パッチの測定が正しく行われると、カラー名の横にチェックマークが表示され、次に測定するカラーの上に十字マークが表示されます。パッチの測定が正しく行われなかった場合は、画面の背景色が赤色に変わり、再測定を促すメッセージが表示されます。

15 上記の手順を繰り返し、すべてのカラーストリップを測定します。

注 測定は、画面に表示された順序で行う必要があります。

16 全ストリップの測定が完了したら、「OK」をクリックします。

17「Calibrator」ダイアログボックスで「適用」をクリックし、新キャリブレーション測定値を適用します。

18「情報」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

これでキャリブレーション作業が完了しました。

DTP32 または DTP32 Series II 使用のキャリブレーション

以下の手順に従って、DTP32 または DTP32 Series II 使用のキャリブレーションを行います。

DTP32 または DTP32 Series II を MLPro930PS のキャリブレーションに使用する前に、コンピュータに接続し調整しておく必要があります。DTP32 または DTP32 Series II の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

Command WorkStation と DTP32 または DTP32 Series II を使用してキャリブレートするには：

1　Command WorkStation を起動し、MLPro930PS に接続します。

2　「サーバー」メニューから「キャリブレート」を選択するか、もしくは「ジョブセンター」で「キャリブレート」ボタンをクリックします。

3　「1. 測定方法を選択」欄で、「X-Rite DTP32」または「X-Rite DTP32 Series II」を選択します。

4　「2. プリント設定を確認」欄で、スクリーン設定を選択します。

このキャリブレーションを適用するためには、キャリブレーションセットを 1 つ以上の出力プロファイルに関連づける必要があります。ただし、デフォルトのキャリブレーションセットは、自動的にデフォルトの出力プロファイルに関連づけられているため、新たに関連づける必要はありません。

5　「3. 測定ページを生成」欄で、「印刷」をクリックします。

6　「プリントオプション」ダイアログボックスで項目を選択します。

- 「ページの種類」では、「34 ソート済みパッチ」または「21 ソート済みパッチ」を選択します。
- 「用紙サイズ」には測定ページのサイズが表示されます。

  「用紙サイズ」は「ページの種類」と連動しています。たとえば、「ページの種類」で「34 ソート済みパッチ」を選択すると「A3 / タブロイド」が、「21 ソート済みパッチ」を選択すると「A4 / レター」が、自動的に表示されます。
- 「入力トレイ」では、測定ページを印刷する用紙をセットしているトレイを選択します。

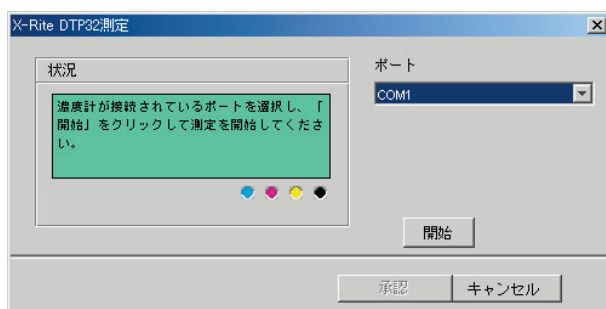
  選択トレイに、適切なサイズと種類の用紙がセットされていることを確認してください。
- 「部数」では、印刷する測定ページの部数を指定します。

7　「印刷」をクリックします。

測定ページが印刷されます。

8　「4. 測定値を取得」欄で、「測定」をクリックします。

9　「測定オプション」ダイアログボックスでページの種類と用紙サイズを選択してから、「測定」をクリックします。

10　表示されるダイアログボックスに従って、測定ページをDTP32またはDTP32 Series IIで読み取ります。

ポートを選択して「開始」をクリックすると、「状態」欄に、各カラーごとに、カラーストリップを挿入するようにとの指示が表示されます。

DTP32 Series IIにはストリップガイドが付いていません。ストリップガイドを指定の位置にセットするようにとのメッセージが表示された場合は、メッセージを無視してそのまま先に進んでください。

11　測定ページが適切に読み取られたとのメッセージが「状態」欄に表示されたら、「承認」をクリックします。

12「測定」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

13「Calibrator」ダイアログボックスで「適用」をクリックし、新キャリブレーション測定値を適用します。

14「情報」ダイアログボックスで、「OK」をクリックします。

これでキャリブレーション作業が完了しました。

DTP41 使用のキャリブレーション

以下の手順に従って DTP41 使用のキャリブレーションを行います。

DTP41 を MLPro930PS のキャリブレーションに使用する前に、コンピュータに接続し調整しておく必要があります。DTP41 の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

Command WorkStation と DTP41 を使用してキャリブレートするには：

1 Command WorkStation を起動し、MLPro930PS に接続します。

2 「サーバー」メニューから「キャリブレート」を選択するか、もしくは「ジョブセンター」で「キャリブレート」ボタンをクリックします。

3 「1. 測定方法を選択」欄で、「X-Rite DTP41」を選択します。

4 「2. プリント設定を確認」欄で、スクリーン設定を選択します。

注 このキャリブレーションを適用するためには、キャリブレーションセットを 1 つ以上の出力プロファイルに関連づける必要があります。ただし、デフォルトのキャリブレーションセットは、自動的にデフォルトの出力プロファイルに関連づけられているため、新たに関連づける必要はありません。

5 「3. 測定ページを生成」欄で、「印刷」をクリックします。

6 「プリントオプション」ダイアログボックスで項目を選択します。

- 「ページの種類」では、「34 ソート済みパッチ」または「21 ソート済みパッチ」を選択します。
- 「用紙サイズ」には測定ページのサイズが表示されます。

  「用紙サイズ」は「ページの種類」と連動しています。たとえば、「ページの種類」で「34 ソート済みパッチ」を選択すると「A3 / タブロイド」が、「21 ソート済みパッチ」を選択すると「A4 / レター」が、自動的に表示されます。
- 「入力トレイ」では、測定ページを印刷する用紙をセットしているトレイを選択します。

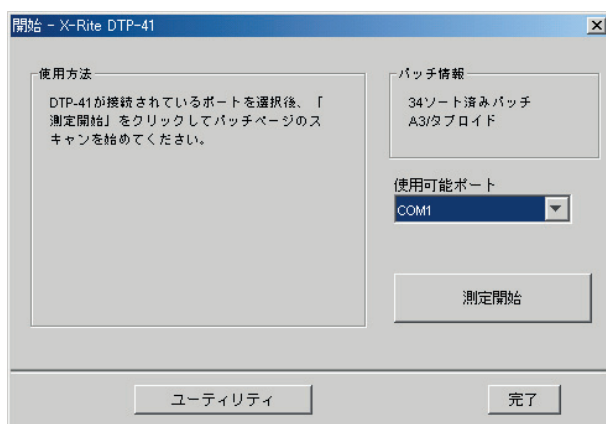
  注 選択トレイに、適切なサイズと種類の用紙がセットされていることを確認してください。
- 「部数」では、印刷する測定ページの部数を指定します。

7 「印刷」をクリックします。

測定ページが印刷されます。

8 「4. 測定値を取得」欄で、「測定」をクリックします。

9 「測定オプション」ダイアログボックスでページの種類と用紙サイズを確認し、「測定」をクリックします。

10「使用可能ポート」で DTP41 が接続されているポートを選択し、「測定開始」をクリックします。

11 測定ページを DTP41 に挿入します。

測定するカラーの中央がセンターマークに合うように、測定ページを測定ページスロットに挿入します。フロントローラーを通り抜けて、リヤードライブローラーにあたるまで、約 75mm 挿入してください。

12「ストリップ読み込み」をクリックします。

DTP41 が自動的に測定ページを引き込み、カラーデータを読み込みます。

13 読み込み状況を確認し、残りのストリップを読み込みます。

読み込みが終了したカラーは、「状況」欄の下にある○がチェックされます。ストリップの読み込み順序は、「使用方法」欄に表示される指示に従ってください。

14 測定ページの 4 色すべての読み取りが終ったら、「測定確認」をクリックします。

15「測定」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

16「キャリブレート」ダイアログボックスで「適用」をクリックし、新キャリブレーション測定値を適用します。

17「情報」ダイアログボックスで、「OK」をクリックします。

これでキャリブレーション作業が完了しました。

プリンタ操作部からのキャリブレーション

ColorCal を使用すると、Command WorkStation のキャリブレートを使用しないで、操作パネルから MLPro930PS のキャリブレーションを行うことができます。

VisualCal 使用のキャリブレーション

VisualCal™ はスキャナを使用しないで操作パネルから、キャリブレートするための機能です。

プリンタ操作部に入力された一連の値に基づいて、MLPro930 のコントローラがキャリブレーション計算を行います。ユーザは 2 枚のキャリブレーションページに出力されたトナー濃度とカラーの組合せを評価して、この計算で使用する値を決めます。このキャリブレーションページは特別に設計されたもので、プリンタ操作部から印刷します。

1 枚目の VisualCal ページ（「濃度範囲と 30% マッチ」ページ）は許容可能なトナー濃度の明るさを計算するために使用します。 CMYK ごとに枠が用意され、その中に濃淡のトナー濃度を表す円が表示されます。

各枠内ごとに、背景色と区別可能な円の中で最も左側の円を見つけ、その番号を順次プリンタ操作部から入力します。 この入力値によりカラートナーの濃度が再計算されます。トナーの明るさの再計算に必要な値はこれとは多少異なります。「30% マッチ」枠で背景のグレーに最も色調の近い円を見つけ、その番号をプリンタ操作部から入力します。すべての値の入力後、プリンタのトナー濃度と明るさ設定を再計算します。

2 枚目の VisualCal ページ（「グレーバランス」ページ）は、中間グレーバランス計算用です。中間グレーバランスとは、プリンタのエンジンが出力する純ブラックのグレーに最も近い CMY グレーを意味します。 このページでは、純ブラックからなるグレーの背景上に CMY グレーパッチが表示されます。グレーの背景に最も近い CMY グレーパッチを見つけ、その行番号と列番号を入力します。この値を使用して、プリンタが出力可能な中間グレーバランスが再計算されます。

グレーバランスページの背景のグレーには、濃度範囲と 30% マッチページによる最新の入力値が反映されます。

プリンタ操作部から VisualCal を使用してキャリブレートするには：

1 「印刷できます」画面で「Enter」ボタンを押します。

2 「機能」画面で「キャリブレーション」を押します。

パスワードの入力を促された場合は、パスワードを入力してから、「OK」を選択します。

3 「キャリブレーション」画面で「キャリブレーション設定」を押します。

- 「キャリブレーション方法」画面で、キャリブレーションの方法（標準、エキスパート）を選択します。

  「エキスパート」を選択すると比較ページを印刷することができます。

- 「トレイ」画面で給紙トレイ（自動選択、手差し）を選択します。

4 「キャリブレーション」画面で「キャリブレート」を押します。

5 「測定ページの印刷」画面で「はい」を選択します。

「濃度範囲と 30% マッチ」ページが印刷されます。

6 「ブラック開始」画面で適切な数値を指定して、「OK」を押します。

印刷された「濃度範囲と 30% マッチ」ページの「ブラックスタート」で、背景と区別可能な円で、最も左に位置するものを選択してください。

通常「1」から「8」までの数値を指定します。横列内に円が 1 つも見えない場合は「9」を指定します。すべての円が見える場合は「0」を指定します。「0」または「9」を指定した場合、測定ページ印刷後、「ブラック開始」画面に戻ります。

7 「ブラック終了」画面で適切な数値を指定して、「OK」を押します。

印刷された「濃度範囲と 30% マッチ」ページの「ブラックエンド」で、背景と区別可能な円で最も左に位置するものを選択してください。

注 通常「1」から「8」までの数値を指定します。横列内に円が 1 つも見えない場合は「9」を指定します。すべての円が見える場合は「0」を指定します。

8 シアン、マゼンタ、イエローに対して、上記の <#Hyperlink>6 〜 <#Hyperlink>7 を繰り返します。

9 「30% マッチ」画面で適切な数値を指定して、「OK」を押します。

印刷された「濃度範囲と 30% マッチ」ページの「30% マッチ」で、背景のグレーに最も濃淡が近い円を選択してください。

10 「グレーバランスページの印刷」画面で「はい」を押します。

11 「グレーバランス」ページが印刷されます。

12 「最良パッチ（横列）」画面で適切な数値を指定して、「OK」を押します。

印刷された「グレーバランス」ページで、背景のグレーに最も色が近いカラーパッチの行を選択してください。 デフォルト値は「0」です。

13 「最良パッチ（縦列）」画面で適切な値を指定して、「OK」を押します。

印刷された「グレーバランス」ページで、背景のグレーに最も色が近いカラーパッチの列を選択してください。

調整後の数値を反映した「グレーバランス」ページが印刷されます。

14 「0」行のグレー（現行グレーバランスのグレー）が、背景グレー（ブラックトナーのみで印刷されたグレー）と同色になるまで、上記の <#Hyperlink>12 〜 <#Hyperlink>13 を繰り返します。

15 比較ページ（カラーテストページ）の印刷を確認する画面で、「はい」を押します。

この画面は、エキスパートモードを選択している場合に表示されます。「はい」を選択すると、デフォルトキャリブレーションと新しいキャリブレーションを適用した、比較ページが印刷されます。

注 エキスパートモードを選択していて、指定キャリブレーションセットに複数の出力プロファイルが関連付けられている場合は、出力プロファイルの選択画面が表示されます。この場合は、出力プロファイルを選択します。

16 「変更を適用」画面で、「はい」を押します。

注 「いいえ」を選択すると、新しいキャリブレーションは適用されません。「デフォルトに戻す」を選択すると、初期設定のキャリブレーションが適用されます。

17 キャリブレーションの適用を確認する画面で、「はい」を押します。

新しいキャリブレーション測定値が適用されます。

キャリブレーションの削除

操作パネルからキャリブレーション曲線を削除することができます。ただし､新たにキャリブレーションを行うと、新しいキャリブレーション曲線が既存のものと置き換わるので、通常は削除する必要はありません。

操作パネルからキャリブレーション曲線を削除するには：

1　操作パネルで「キャリブレーション」画面を表示します。

2　「キャリブレート削除」を選択します。

3　確認を促す画面で､「はい」を選択します。

既存のキャリブレーション曲線が削除され、前のキャリブレーション設定に戻ります。

キャリブレーションとは

このセクションでは、キャリブレーションの基本概念やスケジュールの方法など、キャリブレーションを理解するために重要なトピックについて説明しています。

キャリブレーションの適用

キャリブレーション曲線は、実際に出力された各トナーの濃度の測定値とターゲット値に基づいて生成されます。

- 測定値は、プリンタの実際のカラーの出力状況を表します。この値はカラー測定器からMLPro930PS に入力されます。
- キャリブレーションセットは、測定ページの色味が異なる条件の組み合わせに対して、それぞれ別のキャリブレーションセットを割り当てて利用するために用います。たとえば、グラデーション補正による測定ページの変動に対応することができます。
- 出力プロファイルには、プリンタの標準状態の濃度カーブを表すターゲット値が含まれています

キャリブレーションを適用すると、実際の測定値とターゲット値の差異が補正されます。
Command WorkStation を使用して、MLPro930PS をキャリブレートすると、キャリブレーションセットが MLPro930PS に保存されます。このキャリブレーションセットは、出力プロファイルに関連づけられることによって機能します。出力プロファイルにキャリブレーションセットがカスタム指定されていない場合は、デフォルトキャリブレーションセットが適用されます。

キャリブレーションの動作原理

ほとんどのジョブは、デフォルトのキャリブレーションセットで適切に出力することができますが、MLPro930PS では、印刷ジョブの種類に応じてキャリブレーションセットを選択し、ジョブごとにキャリブレーションをカスタマイズすることもできます。

キャリブレーションを行うと以下のことが可能になります。

- MLPro930PS の色味が最適化されます。
- カラー品質が常時一定になるようにします。
- どの MLPro930PS を使用しても、一貫した品質のカラー出力を得ることができます。
- PANTONE カラーや他の名称付きカラーシステムなどのスポットカラーを使用するときに、より正確なカラーで出力します。
- ColorWise の「カラーの表現」および「CMYK シミュレーションプロファイル」を使用したり、ICC 対応プロファイルを使用するときに、それらの効果が最大限に得られるように MLPro930PS を最適化します。

MLPro930PS などのカラーページプリンタからカラー出力を行う場合、その出力品質はさまざまな要因に左右されます。とくに最適なトナー濃度を設定し、それを維持することは品質維持に重要です。濃度は表層が吸収する光の量の尺度です。トナー濃度を調整することで、一貫した品質のカラー出力を得ることができます。

プリンタを調整していても、トナー濃度は温度や湿度の影響を受けます。また、時間経過とともに変わることがあります。定期的にキャリブレーションを行い、周囲の環境の変化に対応してください。

キャリブレーション曲線は一種のトランスファ関数です。トランスファ関数とは数学用語で､データの遷移を表現するものです。トランスファ関数は通常、出力 / 入力曲線としてグラフ化されています。

MLPro930PS は、4 色の各トナーカラーの測定値とターゲット値を比較しキャリブレーション曲線を生成します。ターゲット値は指定出力プロファイルとプロファイルに関連づけられたキャリブレーションセットに基づいて決まります。

測定

測定ファイルにはプリンタのトナー濃度が数値化されて入っています。この数値は単色のシアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの濃淡をプリンタで出力したものを測定して作成された値です。測定ファイルを作成するには、まず Command WorkStation から、測定用のパッチページをプリンタに印刷します。次にカラー測定器を使用して、このパッチページを測定します。新測定値は自動的に MLPro930PS に保存されます。

出力プロファイルとキャリブレーションセット

MLPro930PS では、プリンタに最適化した出力プロファイルとキャリブレーションセットが提供されています。キャリブレーションセットは、測定ページの色味が異なる条件の組み合わせに対して、それぞれ別のキャリブレーションセットを割り当てて利用するために用います。MLPro930PS のキャリブレーションを行うとき、このキャリブレーションセットの中から目的に応じて選択します。一つのキャリブレーションセットを複数の出力プロファイルに関連づけることもできます。出力プロファイルの詳細については、208 ページを参照してください。

キャリブレーションのスケジュール

印刷ジョブの量により異なりますが、通常、少なくとも 1 日に 1 回 MLPro930PS をキャリブレートすることをお勧めします。一貫したカラー品質を維持することがきわめて重要な場合、またはプリンタが温度や湿度に多大な影響を受ける場合は、数時間ごとにキャリブレーションを行ってください。また、出力品質の変化に気づいたとき、期待した結果が得られない場合も、キャリブレーションを行ってください。

印刷ジョブを複数回に分けて印刷する場合は、各印刷を行う前にキャリブレーションを行ってください。プリンタの点検修理後も キャリブレーションを行う必要があります。ただし、点検修理の直後はより適切な効果を得るために、数十枚印刷してからキャリブレートすることをお勧めします。

きわめてわずかな温度や湿度の変化が、プリンタの出力に影響します。影響をできるだけ避けるために、窓際や直射日光のあたる場所や冷暖房装置の近くなどを避けてプリンタを設置してください。印刷用紙も同様に温度や湿度に影響されます。印刷用紙は涼しく温度や湿度の変化の少ない場所に保管してください。

カラー表やカラー参照ファイルなどの標準カラーページを印刷してみてください。カラー表は、Command WorkStation またはプリンタ操作部（95 ページ参照）から印刷することができます。カラー参照ファイルは、MLPro930PS のユーティリティ CD で提供されています（155 ページ参照）。
これらのページには、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの彩度 100% のパッチと淡色パッチとが載っています。肌色色調の画像は比較には最適です。また、個々のキャリブレーション時に印刷したページを保存しておいて比較することができます。これらの色調に目に見える変化がある場合は、キャリブレーションを行ってください。

カラー表およびカラー参照ファイルが、適切に出力されたことを確認してください。カラーパッチは、2 ～ 5% の淡色パッチでも、肉眼で見えるはずです。100 ～ 0% にかけて、パッチのカラーは徐々に淡くなります。

もし最高濃度のパッチ（各色 100% ）が時間経過とともに薄れていくようであれば、そのページを担当サービスに見せて、プリンタの出力が改善されるような調整ができるかどうか検討してください。

キャリブレーション状況の確認

ジョブを印刷する前に MLPro930PS が前回キャリブレートされた日時や使用キャリブレーションセット名を確認することができます。次の方法で最新のキャリブレーション情報を確認してください。

- Command WorkStation またはプリンタ操作部から、設定情報ページまたはテストページを印刷します。
- Command WorkStation の「サーバー」メニューから「キャリブレート」を選択するか、もしくは「ジョブセンター」で「キャリブレート」ボタンをクリックします。「キャリブレーションセット」欄にキャリブレーション実施日、担当者名などが表示されます。

スポットカラー

「スポットカラーマッチング」オプションで「オン」を選択すると、MLPro930PS は、スポットカラーをそのカラーに一番近い CMYK 値に変換して、プリンタの CMYK トナーを使用して印刷します。ところが、特定の印刷状況によっては、最良の結果を得るために、デフォルトの CMYK 値を調整する必要が出てくる場合があります。Command WorkStation のスポットカラーでは、状況に応じてスポットカラーとその CMYK 値を調整し管理することができます。

スポットカラーでは、スポットカラーを管理するほかに、代替カラーを作成することもできます。代替カラーについての詳細は、「代替カラーの使用」（191 ページ）を参照してください。

 MLPro930PS-X/-Sモデルでのみ利用できます。

スポットカラーの使用

スポットカラーを使用すると、スポットカラー用のデフォルトの CMYK 値の細かい調整を行うことができます。また、スポットカラーのリストを管理することもできます。それぞれのスポットカラー用の CMYK 値を含むスポットカラーのリストを、スポットカラー辞書と呼びます。MLPro930PS では、出力プロファイルごとに複数のスポットカラー辞書を管理して関連づけることができます。

- スポットカラーで設定されている CMYK 値を使用するには、「スポットカラーマッチング」オプションを「オン」に設定しておく必要があります（209 ページ参照）。
- ジョブの印刷時には、スポットカラーでの編集に指定した出力プロファイルを選択する必要があります。編集した出力プロファイルを選択しない場合は、スポットカラーでの編集は適用されません。

スポットカラーで提供される機能の中には、モニタでジョブのカラーを正確に表示する必要のあるものがあります。モニタでカラーを正確に表示するためには、製造元が推奨する設定でモニタを設定し、モニタに適切なモニタプロファイルを指定する必要があります。

以下の設定を指定します。

- モニタ：明るさ、コントラスト、色温度
- OS のコントロールパネル：解像度、更新間隔、カラー数

  モニタとモニタプロファイル設定の詳細は、モニタ付属の取扱説明書を参照してください。

スポットカラーの起動

スポットカラーの画面ではまず出力プロファイルを指定してから、それに関連づけるスポットカラー辞書を編集します。ただし、スポットカラー編集のどの時点でも別の出力プロファイルに変更することができます。

たとえば出力プロファイル X を選択し、スポットカラーを使用して PANTONE 123 を 30%M から 50%M に変更してからジョブを印刷すると、50%M で出力されます。出力プロファイル Y を選択して印刷した場合は、30%M で出力されます。出力プロファイル X を選択して「My Purple」というカスタムカラーを作成し、80C 40M に定義すると、ColorWise は出力プロファイル X を使用して CMYK 値を自動的に算出します。出力プロファイル Y には新しい CMYK 値を作成します。

スポットカラーを起動するには：

1　Command WorkStation を起動し MLPro930PS に接続します。

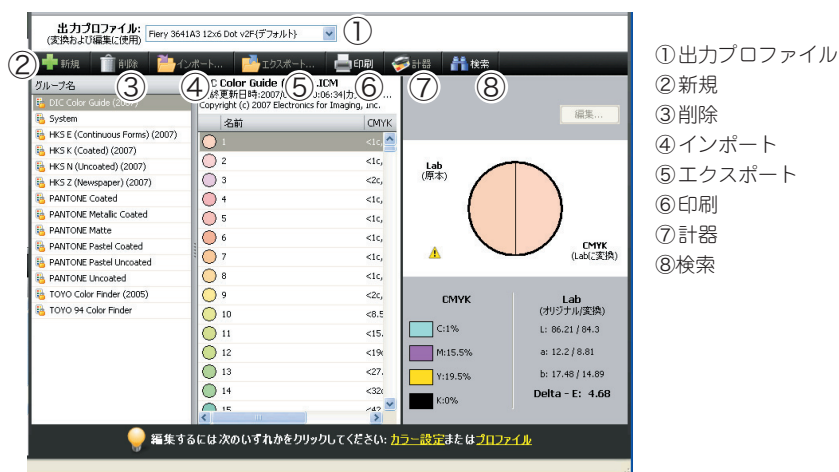
2　「デバイスセンター：リソース：スポットカラー」をクリックします。

3　出力プロファイルを選択します。

画面に表示される CMYK 値は、指定した出力プロファイル用に換算されています。

スポットカラー　メイン画面

スポットカラーのメイン画面には MLPro930PS 上のスポットカラーライブラリのカラーグループが一覧表示されます。画面上部には、各種ツールが表示されます。

①出力プロファイル
②新規
③削除
④インポート
⑤エクスポート
⑥印刷
⑦計器
⑧検索

MLPro930PS ではデフォルトで、システムと複数のカラーライブラリ（PANTONE、DIC、HKS、TOYO（MLPro930PS-S では、PANTONE のみ））が提供されています。これらのカラーライブラリにはデフォルトを示すアイコン「 」が表示されます。

スポットカラーではカスタムのカラーまたはグループを追加することができます。追加グループにはカスタムグループアイコン「 」が表示されます。グループ内のカラーは、デフォルトグループ、カスタムグループともに、カラーグループを開くことで表示することができます。

既存カラーの編集

スポットカラーを使用すると、MLPro930PS 上の既存カラーグループを表示し、管理することができます。また、スポットカラー内の特定カラーを検索して定義することができます。

スポットカラー内のカラーグループはその優先順位に従って表示されます。優先順位の高いカラーグループが一覧の上部に表示されます。たとえば、異なるグループ内の異なるカラーに同じ名前が付けられている場合、MLPro930PS は一覧内で上に表示されているグループ内のカラーを使用します。カラーの優先順位を管理することで、同一のスポットカラーに対し複数の CMYK 値を割り当てることができます。

カラーの優先順位を替えるには：

1　カラーグループ全体の優先順位を替えるにはそのグループを、個々のカラーの優先順位を替えるにはそのカラーをドラッグ & ドロップして場所を上下に移動させせます。

個々のスポットカラーには丸いカラーアイコンが表示されます。

編集メニューの「切り取り」/「コピー」アイコンをクリックしてから、一覧内の移動先をクリックし編集メニューの「貼り付け」アイコンをクリックすることで、選択したカラーグループ、または選択したカラーを一覧内の別の場所に移動することもできます。

「切り取り」機能はカスタムカラーにだけ使用することができます。

特定のカラーを検索するには：

1　「ツールバーの検索」ボタンをクリックします。

2　カラー名を入力し、「次へ」をクリックします。

入力されたカラー名を一覧の上部から検索します。検索が終了すると、見つかったカラー名がハイライトされ表示されます。

3　同じ条件で別のカラーを検索するには、検索画面で再度「次へ」をクリックします。

カスタムカラーの作成

デフォルトで提供されている PANTONE や DIC に加え、ユーザ定義のカスタムスポットカラーまたはグループを追加することができます。

新しいグループを追加するには：

1　グループ名の一覧の追加したい場所を選択します。

2　ツールバーで「新規」をクリックし、表示されたメニューで「グループ」を選択します。

新しいグループが表示されます。

新しいカラーを追加するには：

1　新しいカラーを追加するグループをグループ名一覧より選択します。

2　カラー名の一覧の追加したい場所を選択します。

3　ツールバーで「新規」をクリックし、表示されたメニューで「スポットカラー」を選択します。

新しいカラーが表示されます。

カスタムカラーまたはグループの名称を変更するには：

1　カラーまたはグループ名を選択します。

2　カラーまたはグループ名をクリックします。

3　アルファベットの大文字小文字やスペースなども含め、印刷ジョブ内で定義されているとおりに、新しい名称を入力します。

新しい名称は､Adobe Illustrator､QuarkXPress などのアプリケーションにより提供されています。

PANTONE などのデフォルトカラーまたはグループは、名称を変更することはできません。

カスタムカラーグループのインポート

スポットカラーではカスタムカラーグループを MLPro930PS にインポートすることができます。インポートされたカラーグループは、スポットカラーの一覧にカスタムカラーグループとして表示され、MLPro930PS 上で使用することができます。

カスタムカラーグループをインポートするには：

1　一覧内でカラーグループを追加したい場所の行を選択します。

2　ツールバーで「インポート」を選択します。

ファイル選択用のダイアログボックスが現れます。

注　インポートできるファイルは ICC（名称付きカラー）プロファイル形式のファイルです。

3　インポートするカラーグループを選択し､「開く」をクリックします

インポートされたカラーグループがスポットカラーの指定場所に追加されます。一覧内の場所を指定しなかった場合は、カラーグループは一覧の最上部に追加されます。

インポートしたカラーグループの名称が既存グループと同一の場合は、インポートしたカラーグループの名称を変更するように促されます。

カスタムカラーグループのエクスポート

カスタムカラーグループを ICC ファイルとして、MLPro930PS からコンピュータにエクスポートすることができます。この機能によって、コンピュータ経由でカラーグループを他の MLPro930PS にインポートし共有することができます。

カラーグループをエクスポートするには、まずそのグループを MLPro930PS に保存する必要があります。デフォルトカラーグループの場合は、まずそのグループをコピーしカスタムグループとして貼り付けてからエクスポートする必要があります。

カスタムカラーグループをエクスポートするには：

1 エクスポート対象のカラーグループを選択します。

2 ツールバーで「エクスポート」を選択します。

「別名保存」のダイアログボックスが現れます。

3 ファイルの保存場所を指定し、ファイル名を入力し「保存」をクリックします。

カラー値の編集

スポットカラーのカラーサーチ機能によって、特定スポットカラーをプリンタで再現するための正確な CMYK 値を定義することができます。既存スポットカラーが予想どおりに出力できない場合は、そのカラー値を編集し期待するカラーに近づけることができます。近似カラーをベースにし最良カラーになるまでその色相、彩度、明度を変更することができます。

スポットカラーメイン画面でカラーを編集するには：

1 編集するカラーを選択します。

2 「C」、「M」、「Y」、「K」 欄の値をダブルクリックしてハイライト表示し、各欄に新しい値を入力します。

編集済みのカラーがカラー一覧に表示されます。

編集済みのカラーは、「ファイル：保存」を選択するまでは保存されません。

スポットカラーのカラーサーチ機能を使ってターゲットカラーを見つけるには、次の方法に従ってください。近似のカラーからサーチを開始し、その色相、彩度、明度を調整して希望するカラーを見つけることができます。

カラーサーチ機能を使用してターゲットカラーを定義するには：

1　編集するカラーを選択します。

2　カラーアイコンをダブルクリックします。

「スポットカラー編集」ダイアログボックスが現れ、選択したカラーが中央パッチとして画面に表示されます。

①中央パッチ

3　ターゲットカラーにより近いカラーのパッチをクリックして中央パッチに指定します。

隣接パッチは中央パッチの明度または彩度を調整したバリエーションです。ある隣接パッチがターゲットカラーにより近い場合は、その隣接パッチを選択し中央パッチとして指定することができます。隣接パッチをクリックするとそのカラーが中央パッチとして表示され、隣接パッチもそれに従って更新されます。

選択カラーによって、画面右上に感嘆符アイコン「!」が表示されるものがあります。このアイコンは、中央パッチカラーがプリンタの色の範囲境界上またはその境界外にあり、正しく再現されないことがあることを示しています。その場合は色の範囲外カラーではなく、色の範囲内の最近似カラーを使用することをお勧めします。

4　「微調整モード」欄で、明度または彩度を選択します。

「明度」を選択すると、オリジナルカラーの明度をより暗いカラーからより明るいカラーに調整した隣接パッチが生成されます。このバリエーションではより暗いカラーが左、オリジナルカラーが中央、より明るいカラーが右に表示されます。

「彩度」を選択すると、オリジナルカラーの彩度をより低いカラーからより高いカラーに調整した隣接パッチが生成されます。このバリエーションではより低いカラーが左、オリジナルカラーが中央、より高いカラーが右に表示されます。

5 「微調整モード」右のレバーでは、隣接パッチ間のカラー値間隔を指定します。

「粗」側に設定すると、中央パッチカラーと大きく異なる隣接パッチが生成されます。ターゲットカラーに近づけるためには、「細」側に設定し、カラー値間隔を小さくすることをお勧めします。

6 カラーパッチの印刷カラーをスクリーン上でシミュレートします。

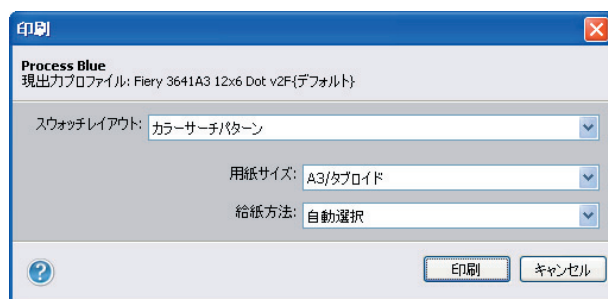
このシミュレーションは、表示用に設定されたモニタプロファイルによって変わります。モニタプロファイルを指定するには、編集メニュー画面で「編集：環境設定」を選択してください。

注. モニタが適切に調整されていて、正しいモニタプロファイルが選択されていることを確認してください。

7 ターゲットカラーが中央パッチとして表示されるまで、カラーパッチの明度または彩度を調整し隣接パッチをクリックします。

8 「印刷」をクリックします。

注. モニタ上でスポットカラーを正確に再現するのは非常に困難です。必ず印刷してカラーを確認してください。

9 「印刷」ダイアログボックスで、適切な項目を指定します。

「スウォッチレイアウト」では「カラーサーチパターン」または「隣接カラーパターン」のどちらかを選択します。「カラーサーチパターン」を選択すると、「カラーサーチ」画面に表示されたものと同じパターンのパッチを印刷します。「隣接カラーパターン」を選択すると、3 列 x8 行形式でパッチを印刷します。

「用紙サイズ」ではパッチ印刷に使用する用紙のサイズを指定します。

「給紙トレイ」ではパッチ印刷に使用する用紙の入ったトレイを指定します。

10 「印刷」をクリックします。

「パターン印刷」で印刷したページには次の情報が含まれています。

- 中央パッチの CMYK 値
- カラー値間隔
- カラー名
- 隣接パッチ用の明度または彩度
- 出力プロファイル名
- 日時

カラーサーチ機能の目的は、印刷カラーがターゲットカラーにマッチするカラーを見つけだすことであり、スクリーン上でターゲットカラーをシミュレートすることではありません。「パターン印刷」から隣接パッチを含むパッチページを印刷することで、印刷パッチの中からターゲットカラーにマッチするパッチを選択でき、そのパッチに対応したスクリーン上のパッチをターゲットカラーとして指定することができます。

11 「スポットカラー編集」ダイアログボックスでターゲットカラーを選択し、「OK」をクリックします。

編集済みカスタムカラーがカラーグループ内に表示されます。

ターゲットカラー測定器の使用

EFI Spectrometer ES-1000 を使用すると、ターゲットカラーを測定して、その測定値を直接スポットカラーにインポートすることができます。この機能によって、印刷されたロゴの赤やパッケージの黄などの実際の印刷カラーを測定し、スポットカラーとして使用することができます。

測定器がスポットカラーに接続されると、それまでの計器上の保存データは自動的に消去されます。最良の測定結果を得るには、オフライン状態での測定データを保存しておくことをおすすめします。

測定器の設定と使用の詳細については、各計器の取扱説明書を参照してください。

測定値をスポットカラーにインポートするには：

1　測定器用ソフトウェアがインストールされ、測定器が接続され設定済みであることを確認します。

2　ツールバーの「計器」をクリックし、表示されたメニューで測定器名を選択します。

3　「計器を選択」ダイアログボックスで適切な項目を選択し、「OK」をクリックします。

　測定器がスポットカラーに接続されると、計器のインジケータランプがしばらく点滅します。点滅が終了すると、測定器の測定準備が完了したことを表します。

4　測定器の計測部を測定対象の上に置き、測定ボタンを押します。

　測定カラーの CMYK 値が以下のルールでスポットカラーにインポートされます。

- スポットカラーメイン画面であるカラーが選択されている場合は、新測定カラーに更新されます。
- スポットカラーメイン画面でグループが選択されている場合は、新測定カラーがそのグループ内に追加されます。
- 「スポットカラー編集」画面が表示されている場合は、中央パッチが測定カラーに更新され、それに伴って隣接パッチも更新されます。

5　測定が終了したら、「計器：終了」を選択します。

　スポットカラーは測定器との接続を解除します。

デフォルトカラーグループまたはカラーを工場出荷時の設定に戻す

デフォルトカラーグループまたはカラーを工場出荷時の設定に戻すことができます。デフォルトカラーグループ全体、またはデフォルトカラーグループ内の特定のカラーを選択します。

デフォルトカラーグループを工場出荷時の設定に戻すには：

1 グループ名のアイコンを右クリックします。

2 「工場出荷時の値に復帰」を選択します。

3 警告メッセージ画面で「はい」を選択します。

デフォルトカラーグループ内の特定のカラーを工場出荷時の設定に戻すには：

1 グループ名のアイコンを選択します。

2 工場出荷時の設定に戻すカラーを選択します。

3 カラー名のアイコンを右クリックし、「工場出荷時のカラーに復帰」を選択します。

4 警告メッセージ画面で「はい」を選択します。

代替カラーの使用

代替カラーは、書類内で指定されているカラーの RGB 値または CMYK 値を、スポットカラー辞書で定義されている CMYK 値で置換するためのカラーです。 代替カラーを作成することにより、書類内のカラーをより状況に応じたカラーに変換して印刷することができます。

- カラー代替はテキスト、ベクトル、ラインアートにのみ効果があり、ラスター画像には効果がありません。
- カラーを代替カラーとして定義すると、RGB カラー用の設定（「RGB ソースプロファイル」、「カラーの表現」、「RGB 色分解」など）と CMYK カラー用の設定（「CMYK シミュレーションプロファイル」、「CMYK シミュレーション方法」、「用紙シミュレーション」など）の効果はなくなります。代替カラーはスポットカラーと同様のプロセスで変換されます。

代替カラーのワークフロー

代替カラーのワークフローでは、スポットカラーを使用してカラー代替値を定義してから、プリンタドライバで「カラー置換」オプションをオンに設定して印刷します。「カラー置換」オプションは、Command WorkStation で書き換えることもできます。

代替カラーの作成

代替カラーグループに代替カラーを追加し、代替カラーの値と名前を指定するには、次の手順を参照してください。

代替カラーは、代替カラーグループ内のみに追加することができます。

代替カラーを追加しカラー値と名前を指定するには：

1　Command WorkStation を起動し MLPro930PS に接続します。

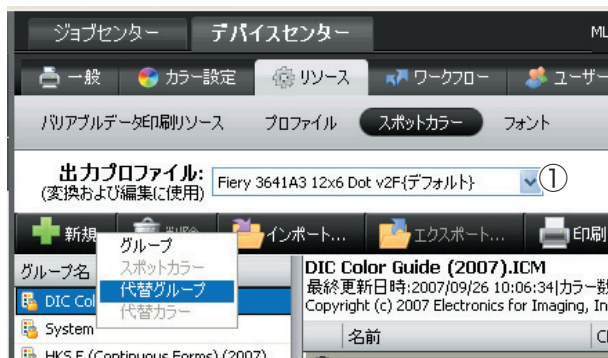
2　「デバイスセンター：リソース：スポットカラー」をクリックします。

スポットカラーのメイン画面が表示されます。

3　出力プロファイルを選択します。

スポットカラー画面に表示される CMYK 値は、指定した出力プロファイル用に換算されています。

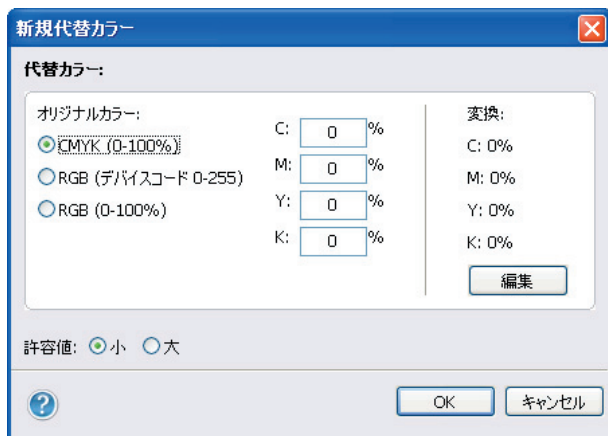
4　グループ一覧の中から追加する場所を選択します。

5　ツールバーで「新規」をクリックし、表示されたメニューで「代替グループ」を選択します。

①出力プロファイル

新規代替カラーグループが「無題 n」として作成されます。

6　グループ名を入力し、「OK」をクリックします。

7　名前を付けたカラーグループを選択し、ツールバーで「新規」をクリックし、表示されたメニューで「代替カラー」を選択します。

「新規代替カラー」ダイアログボックスが表示されます。

8　オリジナルカラーのカラーモードを選択します。

9　代替カラーの許容値を選択します。

「許容値」の詳細は、196 ページを参照してください。

10　C、M、Y、K 各欄に代替するカラー値を入力します。

11「OK」をクリックします。

代替カラー値の定義

オリジナルカラーを代替カラーに指定した後は、編集ボタンをクリックし、変換カラーを編集ダイアログを使用して、正確な CMYK 値を入力し、代替カラー値を定義します。

正確な CMYK 値を入力して代替カラー値を定義する方法については、次の手順を参照してください。

代替カラーを定義するには：

1　代替するカラーグループを選択します。

2　代替するカラーアイコンをダブルクリックします。

「代替カラーを編集」ダイアログボックスが表示されます。

3　「編集」ボタンをクリックします。「変換カラーを編集」ダイアログボックスが表示されます。

4　使用する代替カラーになるまで隣接パッチをクリックします。

5　「印刷」をクリックして、代替カラーの印刷色を確認します。

6　「OK」をクリックします。

編集したカラーがスポットカラーのメインウィンドウの一覧に表示されます。

代替カラーを使用したジョブの印刷

スポットカラーで代替カラーを定義したのち、その代替カラーを使用してプリンタドライバから
ジョブを印刷することができます。Command WorkStation からプリントオプションを上書きし
て、代替カラーを使用したジョブを印刷することもできます。

Windows と Mac OS での代替カラーを使用したジョブの印刷手順は基本的には同じです。

代替カラーを使用してジョブを印刷するには：

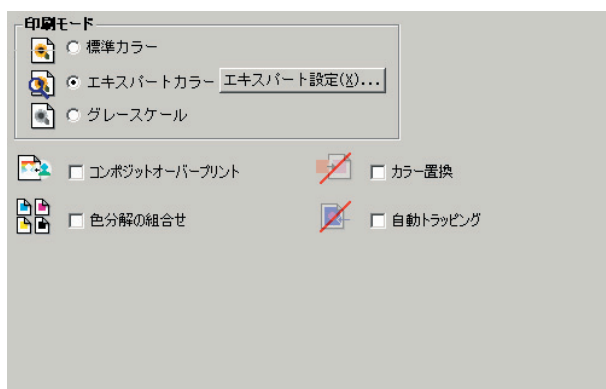
1　アプリケーションからジョブを開きます。

2　「プリント（印刷）」を選択します。

3　MLPro930PS を選択し、「プロパティ」をクリックします。

　「プロパティ」ダイアログボックスに「Fiery 印刷」タブが表示されます。

4　「カラー」タブをクリックします。

5　「カラー置換」を選択します。

6　「OK」をクリックし、「プロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

7　「OK」をクリックし、印刷を行います。

　これで代替カラーを使用したジョブが印刷されます。

「代替カラー追加」ダイアログボックス

「代替カラー追加」ダイアログボックスで代替カラーのカラーモードと許容値を定義することができます。

- 代替カラー： 代替カラーのカラーモードを選択します。

  CMYK（0-100%）

  RGB（デバイスコード 0-255）

  RGB（0-100%）

- 許容値：代替カラーの許容範囲を選択します。

  小（小文字で表示）

  大（大文字で表示）

入力エラーを防ぐために既定のフォーマットで値を表示します。大文字または小文字も表示します。

- CMYK（0-100%）モード

  小文字： < 0 %c、0 %m、0 %y、0 %k>

  大文字：<0 %C、0 %M、0 %Y、0 %K>

- RGB（デバイスコード 0-255）モード

  小文字：< 0 r、0 g、0 b>

  大文字：< 0 R、0 G、0 B>

- RGB（0-100%）モード

  小文字：< 0 %r、0 %g、0 %b>

  大文字：< 0 %R、0 %G、0 %B>

代替カラーの許容範囲

代替カラーは、アプリケーション、OS、プリンタドライバなどによって影響を受けます。小数点第２桁切り捨ての規則によって起こる入力値の差（ユーザによるカラー値とMLPro930PSが受信するカラー値の差）を調整するため、「大」「小」の２つの許容範囲が提供されています。

次表は、カラーモード別に２つのオプションの許容範囲を示しています。

カラーモード	小	大
CMYK（0-100%）	+/- 0.25%	+/- 0.5%
RGB（デバイスコード0-255）	+/- 0.25	+/- 1
RGB（0-100%）	+/- 0.25%	+/- 0.5%

注 表に示す値はおおよその値です。

- CMYK（0-100%）

  小：入力したカラー値の+/- 0.25%内にあてはまるカラーを代替します。

  大：入力したカラー値の+/- 0.5%内にあてはまるカラーを代替します。

- RGB（デバイスコード0-255）

  小：入力したカラー値の+/- 0.25内にあてはまるカラーを代替します。

  大：入力したカラー値の+/-1内にあてはまるカラーを代替します。

- RGB（0-100%）

  小：入力したカラー値の+/- 0.25%内にあてはまるカラーを代替します。

  大：入力したカラー値の+/- 0.5%内にあてはまるカラーを代替します。

カラーの代替方法

カラーの代替は、同一のオリジナルカラーに２つの異なるCMYK値が定義される場合に起こります。

次の例では、カラーの代替方法を示しています。

- オリジナルカラー： <100, 0, 0, 0> CMYK値（シアン）
- 代替１： <0, 100, 100, 0>（赤）
- 代替２： <100, 0, 100, 0>（緑）

次表は、同一のオリジナルカラーに 2 つの異なる CMYK 値が設定されたカラー代替を示しています。

	代替値 / カラー名	CMYK 値	代替前	代替後
オリジナルカラー	―	<100, 0, 0, 0>	―	―
代替 1	<100.0c, 0.0m, 0.0y, 0.0k>	<0, 100, 100, 0>	シアン	赤（以下参照）
代替 2	<100.0c, 0.0m, 0.0y, 0.0k>	<100, 0, 100, 0>	シアン	緑（以下参照）

代替 1

代替 2

優先順序の仕組み

2 つの代替カラーの代替値 / カラー値が同じで、CMYK 値と許容範囲が異なる場合は、スポットカラーによってグループのカラー順序に従って代替カラーの優先順序が決められます。

スポットカラーによるカラー代替の処理順序は、グループのカラー順序により決まります。一覧の上部にあるカラーは、下部にあるカラーよりも優先順序が高くなります。スポットカラーはその一覧をすべて読み取り、優先順序を決めます。優先順序を決めた後に代替カラーが追加されても、一度決まった順序が書き換えられることはありません。

次の例では、優先順序の仕組みを示しています。

- オリジナルカラー： <100, 0, 0, 0> CMYK 値（シアン）
- 代替 3： <0, 100, 100, 0> 小さい許容範囲（赤）
- 代替 4： <100, 0, 100, 0> 大きい許容範囲（緑）

カラーの順序

- 例 1：代替 3（赤）が代替 4（緑）よりも優先順位が高い
- 例 2：代替 4（緑）が代替 3（赤）よりも優先順位が高い

次表は、代替値 / カラー名が同じで、CMYK 値と許容範囲が異なる場合の優先順序を示しています。

	カラーの順序	代替値 / カラー名	CMYK 値	代替前	代替後
		オリジナルカラー	<100, 0, 0, 0>		
例 1	代替 3 代替 4	<100.0c, 0.0m, 0.0y, 0.0k> <100.0C, 0.0M, 0.0Y, 0.0K>	<0, 100, 100, 0> <100, 0, 100, 0>	シアン	赤（以下参照）
例 2	代替 4 代替 3	<100.0C, 0.0M, 0.0Y, 0.0K> <100.0c, 0.0m, 0.0y, 0.0k>	<100, 0, 100, 0> <0, 100, 100, 0>	シアン	緑（以下参照）

例 1

例 2

代替 3 および代替 4 の代替値 / カラー名は同じですが、グループ一覧の順序によって優先順序が異なります。

- 例 1 では、代替 3 は一覧の上部にあるため優先順位が高くなっています。代替 4 の許容範囲が大きいため、代替 4 のカラー代替が行われます。
- 例 2 では、代替 4 は一覧の上部にあるため優先順位が高くなっています。代替 3 の許容範囲が小さいため、代替 3 のカラー代替は行われません。

代替カラーグループのエクスポートとインポート

スポットカラーグループのように、代替カラーグループも ICC プロファイルとしてエクスポートまたはインポートすることができます。代替カラーの定義は、ICC プロファイルの一部としてタグ付きで保存されるので、複数のプリントサーバへエキスポートすることができます。

ColorWise プリントオプション

ここでは、ColorWise カラー管理システムにおける設定方法と、ジョブに合わせた設定の変更方法について説明します。また、PostScript 対応プリンタドライバの役割、Windows と Mac OS 用プリンタドライバを使用したカラー管理についても説明します。

MLPro930PS のカラー管理システムの概観と、ColorWise プリントオプションの詳細を説明します。各オプションの記述箇所は、次の表を参照してください。

ColorWise プリントオプション	参照
CMYK シミュレーションプロファイル	201 ページ
CMYK シミュレーション方法	202 ページ
RGB 色分解	202 ページ
RGB ソースプロファイル	203 ページ
色分解の組合せ	204 ページ
カラー置換	204 ページ
カラーの表現	205 ページ
グレーをブラックのみで印刷する	206 ページ
コンポジットオーバープリント	207 ページ
自動トラッピング	208 ページ
出力プロファイル	208 ページ
スポットカラーマッチング	209 ページ
ブラックオーバープリント	210 ページ
ブラックテキスト / グラフィック	211 ページ

MLPro930PS のカラー管理

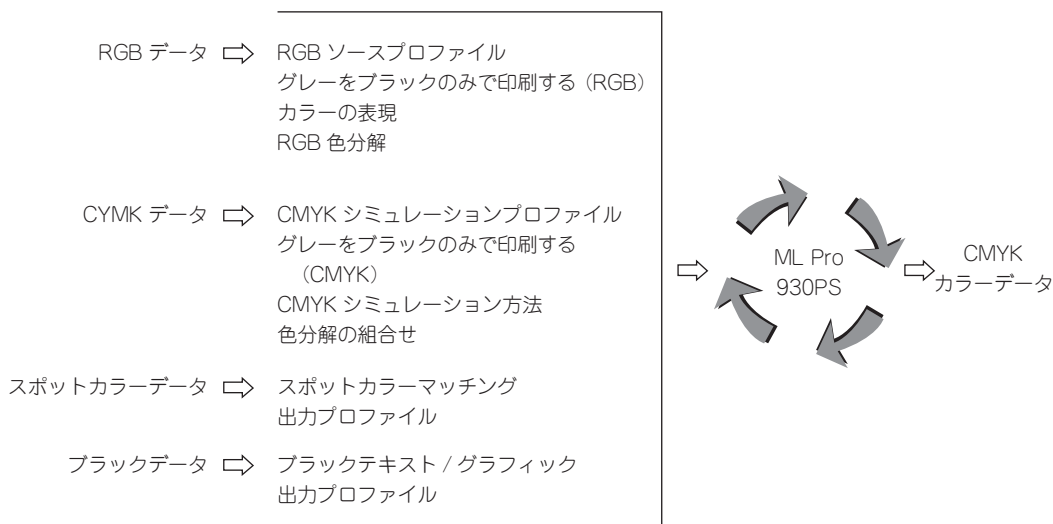
MLPro930PS から出力するカラーを次の方法で管理することができます。

- プリンタドライバのメニューから、ジョブごとに ColorWise オプションの設定を選択することができます。
- Command WorkStation のカラー管理で、ColorWise オプションのデフォルト値を指定することができます（162 ページ参照)。カラー管理で設定されたデフォルト値は、プリンタドライバから書き換えない限りすべての印刷ジョブに適用されます。
- MLPro930PS のキャリブレーション、プロファイルの変更、プロファイルの管理、スポットカラーの設定と管理などを、Command WorkStation のキャリブレート、プロファイル編集、プロファイル管理、スポットカラーで設定します。

アプリケーションは、さまざまな色空間のデータを MLPro930PS に送ります。オフィスアプリケーションは、通常 RGB データを作成します。デザイン関係のアプリケーションでは、CMYK データを使用するのが一般的で、PANTONE などのスポットカラーを含むデータもよく使われます。ところが色空間はアプリケーションによって決まるのではなく、同一ファイルの同一ページ上に、RGB、CMYK、スポットカラーが混在する場合もあります。MLPro930PSM では、さまざまな色空間の混在したファイルを出力する際に、ユーザがそれぞれの色空間の出力を制御することを可能にします。

MLPro930PS は、CMYK カラーデータを生成します。
下図は、MLPro930PS カラー管理システムのカラーデータ変換プロセスを表しています。カラー管理は、印刷ジョブを MLPro930PS に送信するときにプリントオプションを設定することで制御します。プリントオプションとその設定内容については、以下で説明します。

RGB データ	⇨	RGB ソースプロファイル グレーをブラックのみで印刷する（RGB） カラーの表現 RGB 色分解
CYMK データ	⇨	CMYK シミュレーションプロファイル グレーをブラックのみで印刷する （CMYK） CMYK シミュレーション方法 色分解の組合せ
スポットカラーデータ	⇨	スポットカラーマッチング 出力プロファイル
ブラックデータ	⇨	ブラックテキスト / グラフィック 出力プロファイル

⇨

RGB データだけに作用するプリントオプションは、「RGB ソースプロファイル」、「グレーをブラックのみで印刷する（RGB）」となります。「カラーの表現」、「RGB 色分解」は、Lab、XYZ などデバイスに依存しない色空間のカラーデータにも影響します。

PostScript 3 では、ソース色空間が RGB である場合、「RGB ソースプロファイル」の設定が、すべての CIEABC 空間のカラーに適用されます。また、Adobe Photoshop のポストスクリプトカラー管理を使用して、CIE DEFG 形式の CMYK データを MLPro930PS に送った場合、通常 RGB データだけに適用される MLPro930PS の「カラーの表現」の設定が、CMYK のデータにも適用されます。

ColorWise オプションのほとんどは、Command WorkStation のカラー管理でデフォルト値を設定することができます。また、それらは MLPro930PS にジョブを送るときに、プリントオプションで上書きすることができます。製品出荷時のデフォルト値の詳細については、「4 章 設定管理」と「7 章 プリントオプション」を参照してください。

ColorWise オプションの詳細

次に ColorWise オプションの詳細を記述します。

CMYK シミュレーションプロファイル

「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションは、MLPro930PS でオフセット印刷の校正出力、または他のプリントデバイスのシミュレーションを行う場合に指定します。CMYK データがどの印刷標準または他のプリントデバイス用に色分解されたかによって、「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションで選択すべきプロファイルが異なります。このオプションは CMYK データだけに適用されます。

- DIC（EFI）— 大日本インキ化学工業株式会社の印刷標準に近い色空間を定義します。DIC 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- Euroscale（EFI）— ヨーロッパの印刷標準に近い色空間を定義します。Euroscale 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- ISO Coated — 国際標準化機構の印刷標準（コート紙）に近い色空間を定義します。ISO-Coated 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- ISO Uncoated — 国際標準化機構の印刷標準（アンコート紙）に近い色空間を定義します。ISO-Uncoated 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- Japan Color 2001 type1（EFI）— 日本印刷学会標準化委員会の印刷標準に近い色空間を定義します。Japan Color 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- JMPA ver.2（EFI）— 日本雑誌協会の印刷標準に近い色空間を定義します。 JMPA Color 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- SWOP-Coated（EFI）— 米国の印刷標準に近い色空間を定義します。SWOP-Coated 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- TOYO Offset Coated 2.0 — 東洋インキ製造株式会社の印刷標準に近い色空間を定義します。TOYO OffsetCoated 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- シミュレーション -1 〜 10 — カスタムシミュレーションに使用します。たとえば､ICC プロファイルなどのカスタム色分解で変換した画像には、MLPro930PS 上の対応するプロファイルを選択します。

注 ICC プロファイルを使用して色分解された画像を適切にシミュレートするには、MLPro930PS に同一のプロファイルをダウンロードする必要があります。

ドライバで「双方向通信」をオンに設定してある場合は、「CMYK シミュレーションプロファイル」のメニュー欄に、MLPro930PS にダウンロードされている各カスタムシミュレーションプロファイル名が表示されます。

- なし ー シミュレーションは適用されません。キャリブレーションは適用（反映）されます。
- ColorWise オフ ー 他のプリントデバイスのシミュレーションは適用されません。

CMYK シミュレーション方法

「CMYK シミュレーションプロファイル」で「なし」または「ColorWise オフ」以外を選択した場合のシミュレーション方法を指定します。

- クイック ー CMYK それぞれに 1 種類のトランスファ曲線が適用され、出力濃度のみ調整されます。
- フル（ソース GCR）ー 各カラーの出力濃度に加え色相調整用のカラーメトリック変換も行われるため、より正確なシミュレーションが適用されます。また、「CMYK シミュレーションプロファイル」指定のブラックインクの情報が使用されます。ここで指定したプリントデバイス用のカラー校正を印刷する場合に、この項目を選択します。

  「フル（ソース GCR）」では CMYK のうち K のみ完全に独立した色処理を行うため、K のみの文字やグラフィックなどは K 単色で再現されます（墨版保持機能）。スキャンまたは Adobe Photoshop などのアプリケーションでブラック生成（UCR / GCR）を使用し色分解されたデータ用に選択してください。
- フル（出力 GCR）ー「フル（ソース GCR）」と同様のシミュレーション方法が適用されます。この変換では、「出力プロファイル」で指定されているプロファイル内のブラックインクの情報が使用されます。 MLPro930PS で最終出力する場合にこの項目を選択します。

  「フル（出力 GCR）」では、K 版情報がいったん CMY 版に組み込まれたあと、出力プロファイルによって CMYK に分版されるため、CMY と K の比率は保持されませんが、一般的に「フル（ソース GCR）」より色再現精度が向上します。この方法では、ColorSync など ICC プロファイルを用いた一般的なカラーマッチングとの互換性が高くなります。

RGB 色分解

このオプションは RGB データを、シミュレーション用の CMYK またはプリンタ用の CMYK のどちらの CMYK 色空間に分解するかを指定します。

「出力」または「シミュレーション」を指定します。「出力」は、RGB データをプリンタの色空間に変換します。「シミュレーション」は、オフセット印刷機など別のプリントデバイスの色空間のシミュレーションを行います。たとえば、高質な ICC プロファイルで出力できるプリントデバイスがある場合、そのプリントデバイスをシミュレートした出力を MLPro930PS から得ることができます。

RGB 色分解機能は、特にオフセット印刷するジョブの校正出力で重宝します。RGB データを実際に CMYK に変換する前に、複数のプロファイルで出力して結果を比べることで、最良の方法で CMYK へ変換することができます。

「RGB 色分解」オプションは、「出力プロファイル」または「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションと併用してください。

- 出力 ー「出力プロファイル」オプションで「プリンタの初期設定」が選択されている場合は、RGBデータはプリンタの CMYK色空間に変換されます。「出力 - 1」〜「出力 - 10」が選択されている場合は、プリンタ用出力プロファイルを編集し作成された CMYK色空間に変換されます。
- シミュレーション ー RGB データは、「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションで選択されている CMYK シミュレーションプロファイルによる処理と、出力プロファイルによる処理によって CMYK 色空間に変換されます。

RGB ソースプロファイル

「RGB ソースプロファイル」オプションは、書類内の RGB データのソース色空間を定義するときに使用します。ここで指定する設定は、他のカラー管理システムで指定したソース色空間のプロファイルを書き換えます。一般的に使用されるモニタ色空間のファイルは、ドライバや Command WorkStation のプロファイルに入っています。スキャナのプロファイルなど特定色空間を使用する場合は、Command WorkStation のプロファイルを使用してダウンロードします。

「RGB ソースプロファイル」オプションで「なし」以外を選択すると、MLPro930PS で RGB データの処理をコントロールすることができます。この場合 MLPro930PS は、データに設定されたソース色空間の定義や、アプリケーションやドライバのカラー管理システムのプロファイルを書き換えます。たとえば、Mac OS の ColorSync システム特性での設定は、「RGB ソースプロファイル」設定で書き換えられます。他の場所で指定したソース色空間を書き換えたくない場合は、ここで「なし」を選択してください。

以下に、MLPro930PS の RGB ソース色空間について説明します。

- Apple 標準 ー Mac OS 対応モニタ用のソース色空間を定義します。
- sRGB（PC）ー Windows 対応モニタ用のソース色空間を定義します。
- Adobe RGB（1998）ー Adobe 指定のソース色空間を定義します。プリプレス業界で Adobe Photoshop での RGB 作業用スペースとして使用されています。
- ECI-RGB ー ECI（ヨーロッパ・カラー・イニシアティブ）指定のソース色空間を定義します。広告代理店、出版社、印刷所などで、RGB 作業用スペースとして使用されています。
- EFIRGB ー EFI 指定のソース色空間を定義します。ファイルに RGB データの詳細な情報がない場合に最適です。
- FieryRGBv5 ー EFI 指定のソース色空間を定義します。ファイルに RGB データの詳細な情報がない場合に最適です。「EFIRGB」に比べ、色空間がより広範囲に設定されており、特に青の鮮やかさを増すように定義されています。
- ソース - 1 〜ソース - 10 ー MLPro930PS にダウンロードされている RGB プロファイルのソース色空間を定義します。

  ドライバで「双方向通信」をオンに設定している場合は、各プロファイル名のメニュー欄に、MLPro930PS にダウンロードされている各カスタムプロファイル名が表示されます。
- なし ー アプリケーションなどで指定したソース色空間を書き換えたくない場合に選択します。

  この場合ファイルの種類によって出力カラーが微妙に異なります。たとえば、RGB EPS と RGB TIFF に対して、MLPro930PS は異なる変換方法を適用します。

  - ソース色空間情報を含む PostScript RGB データ（RGB EPS）には、「カラーの表現」オプションでの指定（205 ページ参照）に基づくカラー変換が適用されます。
  - 非 PostScript RGB データ（RGB TIFF）およびソース色空間情報のない PostScript RGB データ（RGB EPS）には、通常の UCR/BG（ Under Color Removal/Black Generation）変換が適用されます。

色分解の組合せ

一部のアプリケーションで作成した色分解データを、組み合わせるかどうかを指定します。この機能を使用すると、色分解フィルムを使ったプレス印刷の試し刷りを出力することができます。

- オフ - 各色分解ファイルを別々に印刷します。
- オン - 色分解ファイルを合わせて、一つのファイルとして印刷します。

このオプションで「オン」を選択することによって、オーバープリントやトラッピング、その他の色刷り印刷の効果を、色分解フィルムの作成前に確認して校正することができます。また、低解像度のマスターファイルを印刷するかわりにデスクトップカラーセパレーション（DCS ）形式のファイルを組み合わせた、フル解像度の印刷を行うことができます。

このオプションは、スポットカラーには対応していません。

このオプションでの設定を有効にするには、ジョブ印刷時にアプリケーションで、コンポジットではなく、色分解または DCS 形式の印刷を指定する必要があります。このオプションがサポートされているアプリケーションは、以下の通りです。

- Adobe Illustrator
- Adobe InDesign
- Adobe PageMaker
- Adobe FreeHand
- QuarkXPress

Adobe Photoshop で分版出力したジョブは、色分解の組合せを「オン」に設定して印刷してもコンポジットで出力できません。

カラー置換

代替カラーは、書類内で指定されているカラーの RGB 値または CMYK 値を、スポットカラー辞書で定義されている CMYK 値で置換するためのカラーです。 代替カラーを作成することにより、書類内のカラーをより状況に応じたカラーに変換して印刷することができます。

「色の置き換え」オプションを選択すると、書類内の RGB または CMYK カラーは、Command WorkStation のスポットカラーの「代替カラー」で定義した CMYK 値で印刷されます。「代替カラー」についての詳細は、「代替カラーの使用」（191 ページ）を参照してください。

カラーの表現

「カラーの表現」オプションでは、カラー変換に使用するレンダリング方法（CRD）を指定します。MLPro930PS は、印刷業界標準の ICC プロファイルに対応した 4 つのカラーの表現を提供しています。各々のカラーの表現は用途別に設計されていて、それぞれ色の範囲のマッピング方法が異なります。次に各レンダリング方法とその適切な使用方法を説明します。

カラーの表現（CRD）	内容	用途	対応する ICC レンダリング方法
連続調	画像の正しい色よりも色調関係の保持を優先させます。プリンタの範囲外の カラーの出力は通常「ビジネスグラフィック」に比べて彩度の低いものになります。	連続階調の写真画像（スキャン画像やフォト CD 画像を含む）。	「イメージ」、「コントラスト」
ビジネスグラフィック	鮮やかな彩度の高いカラーを作成します。このカラーの表現は出力カラーとモニタ表示カラーを正しくマッチさせるものではありません。ただし、鮮やかな濃度の高いカラーを提供します。同時に、連続階調の写真画像に対しては、「連続調」と同じ方法でマッピングします。	プレゼンテーション資料用のアートワークやグラフ。同じページに写真画像が混在していてもかまいません。	「鮮やかさ」、「グラフィック」
相対カラーメトリック	RGB ソースプロファイルで定義された白色点値とは異なる相対的な白色点を使用します。たとえば、モニタ上の青みがかった灰色は、灰色で出力されます。裁ち切りしないジョブを出力するとき、縁がハッキリするのを防げます。	モニタ表示カラーを正しく出力したい場合、書類内の白色に用紙の白色を使用したい場合、PostScript カラー管理で、ソース色空間の定義を伴う CMYK のデータに適用してシミュレーションを行いたい場合にも使用します。	相対カラーメトリック
絶対カラーメトリック	RGB ソースプロファイルで定義された白色点値を使用します。たとえば、モニタ上の青みがかった灰色は、青みがかった灰色そのままの色味で出力されます。	モニタ表示カラーを正しく出力したい場合、ファイルの縁がハッキリしてもかまわない場合、PostScript カラー管理でソース色空間の定義を伴う CMYK のデータに適用してシミュレーションを行いたい場合にも使用します。	絶対カラーメトリック

グレーをブラックのみで印刷する

「グレーをブラックのみで印刷する（RGB）」または「グレーをブラックのみで印刷する（CMYK）」オプションでは、R=G=B（RGB 色空間）、C=M=Y=0 かつ K=n（CMYK 色空間）、または K=n（グレー色空間）で定義されたグレーをブラックトナーのみで印刷するかどうか、またその場合のブラックトナーのみで印刷するオブジェクト（テキスト、グラフィック、画像）を指定することができます。

次の項目の中から選択します。

- オフ
- テキスト / グラフィック
- テキスト / グラフィック / 画像

「グレーをブラックのみで印刷する（RGB）」または「グレーをブラックのみで印刷する（CMYK）」オプションには、次の制約があります。

- アプリケーションから色分解を指定して出力したジョブには、これらのオプションは適用されません。
- スポットカラーで定義されているグレーには、これらのオプションは適用されません。
- 「CMYK シミュレーション方法」オプションで「フル（ソース GCR）」または「クイック」を指定して印刷するジョブには、「グレーをブラックのみで印刷する（CMYK）」オプションは適用されません。
- 「RGB 色分解」オプションで「シミュレーション」を指定して印刷するジョブには、「グレーをブラックのみで印刷する（RGB）」は適用されません。また、「グレーをブラックのみで印刷する（RGB）」オプションで「オフ」以外を指定したジョブには、「RGB 色分解」オプションで「シミュレーション」を指定することはできません。

コンポジットオーバープリント

Quark XPress や Adobe InDesign など、ページレイアウトまたはイラストレーション用のアプリケーションでは、異なる色のオブジェクトを重ねた場合に、重なった部分をオーバープリント（重ね出力）するか、ノックアウト（くり抜き）するかを指定できるものがあります。

「コンポジットオーバープリント」オプションを使用すると、アプリケーションでオーバープリントを指定して PostScript または PDF ファイルに出力したオブジェクトに対して、オーバープリント（重ね出力）で印刷することができます。デフォルトでは「オフ」に設定されており、オブジェクトはノックアウト（くり抜き）で印刷されます。オーバープリントで印刷するには、オプションにチェックマークを付けます。

次のアプリケーションから出力された PostScript または PDF ファイルの印刷で、「コンポジットオーバープリント」オプションを使用することができます。

- Adobe Acrobat
- Adobe Illustrator
- Adobe InDesign
- Corel Draw
- Macromedia FreeHand
- Quark XPress

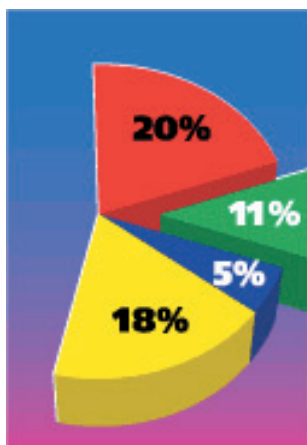
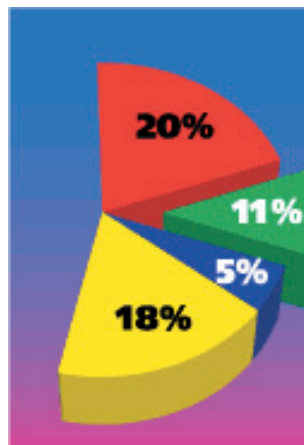
・32 以上のスポットカラーを使用しているジョブの印刷では、このオプションを「オン」に指定しても予想どおりの結果が得られない場合があります。
・スポットカラーを含むジョブを「コンポジットオーバープリント」をオンに設定して印刷する場合は、スポットカラー機能が必要です。MLPro930PS-E モデルでは、スポットカラーを含むジョブをコンポジットオーバープリント：オンで印刷できません。

自動トラッピング

このオプションで「オン」を選択すると、印刷ジョブに自動的にトラッピングを適用し、テキストやグラフィックなどの版ズレを防ぐことができます。

このオプションを使用するには、プリンタで「自動トラッピング」オプションがインストールされている必要があります。

次のイラストはこのオプションのオフ / オン設定での例を示しています。

オフ

オン

出力プロファイル

印刷ジョブのすべてのデータにここでの設定が適用されるので、ジョブの印刷時には、選択されている出力プロファイルが適切であることを確認してください。デフォルト出力プロファイルは、プリンタのカラー特性を記述したデータ、およびキャリブレーションターゲットで構成されています。

特別のカラー効果を得るために、Command WorkStation のプロファイル編集を使用して、デフォルト出力プロファイルを編集（カスタマイズ）することができます。この場合、印刷ジョブのすべてのデータに新しいカスタム出力プロファイルが適用されます。キャリブレーションターゲットは、プリンタの機種に基づいて作成されているため、プロファイルだけを変更してもキャリブレーションターゲットには影響ありません。ただし必要であれば、キャリブレーションターゲットの最高濃度値（D-Max）を独立して編集することができます。

Command WorkStation のプロファイル管理を使用して、独自の出力プロファイルも ML-Pro930PS にダウンロードすることができます。ダウンロードされた出力プロファイルは、最初はデフォルトキャリブレーションターゲットと関連して使用されますが、上述のように、キャリブレーションターゲットの最大濃度値（D-Max）は編集することができます。

ドライバで「双方向通信」をオンに設定している場合は、「出力プロファイル」のメニュー欄に、MLPro930PS にダウンロードされている各プロファイル名が表示されます。

スポットカラーマッチング

このオプションでは、スポットカラーを出力プロファイルを使用して変換するか、アプリケーションの定義に従って変換するかを指定します。

- オン ー MLPro930PS 内蔵の色分解表をもとに、プリンタの色の範囲内でできるだけ正しくスポットカラーをCMYKデータに変換します（色分解表は、出力プロファイルごとに作成されます）。

  スポットカラー機能がインストールされている場合は、スポットカラーで定義されたCMYK値が使用されます。

  内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーはCMYKカラーとして処理されます。

- オフ ー アプリケーションでの定義に従って、スポットカラーはCMYKデータとして処理されます。このときCMYKシミュレーションの設定が反映されます。

スポットカラーを含んだジョブの場合、印刷標準用シミュレーションを適用しない限り、「スポットカラーマッチング」で「オン」を選択します。印刷標準用シミュレーションを出力する場合は、「スポットカラーマッチング」で「オフ」を選択してから、「CMYKシミュレーションプロファイル」で適切なプロファイルを選択します。

- 「スポットカラーマッチング」での設定は、分版の出力には適用されません。
- PDFファイルの場合には、内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーが指定されていても、「スポットカラーマッチング」で「オン」を選択することによって、MLPro930PS 内蔵の色分解表をもとに、プリンタの色の範囲内でできるだけ正しくスポットカラーをCMYKデータに変換することができます。

スポットカラーマッチングとPANTONE Coatedカラー参照

「スポットカラーマッチング」での設定に応じて、PANTONE Coatedカラー参照ファイル（Pantone.ps）を異なるカラーで出力することができます。

- オン ー PANTONE Coatedカラー参照を出力するとき、MLPro930PSは内蔵の色分解表、またはスポットカラーで定義されたCMYK値をもとに、プリンタの出力範囲内でできるだけ正しくPANTONEカラーをCMYKデータに変換します。各PANTONEカラーパッチの下にPANTONEカラー番号が表示されます。

- オフ ー PANTONE Coatedカラー参照を出力するとき、MLPro930PSはPantone Inc. 推奨（かつPANTONEカラーを提供するアプリケーションでの定義）のCMYKカラー値で出力します。各PANTONEカラーパッチの下には、カラー変換に使用されるCMYKカラー値とPANTONEカラー番号が表示されます。

  PANTONE Coatedカラー参照ファイル（Pantone.ps）は、ユーティリティCDに格納されています。

ブラックオーバープリント

「ブラックオーバープリント」オプションではRGB（R:0､G:0､B:0）またはCMYK（C:0%､M:0%､Y:0%､K:100%）で定義されたブラックのテキストまたはテキストとグラフィックを､カラー背景上にオーバープリント（重ね出力）するかどうかを指定します。

- テキストー ブラックのテキストはカラー背景上に重ねて出力されます。この場合、テキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避することができます。

- テキスト / グラフィックー ブラックのテキストとグラフィックはカラー背景上に重ねて出力されます。この場合、テキストとグラフィックの背景の間の隙間や版ずれの問題を回避することができます。

- オフ ー ブラックのテキストまたはテキストとグラフィックのカラー背景部分をノックアウト（くり抜き）します。

・このオプションで「テキスト」または「テキスト / グラフィック」を選択すると､「ブラックテキスト / グラフィック」オプションも自動的に「純ブラック - オン」に設定されます。
・PostScript のアプリケーションのなかには、データを MLPro930PS に送る前に、アプリケーション側でブラックオーバープリントを行うものもあります。

このオプションがどのように作用するかを、淡い青色背景にブラックのテキストを出力する場合を例にとって説明します。背景の青はC：40%、M：30%、Y：0%、K：0%、テキストはC：0%、M：0%、Y：0%、K：100%とします。

- テキスト、テキスト / グラフィック ー ブラックのテキストが背景の淡い青色の上に重ねて出力されます。テキストの部分は、C：40%、M：30%、Y：0%、K：100%のカラーになります。シアンとマゼンタのトナーがテキストの縁で止まらないので、版ずれが起こらずテキストを鮮やかに出力します。テキストのブラックをR：0、G：0、B：0で定義しても同じ結果を得ることができます。

- オフ ー 背景に使われるシアンとマゼンタのトナーがテキストの縁で止まり、テキストはブラックのトナーだけ（C：0%、M：0%、Y：0%、K：100%）で出力されます。プリンタの精密さの限界によってはほとんどの場合、版ずれが起きてしまいます。

実際に出力される 0% の値以外の CMYK の各色成分は、CMYK シミュレーションやキャリブレーションの状況により異なります。

ブラックテキスト / グラフィック

このオプションはブラックのテキストとベクトルグラフィックだけに適用されます。ほとんどのジョブでは、「純ブラック - オン」の設定で優れた結果を得ることができます。「純ブラック - オン」を選択すると、アプリケーションで「R=0、G=0、B=0」または「C=0%、M=0%、Y=0%、K=100%」で定義されたブラックが、ブラックトナーだけで出力されます。使用するトナーがブラックだけなので、版ずれ、トナーのはみ出し、ハーフトーン印刷でのモアレなどの問題を避けることができ、鮮やかな出力を得ることができます。
ただし、ジョブによって、ブラックを使用したグラデーションを含む場合などは、このオプションで「普通」を選択するとより良い結果が得られることがあります。また、「リッチブラック - オン」はブラックトナーに加えてシアントナーを混ぜることで、より艶やかで深みのある黒色を表現します。

- 「ブラックオーバープリント」オプションが「テキスト」または「テキスト / グラフィック」の場合、このオプションは自動的に「純ブラック - オン」に設定されます。
- このオプションでの設定は、コンポジット出力だけに適用され、分版の出力には適用されません。

次の表は、このオプションでの設定が定義の異なるブラックにどのように作用するかを表します。

ブラック	ブラックテキスト / グラフィック：「純ブラック - オン」または「リッチブラック - オン」	ブラックテキスト / グラフィック:「普通」
RGB=0,0,0 （RGB=0,0,0 以外のブラックには、「ブラックテキスト / グラフィック」での設定による影響はありません）	RGB=0,0,0 で定義されたブラックは、「純ブラック - オン」の場合はブラックトナー（K=100%）だけで、「リッチブラック - オン」の場合はブラックとシアントナー（K=100%、C=50%）で出力されます。	RGB=0,0,0 で定義されたブラックは、出力プロファイル内の「RGB=0,0,0」の定義にしたがって出力されます。使用するトナーは、出力プロファイルでの定義によるため、ブラックトナーだけ、または全トナーなどさまざまです。 トナー濃度は、プリンタのキャリブレーション状況により異なります。
CMYK=0%, 0%, 0%, 100% （CMYK=0%, 0%, 0%, 100% 以外のブラックには、「ブラックテキスト / グラフィック」での設定による影響はありません）	CMYK=0%,0%,0%,100% で定義されたブラックは、「CMYK シミュレーションプロファイル」と「CMYK シミュレーション方法」オプションの設定に拘わらず、「純ブラック - オン」の場合はブラックトナー（K=100%）だけで、「リッチブラック - オン」の場合はブラックとシアントナー（K=100%、C=50%）で出力されます。 注：「CMYK シミュレーションプロファイル」で「ColorWise オフ」が選択されている場合は、出力処理にシミュレーションプロファイルとキャリブレーション曲線を使用しないため、トナーの濃度は、プリンタのキャリブレーション状況の影響を受けません。	CMYK=0%,0%,0%,100% で定義されたブラックは、「CMYK シミュレーションプロファイル」と「CMYK シミュレーション方法」での設定によって、ブラックトナーだけ、または全トナー使用で出力されます。 トナー濃度は、使用する CMYK シミュレーションプロファイルとプリンタのキャリブレーション状況により異なります。 「CMYK シミュレーションプロファイル」で「ColorWise オフ」が選択されている場合は、出力処理にシミュレーションプロファイルとキャリブレーション曲線を使用しないため、トナーの濃度は、プリンタのキャリブレーション状況の影響を受けません。
スポットカラー	通常のスポットカラー処理 （「ブラックテキスト / グラフィック」での設定による影響はありません）	通常のスポットカラー処理 （「ブラックテキスト / グラフィック」での設定による影響はありません）

PostScript アプリケーションのなかには、印刷ジョブを MLPro930PS に送る前に、RGB=0,0,0 で定義されたブラックを 4 色の CMYK ブラックに変換するものがあります（QuarkXPress など）。この場合のブラックには、「ブラックテキスト / グラフィック」オプションでの設定は適用されません。

プリンタドライバとプリントオプション

ワークフローにおけるプリンタドライバの役割と、Windows または Mac OS 用プリンタドライバを使用して MLPro930PS に出力する方法を説明します。

本書での PostScript に関する記述は、すべて PostScript レベル 2 以降を対象としています。

プリンタドライバの役割

MLPro930PS の機能を十分に活用するには、印刷ジョブを PostScript レベル 2 以降のファイル形式で送る必要があります。ほとんどのアプリケーションは、この PostScript データを直接作成できません。この場合は、プリンタドライバがアプリケーションからの指示情報を解釈し、PostScript データに変換します。

PostScript 3 プリンタドライバを使用すると、プリントデバイス固有のプリントオプションが選択することができます。MLPro930PS 用の PPD ファイル は 、固有の機能に関する情報を含んでいます。ジョブを出力する際にこの PPD ファイルを使用すると、プリントオプション設定のダイアログボックスで、固有の機能を設定することができます。

MLPro930PS のソフトウェア CD は、Windows および Mac OS 用 PostScript 3 プリンタドライバ を提供しています。MLPro930PS に出力する場合は、これらのプリンタドライバを使用してください。プリンタドライバと PPD ファイルのインストールの手順は、「1 章 Windows からの印刷」または「2 章 Mac OS からの印刷」を参照してください。

一部の PostScript アプリケーションは、PostScript データを直接プリントデバイスに送ることができ、ユーザはアプリケーションのインターフェイスでプリントオプションを選択することができます。ただし、これらのアプリケーションから出力する場合も、PostScript 3 対応プリンタドライバを使用する必要があります。

Windows 用 PostScript プリンタドライバ

ここでは、Windows 用 PostScript プリンタドライバ を使用して、カラー管理のためのプリントオプションを指定する方法を説明します。

設定を始める前に、次の作業が終っていることを確認してください。

- MLPro930PS 用 のプリンタドライバ と PPD ファイル がインストールされていること
- MLPro930PS の出力用の設定が行われていること

・Windows でのプリンタドライバのインストールと設定の方法の詳細については、「1 章 Windows からの印刷」および「セットアップ編」を参照してください。

・Device Link プロファイルの使用方法については、161 ページを参照してください。

ColorWise オプションを設定するには：

1 アプリケーションで「ファイル：プリント（印刷）」を選択します。

2 MLPro930PS を選択し、「プロパティ」をクリックします。

3 「Fiery 印刷」タブで「カラー」タブをクリックします。

4 「カラー」欄でオプションを設定します。

5 「エキスパート設定」ボタンをクリックします。

「エキスパートカラー設定」が表示されます。

6 プリントオプションを設定します。

各オプションの内容は、「ColorWise オプションの詳細」（201 ページ）を参照してください。

・ほとんどの場合、「プリンタの初期設定」のままで品質のよい出力を得ることができます。

・「双方向通信」をオンに設定している場合は、MLPro930PS の現設定内容が表示されます。双方向通信の詳細については、「1 章 Windows からの印刷」を参照してください。

Mac OS 用 Adobe PostScript プリンタドライバ

ここでは Mac OS 用 Adobe PostScript プリンタドライバ を使用して、カラー管理用プリントオプションを設定する方法を説明します。

設定を始める前に、次の作業が終っていることを確認してください。

- FMLPro930PS 用 のプリンタドライバと PPD ファイルがインストールされていること
- 「プリンタ設定ユーティリティ」で MLPro930PS が選択されていること

・Mac OS でのプリンタドライバのインストールと設定の方法の詳細については、「2 章 Mac OS からの印刷」および「セットアップ編」を参照してください。
・Device Link プロファイルの使用方法については、161 ページを参照してください。

ColorWise オプションを設定するには：

1 アプリケーションで「ファイル：プリント（印刷）」を選択します。

2 「印刷部数と印刷ページ」を含むメニューで「ColorSync」を選択します。

3 「ColorSync」欄の「カラー変換」で「プリンタのカラー」を選択します。

4 「印刷部数と印刷ページ」を含むメニューで「Fiery の機能」を選択します。

5 「全プロパティ」をクリックします。

6 「カラー」タブをクリックします。

7 「カラー」欄でオプションを設定します。

8 「エキスパート設定」をクリックします。

「エキスパートカラー設定」が表示されます。

9 プリントオプションを設定します。

ほとんどの場合、「プリンタの初期設定」のままで品質のよい出力を得ることができます。各オプションの内容は、「ColorWise オプションの詳細」（201 ページ）を参照してください。

「双方向通信」をオンに設定している場合は、MLPro930PS の現設定内容が表示されます。双方向通信の詳細については、「2 章 Mac OS からの印刷」を参照してください。

Device Link プロファイルの使用

「双方向通信」をオンに設定している場合、ジョブの印刷時に、MLPro930PS のプリンタドライバの「エキスパートカラー設定」で､Device Link プロファイルの使用を設定することができます。

「双方向通信」をオンに設定していないと、「RGB ソースプロファイル」または「CMYK シミュレーションプロファイル」と「出力プロファイル」で、Device Link プロファイル内で指定されているリンクプロファイルと同じソースプロファイルと出力プロファイルの組み合わせを選択した場合でも、「エキスパートカラー設定」での表示は更新されません。ただし、Device Link プロファイルの使用はオンに設定されています。

Device Link プロファイルのダウンロードとリンクプロファイルの指定の方法については、159 ページを参照してください。

Windows または Mac OS での、プリンタドライバのインストールと設定の方法やオプションを表示する方法については､「1 章 Windows からの印刷」､「2 章 Mac OS からの印刷」および「セットアップ編」を参照してください。

Device Link プロファイルの使用についての、Windows と Mac OS 用プリンタドライバでの手順は同様です。ここでは、Windows 用プリンタドライバでの説明をします。

プリンタドライバから Device Link プロファイルを使用するには：

1　Windows 用プリンタドライバで「双方向通信」をオンに設定します。

　「双方向通信」をオンに設定する方法については､「1 章 Windows からの印刷」を参照してください。

2　アプリケーションで「ファイル：プリント（印刷）」を選択します。

3　MLPro930PS を選択し､「プロパティ」をクリックします。

4　「Fiery 印刷」タブで「カラー」をクリックします。

5　「エキスパート設定」ボタンをクリックします。

6　「RGB ソースプロファイル」または「CMYK シミュレーションプロファイル」からソースプロファイルを､「出力プロファイル」で出力プロファイルを選択します。

　Device Link プロファイル内でリンクプロファイルとして指定されているソースプロファイルと出力プロファイルの組み合わせを選択すると、自動的に Device Link プロファイルの使用が設定されます。

　「エキスパートカラー設定」の図では､いくつかのプリントオプションをバイパスした色変換のワークフローが表示されます｡「RGB ソースプロファイル」または「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションの下には、現在使用中の Device Link プロファイル名が表示されます。オプションの下には、現在使用中の Device Link プロファイル名が表示されます。

7　「OK」をクリックして､「エキスパートカラー設定」を閉じます。

8　「OK」をクリックして、ジョブを印刷します

測定値の取り込み

ここでは、測定値を取り込むときに使用できる SAIFF（Simple ASCII Import File Format）ファイルについて説明します。測定値は以下の形式でテキストファイルとして保存します。

シンプル ASCII インポートファイルフォーマット（SAIFF）

Status T の測定データを Command WorkStation のキャリブレートで読み込むために、SAIFF 形式のファイルを用意します。以下の 3 つのファイル形式があります。

- EFI 34 パッチページ用 1 D Status T 濃度
- EFI 21 パッチページ用 1 D Status T 濃度
- その他のページ（各トナーで最高 256 パッチまで）用 1 D Status T 濃度

ファイルはタブなしの ASCII 形式です。データの区切りは、1 文字分のスペースでも複数スペースでもかまいません。各行に必ずデータが入るようにして、余分な改行は入れないでください。各行は、特定のトナーの値を 4 つのパッチ（CMYK）で表します。ファイル内の任意の行にコメントを入れることができます。コメントのある行は「#」で始め、そのすぐあとにスペースを入れます。「#」で始まる行でそのすぐあとにスペースがない行には、コメントは入れられません。コメントの行にはコメント以外のデータは入れられません。

データの行には各々 5 つの値が入っています。最初の値は、EFI 34 または EFI 21 のページではパッチ番号です。そのほかのページでは、トナーの % を表します。残りの 4 つの値は、そのパッチにおける CMYK の濃度の値です。行は、パッチ番号またはトナーの % が、小さい番号から始まって順に大きくなるように並びます。

Windows ではファイル名に拡張子「.cm0」または「.cm1」を付けます。Mac OS X ではファイルをテキスト形式で保存します。

EFI 34、EFI 21 の測定データは用紙の種類によって異なります。そのほかのページでは、最初の行でトナーの値が 0 であれば、Calibrator は、測定値が絶対値であるものとみなし、2 行目以降のデータから最初の行の濃度を差し引いて用紙に合わせて調整します。

EFI 34 パッチページの 1D Status T 濃度の例

このファイル形式は、EFI 34 パッチページの Status T 濃度測定値を指定するときに使用します。行の最初の番号はパッチの番号です。パッチは 1 から始まり 34 で終わります。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST34
# Cyan Magent Yellow Black
1 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
2 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
3 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
（途中省略）
33 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
34 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

5

カラー印刷

EFI 21 パッチページの 1D Status T 濃度の例

このファイル形式は、EFI 21 パッチページの Status T 濃度測定値を指定するときに使用します。行の最初の番号はパッチの番号です。パッチは 1 から始まり 21 で終わります。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST21
# Cyan Magent Yellow Black
1 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
2 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
3 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
（途中省略）
20 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
21 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

そのほかのページの 1D Status T 濃度の例

このファイル形式は、ユーザの選んだパッチページの Status T 濃度測定値を指定するときに使用します。行の最初の番号はパッチのトナーの％です。％は必ず 0 から始まり 100 で終わります。途中の％は小さい値から大きい値へ順に並びます。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST
# Cyan Magent Yellow Black
0.0000 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
0.3922 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
1.1765 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
（途中省略）
98.0000 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
100.0000 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

6 バリアブルデータ印刷

概要

ここでは、バリアブルデータ印刷の概要について説明し、バリアブルデータ印刷ジョブを作成するために必要な環境について解説します。
バリアブルデータ印刷の実例については、「8 章 印刷事例」を参照してください。

バリアブルデータ印刷について

バリアブルデータ印刷は、通常、ダイレクトメールなどの個人向け郵便で使用されます。バリアブルデータ印刷ジョブは、すべての印刷出力に共通のマスターデータ部分と、出力ごとに異なるバリアブルデータ部分を組み合わせて印刷されます。バリアブルデータ印刷を使用すれば、ダイレクトメールを送付する顧客ごとのニーズに合った情報を組み込んだ印刷物を作成できます。

たとえば、マーケティングデータベースから得た個人情報を元にして、挨拶文に顧客個人の名前を入れたり、個人情報を折り込んだパンフレットを印刷できます。この場合、パンフレットの背景やイラスト、および全顧客に共通な文書がマスターデータで、名前など顧客ごとに異なる情報がバリアブルデータとして扱われます。

もっとも簡単なバリアブルデータ印刷は、顧客の名前と住所をバリアブルデータとして扱うものです。その他にも 4 色印刷、グラフ、データなどの他の要素を組み込むことでより顧客にとって魅力的で、その顧客に特化した印刷物を作成できます。

バリアブルデータ印刷は、複写機 / プリンタ / 複合機などの印刷デバイスと顧客情報および印刷物のデータを含むデータベースとのリンクによって、顧客とのコミュニケーションをカスタマイズする最新のデジタル印刷技術です。

バリアブルデータ印刷で再使用可能なデータが取り扱われている方法は以下の通りです。

ページ単位でのマスターデータ使用では、再使用可能データ（マスターデータ）はページ単位のまとまりとして取り扱われます。それぞれのページは、マスターページと呼ばれます。ページ単位のマスターデータは､シンプルなレイアウトでの使用に向いています。Free Form はページベースのバリアブルデータ印刷に対応したアプリケーションです。FreeForm についての詳細は、「バリアブルデータ書類の印刷」(224 ページ) を参照してください。

オブジェクト単位でのマスターデータ使用 では、再利用可能データ（マスターデータ）は個々のオブジェクトとして取り扱われます。この場合、ひとつのページの中で、つねに印刷されるオブジェクト（マスターデータ）と､状況や顧客に応じて変更されるデータ（バリアブルデータ）を個々に分けて使用します。

オブジェクト単位でマスター利用をしている場合、頻繁にアクセスされるグラフィックファイルなどバリアブルデータの一部もマスターデータ同様に再利用されることがあります。これらはバリアブルデータであっても MLPro930PS 内部に保存され、グループとしてキャッシュされます。ひとつのジョブには、複数のマスターデータが含まれることがあります。実際の運用例について詳細は、「8 章 印刷事例」を参照してください。

バリアブルデータジョブの構成

通常、バリアブルデータジョブは、次の要素で構成されます。:

- コンテンツ

  コンテンツには、文書、画像、写真などが含まれます。コンテンツの作成には、Adobe Photoshop や Microsoft Word など任意のアプリケーションを使用します。

- データベース

  データベースとは、印刷物内で使用されるバリアブルデータの一覧です。バリアブルデータには文書、画像、写真が含まれます。データベース作成には、Microsoft Excel や File Maker Pro などのアプリケーションを使用します。

  データは、レコードとフィールド（項目）からなります。例えば、人物に関するデータベースではその人の名前がレコードで、住所や電話番号などの個人情報がフィールドとして扱われます。

- ビジネスルール

  ビジネスルールは、バリアブルデータ印刷アプリケーションで作成され、どのバリアブルデータが文書中のどこに置かれるかを規定するものです。ビジネスルールは、IF（～の条件下では）と THEN（～が実行される）で構成されており、バリアブルデータ印刷アプリケーションはこのルールに基づいてデータベースから対象者に最適な文書や画像を選択して文書を作成します。例えば、対象者の年令層ごとに異なるバリアブルデータを選択 / 挿入して文書を作成する、といったルールが作成できます。

- レイアウト

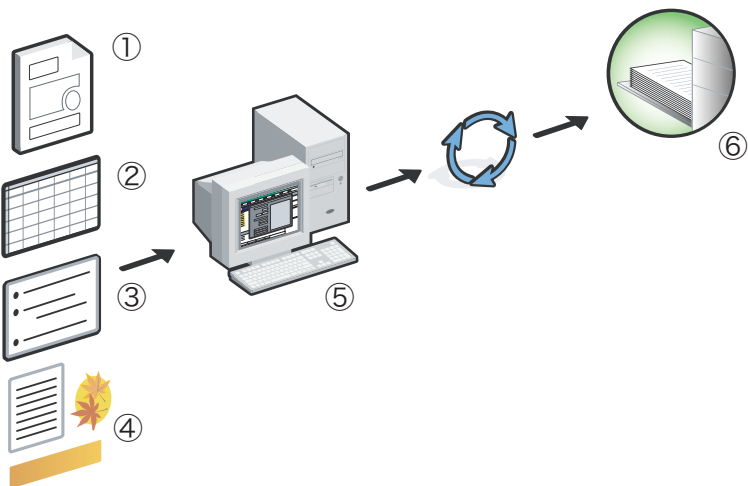
  レイアウトとは、DTP ソフトやワープロソフトで行なう文書のデザインやレイアウトの総称です。レイアウトには、バリアブルデータ（文書やグラフィック）が置かれる場所が指定されている必要があります。

- バリアブルデータ印刷アプリケーション

  バリアブルデータ印刷アプリケーションは、マスターデータとバリアブルデータを組み合わせて印刷出力用データを作成します。Free Form を使用して印刷する場合は、特定のバリアブルデータ印刷アプリケーションを用意する必要はありません。

- 印刷デバイス

  印刷デバイスでは、デジタルファイルを印刷物にして出力できます。プリントデバイスには、プリンタ、複写機、複合機（MFP）などがあります。

次の図は、バリアブルデータ印刷の仕組みを図式化したものです。

1 レイアウト
2 データベース
3 ビジネスルール
4 コンテンツ
5 バリアブルデータアプリケーション
6 印刷デバイス

MLPro930PS でのバリアブルデータ印刷

MLPro930PS のバリアブルデータ印刷機能は、バリアブルデータ言語、バリアブルデータ印刷アプリケーションおよび MLPro930PS のジョブ処理 / 印刷機能などを既存の印刷環境に統合します。MLPro930PS を使用したバリアブルデータ印刷の事例については、「8 章 印刷事例」を参照してください。

互換性のあるバリアブルデータ印刷言語

MLPro930PS は、FreeForm と互換性があります。

- FreeForm

  FreeForm はバリアブルデータ印刷ソリューションとして使用されます。FreeForm では、再利用可能データ（マスターデータ）は一度だけ RIP（処理）され、処理 / 印刷時間を短縮します。

  FreeForm を使用する場合、マスターデータおよびバリアブルデータはどのコンピュータプラットフォームおよびデスクトップアプリケーションからでも作成できます。アプリケーションからは、マスターデータには 1 から 100 までの数値が割り当てられます。プリンタドライバ、ジョブ管理ツール、および Hot Folders では、Free Form オプションが設定できます。Free Form について詳細は、「FreeForm を使用したバリアブルデータ印刷」(224 ページ) を参照してください。

バリアブルデータ印刷で使用される MLPro930PS の諸機能

用紙種類の混合などの MLPro930PS の機能をバリアブルデータ印刷で使用することにより、バリアブルデータジョブにカスタムレイアウトを適用したり、ページによって異なった用紙に出力することができます。

バリアブルデータジョブの面付けについて詳細は、「FreeForm ジョブの面付け」（233 ページ）を参照してください。

面付けレイアウトについて詳細は、Command WorkStation のヘルプを参照してください。

バリアブルデータ印刷での用紙種類の混合

バリアブルデータ印刷には、用紙種類の混合を適用できます。バリアブルデータジョブが面付けされていた場合でも用紙種類の混合は適用可能です。用紙種類の混合設定が使用された場合、MLPro930PS はそれぞれのバリアブルデータレコードを別のジョブとして認識します。面付けされていないジョブの場合、用紙種類の混合はすべてのバリアブルデータジョブのレコードに適用されます。面付けされたジョブの場合、用紙種類の混合はバリアブルデータジョブの出力セットに適用されます。

バリアブルデータ印刷で用紙種類の混合を適用した場合の印刷事例については、「8 章 印刷事例」を参照してください。用紙種類の混合について詳細は、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

バリアブデータ書類の印刷

FreeForm を使用すると、プリントオプションをマスタージョブに指定し、バリアブルデータジョブを MLPro930PS へ送信するときに適用させることができます。
この章では、次の項目について説明しています。:

- FreeForm を使用した文書の印刷
- マスターおよびバリアブル文書の作成
- バリアブルデータジョブの面付け

FreeForm を使用したバリアブルデータ印刷

バリアブルデータ印刷で FreeForm を使用できます。ここでは、Free Form の概要とマスターおよびバリアブルデータを組み合わせて印刷する手順を説明します。各セクションの終わりには、作業時のガイドラインが提示されます。

FreeForm の概要

FreeForm バリアブルデータ印刷では、ジョブのマスターをバリアブルデータとは別に MLPro930PS に送信します。 このマスターデータの RIP 済みデータを MLPro930PS に Free-Form マスターとして保存しておき、必要に応じてバリアブルデータと組み合せて印刷します。FreeForm マスターデータは RIP 済みの状態で MLPro930PS に保存されているので、差し込み印刷の RIP に必要な時間は、バリアブルデータを RIP する時間だけです。

マスターデータ部分を固定データとして、異なるバリアブルデータと組み合せて、バリアブルデータ印刷に使用します。たとえば、レターヘッドのテンプレートを FreeForm マスターとして保存し、異なる内容（バリアブルデータ）のレター用として繰り返し使用します。

FreeForm を使用すると、アプリケーションに制約されることなく、差し込み用書類を作成 / 印刷できます。マスター書類とバリアブルデータ書類は、別々のプラットフォームの、別々のアプリケーションで作成できます。例えば、マスターデータを作成する場合には、ページレイアウトアプリケーションやグラフィックアプリケーションを使用し、バリアブルデータを作成する場合には、メールマージ機能を持つワードプロセッサや、スクリプト機能付きページレイアウトアプリケーション、データベースアプリケーションを使用する、といった使い分けが可能です。

FreeForm 機能は、MLPro930PS への印刷時に、「マスター作成」と「マスター使用」プリントオプションで設定します。また、Command WorkStation や Hot Folders でも設定が可能です。マスターデータが処理された後は、Command WorkStation にはジョブは Free Form タブ付きで表示されます。Command WorkStation では、MLPro930PS に保存されている FreeForm マスターの監視および管理ができます。

メモ 詳細については、Command WorkStation のヘルプを参照してください。

マスター書類の作成

FreeForm を使用する前に、マスター書類とバリアブルデータ書類を作成する必要があります。この作業には、個々のデータ作成だけでなく実際の印刷物のレイアウト作成も含まれます。レイアウト作成にあたっては、ページレイアウトまたはグラフィックアプリケーションで、ページ（複数可）上にマスターデータ部分（変更されないテキストやグラフィック）を配置し、バリアブルデータ用のスペースを確保します。

マスター書類
1 バリアブルデータ用スペース
2 マスターデータ部

マスター書類のデザイン終了後、プリントオプションで FreeForm マスター作成を指定して、MLPro930PS に印刷します（252 ページ参照）。

MLPro930PS は 100 種類までの FreeForm マスターを保存できます。ただし、プリンタドライバのプリント オプションでは、1 番から 15 番のみ指定できます。16 番以上の FreeForm マスターを作成する場合は、Command WorkStation 上で「マスター作成」と「マスター使用」オプションを設定し、ジョブの RIP を行う必要があります。

バリアブルデータ書類の作成

差し込み印刷機能付きワードプロセッサ、スクリプト機能付きページレイアウトまたはデータベースアプリケーションを使用して、バリアブルデータ書類を作成します。いずれの場合も、データベースまたはリストからの情報を書類の指定場所に差し込みます。差し込み方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションの取扱説明書を参照してください。

バリアブルデータ書類は、マスター書類と組み合わされる前に、マスター書類のレイアウトに合うように体裁を整える必要があります。書類を適切に整えてから、バリアブルデータを指定位置に挿入してください。

バリアブルデータをもつ書類は、マスターデータを持つ書類と同じページ数である必要があります。たとえば、マスターデータ書類が 4 ページであれば、バリアブルデータ書類も 4 ページで作成してください。データが 4 ページに満たない場合には、空白ページを追加してください。

バリアブルデータをもつ書類
1 バリアブルデータ

バリアブルデータ書類の作成後、MLPro930PS に印刷する際に、対応する FreeForm マスターと組み合わせるように指定します（252 ページ参照）。

FreeForm マスターとバリアブルデータ書類の組合せ

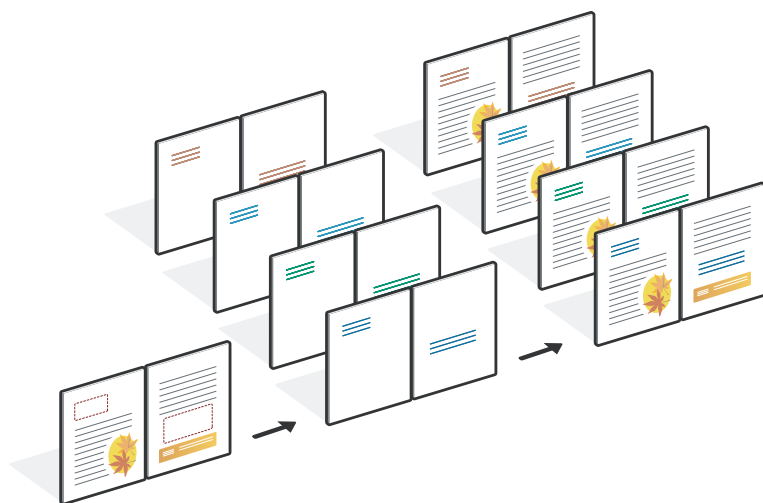
バリアブルデータ書類を MLPro930PS に印刷する時は、「マスター使用」プリントオプションで、使用する FreeForm マスターの番号を指定します。MLPro930PS はバリアブルデータ書類のラスターファイルと RIP 済みマスターファイルとを組み合わせて、新しいラスターファイルを作成します。印刷前に、Command WorkStation のプレビューに、ラスターファイルを表示して印刷内容を確認できます。

メモ　ジョブのプレビューについて詳細は、Command WorkStation のヘルプを参照してください。

組み合わされた書類

複数ページのマスター書類も作成できます。複数ページで構成される FreeForm マスターを使ってバリアブルデータ書類を印刷する場合、バリアブルデータ書類との組み合わせはマスター書類の 1 ページ目から始まり、マスター書類の最終ページに到達すると 1 ページ目に戻るという、組み合わせを継続します。次の例は、2 ページのマスター書類にどのようにバリアブルデータが組み合わされるかを示したものです。

バリアブルデータ書類の 1 ページ目と 2 ページ目がそれぞれマスター書類の 1 ページ目と 2 ページ目に組み合わされます。次に 3 ページ目と 4 ページ目がそれぞれマスター書類の 1 ページ目と 2 ページ目と組み合わされ、バリアブルデータ書類の全ページが印刷されるまで継続します。

組み合わされた書類
（マスターデータが 2 ページ、バリアブルデータが 4 ページの場合の例）

Free Form 使用時のガイドライン

ここでは、バリアブルデータジョブを適切に印刷するためのガイドラインを提供します。

- システム管理者またはオペレータに、FreeForm マスター番号の割り当て方法を問い合わせてください。

  多数のユーザが FreeForm ジョブを印刷する場合は、オペレータが特定の FreeForm マスター番号または使用してよい番号の範囲をユーザごと / グループごとに割り当てることを推奨します。ユーザは印刷時のプリントオプション設定で、1 から 15 番まで指定できます。オペレータは、16 番以降に割り当てることもできます。すべての FreeForm マスター番号の割当をオペレータがコントロールすることによって、複数のユーザがマスター番号を重複使用する問題を避けることができます。

- Command WorkStation を使用して直接接続にバリアブルデータ印刷ジョブを送信しないでください。

  直接接続に送信されたバリアブルデータ印刷ジョブは処理されません。

- 「ジョブ注釈メモ」や「指示」欄を使用して、オペレータにジョブ情報と印刷方法を伝えてください。

  Mac OS9 では「ジョブ注釈メモ」、「指示」欄に対応していません。

  16 番以上の FreeForm マスター番号を作成または使用する場合、これらの欄を使用して、Command WorkStation からジョブ設定（「マスターの作成」/「マスターの使用」）を書き換えたあとジョブの RIP をするように、オペレータに指示します。

- ジョブには、内容のわかりやすい名前をつけてください。

  多数のジョブがキュー内にあるとき、FreeForm マスター番号が重複して割り当てられた場合や、ジョブ注釈メモ / 指示欄で他のジョブを説明する場合などに備えて、ユーザやオペレータが簡単に見つけられるようなわかりやすい名前をジョブにつける必要があります。

- FreeForm 使用時のプリントオプション設定の制約を確認してください。

  プリントオプションの競合について詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

- マスター書類とバリアブルデータ書類中では、次のプリントオプション設定を同じにする必要があります。:

- セキュアパスワード以下のプリントオプションについては、FreeForm マスター書類のジョブの設定ではなく、バリアブルデータ書類のジョブの設定で印刷されます。:

詳細は、「7 章 プリントオプション」を参照してください。

FreeForm を使用してバリアブルデータ印刷をするには

1　マスター書類を作成します

下図は、ページレイアウトアプリケーションで作成された、三つ折りパンフレット用マスター書類のサンプルです。

2　「マスター作成」オプションで FreeForm マスター番号（1 から 15）を指定し、マスター書類を MLPro930PS に印刷します。

このオプションで「なし」を選択し、オペレータに FreeForm マスター番号を選択するよう指示することもできます。また、印刷後に Command WorkStation を使用して、FreeForm マスター番号を書き換えることもできます。

Command WorkStation の使用方法について詳細は、Command WorkStation のヘルプを参照してください。

FreeForm のマスターを作成し MLPro930PS に保存後、確認のためにマスターを印刷できます。詳細については、「Windows プリンタドライバからのマスタージョブプレビュー」（232 ページ）を参照してください。

3　バリアブルデータ書類を作成します。

マスター書類作成時とは異なるファイル、アプリケーション、プラットフォームを使用して、バリアブルデータ書類を作成できます。ただし、プリントオプションの中には、マスター書類と一致する必要があります (詳細については 252 ページ参照)。

下図は、ページレイアウトアプリケーションで作成された、三つ折りパンフレット用バリアブルデータ書類のサンプルです。この書類のデータは名前、住所のみのシンプルなものでも、フルカラーグラフィックや写真から成る複雑なものまで盛り込むことができます。

Dear Luis,

Thank you for expressing interest in Garden Tea Rooms.

Our records indicate that you will be staying at the Saint Francis Hotel December 12th–15th, 2004. Based on your request, we have included a coupon for a serving of Tea and Scones below, along with a map of the closest Tea Room to your hotel.

We hope you enjoy your stay in the Bay Area.

Cheers!

Luis Echevarria
16 Gray Road
Andover, MA 01810

This coupon entitles you, Luis Eschevarria, to one complimentary serving of scones at:

THE KING GEORGE
334 Mason Street at Geary

Offer expires 12/31/04.

Mr. Echevarria,
the information
you requested is
enclosed!

注 ジョブの面付けに関しては、「FreeForm ジョブの面付け」(233 ページ) を参照してください。

4 「マスター作成」オプションで指定したFreeFormマスター番号を「マスター使用」オプションで指定して、ジョブをMLPro930PSに印刷します。

FreeFormマスター番号は、マスター書類を送信するときにユーザが指定するか、またはオペレータが指定します。

マスターイメージを確認するには､｢マスターのプレビュー｣をクリックします｡低解像度のマスターページイメージが作成されます。

FreeFormマスター番号は、Command WorkStationから上書きできます。指定したマスター番号が使用したいマスターの正しい番号かどうか、オペレータに確認してください。

印刷前にジョブを確認する必要がある場合は、ジョブを待機キューに送り、Command WorkStationで「処置と待機」を選択してください。これによって、ラスターデータのプレビューをCommand WorkStationで表示できます。

下図はFreeFormマスター書類と、バリアブルデータが組み合わされた結果です。バリアブルデータ部分は、マスターデータ部分の上に重ね合わされています。

6

バリアブルデータ印刷

Windows プリンタドライバからのマスタージョブプレビュー

マスタージョブ作成後、Windows プリンタドライバでプレビュー表示できます。この機能により、FreeForm 印刷時にマスタージョブの選択が容易になります。

Windows プリンタドライバからのマスタージョブプレビュー

1　Windows アプリケーションから「ファイル：印刷」を選択します。

2　「プリンタの選択」で MLPro930PS を選択し、「プロパティ」をクリックします。

3　「Fiery 印刷」タブをクリックします。

4　「バリアブルデータ印刷」アイコンをクリックします。

5　「更新」をクリックし MLPro930PS から FreeForm マスターのリストを受信します。

「マスター作成」および「マスター使用」にマスター番号と名前が表示されます。

注　「双方向通信」が使用可能になっている必要があります。このオプションを使用可能にする手順について詳細は、「Windows からの印刷」を参照してください。

6　「マスター使用」からプレビュー表示するマスターを選択し、「マスターのプレビュー」ボタンをクリックします。

マスターが表示されます。

バリアブルデータジョブの面付け

バリアブルデータジョブに面付け可能な場合は、FreeForm のジョブを面付けできます。
Command WorkStation にバリアブルデータジョブを送信した場合は、Impose から行います。ジョブをマージした後、面付けを行います。
バリアブルデータジョブの面付けでは、単一レコードおよび複数レコードが使用できます。詳細については、Command WorkStation のヘルプを参照してください。

FreeForm ジョブの面付け

FreeForm バリアブルデータジョブの面付けオプションを選択できます。Impose が MLPro930PS で使用可能になっている必要があります。

Impose を使用して FreeForm ジョブを面付けするには：

1 PS または PDF ファイルをマスターファイルとして MLPro930PS にダウンロードします。

2 Command WorkStation を起動して、ダウンロードしたマスターファイルを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3 「FreeForm：マスター作成」を選択し、1-15 までの番号をジョブに指定します。

4 マスターファイルを印刷キューまたは処理済み / 待機に送信します。

5 バリアブルデータファイルを MLPro930PS にダウンロードします。

6 Command WorkStation でバリアブルデータファイルを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

7 「FreeForm：マスター使用」を選択し、マスターファイルに指定した番号を選択します。

8 バリアブルデータファイルを右クリックし、「面付け」を選択します。

バリアブルデータファイルの面付けを設定します。

メモ　面付けの詳細については、Command WorkStation のヘルプを参照してください。

9 マスタージョブを処理します。

7 プリントオプション

プリントオプションの概要

ここでは、プリンタドライバおよびPPDファイル、MLPro930PSのプリントオプション、およびプリントオプションの設定を説明します。「応用編」とあわせてご覧ください。

プリンタドライバとプリンタ記述ファイルについて

MLPro930PSは、ネットワーク接続されたコンピュータからファイルを受信し、そのファイルをラスタライズ（RIP）し、プリンタのプリントエンジンにRIP済みデータを送信して印刷します。ユーザは、アプリケーションからの印刷時に「プリント（印刷）」ダイアログボックスに表示されている、PostScriptプリンタドライバとプリンタ記述（PPD）ファイルによって定義されたMLPro930PS固有のオプションを指定します。

プリンタドライバはアプリケーションとプリンタ間の印刷通信を管理します。アプリケーションによって生成されたコマンドを解析し、プリンタ固有のPostScriptプリンタ記述（PPD）ファイルの情報を加えて、すべての情報をプリンタが解析可能なAdobe PostScript言語に書き換えます。つまり、PostScriptプリンタドライバは、オリジナルファイルと「プリント（印刷）」ダイアログボックスで指定されたオプションにもとづいてPostScriptファイルを作成します。

プリンタドライバは、プリンタのプリントオプションの選択を可能にします。このためには、プリンタドライバがMLPro930PSのPPDファイルとマッチしている必要があります。PPDファイルにはデバイス固有の機能およびサポートされている用紙のサイズや種類などの情報が含まれています。 PostScriptプリンタドライバはPPDファイルの情報を読み取り、「プリント（印刷）」ダイアログボックスで選択可能なオプションとして表示します。MLPro930PS用PPDにはMLPro930PSおよび固有の機能情報が含まれています。 MLPro930PSのプリントオプションについての詳細は、238ページを参照してください。

プリントオプションの設定

プリントオプションを設定することにより、ユーザはMLPro930PSの特別な機能を利用できます。ここでは、プリントオプションの設定方法について説明します。

- MLPro930PS「設定」での設定

  プリントオプション初期設定値のいくつかは、システム管理者によりMLPro930PS「設定」時に設定されます。現在のデフォルト設定については、システム管理者に問い合わせてください。

- アプリケーションでの設定

  PostScriptプリンタドライバを使用すると、ジョブの印刷時にプリントオプションを選択できます。Windowsアプリケーションからプリントオプションを設定する方法については、「1章 Windowsからの印刷」を、Macintoshアプリケーションからプリントオプションを設定する方法については「2章 Mac OSからの印刷」を参照してください。

- Command WorkStationでの設定

  Command WorkStationのカラー管理でカラーオプションのデフォルト値を設定できます。カラー管理の使用とカラーオプションについての詳細は、「5章 カラー印刷」を参照してください。

- Hot Foldersでの設定

  プリントオプションの設定のセットをHot Folderに割り当てます。Hot Folderにプリントオプション項目を設定すると、Hot Folder経由で印刷されるすべてのジョブに設定が割り当てられます。ここでの設定は、デフォルト設定よりも優先されます。Hot Folderについて詳細は、Hot Folderのヘルプを参照してください。

• Command WorkStation での設定の書き換え

Command WorkStation でジョブのプリントオプションの内容を変更するには、ジョブをダブルクリックして「プロパティ」ダイアログボックスを表示します。Command WorkStation についての詳細は、Command WorkStation ヘルプを参照してください。

プリントオプション書き換えの優先順位

プリントオプションの書き換えは次の優先順位で行われます。

- MLPro930PS「設定」および Command WorkStation での設定値は、ユーザがプリンタドライバで設定したプリントオプションにより上書きされます。
- ユーザがプリンタドライバで設定したプリントオプションの設定値は、Command WorkStation で設定した値により上書きされます。

プリントオプション

ここでは、MLPro930PS のプリントオプション、初期設定、制限 / 必要条件について説明します。また、各プリントオプションの詳細を説明します。

プリントオプションと設定

次表のオプションと設定項目の下線は、プリンタドライバ設定（PPD のデフォルト設定）を表します。プリンタドライバのインターフェイスでオプションを指定しなかった場合、MLPro930PS は下線の設定でジョブを印刷します。

ジョブの印刷時に「プリンタの初期設定」を選択すると、MLPro930PS は工場出荷時のデフォルト値で印刷します。プリンタ操作部、WebTools「設定」、Command WorkStation など、デフォルト値を設定できるユーティリティで値を変更した場合は、印刷時に「プリンタの初期設定」を選択すると、それらのユーティリティで設定した値で印刷されます。詳細は次表の「制限 / 必要条件」を参照してください。

現在デフォルト値として設定されている項目を確認するには、プリンタ操作部または Command WorkStation から設定情報ページを印刷してください。

プリントオプション

次表で MLPro930PS のプリントオプション、オプションの選択項目、初期設定、制限または必要条件について説明します。

「一般」タブ

プリントオプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
(初期設定表示） 用紙サイズ / 印刷の向き、180 度回転、ミラー / 用紙トレイ / 部数単位で印刷 / 部数 / 排出先 / 両面印刷 / シート毎のページ数 /		よく使用するオプションをまとめて「一般」タブにショートカットとして表示させます。 表示するオプションを変更する場合は、「カスタム」ボタンをクリックし、「一般画面表示のカスタマイズ」ダイアログボックスにてオプションを選択し、追加 / 削除します。	

「ジョブ情報」タブ

プリントオプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
部数	1-9999	印刷ジョブの部数を指定します。	9999 より大きな値は指定しないでください。
印刷キューアクション	印刷 / 印刷と待機 / 処理と待機	印刷キューに送ったジョブの処理を指定します。 「印刷と待機」を選択すると印刷後ラスターファイルが保存されます。 「処理と待機」を選択するとジョブは処理されますが印刷はされません。	このオプションは直接接続の際は無効になります。
ジョブ注釈メモ		ジョブ固有のメモ情報を入力します。	ドライバでは半角英数字で 31 文字、全角で 15 文字まで入力できます。
指示		オペレータへのジョブの指示を入力します。	ドライバでは半角英数字で 127 文字、全角で 63 文字まで入力できます。
ジョブタイプ	通常印刷 / 認証印刷	ジョブを認証印刷として送信するかどうかを指定します。	
ジョブ名		認証印刷の名前を入力します。	半角英数字 16 文字まで入力できます。
ジョブパスワード		認証印刷のパスワードを入力します。 送信後、ここで指定したパスワードをプリンタで入力してジョブを印刷します。	半角英数字 8 文字まで入力できます。
ユーザ認証	Windows ログインを使用する ユーザ名 パスワード	MLPro930PS「設定」の「ユーザとグループ」でユーザ認証を設定している場合に、Windows ログインを使用するかどうか、指定します。 Windows ログインを使用しない場合は、ユーザ認証用のユーザ名とパスワードを入力します。	詳細は、「4 章 設定管理」、「1 章 Windows からの印刷」、および Configure ヘルプを参照してください。
	ゲストでログインする	ゲストでログインする場合に選択します。	
	ユーザ情報を保存する	ユーザ認証用のユーザ情報を保存する場合に選択します。	

「用紙トレイ」タブ

プリントオプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
用紙サイズ	A4/ レター / リーガル（14インチ）/ リーガル（13インチ）/ B4/ A5/ はがき / 往復はがき / インデックスカード / 封筒長形 3 号 / 封筒長形 4 号 / 封筒洋形 4 号 / 封筒角形 2 号 / 封筒角形 3 号 / 封筒角形 8 号 / 封筒洋形 0 号 / B5/ A6/ Monarch/ DL/ C5/ Com-10/ エグゼクティブ / A3/ A3 ノビ / C4/ Com-9/ リーガル（13.5インチ）/ タブロイド/ A3ワイド/ タブロイドエクストラ/ PostScript カスタムページ サイズ	書類の用紙サイズを指定します。	用紙サイズに関する詳細は、プリンタ機能編を参照してください。 カスタムページサイズの設定方法については、「1 章 Windows からの印刷」、「2 章 Mac OS からの印刷」および「応用編」を参照してください。

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
印刷サイズ	A4/ レター / リーガル(14インチ)/ リーガル(13インチ)/ B4/ A5/ はがき / 往復はがき / インデックスカード / 封筒長形３号 / 封筒長形４号 / 封筒洋形４号 / 封筒角形２号 / 封筒角形３号 / 封筒角形８号 / 封筒洋形０号 / B5/ A6/ Monarch/ DL/ C5/ Com-10/ エグゼクティブ / A3/ A3 ノビ / C4/ Com-9/ リーガル(13.5インチ)/ タブロイド / A3 ワイド / タブロイドエクストラ/ 書類サイズと同じ	印刷用紙のサイズを指定します。	
用紙トレイ (Windows) 給紙 (Mac OS)	自動選択 / トレイ１/ トレイ２/ トレイ３/ トレイ４/ トレイ５/ 手差し / マルチパーパストレイ	印刷する用紙の入った給紙トレイを指定します。	「自動選択」を選択すると、ユーザが指定したサイズの用紙がセットされている給紙トレイから自動的に給紙します。(トレイ2〜5はオプション)

7
プリントオプション

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
用紙タイプ	再生紙 / 粗い紙 / 光沢紙 / 厚紙 / 封筒 / レターヘッド / 普通紙 / ボンド紙 / OHP シート / ラベル紙 / ユーザ定義 1/ ユーザ定義 2/ ユーザ定義 3/ ユーザ定義 4/ ユーザ定義 5/ ユーザ定義 6/ ユーザ定義 7/ ユーザ定義 8/ ユーザ定義 9/ ユーザ定義 10	使用する用紙の種類を指定します。	
用紙種類の混合	定義されていません / 定義	ジョブ内のページに種類の異なる用紙を使用するかどうかを指定します。	(「3 章 ユーティリティ」および 259 ページ参照)
トレイ調整	非選択 / 選択	トレイ調整機能を使用するかどうかを指定します。	(「3 章 ユーティリティ」参照)
自動トレイ切り替え	オン / オフ	トレイを自動的に切替えるかどうかを指定します。	
用紙厚	プリンタの初期設定 / 薄い紙(連量 55 ～ 57kg) / 普通紙(連量 58 ～ 64kg) / やや厚い紙(連量 65 ～ 89kg) / 厚い紙(連量 90 ～ 103kg) / より厚い紙(連量 104 ～ 110kg) / ごく厚い紙 1(連量 111 ～ 162kg) / ごく厚い紙 2(連量 163 ～ 186kg) / ごく厚い紙 3(連量 187 ～ 230kg) / ごく厚い紙 4(連量 231 ～ 258kg)	用紙の重さを指定します。	
用紙チェック	オン / オフ	用紙確認機能を使用するかどうかを指定します。	

「レイアウト」タブ

プリントオプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
拡大縮小	100% (25% ～ 400%)	印刷時の拡大縮小率を指定します。	(254 ページ参照) 「用紙サイズに合わせる」と一緒に指定することはできません。
	用紙サイズにあわせる: 非選択/ 選択	「書類サイズ」と「用紙サイズ」が一致しない場合、用紙サイズに合うように拡大または縮小して印刷するかどうかを指定します。	(259 ページ参照) 「拡大縮小」と一緒に指定することはできません。
印刷の向き (Windows)	縦 / 横	用紙の印刷方向を指定します。	
	180 度回転: 非選択 / 選択	「印刷の向き」オプションで印刷方向を横向きに指定した場合、ジョブを180 度回転するには、このオプションを選択します。	
印刷の向き (Windows)	ミラー: 非選択 / 選択	印刷ジョブの画像を左右に反転します。	このオプションはMac OS X 対応コンピュータからは設定できません。
シート毎のページ数	1-up / 2-up / 4-up / 6-up / 9-up / 16-up	複数ページのジョブを印刷する場合、用紙の片面にまとめて印刷するページを指定します。 複数のページをまとめて 1 ページに印刷する時は 2 up 以上を選択します。 1 ページごとに印刷する場合は、1 up を選択します。	
両面印刷	オフ / 長辺とじ / 短辺とじ	両面印刷するかどうか、また両面印刷する場合の排紙方向を指定します。	(260 ページ参照)
製本メーカー	オフ / 標準製本 / 右とじ / 無線とじ / 無線とじ - 右 / 複合中とじ - 左 / 複合中とじ - 右 / スピード印刷 / ダブル印刷	ジョブを小冊子として印刷するかどうか、またその場合の綴じる方法またはレイアウト方法を指定します。	(256 ページ参照)
センタリング補正	下辺(X) / XY/ 左上	ジョブの印刷時に、どの位置に中央を合わせるかを指定します。	このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「オフ」、「スピード印刷」、「ダブル印刷」以外が選択されている必要があります。

プリントオプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
クリープ補正	オフ / 普通 / 厚紙	枚数が多い場合や厚い用紙に印刷する場合に生じるクリープ（画像がシートの中央からずれて印刷される状態）を補正するかどうか、また補正する場合の補正の度合いを指定します。 「厚紙」を選択すると、その度合いが大きくなります。	このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「オフ」以外が選択されている必要があります。 （255 ページ参照）
面付け縮小	選択 / 非選択	書類サイズと同じサイズの用紙に製本ジョブとして印刷する場合に選択します。 この場合、画像は 50％に縮小されて印刷されます。	このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「オフ」以外が選択されている必要があります。
印刷の向き上書き	オフ / 縦 / 横	印刷ジョブの排紙方向を指定します。	
複合中とじ用グループ	8/12/16/20/24/28/ 32/36/40	複合中とじで製本する場合のページ数を指定します。	このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「オフ」以外が選択されている必要があります。
表紙用給紙トレイ	ジョブと同じ / マルチパーパストレイ トレイ 1/ トレイ 2/ トレイ 3/ トレイ 4/ トレイ 5	製本ジョブの表紙に使用する用紙の入ったトレイを指定します。	このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「無線とじ - 左」、「無線とじ - 右」以外が選択されている必要があります。
おもて表紙	なし / おもて面に印刷 / 裏面に印刷 / 両面に印刷 / 両面ブランク	おもて表紙または裏表紙の印字方法を指定します。 両面とも印字なしにする場合は、「両面ブランク」を選択します。	このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「オフ」以外が選択されている必要があります。
裏表紙	なし / おもて面に印刷 / 裏面に印刷 / 両面に印刷 / 両面ブランク		このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「オフ」以外が選択されている必要があります。 書類本体のページ数により、ブランクページが挿入されることがあります。

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
センターマージン	ミリ（0-50）/ インチ（0.00-1.97）	面付けジョブの中央（折り線）の余白の値を指定します。	このオプションを使用するには、「製本メーカー」で「オフ」以外が選択されている必要があります。
用紙サイズに合わせる	非選択 / 選択	用紙サイズに合わせて書類を自動的に拡大縮小して印刷するかどうかを指定します。	

「カラー」タブ

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
印刷モード （Windows） カラーモード （Mac OS）	標準カラー（Mac では CMYK）/ エキスパートカラー / グレースケール	ジョブ印刷のカラーモードを指定します。 カラー書類には、「標準カラー」または「エキスパートカラー」を選択します。白黒の書類には「グレースケール」を選択します。	（「5 章 カラー印刷」参照）
コンポジットオーバープリント	非選択 / 選択	アプリケーションでカラーオブジェクトのオーバープリントを指定して作成した PostScript または PDF ファイルを印刷する場合に、このオプションを選択します。	
色分解の組合せ	非選択 / 選択	DTP アプリケーションで、色分解の印刷時にすべての色の組み合わせを 1 ページ上に印刷する場合に選択します。 各色ごとに 1 枚ずつグレースケールで印刷する場合は非選択にします。	
自動トラッピング	非選択 / 選択	テキストやグラフィックなどの版ズレによる白抜けを緩和するかどうかを指定します。 このオプションを選択した場合、グラフィックまたはテキストの周りに縁取りがあるように見えることがあります。	
カラー置換	非選択 / 選択	このオプションを選択すると、一定の範囲内の色は Command WorkStation のスポットカラーにて定義された代替カラー値で印刷されます。	

「カラー」タブ：エキスパートカラー設定

プリントオプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
RGB ソースプロファイル	「双方向通信」がオフの場合： プリンタの初期設定（Fiery RGB v5)/ Apple 標準 / sRGB（PC）/ Adobe RGB/ ECI-RGB/ Fiery RGB/ EFIRGB/ ソース -1 〜 10/ なし 「双方向通信」がオンの場合： Apple 標準 / sRGB（PC）/ Adobe RGB/ ECI-RGB/ Fiery RGB v5/ EFIRGB/ なし	RGB データ（画像、グラフィック、テキスト）の印刷時に適用される RGB ソース色空間を選択します。 双方向通信を有効にすると、選択項目の「Fiery RGB」のバージョンが表示されます。 「ソース -1」〜「ソース -10」を選択する場合は、対応するソースプロファイルが MLPro930PS に保存されている必要があります。	（「5 章 カラー印刷」参照） Command Work-Station のカラー管理での設定値がプリンタの初期設定値です。
グレーをブラックのみで印刷する（RGB）	プリンタの初期設定（オフ）/ オフ / テキスト / グラフィック / テキスト / グラフィック / 画像	R=G=B で定義したグレーをブラックトナーのみで印刷するかどうか、またその場合のオブジェクト（テキスト、グラフィック、画像）を指定します。	
カラーの表現	プリンタの初期設定（ビジネスグラフィック）/ 連続調 / ビジネスグラフィック / 絶対カラーメトリック / 相対カラーメトリック	RGB データ（テキスト､グラフィック、画像）印刷時に使用するカラー空間のマッピング方法を指定します。	
RGB 色分解	プリンタの初期設定（出力）/ シミュレーション / 出力	RGB データの、CMYK 色空間での色分解の方法を指定します。 オリジナルの RGB データをプリンタ用 CMYK 色空間で色分解する場合は「出力」を、オフセット印刷などシミュレーション用 CMYK 色空間で色分解する場合は「シミュレーション」を選択します。	（「5 章 カラー印刷」参照） Command Work-Station のカラー管理での設定値がプリンタの初期設定値です。

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
CMYK シミュレーションプロファイル	「双方向通信」がオフの場合: プリンタの初期設定（DIC (EFI)）/ DIC/ Euroscale/ ISO Coated/ ISO Uncoated/ JMPA/ Japan Color/ SWOP-Coated/ TOYO Coated/ シミュレーション-1～10/ なし ColorWiseオフ 「双方向通信」がオンの場合: DIC/ Euroscale/ ISO Coated/ ISO Uncoated/ JMPA/ Japan Color 2001 type1 (EFI)/ SWOP-Coated/ TOYO Offset Coated 2.0/ なし/ ColorWiseオフ	印刷ジョブのシミュレーションプロファイルを指定します。 このオプションは CMYK データのみに影響します。 「シミュレーション -1」～「シミュレーション -10」を選択する場合は、対応するシミュレーションプロファイルが MLPro930PS に保存されている必要があります。	（「5 章 カラー印刷」参照） Command Work-Station のカラー管理での設定値がプリンタの初期設定値です。
グレーをブラックのみで印刷する（CMYK）	プリンタの初期設定（テキスト/グラフィック/画像）/ オフ/ テキスト/グラフィック/ テキスト/グラフィック/画像	C=M=Y で定義したグレーをブラックトナーのみで印刷するかどうか、またその場合のオブジェクト（テキスト、グラフィック、画像）を指定します。	

7
プリントオプション

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
CMYK シミュレーション方法	フル（ソース GCR）/ クイック / フル（出力 GCR）	CMYK シミュレーションの処理方法を指定します。 「フル（ソース GCR）」シミュレーションでは出力濃度に加えて色合いも調整し、「CMYK シミュレーションプロファイル」指定のブラックの量で印刷します。CMYK のうち K のみ完全に独立した色処理を行います。 「クイック」シミュレーションでは 1 種類のトランスファー曲線を使用して、CMYK 各色の出力濃度のみを調整します。 「フル（出力 GCR）」シミュレーションでは出力濃度に加えて色合いも調整し、「出力プロファイル」指定のブラックの量で印刷します。CMY で生成されたプロセスブラックは、K も混ぜてより深みのあるブラックとして表現します。	（「5 章 カラー印刷」参照） Command WorkStation のカラー管理での設定値がプリンタの初期設定値です。
スポットカラーマッチング	プリンタの初期設定（オン）/ オン / オフ	スポットカラーマッチングを使用するかどうかを指定します。 「オン」を選択すると、MLPro930PS 内蔵のスポットカラー対応表（スポットカラーを再現するための CMYK のトナー量を指定したもの）を使用してスポットカラーを処理します。 「オフ」を選択すると、スポットカラー対応表ではなく、「シミュレーションプロファイル」と「CMYK シミュレーション方法」での設定を使用して、スポットカラーを処理します。	

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
テキスト / グラフィックに純ブラック使用	「双方向通信」がオフの場合： プリンタの初期設定（純ブラック）/ 普通 / 純ブラック / リッチブラック 「双方向通信」がオンの場合： 普通 / 純ブラック / リッチブラック	「普通」を選択するとブラックのテキストとグラフィックは通常の PostScript 印刷処理をされます。 「純ブラック」を選択するとブラックトナーのみを使用して印刷されます。 「リッチブラック」を選択すると、ブラックのテキストとグラフィックは ブラックとシアンの混合色で印刷されます。	(「5 章 カラー印刷」参照) Command Work-Station のカラー管理での設定値がプリンタの初期設定値です。
ブラックオーバープリント	プリンタの初期設定（テキスト / グラフィック）/ オフ / テキスト / テキスト / グラフィック	黒のテキストまたはグラフィックを、カラー背景上に重ねて出力（オーバープリント）するかどうかを指定します。 黒のテキストを重ねて出力する場合は、「テキスト」を、黒のテキストとグラフィックを重ねて出力する場合は、「テキスト / グラフィック」を選択します。 「テキスト / グラフィック」を選択するには、「色分解の組合わせ」で「オフ」を選択する必要があります。	
出力プロファイル	「双方向通信」がオフの場合: 用紙定義プロファイルを使用/ サーバデフォルトを使用 出力プロファイルを使用 出力-1〜出力-10 「双方向通信」がオンの場合: 用紙定義プロファイルを使用 出力プロファイルを使用 Fiery 361A3 6×6　Dot v2F Fiery 361A3 12×6 Dot v2F Fiery 361A3 12×6 Line v2F Fiery 361A3 12×12 Dot v2F	印刷ジョブのカラー空間の変換に使用する出力用プロファイルを選択します。 「出力 -1」〜「出力 -10」を選択する場合は、対応するシミュレーションプロファイルが MLPro930PS に保存されている必要があります。	

「画像品質」タブ

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
印刷品位	ふつう (600x600dpi)/ 高精細(多階調)/ きれい(1200x1200dpi)	印刷時の画質を指定します。	
イメージ スムージング	非選択 / 選択	低解像度の画像を印刷する際、出力画像のスムーズさを向上させる場合に選択します。	このオプションは、画像の解像度が 100 ppi 以下の場合に効果があります。 Adobe Photoshop で EPS ファイルを作成した場合、Photoshop での設定が優先されます。
明るさ	85% 非常に明るい / 90% より明るい / 95% 明るい / 100% 標準 / 105% 暗い / 110% より暗い / 115% 非常に暗い	非常に明るくしたい画像には「85%」を、非常に暗くしたい画像には「115%」を、またそれ以外の場合はその中間値を選択します。	
画像品質	普通 / 最良	画像の品質を指定します。	
スクリーン選択	ドットスクリーン / ラインスクリーン(自動)/ ラインスクリーン(解像度重視)/ ラインスクリーン(階調重視)	スクリーンの印刷に、網点と線のどちらを使用するか、また線を使用する場合の階調を指定します。	
トナー節約モード	非選択 / 選択	ジョブの印刷時に最高トナー濃度を下げて印刷するかどうかを指定します。	
ハーフトーンスクリーン (MLPro930PS-X のみ)	連続階調 / アプリケーション定義/ 新聞/ ユーザ定義スクリーン1/ ユーザ定義スクリーン2/ ユーザ定義スクリーン3/	ハーフトーンスクリーンを指定します。プリンタに標準搭載されたハーフトーンスクリーンを使う指定する場合には「プリンタの初期設定」を指定し、「スクリーン選択」プリントオプションでスクリーンを選択します。アプリケーション側で指定されたハーフトーンスクリーンを有効にしたい場合、「アプリケーション定義」を選択します。オフセット印刷機で形成されるドットに近いハーフトーンスクリーンにしたい場合には「連続階調」を選択します。新聞に近い仕上がりのハーフトーンスクリーンにしたい場合には「新聞」を選択します。カスタムハーフトーンを指定するには「ユーザ定義スクリーン 1」-「 ユーザ定義スクリーン 3」を選択します。	MLPro930PS-Xでのみ利用可能です。ハーフトーンスクリーンを指定して印刷する場合、期待する結果を得るためには、事前にそのハーフトーンスクリーンを使用してプリンタをキャリブレートする必要があります。「ユーザ定義スクリーン1」ー「ユーザ定義スクリーン3」を使用するには、Command WorkStationのカラー管理 の「ハーフトーンシミュレーション」タブで「ユーザ定義スクリーン1」ー「ユーザ定義スクリーン3」に対して、「角度」、「線数(LPI)」、「網点形状」を設定しておく必要があります。

「仕上げ」タブ

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
ページ順	昇順 / 降順	出力時の排紙順を指定します。	
排出先	スタッカ（フェイスアップ）/ スタッカ（フェイスダウン）/ フィニッシャ（フェイスアップ）/ フィニッシャ（フェイスダウン）	出力先のトレイを指定します。	フィニッシャ（xxxx）を指定するには、オプションのフィニッシャユニットが必要です。
部単位で印刷	いいえ / はい	複数部数、複数ページの印刷ジョブをソートするかどうかを指定します。	
ホチキス止め	オフ / 左上-横向き（一箇所）/ 左上-縦向き（一箇所）/ 右上-横向き（一箇所）/ 右上-縦向き（一箇所）/ 左端（二箇所）/ 右端（二箇所）/ 上端（二箇所）/ 中綴じ	印刷ジョブにホチキス止めするかどうか、またホチキス止めする場合のホチキスの位置と数を指定します。	このオプションを使用するには、オプションのフィニッシャユニットが必要です。
パンチ	オフ / 左 / 右 / 上	パンチ穴をあけるかどうか、またあける場合のパンチ穴の位置を指定します。	このオプションを使用するには、オプションのフィニッシャユニットとパンチユニットが必要です。
パンチ穴数	なし / 2 穴	パンチ穴をあけるかどうか、またあける場合のパンチ穴の数を指定します。	
画像シフト	非選択 / 選択	両面印刷で、ステープルやパンチ仕上げをする場合に、ページ上の画像の位置をずらして印刷するかどうかを指定します。 位置をずらして印刷するには、「画像シフト」を選択し、「画像シフトオプション」をクリックして、「画像シフト」画面でオプション項目を指定します。	Mac OS9 は対応していません

「バリアブルデータ印刷」タブ

プリントオプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
マスター作成	なし / 1 ～ 100	「マスター作成」では、印刷ジョブをFreeFormのマスターデータとして保存するかどうか、またその場合のマスター番号を指定します。	（「6 章 バリアブルデータ印刷」参照） 16 以上の FreeForm のマスターを作成または使用するには、双方向通信をオンに設定する必要があります。 双方向通信についての詳細は、「1 章 Windows からの印刷」、「2 章 Mac OS からの印刷」を参照してください。
マスター使用	なし / 1 ～ 100	「マスター使用」では、バリアブルデータをマスターデータと組み合わせて印刷する際に、使用するマスターファイルの番号を指定します。	
マスターのプレビュー		ボタンをクリックすると、マスターデータのプレビューを表示します。 このオプションはFreeFormのマスターデータでのみ有効です。	
マスター印刷	プリンタの初期設定（いいえ）/ はい / いいえ	FreeFormのマスターデータとして保存するファイルを印刷するかどうかを指定します。 このオプションは、「マスター作成」で「なし」以外が選択されている場合にのみ有効です。	
PPT 白背景除去	非選択 / 選択	バリアブルデータの作成時にMicrosoft Power Point ファイルの白色の背景を除去します。	

「スタンプ」タブ

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
ウォーターマーク (Windows)	なし / オリジナル / コピー / ドラフト / 最高機密 / 社外秘	ウォーターマークを印刷するかどうか、またその場合のウォーターマークの種類を指定します。	応用編「スタンプ印刷（ウォーターマーク)」の項目を参照してください。
ウォーターマークの印刷： 最初のページのみ	非選択 / 選択	最初のページのみにウォーターマークを印刷するかどかを指定します。	

「プリンタ」タブ

プリント オプション	選択項目	オプション内容	制限 / 必要条件
用紙		プリンタの用紙情報が表示されます。	
トナー		プリンタのトナー情報が表示されます。	
Job Monitor： 印刷ジョブを監視する (Windows)	非選択 / 選択	プリンタに送ったジョブの状況をモニタするかどうかを指定します。	詳細は、「1 章 Windows からの印刷」を参照してください。

プリントオプション補足情報

以下ではプリントオプションに関する補足情報を記載します。設定の制限、必要条件については前記の表を参照してください。

拡大縮小

このオプションでの書き換えは、印刷ジョブに指定されている拡大縮小率に対して適用されます。たとえば、ユーザが「拡大縮小」オプションで「50%」を指定している場合、このオプションで「200%」を選択するとオリジナルの書類サイズの 100% で印刷されます。

画像シフト

このオプションを使用すると、画像を X（水平）軸と Y（垂直）軸からシフトさせて印刷する場合の値を設定することができます。ステープルを必要とするジョブや製本ジョブなど、仕上げ設定のあるジョブ用に便利です。また、ジョブによってはこのオプションを使用することによって、クリッピングを防ぐことができます。

Windows と Mac OS での設定の方法は同様です。ここでは Windows 用プリンタドライバでの説明をします。

印刷ジョブに画像シフトを設定するには：

1 アプリケーションで「ファイル：印刷（プリント）」を選択します。
「印刷」ダイアログボックスが表示されます。

2 MLPro930PS を選択し、「プロパティ」をクリックします。

3 「Fiery 印刷」タブで「仕上げ」タブをクリックします。

4 「画像シフト」にチェックマークを付け、「画像シフトオプション」をクリックします。「画像シフト」ダイアログボックスが表示されます。

5 おもてページと裏ページの画像の位置を合わせる場合は、「おもてと裏の画像位置を合わせる」にチェックマークを付けます。
裏ページ用の入力フィールドがグレーアウトして、おもてページ用のみ入力可能になります。

6 使用する単位を選択します。
「ミリメートル」、「インチ」、「ポイント」のいずれかを選択します。

7 おもてページ用の「X」軸と「Y」軸にシフト値を入力します。
上向き矢印と下向き矢印を使用してシフト値を指定することもできます。

注 「X」、「Y」軸とも、最高値は「352.77 ミリ」/「13.89 インチ」/「999.99 ポイント」です。

8 裏ページ用におもてページと異なる値を使用する場合は、おもてページと同様に「X」軸と「Y」軸にシフト値を入力します。

注 「拡大 / 縮小」する場合、必ず「印刷サイズ」と「用紙サイズ」オプションをどちらも指定する必要があります。

クリープ補正

製本ジョブで枚数が多い場合や、厚い用紙に印刷する場合に、クリープが生じて画像がシートの中央からずれて印刷されるのを防ぐためにこのオプションを指定します。

- オフ - クリープ補正を行わないで印刷する場合に選択します。
- 普通 - クリープ補正を行って普通紙に印刷する場合に選択します。
- 厚紙 - クリープ補正を行って厚紙に印刷する場合に選択します。

ここで「厚紙」を選択しても、「用紙の種類」で「普通紙」を選択している場合は、ジョブは普通紙に印刷されます。

ホチキス止め

このオプションで「オフ」以外を選択するには、「部単位で印刷」オプションで「はい」を選択する必要があります。

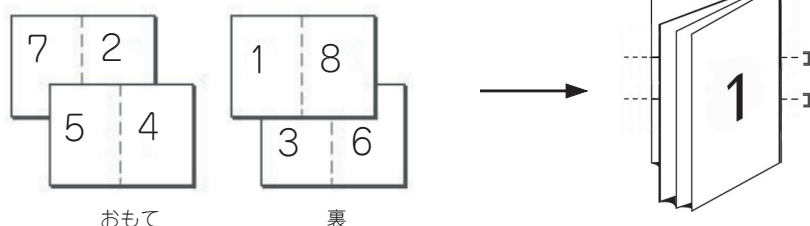
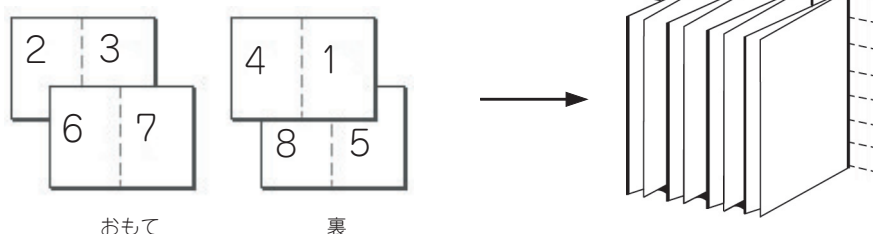
- オフーホチキス止めされません。
- 左上 - 横向き（一箇所）ー用紙の左上角に横に 1 箇所ホチキス止めされます。
- 左上 - 縦向き（一箇所）ー用紙の左上角に縦に 1 箇所ホチキス止めされます。
- 右上 - 横向き（一箇所）ー用紙の右上角に横に 1 箇所ホチキス止めされます。
- 右上 - 縦向き（一箇所）ー用紙の右上角に縦に 1 箇所ホチキス止めされます。
- 左端（二箇所）ー用紙の左長辺に沿って 2 箇所ホチキス止めされます。
- 右端（二箇所）ー用紙の右長辺に沿って 2 箇所ホチキス止めされます。
- 上端（二箇所）ー用紙の上部短辺に沿って 2 箇所ホチキス止めされます。
- 中綴じージョブは製本状に印刷され、ページの中央にホチキス止めされます。

製本メーカー

このオプションを使用すると、通常のページ順とは異なる製本特有のレイアウトを指定することにより、シートを折りたたんで折り丁の端を切り落とした時に製本が出来上がるように、書類ページを印刷することができます。

「製本メーカー」オプションでは次の製本方法を指定できます。

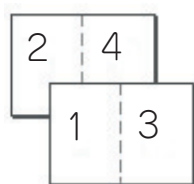
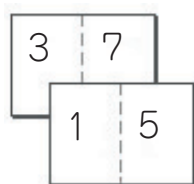
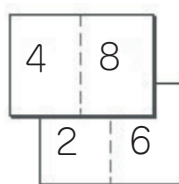
- オフ - 製本のための面付けを行わない場合に選択します。
- 標準製本 - シートを折りたたみ、折り丁の背または中央の折り目を糸またはホチキスで綴じる場合に選択します。

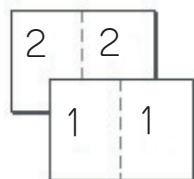
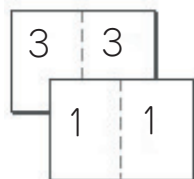
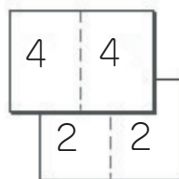
  「右とじ」を選択する場合は、シートを折ることによって生ずるクリープを防ぐために、「クリープ補正」オプションを設定することができます。詳細は、「クリープ補正」（255 ページ）を参照してください。
- 右とじ - 「標準製本」と同様、シートを折りたたみ、折り丁の背または中央の折り目を糸またはホチキスで綴じる場合に選択します。ただし、ページ順は右から左になります。

- 無線とじ - 複数の折り丁を隣接して重ね合わせ、それらの背を切断してから接着剤で固めて綴じる場合に選択します。
- 無線とじ - 右 - 「無線とじ」と同様、複数の折り丁を隣接して重ね合わせ、それらの背を切断してから、接着剤で固めて綴じる方法を無線とじと呼びます。ただし、ページ順は右から左になります。

- 複合中とじ－中とじされたサドルを隣接して重ね合わせ、無線とじと同様に接着剤で固めて綴じる場合に選択します。
- 複合中とじ - 右－「複合中とじ」と同様、中とじされたサドルを隣接して重ね合わせ、接着剤で固めて綴じる場合に選択します。ただし、ページ順は「右から左」になります。

注 「複合中とじ」を選択し、同時に「ホチキス止め」を指定する場合は、「ページ順」の設定は「降順」にする必要があります。「複合中とじ」を選択し、「ステープル」を指定しない場合は「昇順」を選択することもできます。

- スピード印刷 - シートを重ね合わせて中央で切断し、それを重ね合わせて製本する場合に選択します。この方法ではジョブの一部ずつをスピード印刷できます。

片面印刷　　両面印刷

2 4 / 1 3　　3 7 / 1 5　　4 8 / 2 6

おもてのみ　　おもて　　裏

- ダブル印刷 - この方法では、同一の書類ページが反復してシート上にレイアウトされます。シートを重ね合わせて中央で切断し、2 部ずつ製本する場合に選択します。

認証印刷

認証印刷機能を使用すると、MLPro930PS に送信したジョブを実際にプリンタの設置場所に行って印刷するまで保管しておくことができます。この機能を使用するには、まずジョブを認証印刷のパスワード付きで MLPro930PS に送信しておき、それからプリンタの設置場所へ行き、プリンタ操作部でパスワードを再入力してジョブを印刷します。
次の手順に従って認証印刷機能を使用して印刷してください。

Windows と Mac OS 用プリンタドライバでの印刷の方法は同様です。ここでは Windows での方法を説明します。

認証印刷機能を使用してジョブを印刷するには：

1　アプリケーションから「プリント（印刷）」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

2　「ジョブ情報」タブをクリックし、「ジョブタイプ」プリントオプションで「認証印刷」を選択します。

3　［ジョブ名］欄にジョブ名を、「ジョブパスワード」欄に数字 7 桁までのパスワードを指定します。

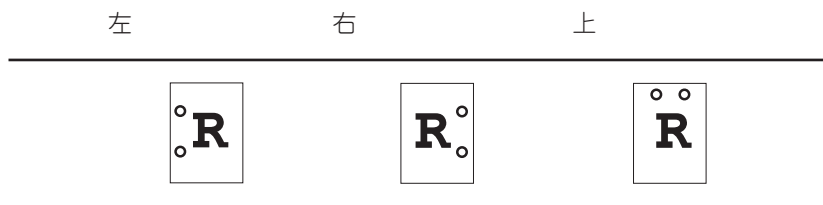
　［ジョブ名］欄、「ジョブパスワード」欄についての詳細は、「1 章 Windows からの印刷」または「2 章 Mac OS からの印刷」を参照してください。

4　その他のプリントオプションを設定し、「プリント（印刷）」ダイアログボックスで「OK（プリント）」をクリックしてジョブを印刷します。

5　プリンタ操作部でジョブを指定して「認証印刷」を押します。

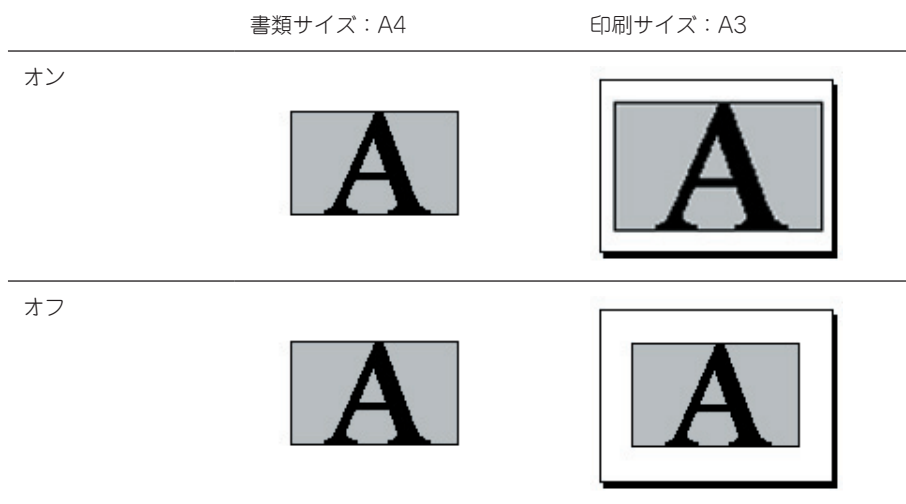
6　手順 2 で指定したジョブパスワード（暗証番号）を入力し、「OK」を押します。

パンチ穴

次図では、「2 穴」を選択した場合のパンチ穴の位置を示しています。

パンチ穴の位置は、用紙サイズ、用紙の種類、書類のページ数、排紙方向などにより異なります。

用紙サイズにあわせる

書類サイズが印刷用紙のサイズと異なる場合、ジョブを印刷用紙のサイズに合わせて拡大縮小して印刷することができます（次図参照）。

- オン - 印刷用に指定した用紙のサイズに合わせて、ジョブが拡大縮小されて印刷されます。
- オフ - 印刷用に指定した用紙のサイズにかかわらず、ジョブは書類サイズのままで印刷されます。

用紙種類の混合

このオプションを使用すると、1 つの印刷ジョブに複数の異なる用紙を指定して印刷できます。たとえば、表紙と本文を別の用紙に印刷したり、ページ範囲を指定して、それぞれ異なる用紙に印刷することもできます。また、両面ジョブには各章の開始ページを指定できます。各章の開始ページを指定したジョブには、「仕上げ:ステープル」で指定したオプション項目を適用できます。

用紙種類の混合の設定

プリンタドライバの「用紙」タブから、「用紙種類の混合」ダイアログボックスにアクセスできます。用紙種類の混合を設定するには、以下の手順を実行してください。

Windows、Mac OS のどちらでも手順は同様です。ここでは、Windows を使用して手順を説明しています。

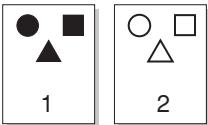
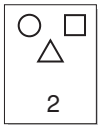
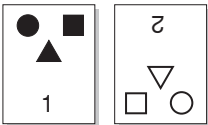
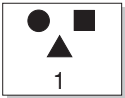
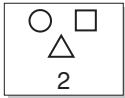
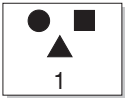
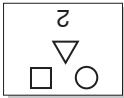
用紙種類の混合を設定するには：

1　アプリケーションから「プリント（印刷）」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

- 「Fiery 印刷」タブで「用紙」タブをクリックし、「用紙種類の混合」欄で「定義」をクリックします。

「用紙種類の混合」ダイアログボックスが表示されます。プリンタドライバで用紙種類の混合を定義する方法は、Command WorkStation で定義する方法と同様です。詳細は、「3章 ユーティリティ」を参照してください。

「用紙種類の混合」ダイアログボックスでは、最大 100 個の設定を「選択一覧」に追加できます。

両面印刷

次の手順にしたがって両面印刷を行います。

プリンタドライバにより、「両面印刷」オプションの場所は異なります。Windows と Mac OS X の設定の方法は同様です。ここでは、Windows 2000 での手順を説明します。

両面印刷するには：

1 アプリケーションの「ファイル」メニューから「印刷」を選択します。

2 MLPro930PSを選択し「プロパティ」をクリックします。

3 「Fiery印刷」タブで「レイアウト」タブをクリックし、「両面印刷」オプションから以下のいずれかを選択します。

- 長辺とじ— 表と裏で上下の方向が一致します。
- 短辺とじ— 表と裏で上下の方向が逆になります。

4 その他のプリントオプションを設定し「OK」をクリックします。

5 「プリント（印刷）」をクリックします。

8 印刷事例

概要

本書では、MLPro930PS で使用する機能について重要な情報を提供しています。

「用紙種類の混合」では、用紙種類の混合について説明し、このオプションを使用したワークフローについて説明します。

「FreeForm を使用したバリアブルデータ印刷」では、バリアブルデータ印刷と FreeForm について説明し、FreeForm を使用したバリアブルデータのワークフローを図を用いて説明します。

「FreeForm 2 と用紙種類の混合を利用したバリアブルデータ印刷」では、バリアブルデータワークフローの中で用紙種類の混合を使用する方法について説明します。

「面付けを使用した PPML」では、バリアブルデータ印刷ジョブの面付け方法について説明し、PPML を使用したワークフローについて解説します。

「Hot Folders」では、Hot Folders アプリケーション（オプション）を使用した印刷方法について説明します。

この章で使用する用語については、 用語集を参照してください。よく用いられるアプリケーションや印刷用語の定義が記載されています。

用紙種類の混合

本章では、用紙種類の混合についての概要を示します。また、用紙種類の混合設定を含んだワークフローについて例示します。

用紙種類の混合とは？

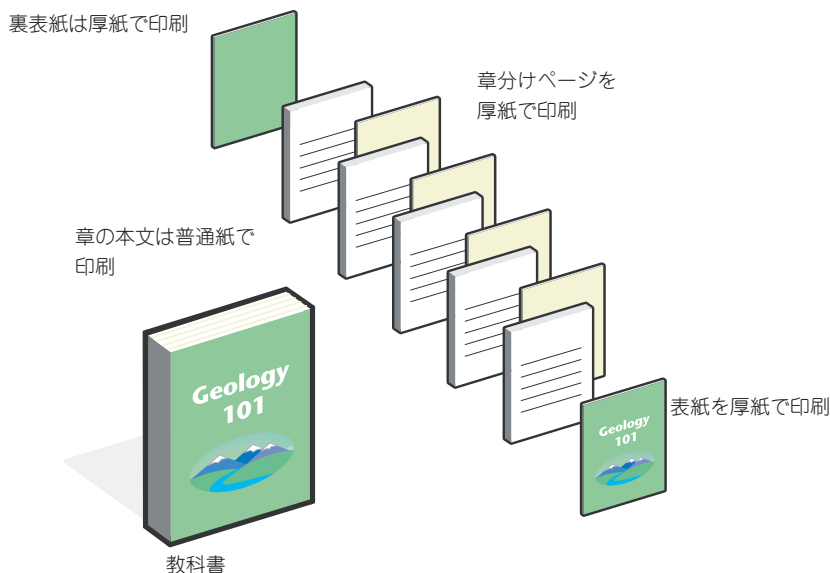
用紙種類の混合機能を使用して、特定の範囲のページを異なる用紙に印刷することができます。たとえば、1 つの印刷ジョブに対して、カバーページ用には厚紙を指定して白紙を挿入し、特定ページにカラー用紙を挿入し、両面印刷を指定できます。用紙種類の混合設定は、アプリケーションから印刷する際に、プリンタドライバから指定することができます。MLPro930PS にジョブを送信し、Command WorkStation を使用して用紙種類の混合設定を変更することもできます。

用紙種類の混合に関する詳細については、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

例 : 用紙種類の混合を利用したワークフロー

ある地質学教授は、新学期の教科書を印刷することになりました。新しい教科書には、8 つの章があります。教授は、学生にとって章立てがわかりやすいようにしたいと考えています。そのため、教科書の章分けページは厚紙に印刷します。テキスト本文は普通紙に印刷し、表紙と裏表紙のページには、厚紙を使用します。

教授は、大学の制作部門担当者に、PDF ファイル（Geology101.pdf）を送り、上記印刷方法をリクエストします。

教科書は、下図のように構成されます。

この例での必要事項

- Geology101.pdf
- MLPro930PS
- 用紙種類の混合機能を持つ Command WorkStation
- 表紙、裏表紙用の厚紙
- 章分けページ用の厚紙
- テキスト本文用の普通紙

  サポートされている用紙の種類については、「プリンタ機能編」および「7章 プリントオプション」を参照してください。

MLPro930PS では、PDF バージョン 1.2 ～ 1.7 がサポートされています。

用紙種類の混合ワークフロー

Command WorkStation で「用紙種類の混合」を使用するには、ダウンロードしたジョブはラスターイメージを持たないファイルである必要があります。ファイルからラスター情報を取り除くには、ファイルを右クリックし、「ラスターデータ除去」を選択してください。

上記のワークフローは、PDF ファイル以外にも PS ファイルにも適用可能です。

用紙種類の混合ワークフロー

ステップ	タスク	詳細情報
1	教授は PDF ファイルを用意し、大学の制作部門にファイルを渡します。	
2	制作部門のオペレータは、PDF ファイルを Command WorkStation で開けるように ML Pro 930PS にインポートします。	Command WorkStation ヘルプ
3	オペレータは Command WorkStation でジョブを選択し、「アクション」メニューから「プロパティ」を選択します。「用紙」タブを選択し、「用紙種類の混合」から次の設定を適用します。 A)「表紙定義」からおもて表紙と裏表紙に印刷する用紙、用紙トレイ、両面設定等を指定します。 B)「新規ページ範囲」をクリックし、「ページ / ページ範囲用用紙」ダイアログボックスを表示させます。「ページ範囲」に「2, 32, 64, 96, 124」と入力します（章を分割するページ番号）。用紙の種類に厚紙を指定し、厚紙が入っている用紙トレイを指定します。「閉じる」をクリックします。 C)「新規インサート」から、最後のページの後に白紙を挿入するように指定します。これでジョブの印刷の最後がわかるようにします。白紙が入っている用紙トレイを指定して、「閉じる」をクリックします。 D)「レイアウト」オプションから「両面印刷」オプションを指定して「OK」をクリックし、ファイルを保存します。	「3 章 ユーティリティ」 Command WorkStation ヘルプ
4	オペレータはこのジョブを RIP し、待機キューに保存します。	Command WorkStation ヘルプ
5	オペレータはこのジョブのプレビューを行い、内容を確認します。	Command WorkStation ヘルプ
6	オペレータはジョブを印刷します。 注 **オペレータは、1 部をプルーフ用として印刷してから、複数部印刷をすることもできます。**	Command WorkStation ヘルプ
7	オペレータは、プリンタに印刷されたジョブを受け取ります。	
8	ジョブはおもて表紙、裏表紙、章分けページを含んだ形で印刷されました。	

注 Command WorkStation で「用紙種類の混合」を使用するには、ダウンロードしたジョブはラスターイメージを持たないファイルである必要があります。ファイルからラスター情報を取り除くには、ファイルを右クリックし、「ラスターデータ除去」を選択してください。

上記のワークフローは、PDF ファイル以外にも PS ファイルにも適用可能です。

FreeForm を使用したバリアブルデータ印刷

ここでは、バリアブルデータ印刷の概要を説明します。FreeFormTM を使用してバリアブルデータジョブを作成するワークフローについても例示します。

バリアブルデータ印刷とは ?

バリアブルデータ印刷は、印刷文書のコンテンツを持つデータベースとプリンタをリンクします。コンテンツには電子フォームのテキストや画像（グラフィックや写真）を使用できます。バリアブルデータ印刷を使用することで、ダイレクトメール広告などの印刷が可能です。通常、全文書に共通に用いられるマスターデータと、出力ごとに異なるバリアブルデータを組み合わせて印刷します。たとえば、マーケティング用データベースから顧客の名前とその他情報を引き出して、パンフレットの挨拶文に印字します。背景、図、テキスト本文は共通なので、マスターデータとなります。顧客名とその他の顧客固有情報がバリアブルデータです。

詳細については、「6 章 バリアブルデータ印刷」を参照してください。

バリアブルデータ印刷用の言語

MLPro930PS では、次のバリアブルデータ印刷用言語と互換性があります。

- FreeForm、FreeForm 2

バリアブルデータジョブを MLPro930PS に送信する

マスターデータとバリアブルデータは、一般的なソフトウェアを使用して作成できます。マスター / バリアブルの割り当ては、Command WorkStation、EFI Hot Folders、またはプリンタドライバを使用して行います。Pageflex Persona-Fiery Version や Atlas PrintShop Mail-Fiery Version などのサードパーティ製アプリケーションを使用して、マスターデータとバリアブルデータを PPML または Creo VPS 形式で作成した場合、アプリケーションから直接 MLPro930PS へバリアブルデータジョブを送信することが可能です。EFI Hot Folders を使用してファイルをダウンロードすることもできます。

バリアブルデータ印刷ジョブを送信する方法については、「6 章 バリアブルデータ印刷」を参照してください。

FreeForm とジョブの送信方法について

FreeForm を使用すれば、プリントオプションを使用してマスターデータ（FreeForm マスター）を定義し、MLPro930PS に保存することができます。バリアブルデータのジョブを ML-Pro930PS に送信する際に、どの FreeForm マスタージョブと組み合わせるかを指示欄に記入することができます。

詳細は、「6 章 バリアブルデータ印刷」を参照してください。

例：FreeForm を使用したバリアブルデータのワークフロー

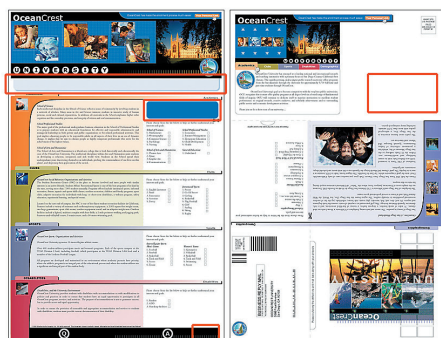
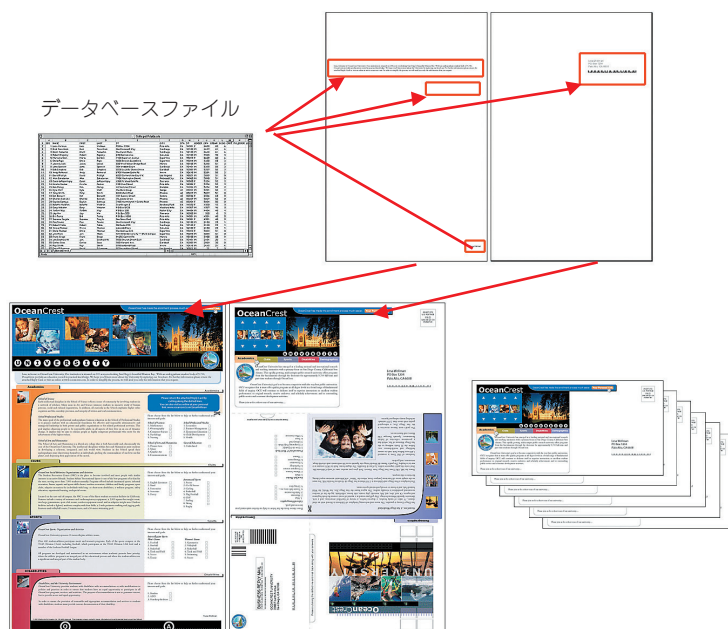
ある大学では、入学志願者に対して 3 つのキャンパスの宣伝をすることになりました。志願者が、各キャンパスとそこでのプログラムに関する情報を、郵便でリクエストできるようにします。志願者は、封筒に同封されている返信用ハガキでリクエストします。文書には、志願者の名前、住所、および個人用 Web リンクが記載されます。読者にアピールするために、デザインはグラフィックを用いたものになっています。普通郵便物に合うように、用紙は 11 x 17 サイズを使用し、3 つ折りにします。

この郵便物を印刷するために、大学の制作部は FreeForm のキャッシュ機能を用いることにしました。FreeForm では、グラフィックの豊富な画像をラスター形式でメモリに保存することができ、全ページにわたって共通して使用することができるため、この部分の処理は一度で済みます。バリアブルデータ（住所、名前、および web リンク）は、別途 MLPro930PS で印刷して、グラフィックレイアウトにマージします。

制作部は、共通するデータであるマスター文書を作成し、PDF ファイルとして保存します（ファイル名は College_Master.pdf）。次に、バリアブルデータとなる文書を Microsoft Word で作成し（ファイル名は College_Variable.doc）、バリアブル情報をデータベースファイル（College_data.xls）にリンクさせます。

このジョブでは、バリアブルデータ印刷用の特別なソフトウェアは使用していません。FreeForm マスターの作成には、任意のページレイアウトアプリケーションを使用できます。バリアブルデータの作成と印刷は、Microsoft Word Mail Merge 等のよく使われるメールマージプログラムを使用できます。

Microsoft Word で Mail Merge 機能を使用する方法については、Microsoft Word の説明書を参照してください。

次の図は、郵便広告の構成を示しています。

この例での必要事項

- College_Master.pdf
- College_Variable.doc
- College_data.xls
- MLPro930PS
- MLPro930PS プリンタドライバ（FreeForm 機能）
- Adobe Acrobat、Microsoft Word、Microsoft Excel をインストールした Windows ワークステーション

FreeForm を使用したバリアブルデータ印刷のワークフロー

①

②

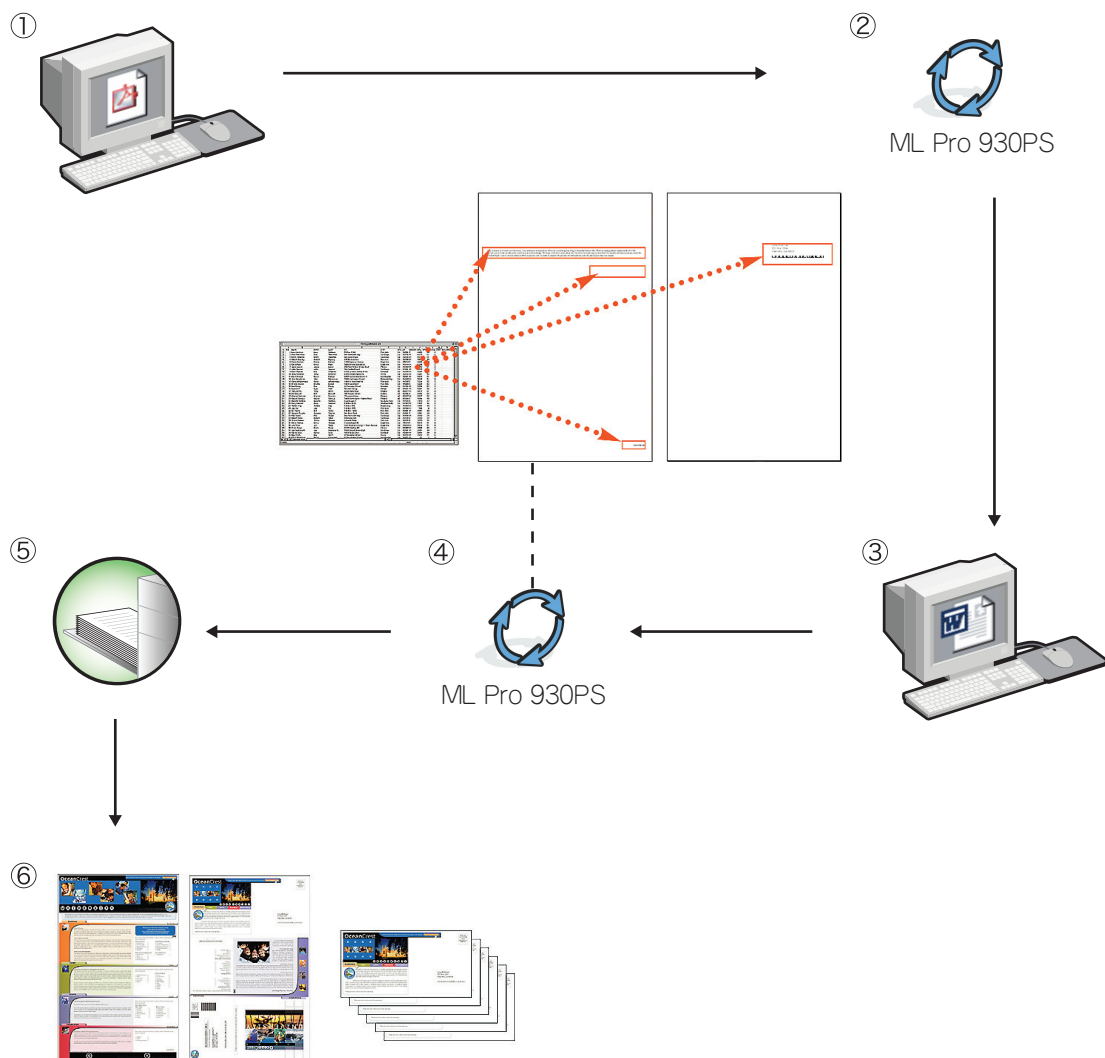
ML Pro 930PS

⑤

④

③

ML Pro 930PS

⑥

ステップ	タスク	詳細情報
1	制作部のオペレータは、Acrobat で College_Master.pdf を開きます。	
2	オペレータはプリンタドライバで、用紙サイズ 11 x 17、両面、「マスター作成」でマスター番号「1」を割り振って MLPro930PS に印刷します。	「1 章　Windows からの印刷」 「2 章　Mac OS からの印刷」
3	オペレータは Microsoft Word で College_Variable.doc ファイルを開きます。 College_Variable.doc を開くと、リンクされている College_data.xls ファイルも開きます。文書がリンクされていない場合、Microsoft Word はデータソースファイルの場所を指定するプロンプトを表示します。 オペレータは、Word で「Data Merge」を選択します。	Microsoft Word の説明書
4	オペレータは、プリンタドライバで用紙サイズ 11x17、両面、「マスター使用」に割り振られた「1」を選択して MLPro930PS に印刷します。 マスターファイルとバリアブルファイルが MLPro930PS 上で結合されます。	「1 章　Windows からの印刷」 「2 章　Mac OS からの印刷」
5	オペレータは MLPro930PS から出力を受け取ります。	
6	郵便物にはマスター情報とバリアブル情報が一緒に印刷されます。	

- マスター情報とバリアブル情報では、ページサイズと用紙の向きなど、特定の条件が同じである必要があります。詳細は、「6 章 バリアブルデータ印刷」を参照してください。
- FreeForm ジョブは直接接続に送信することはできません。
- プリンタドライバで双方向通信が設定されている場合、プリンタドライバは MLPro930PS に保存されているマスターを検索することが可能です。保存済み FreeForm マスターを使用して、必要に応じてバリアブル要素を複数セット印刷することができます。双方向通信についての詳細は、「1 章 Windows からの印刷」を参照してください。
- システム管理者が MLPro930PS の初期化を行うと、FreeForm マスターはすべて削除されます。システム管理者の役割については、「4 章 設定管理」を参照してください。

FreeForm 2と用紙種類の混合を利用したバリアブルデータ印刷

ここでは、バリアブルデータ印刷ジョブで用紙種類の混合を使用する方法について説明します。また、具体的な使用例を示します。

FreeForm 2 をバリアブルデータ印刷で使用するには？

FreeForm 2 は、FreeForm の機能拡張版です（FreeForm については、15 頁の「FreeForm を使用したバリアブルデータ印刷」参照）。FreeForm 2 では、Atlas PrintShop Mail-Fiery Version 等の FreeForm 2 をサポートするサードパーティ製バリアブルデータ印刷用アプリケーションが必要になります。これらのアプリケーションと FreeForm 2 を使用することで、複数ページのマスターを作成でき、ドキュメントをよりカスタマイズすることが可能です。別のアプリケーションで作成したマスターを使用し、PrintShop Mail-Fiery Version などの FreeForm 2 をサポートするサードパーティ製アプリケーションを使用してデザインとデータベース情報を組み合わせることもできます。

複数のマスターを使用することにより、同じデータベースのバリアブル情報を引き出しながら、複数のマスターを定義することが可能です。たとえば､レンタルビデオ店を経営していて､顧客名、住所、最近レンタルした映画 5 つのタイトル（ジャンル分けされている）のデータベースを持っているとします。宣伝広告用に、新着映画を表紙に印刷したクーポンを顧客に送りたいとします。顧客が最近借りた映画と似たジャンルの映画を表紙に印刷するようにカスタマイズしたいと考えました。顧客の名前と住所はデータベースから引き出します。一方、ジャンル分けされた映画の表紙には複数のマスターを定義します。

FreeForm 2 についての詳細は､「6 章 バリアブルデータ印刷」を参照してください。

用紙種類の混合をバリアブルデータ印刷ジョブで使用するには？

用紙種類の混合機能を使用して、特定の範囲のページを異なる用紙に印刷することができます。詳細は､「用紙種類の混合とは？」(263 ページ) を参照してください。

バリアブルデータ印刷は、印刷文書のコンテンツを持つデータベースとプリンタをリンクします。詳細は､「バリアブルデータ印刷とは？」(267 ページ) を参照してください。

バリアブルデータ印刷ジョブを用紙種類の混合機能と合わせて使用することで、広告郵便物等のカスタムジョブを作成します。たとえば、バリアブル情報を使用して顧客名の入った挨拶文を含む小冊子を作成し、その表紙には別の用紙を使用することができます。

ジョブに指定した用紙種類の混合設定は、レコード開始に合わせて全レコードに適用されます。たとえば、用紙種類の混合で 1 ページ目に厚紙が設定されている場合、全レコードの最初のページは厚紙で印刷されます。

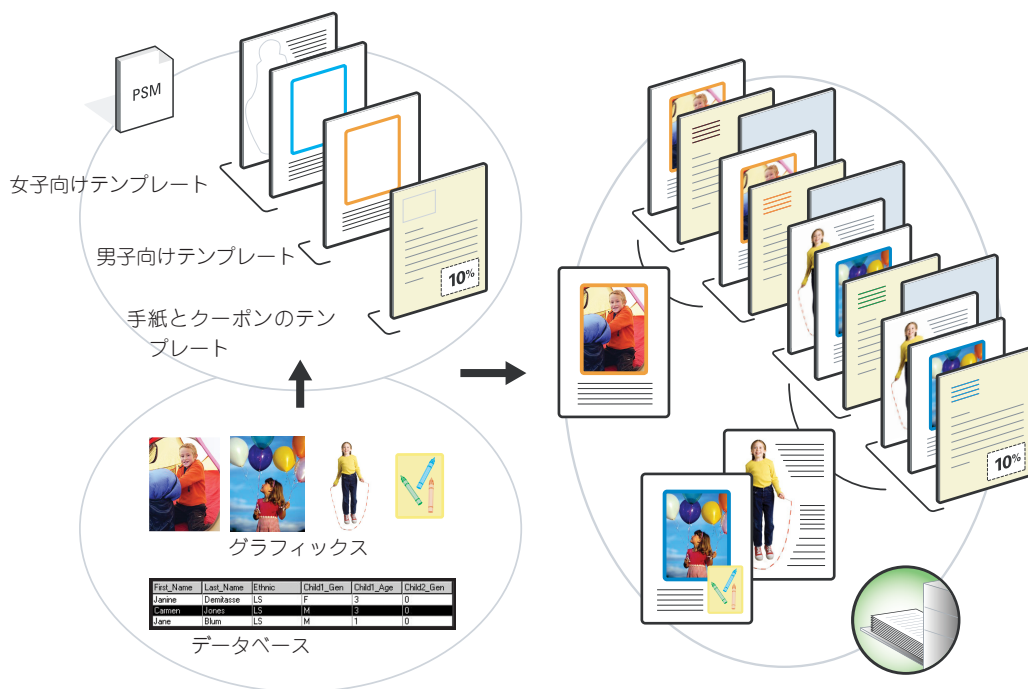
例：FreeForm 2 と用紙種類の混合を用いたワークフロー

子供服の新製品の広告のために、Banana Rama 社は顧客の性別、年齢に応じた広告を郵送したいと考えました。この会社は、顧客のデータベースに顧客名の他、性別、年齢等の属性を保存してあります。郵便広告用に、新製品を着た子供の画像を年齢層、性別に分けてデータベースから引き出すことにしました。PrintShop Mail-Fiery Version などのバリアブルデータアプリケーションと宛先の顧客に合った画像を使用して、7 才から 10 才までの女の子を持つ親向けの広告と、複数の年齢層の男の子を持つ親向けの広告を作ります。

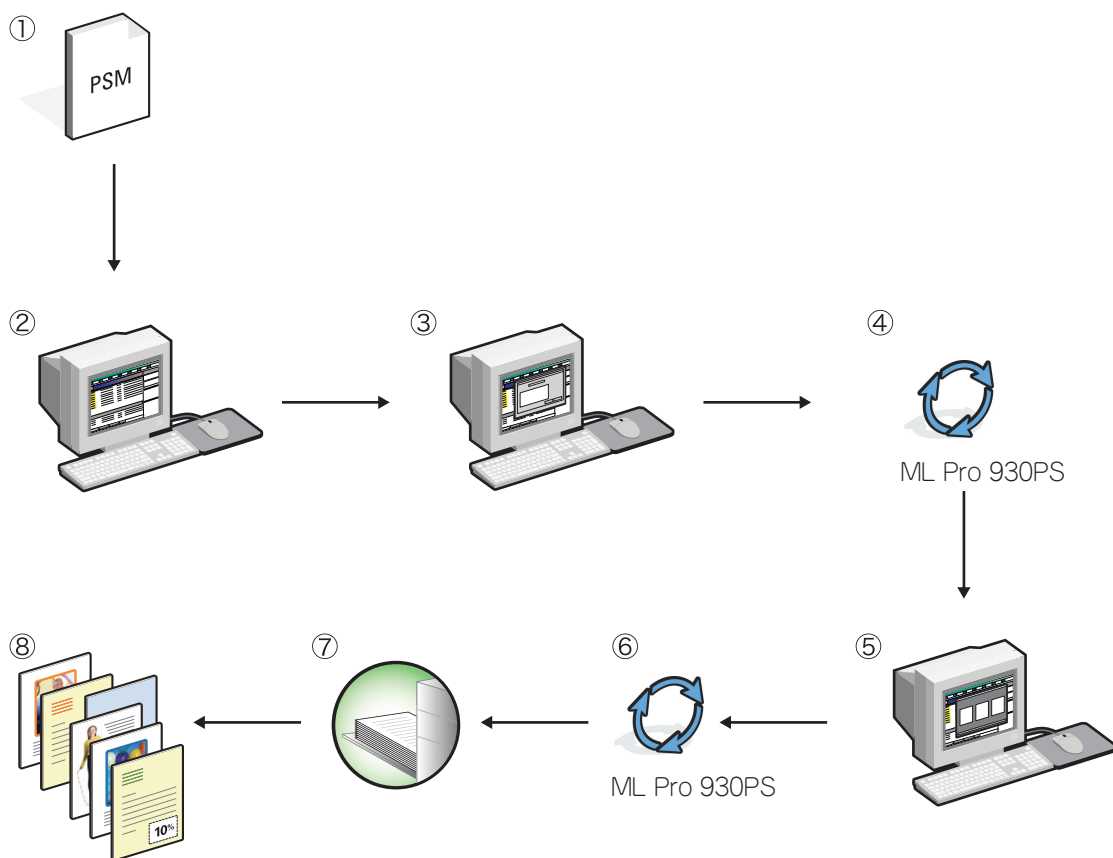
郵便広告には、顧客の名前と割り引きクーポンが入ったカバーシートが含まれます。Banana Rama 社の女子向け製品ラインはより充実しているため、女子向けの広告は 1 ページ増えることになります。

ターゲットの性別により郵便広告のページ数が変わるため、1 部ごとに白紙を挿入することにしました。

Banana Rama 社から郵便広告の印刷を受注したプリントショップは、最初に Atlas Print Shop Mail-Fiery Version でマスター文書とバリアブル文書を作成し、.psm プロジェクトファイル形式で保存しました。Print Shop Mail-Fiery Version に関する詳細については、付属の説明書を参照してください。

次の図は、この郵便広告の構成要素を示しています。

この例での必要事項

- Atlas PrintShop Mail-Fiery Version
- FreeForm 2
- BananaRama.psm
- BananaRama_V.ps
- MLPro930PS
- 用紙種類の混合機能を持つ Command WorkStation
- 厚紙
- 普通紙

FreeForm 2 と用紙種類の混合を使用したバリアブルデータ印刷のワークフロー

ステップ	タスク	詳細情報
1	プリントショップのオペレータはPrint Shop Mail-Fiery VersionでBananaRama.psmファイルを開き、FreeForm 2を指定し、MLPro930PSで印刷します。 印刷ダイアログボックスでマスターデータとバリアブルデータの両方を送信します。MLPro930PSはマスターとバリアブルの組み合わされたPostScript文書を受信します。	「6章 バリアブルデータ印刷」 Print Shop Mail-Fiery Versionに関する詳細については、付属の説明書を参照してください。
2	オペレータは、BananaRama_V.psファイルをCommand WorkStationで選択します。	Command WorkStationヘルプ
3	オペレータは、「ジョブのプロパティ」ウィンドウを表示させ、「用紙種類の混合」を選択して、次の設定を適用します。 A)「表紙定義」から、オペレータはおもて表紙を選択し、表紙ページモードに「おもてのみ印刷」、用紙の種類に厚紙を、さらにその用紙トレイを選択します。 B)「新規インサート」から、最終ページに白紙を挿入するように指定し、使用する用紙トレイを指定して、「閉じる」をクリックします。	「3章 ユーティリティ」
4	オペレータはジョブを処理済み / 待機ジョブにします。	Command WorkStationヘルプ
5	オペレータはジョブをプレビューして内容を確認します。	Command WorkStationヘルプ
6	オペレータはジョブを印刷します。	Command WorkStationヘルプ
7	オペレータはMLPro930PSから出力を受け取ります。	
8	ジョブは、バリアブル情報とマスター情報がマージされ、レコードごとに白紙が挿入されて印刷されます。	

注 マスター情報とバリアブル情報では、ページサイズと用紙の向きなど、特定の条件が同じである必要があります。詳細は、「6章 バリアブルデータ印刷」を参照してください。

Hot Folders

ここでは、Hot Folders の概要と Hot Folders を使用した印刷事例について説明します。

Hot Folders とは ?

Hot Folders はネットワーク経由の印刷タスクを簡単にするソフトウェアアプリケーションです。Hot Folder と呼ばれるフォルダに一連のプリントオプションと、印刷先のプリントキューを割り当てます。

この Hot Folder にファイルをドラッグ & ドロップするだけで、印刷を実行できます。複数の Hot Folder を作成し、それぞれ異なるプリントオプションやキューを指定することができます。Hot Folder の設定に応じて、ジョブは MLPro930PS の指定キューに送られ、該当するプリントオプションを適用することができます。

Hot Folder ソフトウェアはバックグラウンドで実行されるユーティリティです。Hot Folder にジョブが置かれるのを常に監視しています。

Hot Folders の詳細については、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

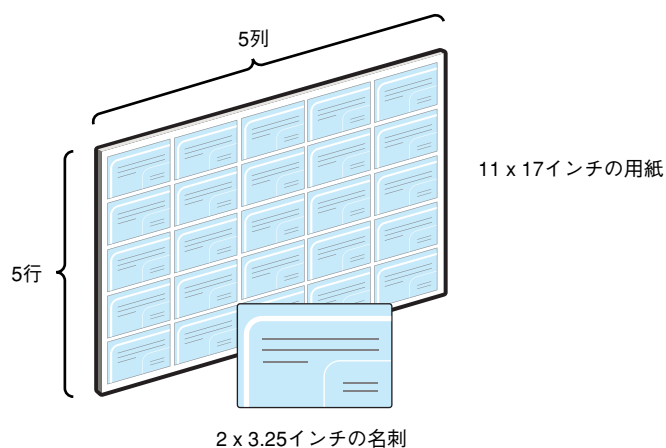
例 : Hot Folders を用いたワークフロー

ABC 社で働く Greg は、自分の名刺を 25 部印刷したいと考えています。
ABC 社は「Business Card」という名前の Hot Folder をネットワークに作成し、社員が各自の名刺の PDF ファイルをこの Hot Folder にドラッグ&ドロップして印刷することにしました。

Greg は会社の名刺用テンプレートを使って自分の名刺を作成し、GregCard.pdf というファイル名で保存しました。名刺のテンプレートを使用することで、「Business Card」Hot Folder に指定された面付け設定を使用して確実に印刷できるようにします。

印刷が済むと、会社のプリントショップのオペレータが名刺を裁断し、社内便で社員に届けます。

ABC 社の名刺は 2 x 3.25 インチのサイズです。

次の図は、名刺の面付け方法を示しています。

この例での必要事項

- GregCard.pdf
- MLPro930PS
- ネットワーク上に設定された Hot Folder「Business Card」
- カード用紙等の 11 x 17 インチ厚紙

  サポートされている用紙種類については、「プリントオプション」を参照してください。
- 裁断機

MLPro930PS では、PDF バージョン 1.2 ～ 1.7 がサポートされています。

面付けワークフロー

ステップ	タスク	詳細情報
1	ABC 社のオペレータはネットワーク上に Hot Folder を作成し、「Business Cards」という名前を付けます。この Hot Folder には、次の設定を適用します。 A)「プリントオプション設定」で「部数」に 25 を指定します。 B)「面付け設定」の「シート」タブで、「シートサイズ」に 11 x 17 を、「方向」に縦を、「両面」にオフを設定します。 C)「面付け設定」の「レイアウト」設定エリアで、4 行 2 列を指定し、「ページマーク」を選択します。 D)「面付け設定」の「拡大縮小」設定エリアで、100% を指定します。 E)「面付け設定」の「仕上げ」設定エリアで、「ギャングアップ」を選択して、「反復」を指定します。	「3 章 ユーティリティ」 Hot Folder ヘルプ
2, 3	Greg は GregCard.pdf ファイルを Hot Folder「Business Cards」にドラッグ＆ドロップします。	Hot Folder ヘルプ
4	ジョブが印刷されます。	
5	オペレータは MLPro930PS からの出力を受け取ります。	
6	名刺は 11 x 17 シートに印刷されています。	
7	オペレータはページマークに沿って名刺を裁断します。	

注 Hot Folders では、「プリントオプション設定」と「面付け設定」との間に矛盾があってもチェックされません。「面付け設定」を有効にした場合に、Hot Folder の「プリントオプション設定」で変更できない設定項目については、「3 章 ユーティリティ」を参照してください。

用語集

Atlas PrintShop Mail-Fiery Version

FreeForm、FreeForm 2、PostScript をサポートするバリアブルデータ印刷用アプリケーションです。

Creo VPS (Variable Print Specification)

Creo 社のバリアブルデータ印刷用言語です。

Encapsulated PostScript (EPS)

別の PostScript ストリームに埋め込むようにデザインされた PostScript ファイル形式です。

FreeForm

EFI が提供する、バリアブルデータ印刷ソリューションで動作するバリアブルデータ印刷技術です。バリアブルデータ印刷ジョブで何度も使用されるデータを 1 度だけ処理して、プリンタでの実行速度を向上させます。

FreeForm 2

FreeForm 2 は、FreeForm 技術の拡張版で、複数マスターページを含むジョブのページ条件と規則を検出することが可能です。FreeForm と異なり、FreeForm 2 ではそれを明示的にサポートするバリアブルデータ印刷用アプリケーションが必要になります。

Pageflex Persona-Fiery Version

バリアブルコンテンツをデザインするアプリケーションです。PPML と PostScript をサポートします。PPML を使用してバリアブルデータ要素を格納 / 再利用します。

PDF (Portable Document Format)

Adobe Systems 社が開発したテキストおよびグラフィック記述言語です。

PostScript

Adobe 社により開発された、デバイスに依存しないページ記述言語です。画像やテキストの印刷 / 表示に使用されます。PostScript 3 では、旧バージョンに比べ、Enhanced Image Technology によるカラー画質の向上、Advanced Page Processing によるパフォーマンス改善、NetWorks System による操作 / 設定の簡易化などの機能強化が行われています。

VIPP (Variable data Intelligent PostScript Printware)

Xerox によって開発された、バリアブルデータ文書の印刷に専用のページ記述言語（PDL）です。

オーサリングツール

テキストや画像を作成したり、文書のレイアウトを定義するために使用するソフトウェアアプリケーションです。

バリアブルデータ

バリアブルデータ印刷でマスターデータと共に使用されます。データは、出力ごとに異なります。

バリアブルデータ印刷（VDP）

印刷文書のコンテンツを持つデータベースとプリントエンジンをリンクして、コンテンツの異なるページを印刷するためのデジタル技術です。

マスターデータ

バリアブルデータ印刷で、バリアブルデータと共に使用されます。文書に共通して用いられる再利用可能なデータのことです。

面付け

印刷後に裁断して積み重ねることを考慮して、複数のページをグループ分け / 配置して、より大きな用紙に効率的に印刷することを可能にします。

ラスターイメージ

ピクセルと呼ばれる格子点を使用した、ページや画像の電子的なイメージです。

ラスター処理

テキストやグラフィックを記述するコードを、プリントエンジンが解釈して印字可能な形式に変換する処理のことです。

用紙種類の混合

1つの印刷ジョブに複数の異なる用紙を指定して印刷する機能です。

要素

バリアブルデータ印刷において、ページに印刷されるテキスト、グラフィック、または写真などの要素のことです。

索引

[カ]

[キ]

[ク]

[ケ]

[コ]

[サ]

[シ]

[ス]

[セ]

[ソ]

[タ]

[チ]

[ニ]

[ネ]

[ハ]

[ヒ]

カラーページプリンタ

MICROLINE Pro 930PS-X

MICROLINE Pro 930PS-S

MICROLINE Pro 930PS-E

ユーザーズマニュアル（Fiery 編）

発行日　2013 年 3月　第 2 版

発行者　株式会社 沖データ

44148502EE

株式会社 沖データ

お客様相談センター

0120-654-632

(携帯電話からは 0570-055-654)

ご注意：ナビダイヤルの通話料は、お客様のご負担となります。

受付時間　9:00～20:00 月曜日～金曜日
　　　　　9:00～17:00 土曜日
　　　　　（ただし 祝日、年末年始等を除く）

44148502EE Rev2